

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ホクリカガクイン 学校法人 北陸学院								
フリガナ大学の名称	ホクリカガクインダク 北陸学院大学 (Hokuriku Gakuin University)								
大学本部の位置	石川県金沢市三小牛町イ11番地								
大学の目的	<p>本学は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、北陸学院の継続した教育体系の学問研究及び教育の最高機関として、高度な教養を授け、学術の理論及び応用を教授研究する。また、全世界のすべての人が豊かで質の高い持続可能な生活を享受する地域及び人類社会を実現するために、自分に与えられた使命 (Mission) を発見し、愛の精神をもってその実現を目指す人材を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>現在、人間総合学部の入学定員は設置する社会学科が70人、子ども教育学科が70人である。令和5（2023）年度4月より、社会学科を社会学部社会学科に子ども教育学科を教育学部幼児教育学科及び教育学部初等中等教育学科に学部設置の届出申請の予定である。</p> <p>人間総合学部社会学科は平成24（2012）年度に社会福祉学科より改組し、新たに設置した学科である。平成28（2016）年3月に改組して初めて卒業生を送り出し出口が明確にされたこと、平成29（2017）年度の学生募集から履修モデルコースを追加し、学ぶ領域を分かりやすくしたこと等が功を奏し、平成30（2018）年度以降は定員超過の状況である。志願者も年々着実に増加しており、受験生からの高い進学需要への積極的な対応に向けて入学選抜の機能が低下しない範囲である入学定員70人から25人増の95人とする収容定員変更を行うこととした。</p> <p>なお、子ども教育学科の入学定員70人は、教育学部幼児教育学科の入学定員45人、教育学部初等中等教育学科の入学定員25人に、現在の入学定員を70人を割り振ることにしている。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	社会学部 [Faculty of Social Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	社会学科 [Department of Sociology]	4	95 (0)	—	380 (0)	学士(社会学) 【Bachelor of Arts in Sociology】	令和5年4月 第1年次	石川県金沢市三小牛町イ11番地	※令和4年4月設置届出予定
	教育学部 [Faculty of Education]								
	幼児教育学科 [Department of Early Childhood Education]	4	45 (0)	—	180 (0)	学士(教育学) 【Bachelor of Arts in Education】	令和5年4月 第1年次	同上	※令和4年4月設置届出予定
	初等中等教育学科 [Department of Elementary and Secondary Education]	4	25 (0)	—	100 (0)	学士(教育学) 【Bachelor of Arts in Education】	令和5年4月 第1年次	同上	
	人間総合学部 [Faculty of Integrated Human Studies]								
社会学科 [Department of Sociology]	4	0 (70)	—	0 (280)	学士(社会学)	平成24年4月	同上	※令和5年4月学生募集停止	
子ども教育学科 [Department of Child Education]	4	0 (70)	—	0 (280)	学士(教育学)	平成20年4月	同上	※令和5年4月学生募集停止	
計		165 (140)	—	660 (560)					

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)		人間総合学部 (廃止) 社会学科 (△70) 子ども教育学科 (△70) ※ 令和5年4月 学生募集停止								
		健康科学部 (令和4年3月学部設置認可申請) 栄養学科 (65) (令和5年4月) 3年次編入 (2) (令和6年4月)								
教育課程		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
		— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員 組織 の 概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設 分	社会学部社会学科		8人 (9)	5人 (5)	2人 (2)	2人 (2)	17人 (18)	0人 (0)	42人 (24)
		教育学部幼児教育学科		3 (3)	1 (1)	4 (4)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	47 (35)
		教育学部初等中等教育学科		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	38 (28)
		計		18 (19)	8 (8)	6 (6)	3 (3)	35 (36)	0 (0)	— (—)
	既 設 分	なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	合計		18 (19)	8 (8)	6 (6)	3 (3)	35 (36)	0 (0)	— (—)	
	教員 以外 の 職員 の 概要	職 種		専 任		兼 任		計		
事務職員		20人 (20)		2人 (2)		22人 (22)				
技術職員		0 (0)		7 (7)		7 (7)				
図書館専門職員		1 (1)		3 (3)		4 (4)				
その他の職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)				
計		22 (22)		13 (13)		35 (35)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	27,894.00 m ²	— m ²	— m ²	27,894.00 m ²				
	運 動 場 用 地	11,684.00 m ²	— m ²	— m ²	11,684.00 m ²				
	小 計	39,578.00 m ²	— m ²	— m ²	39,578.00 m ²				
	そ の 他	17,310.67 m ²	— m ²	— m ²	17,310.67 m ²				
合 計	56,888.67 m ²	— m ²	— m ²	56,888.67 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		14,239.56 m ² (14,239.56 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	14,239.56 m ² (14,239.56 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	23 室	26 室	11 室	3 室 (補助職員 2 人)	1 室 (補助職員 2 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		大学全体		36 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	182,844 [10,093] (173,222 [9,542])	156 [17] (156 [17])	11 [10] (11 [10])	4,067 (4,067)	4,172 (4,140)	— (—)		
	計	182,844 [10,093] (173,222 [9,542])	156 [17] (156 [17])	11 [10] (11 [10])	4,067 (4,067)	4,172 (4,140)	— (—)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体				
		1,926 m ²	285 席	190,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体				
		1,240 m ²	コ*ルフハ*ッティング*ク*リーン 1面 テニスコート 3面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—	
	図 書 購 入 費	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—	
	設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	社会学部	1,220 千円	1,020 千円	1,020 千円	1,020 千円	— 千円	— 千円		
	教育学部	1,320 千円	1,120 千円	1,120 千円	1,120 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金収入及び資産運用収入等をもって賄う					大学全体	
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	北陸学院大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	人間総合学部	年	人	年次 人	人		1.10		石川県金沢市三小 牛町イ11番地
	子ども教育学科	4	70	—	280	学士(教育学)	0.93	平成20 年度	
	社会学科	4	70	—	280	学士(社会学)	1.28	平成24 年度	
大 学 の 名 称	北陸学院大学短期大学部								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
食物栄養学科	2	60	—	140	短期大学士 (食物栄養)	0.69	昭和38 年度	石川県金沢市三小 牛町イ11番地	
コミュニティ文化学科	2	40	—	80	短期大学士 (コミュニティ文化)	0.91	平成17 年度		
附属施設の概要		該当なし							

学校法人北陸学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

北陸学院大学			
人間総合学部			
子ども教育学科	70	--	280
社会学科	70	--	280
計	140	--	560

北陸学院大学短期大学部

食物栄養学科	60	--	140 *
コミュニティ文化学科	40	--	80
計	100	--	220

※ 北陸学院大学短期大学部食物栄養学科は令和4年度に入学定員80名より60名に変更

令和5年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

変更の事由

北陸学院大学			
	0	--	0 令和5年4月学生募集停止
	0	--	0 令和5年4月学生募集停止
教育学部			学部の設置(届出)
幼児教育学科	45	--	180
初等中等教育学科	25	--	100
社会学部			学部の設置(届出)
社会学科	95	--	380
健康科学部			学部の設置(認可申請)
栄養学科	65	2 ^{3年次}	264
計	230	2 ^{3年次}	924
北陸学院大学短期大学部			
	0	--	0 令和5年4月学生募集停止
	0	--	0 令和5年4月学生募集停止
計	0	--	0

1 校地校舎等の図面

(都道府県内における位置関係の図面)



13 校地校舎等の図面

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



バスの場合

JR 金沢駅兼六園口バスターミナル 10 番のりばより北陸学院大学行（路線番号 21）乗車、約 30 分。
北陸学院大学前下車、徒歩 3 分

自動車の場合

・ 高速道路利用

金沢西インターチェンジより国道 8 号「松島北」を金沢市内へ。新神田・増泉・広小路・寺町・平和町交差点を經由。金沢市老人福祉センター万寿苑を過ぎて右に。三小牛町内を左折。約 30 分。

・ 山側環状線利用

白山市方面からは加賀産業道路から山側環状へ。「長坂台小学校東」を右折し、実践倫理宏正会研修会館前を左折し、三小牛町内を右折。

金沢市森本方面からは山側環状を走行し、杜の里經由、「野田町西」を右折し、「野田町」を右折。または「長坂台小学校東」を左折、実践倫理宏正会研修会館前を左折し、三小牛町内を右折。

校舎，運動場等の配置図



【校舎】

大学校舎

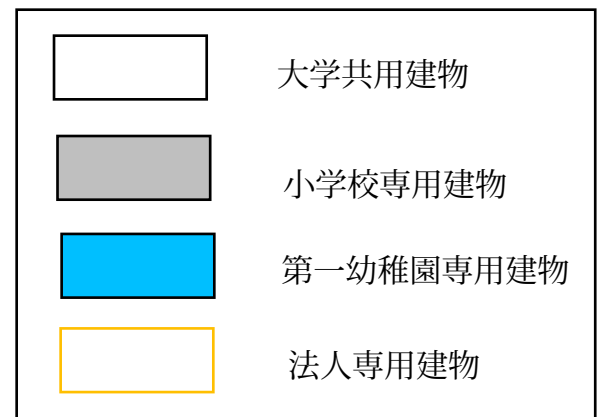
・本館	6,968.45m ²
・本館別棟	985.18m ²
・国際交流研修センター	1,834.23m ²
・愛真館	2,711.04m ²
・ヘッセル記念図書館	1,926.18m ²
・ライザー館	809.56m ²
・体育館	1,240.20m ²
・番匠鐵雄記念礼拝堂	596.33m ²
・栄光台寮	904.43m ²
計	17,975.60m ²

「基本計画書」記載の校舎面積
14,239.56m²
差異 3,736.04m²

【差異内訳】

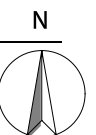
基準外校舎

・体育館	1,240.20m ²
・番匠鐵雄記念礼拝堂	596.33m ²
・栄光台寮	904.43m ²
・本館（課外活動及び厚生補導施設）	585.51m ²
・国際交流研修センター（厚生補導施設）	94.01m ²
・愛真館（厚生補導施設）	315.56m ²
計	3,736.04m ²



(北陸学院第一幼稚園)

所有「幼稚園舎」
木造鋼板葺2階建 992.94m²
(第一幼稚園校地 3,961.44m²)



全体配置図

【校地】	
大学校地	80,295.23m ²
「基本計画書」記載の校地面積	56,888.67m ²
差異	23,406.56m ²
【差異内訳】	
・寄宿舍面積	1,333.00m ²
・駐車場その他面積	22,073.56m ²
計	23,406.56m ²

【校地】 小学校校地 12,487.00m²

【校地】 第一幼稚園校地 3,961.44m²

【校地】 法人部門校地 6,345.00m²

北陸学院大学 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 本学は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、北陸学院の継続した教育体系の学問研究及び教育の最高機関として、高度な教養を授け、学術の理論及び応用を教授研究する。また、全世界のすべての人が豊かで質の高い持続可能な生活を享受する地域及び人類社会を実現するために、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、愛の精神をもってその実現を目指す人材を育成することを目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びに実施体制等については、別に定める。

（認証評価機関による評価）

第3条 本学は、認証評価機関による認証評価（「学校教育法」第109条）を受けるものとする。

（教育研究等の情報公開）

第4条 本学は、本学の教育研究等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって公表するものとする。

第2章 組織

（組織）

第5条 本学に、次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
教育学部	幼児教育学科	45名		180名
	初等中等教育学科	25名		100名
社会学部	社会学科	95名		380名

（教育研究上の目的及び養成する人材像）

第5条の2 前条の学部、学科の教育研究上の目的及び養成する人材像は、次のとおりとする。

（1）教育学部

教育学部は、キリスト教的人間観に基づき、保育及び幼児教育、初等中等教育の保育者・教育者養成課程において保育者・教育者の役割や職務内容、子どもの育ちの連続性を理解した上で、子どもの育ちや発達に関する専門的知識と技能を身に付け、保育・教育を実践することを教育研究の目的とする。

専門的知識と技能によって、一人一人の子どもを多角的に理解して保育・教育ができるとともに、グローバル化する地域社会において、子どもに関する諸課題に対して、子どもと保護者に寄り添いながら支援ができる人材を養成する。

（2）教育学部 幼児教育学科

幼児教育学科は、幼児一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導及び実践力を高め、他者を価値ある存在として尊重し、地域と協働、地域に貢献できる保育・教育について教育研究することを目的とする。

キリスト教的人間観を理解し、幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設等における保育や教育、地域の子育て支援を専門的に担い、子どもたちが自分の個性を発揮し、成長することに寄与

する専門的知識と高い実践力を備えた保育者・教育者を養成する。

(3) 教育学部 初等中等教育学科

初等中等教育学科は、様々な個性を発揮する児童・生徒を価値ある存在として尊重し、個に応じた専門的な指導・支援の理解に基づき、グローバル化する地域社会において、多様な他者や地域社会と協働し貢献できる教育について教育研究することを目的とする。

キリスト教的人間観を理解し、小学校、中学校、高等学校の教員として児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者として専門的知識と高い実践力を備えた教育者を養成する。

(4) 社会学部

社会学部は、キリスト教的人間観に基づき、多様化・複雑化する社会において、広く人々に寄り添い、すべての人が持続可能な豊かで質の高い生活を享受する社会を形成するために、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的とする。

社会を様々な視点から複眼的にとらえ、多面的・多角的視点から専門知識を統合し、国際社会や地域社会で貢献するために、高度な専門的知識と高い実践力を備えた人材を育成する。

(5) 社会学部 社会学科

社会学科は、社会と人間に対する理解を深めるとともに、様々な学問領域を通じて総合的な視野と知識を深め、社会の諸課題を探究し、人に寄り添い、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的とする。

キリスト教的人間観を理解し、国際社会から地域社会における多様化・複雑化する社会や人に関する諸課題に対して、社会学に関する知識や技能を身に付けるとともに、社会福祉や人間の心理に関する知識や技能、社会科学に関する知識を修得し、社会をより深く理解し、批判的思考力と共感的対話力をもって解決できる、高度な専門知識と高い実践力を備えた人材を育成する。

(併設短期大学部)

第6条 本学に短期大学部を併設する。

2 短期大学部に関する学則は、別にこれを定める。

第3章 教職員組織

(教職員)

第7条 本学に学長、学部長、宗教主事、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

2 前項に定める者のほか、学長が必要と認めるときはその推薦により副学長を置くことができる。

3 副学長、学部長等の選任については、別に定める。

第8条 (削除)

第9条 (削除)

第10条 (削除)

第11条 (削除)

(名誉教授)

第12条 本学に多年勤務し、教育上、学術上特に功績のあった者に名誉教授の称号を授与することができる。

2 名誉教授の称号の授与について必要な事項は、別に定める。

第4章 大学評議会，教授会

(大学評議会)

第13条 本学に，大学評議会を置き，校務に関する事項を審議し，学長に対して意見を述べるものとする。

2 大学評議会は，次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学院長
 - (2) 学長
 - (3) 第7条2項により副学長を置くこととした場合における副学長
 - (4) 学部長
 - (5) 短期大学部長
 - (6) 宗教主事
 - (7) 事務長
 - (8) 事務課長
 - (9) 前各号に掲げる者のほか，本学の教職員のうちから学長が特に必要と認めた者
- 3 その他大学評議会に関し，必要な事項は，別に定める。

(教授会)

第14条 本学の学部には，それぞれ教授会を置く。

2 教授会は，教授，准教授，講師及び助教をもって構成する。

3 教授会は，次に掲げる事項を審議し，学長に対して意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 教育課程の編成及び授業に関する事項
 - (4) 第1号以外の学生の学籍に関する事項
 - (5) 研究生，委託生，科目等履修生，聴講生，特別聴講生の入学等に関する事項
 - (6) 学生の賞罰に関する事項
 - (7) その他学長から諮問された事項
- 4 教授会に関し，必要な事項は，別に定める。

第15条 (削除)

第5章 学年，学期及び休業日

(学年)

第16条 学年は4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。

(学期)

第17条 学年は前期，後期の2期にわけ，その期間については，毎年度の学事暦によって定める。

(休業日)

第18条 本学の休業日は，次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 「国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）」に規定する休日
- (3) 本学院創立記念日9月9日
- (4) 夏期休業日
- (5) 冬期休業日
- (6) 春期休業日

2 前項の定期休業日のうち夏期休業，冬期休業，春期休業の期間については，毎年度の学事暦によっ

て定める。

- 3 夏期休業，冬期休業，春期休業の期間中に，補講，集中講義，実習等の授業を行う場合がある。
- 4 必要がある場合，学長は休業日の追加，変更を行うことができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第19条 学部の修業年限は，4年とする。

(在学年限)

第20条 学生は，8年を超えて在学することはできない。ただし，第36条及び第37条の規定により入学した学生は，規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第7章 教育課程及び履修方法

(教育課程)

第21条 本学の教育課程は，必修科目，選択科目及び自由科目に分け，これを各年次に配当して編成するものとする。

(単位の計算方法)

第22条 各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については，15時間の授業時間及び30時間の自学自習時間をもって1単位とする。
- (2) 演習については，30時間の授業時間及び15時間の自学自習時間をもって1単位とする。ただし，15時間の授業時間及び30時間の自学自習時間をもって1単位とすることがある。
- (3) 実験及び実技については，30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 実習については，45時間の授業時間をもって1単位とする。ただし，30時間の授業をもって1単位とすることがある。

2 前項の規定にかかわらず，卒業研究については，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

(授業の方法)

第22条の2 授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより，前項に規定する講義，演習，実験，実習及び実技による授業を，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項に規定する授業方法により修得する単位は，60単位を上限として，卒業に必要な単位とすることができる。

(授業期間)

第23条 1年間に授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第24条 各授業科目を履修した者には，その授業科目の修得を認定し，所定の単位を与える。

2 単位認定の方法は，別に定める。

(他大学等における授業科目の履修等)

第25条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が休学することなく外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第26条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修及びその他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位数等の認定)

第27条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、前2条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績評価)

第28条 授業科目の成績評価は、S、A、B、C、Fをもって表示し、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。

2 成績評価に関して必要な事項は、別に定める。

(授業科目の名称及び単位数等)

第29条 学部の授業科目の名称及び単位数は、別表Iのとおりとする。

2 授業科目の履修の方法その他必要な事項については、別に定める。

第8章 入学、休学、転学、転学科、退学及び除籍等

(入学の時期)

第30条 入学の時期は学年の始めとする。ただし、特別の必要があり、かつ、教育上支障がないときは、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第31条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) その他相当の年齢に達し、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認め

た者

(入学志願)

第32条 本学への入学を志願する者は、所定の入学願書及び別に定める書類に第51条に定める入学検定料を添えて願い出なければならない。

2 出願手続について必要な事項は、別に定める。

(入学者の選考)

第33条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第34条 選考の結果、合格した者は、所定の期日までに本学所定の誓約書その他所定の書類を提出するほか、所定の納付金を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に対して入学を許可する。

(保証人)

第35条 前条における誓約書の保証人は、父母又は近親者とし、被保証人在学中の全ての責任を負うことのできる者とする。

2 保証人の死亡、又は保証人の条件を欠いたときは、新たに保証人を選定して、速やかに届け出なければならない。

(編入学)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者で編入学を志願する者については、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 短期大学士又は学士の学位を有する者

(2) 高等専門学校を卒業した者

(3) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

(4) 前各号に掲げるものと同等以上の学力を有する者と認められる者

2 前項の規定により入学を許可された者の既修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

(転入学、再入学)

第37条 他の大学に既に在学する者で、本学に転入学を志願する者があるときは、学長は相当年次に転入学を許可することができる。

2 正当な事由で退学した者が本学に3年以内に再入学を志願するときは、選考のうえ入学を許可することができる。

3 授業科目、修得単位の取り扱い及び在学年数については、前条第2項を準用する。

(休学)

第38条 疾病その他やむを得ない理由で3カ月以上修学することができないときは、理由書を付して休学を願い出ることができる。

2 前項の休学のうち疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

(休学期間)

第39条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き1年以内休学することができる。

2 休学期間は通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は第20条の在学期間には算入しない。

(復学)

第40条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(留学)

第41条 外国の大学に留学を志願する者は、所定の手続きを経て、学長の許可を得なければならない。

- 2 留学の期間は1年間を限度とし、第19条に定める修業年限及び第20条の在学期間に算入する。
- 3 留学に関する必要な事項は、別に定める。

(転学部及び転学科)

第42条 他の学部又は他の学科への転学部及び転学科を希望する者は、選考の上、学長が許可することがある。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(転学)

第43条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(退学)

第44条 退学しようとする者は、その理由を記して保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

(除籍)

第45条 次の各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 第20条に定める在学年限を超えた者
- (2) 第39条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料等納付金の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

- 2 前項第3号の理由で除籍された者から、当該除籍の事由となった授業料等納付金を納付して復籍を願い出た場合には、学長は復籍を許可することができる。

- (1) 復籍時期は学期の始めとする。
- (2) 復籍を許可した学生の復籍後の在学期間は、除籍前の在学期間に通算する。

第9章 卒業、学位及び免許等資格

(卒業要件)

第46条 本学に4年(第36条第1項又は第37条第1項の規定により編入学、転入学、再入学又は転学科を許可された者、それぞれ定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者とする。

- 2 学長は、前1項の規定を満たし卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。

(学位)

第47条 本学を卒業した者に対し、次の区分により、学士の学位を授与する。

- (1) 教育学部 幼児教育学科 学士(教育学)
- (2) 教育学部 初等中等教育学科 学士(教育学)
- (3) 社会学部 社会学科 学士(社会学)

- 2 前項の学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

(卒業の時期)

第48条 卒業の時期は、学年又は学期の終わりとする。

(資格)

第49条 本学において取得できる資格等及び開設学部学科は、次のとおりとする。

資格等の種類	開設学部学科
保育士資格	教育学部幼児教育学科
准学校心理士資格	教育学部幼児教育学科
	教育学部初等中等教育学科

社会福祉主事任用資格 教育学部幼児教育学科
 教育学部初等中等教育学科
 社会学部社会学科
 司書資格 社会学部社会学科
 社会福祉士受験資格 社会学部社会学科
 公認心理師となるために必要な科目の取得
 社会学部社会学科
 認定心理士資格 社会学部社会学科
 社会調査士資格 社会学部社会学科
 スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程
 社会学部社会学科

- 2 前項の資格等の取得に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 教育学部幼児教育学科における保育士養成課程の定員は、1学年45名とする。
- 4 社会学部社会学科における社会福祉士養成課程の定員は、1学年40名とする。

第49条の1（削除）

（教職に関する免許）

第50条 本学の学部・学科において取得できる教育職員の免許状の種類は、次のとおりとする。

学部・学科	免許状の種類
教育学部 幼児教育学科	幼稚園教諭一種免許状
教育学部 初等中等教育学科	高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（英語）
	小学校教諭一種免許状

- 2 各学部学科において教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に基づき、必要な単位を修得しなければならない。
- 3 前項の教職課程に関する必要な事項は、別に定める。

第10章 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金

（入学検定料）

第51条 入学志願者は、入学検定料を納付しなければならない。

- 2 入学検定料は、別表Ⅱのとおりとする。

（入学金、授業料、在籍料及びその他納付金）

第52条 入学金、授業料、在籍料及びその他納付金は、別表Ⅲに掲げるとおりとする。

- 2 入学金、授業料、在籍料及びその他納付金等の納期、納付方法について必要な事項は別に定める。
- 3 退学する者、転学する者は、学籍を有した学期分の授業料及びその他の納付金を納入しなければならない。
- 4 停学の者は、停学期間に相当する学期分の授業料及びその他の納付金を納入しなければならない。
- 5 休学する者は、休学期間に相当する学期分の授業料及びその他の納付金が免除され、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。ただし、学期の途中から休学する者、又は学期の途中で復学する者は、休学、又は復学した学期の授業料及びその他の納付金の全額を納入しなければならない。

（入学検定料、入学金、授業料、在籍料及びその他の納付金の返還）

第53条 既に納入された入学検定料，入学金，授業料及びその他の納付金の返還については，次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 一旦納入された入学検定料及び入学金は，返還しないものとする。
- (2) 授業料及びその他の納付金は，入学試験実施年度の3月31日までに入学辞退の申し出のあった場合は，これを返還する。

第11章 削除

第54条 削除

第12章 特待生

(特待生)

第55条 人物，学業ともに優秀な学生に対しては，大学評議会の議を経て選考のうえ，特待生として授業料等の全額若しくは一部を免除することができる。

- 2 特待生に関し必要な事項は，別に定める。

第13章 研究生，委託生，科目等履修生，聴講生，特別聴講生及び外国人留学生

(研究生)

第56条 本学において，特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは，本学の教育研究に支障のない範囲において選考のうえ学長がこれを許可することができる。

- 2 研究生について必要な事項は，別に定める。

(委託生)

第57条 関係団体の委嘱に基づき，入学を希望する者に対しては，委託生として選考のうえ学長はこれを許可することができる。

- 2 委託生に対する必要な事項は，別に定める。

(科目等履修生)

第58条 本学において，開設する学科目について科目等履修を志願する者がいるときは選考のうえ学長はこれを許可することができる。

- 2 科目等履修生に対する単位の授与については，本学則第24条及び第28条の規定を準用する。
- 3 科目等履修生について必要な事項は，別に定める。

(聴講生)

第59条 聴講生は，授業科目のうちから一科目又は数科目を履修することができる。ただし，単位を取得することはできない。

- 2 聴講生に関し必要な事項は，別に定める。

(特別聴講生)

第60条 他の大学の学生で，本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは，当該他大学との協議に基づき特別聴講生として入学を許可することができる。

- 2 特別聴講生について必要な事項は，別に定める。

(外国人留学生)

第61条 外国人で本学に入学を志願する者がいるときは，その学力を検定したうえで学長は入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生について必要な事項は，別に定める。

第14章 附属図書館, 附属施設及び公開講座

(附属図書館)

第62条 本学にヘッセル記念図書館を置く。

2 ヘッセル記念図書館に関する規程は, 別に定める。

(地域教育開発センター)

第63条 本学に, 地域の教育等の発展に資するため地域教育開発センターを置く。

2 地域教育開発センターに関する規程は, 別にこれを定める。

(公開講座)

第64条 社会人の教養を高め, 地域の発展や文化の向上に資するため, 公開講座を設けることができる。

2 公開講座に関する必要な事項は, 別に定める。

第15章 厚生施設

(厚生施設)

第65条 本学に, 学生の福利厚生を図るため, 食堂, 学生相談室, その他の厚生施設を置く。

2 厚生施設の運営に関する必要な事項は, 別に定める。

第16章 賞罰

(表彰)

第66条 学長は品行, 学業ともに優秀で他の模範となる学生に対して, 表彰を行うことができる。

(懲戒)

第67条 学長は, 本学の規則に違反し, 又は学生の本分に反する行為をした者には, 懲戒を行うことがある。

2 前項の懲戒は, 訓戒, 謹慎, 停学及び退学とする。

3 前項の退学は, 次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 正当な理由がなくて出席常でない者

(3) 大学の秩序を乱し, その他学生としての本分に反する行為のあった者

(4) 学業を怠り, 成業の見込みがない者

第17章 学則の改正

(改正)

第68条 この学則を改正しようとするときは, 大学評議会の議を経て理事会の承認を得なければならない。

附 則

1 この学則は, 2008(平成20)年4月1日から施行する。ただし, 第31条, 第32条, 第33条, 第34条, 第51条及び第52条の規定は, 文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。

附 則

- 1 この学則は、2009（平成21）年4月1日以降の入学者から一部改定施行する。

附 則

- 1 この学則は、2010（平成22）年4月1日から一部改定施行する。
ただし、2009（平成21）年度以前に入学の学生は従前の学則による。
- 2 前項の規定にかかわらず、第28条に定める成績評価については、2008（平成20）年度以降に入学した学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、2011（平成23）年4月1日以降の入学者から一部改定施行する。

附 則

- 1 この学則は、2012（平成24）年4月1日以降の入学者から一部改定施行する。
(人間総合学部社会福祉学科の存続に関する経過措置)
人間総合学部社会福祉学科は、改正後の学則第5条第3項の規定にかかわらず、2012(平成24)年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、第18条に定める休業日、第22条の単位の計算方法、第67条の懲戒については2009（平成21）年度以降に入学した学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、2013（平成25）年4月1日以降の入学者から一部改訂施行する。
- 2 第29条、第49条、第50条、第51条及び第52条の別表の適用については、次のとおりとする。
- 3 前項に定める別表は、当該学生の在籍がなくなった年度をもって廃止する。

		対 象	備 考
第29条	別表Ⅰ	・2013（平成25）年度以降の入学生	2013（平成25）年4月1日施行
	別表Ⅰ－（1）	・2012（平成24）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第49条	別表Ⅱ	・2012（平成24）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第50条	別表Ⅲ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
	別表Ⅳ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第51条	別表Ⅴ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第52条	別表Ⅵ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行

附 則

- 1 この学則は、2014（平成26）年4月1日から施行する。
- 2 第29条、第49条、第50条、第51条及び第52条の別表の適用については、次のとおりとする。
- 3 前項に定める別表は、当該学生の在籍がなくなった年度をもって廃止する。

		対 象	備 考

第29条	別表Ⅰ	・2013（平成25）年度以降の入学生	2013（平成25）年4月1日施行
	別表Ⅰ-（1）	・2012（平成24）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第49条	別表Ⅱ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第50条	別表Ⅲ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
	別表Ⅳ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第51条	別表Ⅴ	・2014（平成26）年度以降の入学生	2014（平成26）年4月1日施行
	別表Ⅴ-（1）	・2012（平成24）年度 ・2013（平成25）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日施行
第52条	別表Ⅵ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日施行

附 則

- この学則は、2015（平成27）年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、2016（平成28）年4月1日から施行する。
- 第29条、第49条、第49条の1、第50条、第51条及び第52条の別表の適用については、次のとおりとする。

ただし、改正後の第50条の規定に関わらず、社会学科に2013（平成25）年度・2014（平成26）年度・2015（平成27）年度に入学した学生で教職課程（高等学校教諭一種免許状（公民））を履修している学生については、別表Ⅳに定める単位を修得しなければならない。

- 前項に定める別表は、当該学生の在籍がなくなった年度をもって廃止する。

		対 象	施行年月日
第29条	別表Ⅰ	・2016（平成28）年度以降の入学生	2016（平成28）年4月1日
	別表Ⅰ-（1）	・2013（平成25）年度 ・2014（平成26）年度 ・2015（平成27）年度の入学生	2013（平成25）年4月1日
第49条	別表Ⅱの1	・2016（平成28）年度以降の入学生	2016（平成28）年4月1日
	別表Ⅱの1-（1）	・2013（平成25）年度 ・2014（平成26）年度 ・2015（平成27）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日
第49条の1	別表Ⅱの2	・2016（平成28）年度以降の入学生	2016（平成28）年4月1日
第50条	別表Ⅲ	・2016（平成28）年度以降の入学生	2016（平成28）年4月1日
	別表Ⅲ-（1）	・2013（平成25）年度 ・2014（平成26）年度 ・2015（平成27）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日
	別表Ⅳ	・2015（平成27）年度までの入学生	2012（平成24）年4月1日
第51条	別表Ⅴ	・2014（平成26）年度以降の入学生	2014（平成26）年4月1日
	別表Ⅴ-（1）	・2013（平成25）年度の入学生	2012（平成24）年4月1日
第52条	別表Ⅵ	・2012（平成24）年度以降の入学生	2012（平成24）年4月1日

附 則

- この学則は、2017（平成29）年4月1日から施行する。

- 2 改正後の別表の規定は、2017（平成 29）年度入学生から適用し、2016（平成 28）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2018（平成 30）年 4 月 1 日から施行する。なお、第 45 条の第 2 項に限り、2017（平成 29）年度以前の入学生にも適用する。
- 2 改正後の別表の規定は、2018（平成 30）年度入学生から適用し、2017（平成 29）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2019（平成 31）年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定は、2019（平成 31）年度入学生から適用し、2018（平成 30）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020（令和 2）年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定は、2020（令和 2）年度入学生から適用し、2019（令和元）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2021（令和 3）年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定は、2021（令和 3）年度入学生から適用し、2020（令和 2）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。ただし、別表Ⅲの 4 については、2019（平成 31）年度入学生、2020（令和 2）年度入学生に改正後の別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2022（令和 4）年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定は、2022（令和 4）年度入学生から適用し、2021（令和 3）年度以前の入学生については、従前の学則に規定する別表を適用する。

附 則

- 1 この学則は、2023（令和 4）年 4 月 1 日から施行する。
(人間総合学部子ども教育学科及び人間総合学部社会学科の存続に関する経過措置)

人間総合学部子ども教育学科及び人間総合学部社会学科は、改正後の学則第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、2023（令和 5）年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、当該学生に関しては、改正（2023（令和 5）年 4 月 1 日）前の学則を適用する。

別表Ⅰ (授業科目の名称及び単位数)

(教育学部幼児教育学科 2023年度入学生以降, 学則第29条関係)

授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
大学 共通科目	北 陸 学 院 科 目	北陸学院セミナーⅠ	1			
		北陸学院セミナーⅡ	1			
		キリスト教概論Ⅰ	1			
		キリスト教概論Ⅱ	1			
		キリスト教人間論Ⅰ	1			
		キリスト教人間論Ⅱ	1			
	一 般 教 養 科 目	郷土の文学		2		
		日本国憲法	2			
		青年の心理		2		
		食と健康		2		
		政治学		2		
	言 語 教 育 科 目	日本語基礎			1	
		英語基礎			1	
		英語AⅠ		1		
		英語AⅡ		1		
		英語BⅠ		1		
		英語BⅡ		1		
		英語CⅠ		1		
		英語CⅡ		1		
		英語DⅠ		1		
		英語DⅡ		1		
		英語EⅠ		1		
		英語EⅡ		1		
		英語FⅠ		1		
		英語FⅡ		1		
		アクティブ・イングリッシュA		1		
		アクティブ・イングリッシュB		2		
		アクティブ・イングリッシュC		3		
		中国語Ⅰ		1		
		中国語Ⅱ		1		
		フランス語Ⅰ		1		
	フランス語Ⅱ		1			
	韓国語Ⅰ		1			
	韓国語Ⅱ		1			
	ツ ス ポ ー ト ・ 健 康 科 目	生涯スポーツA	1			
		生涯スポーツB	1			
		健康科学	2			
	初 年 次 教 育 科 目	情報機器演習A	1			
		情報機器演習B	1			
		基礎ゼミⅠ	2			
		基礎ゼミⅡ	2			
	学 部 共 通 科 目	基 幹 科 目	キリスト教と教育	2		
			データサイエンス入門	2		
			データ分析と教育	1		
			キャリアデザインⅠ	1		
			キャリアデザインⅡ	1		
			キャリアデザインⅢ	1		
キャリアデザインⅣ			1			
キャリアデザインⅤ			1			
キャリアデザインⅥ			1			
プロゼミA			2			
プロゼミB			2			
専門ゼミⅠ			4			
専門ゼミⅡ			4			
卒業研究				4		
地域社会と子ども			2			
教育学概論			2			
教職論			2			
特別支援教育論			2			

授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
学部共通科目	英語特色科目	コミュニケーション・イングリッシュ	2		
		プラクティカル・イングリッシュ		2	
		キッズ・イングリッシュA	2		
		キッズ・イングリッシュB		2	
		シンプル・イングリッシュA	2		
		シンプル・イングリッシュB		2	
		スピーチ&ドラマ		2	
		エクステンシブ・リーディング		2	
		トラベル・イングリッシュA		2	
		トラベル・イングリッシュB		2	
		プレゼンテーション		2	
		ムービー・イングリッシュA		2	
		ムービー・イングリッシュB		2	
		ビジネス・イングリッシュA		2	
		ビジネス・イングリッシュB		2	
	インテンシブ・リーディング*		2		
	エッセイ・ライティング		2		
	バイブル・イングリッシュ		2		
	応用科目	音楽演習		1	
		教育史		2	
		比較教育学		2	
		教育学文献講読A 1		2	
		教育学文献講読A 2		2	
		教育学文献講読B 1		2	
教育学文献講読B 2			2		
教育実践研究（幼保） 教育実践研究（小中高）			2		
学科専門科目	基幹科目	発達心理学	2		
		教育心理学		2	
		教育社会学	2		
		幼児理解	2		
		教育課程論	2		
		保育内容総論	1		
		保育内容・環境指導法	2		
		保育内容・健康指導法	2		
		保育内容・言葉指導法	2		
		保育内容・人間関係指導法	2		
		保育内容・表現指導法	2		
		環境	2		
		健康活動	2		
		言葉	2		
		人間関係	2		
		表現	2		
		図画工作	2		
		教職実践演習（幼保）		2	
	異文化間コミュニケーション論		2		
	児童文学	2			
	音楽表現Ⅰ		1		
	音楽表現Ⅱ		1		
	幼稚園教諭関連科目	教育の方法・技術（幼保）	2		
		国語	2		
		算数		2	
		生活	2		
		音楽		2	
英語			2		
教育実習指導Ⅰ（幼）			1		
教育実習指導Ⅱ（幼）			1		
教育実習Ⅰ（幼） 教育実習Ⅱ（幼）			2		

授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
学科専門科目	保育士関連科目	保育者論		2	
		保育原理		2	
		子どもの理解と援助		1	
		子ども家庭福祉論Ⅰ		2	
		子ども家庭福祉論Ⅱ		2	
		社会福祉		2	
		家庭支援の心理学		2	
		社会的養護		2	
		社会的養護内容		2	
		子どもの保健		2	
		子どもの健康と安全		2	
		子どもの食と栄養		2	
		家庭支援論		2	
		乳児保育Ⅰ		2	
		乳児保育Ⅱ		2	
		障がい児保育		2	
		子育てと支援		2	
		器楽入門			1
		器楽Ⅰ		1	
		器楽Ⅱ		1	
		身体表現		1	
		児童文化		2	
		絵本論		2	
		保育実習指導Ⅰ（施設）		1	
		保育実習Ⅰ（施設）		2	
		保育実習指導Ⅰ（保育所）		1	
		保育実習Ⅰ（保育所）		2	
		保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	
		保育実習Ⅱ（保育所）		2	
		保育実習指導Ⅲ（施設）		1	
		保育実習Ⅲ（施設）		2	

別表 I (授業科目の名称及び単位数)

(教育学部初等中等教育学科 2023年度入学生以降, 学則第29条関係)

授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
大学 共通科目	北 陸 学 院 目	北陸学院セミナー I	1			
		北陸学院セミナー II	1			
		キリスト教概論 I	1			
		キリスト教概論 II	1			
		キリスト教人間論 I	1			
		キリスト教人間論 II	1			
	一 般 教 養 科 目	郷土の文学		2		
		日本国憲法	2			
		青年の心理		2		
		食と健康		2		
		政治学		2		
	言 語 教 育 科 目	日本語基礎			1	
		英語基礎			1	
		英語 A I		1		
		英語 A II		1		
		英語 B I		1		
		英語 B II		1		
		英語 C I		1		
		英語 C II		1		
		英語 D I		1		
		英語 D II		1		
		英語 E I		1		
		英語 E II		1		
		英語 F I		1		
		英語 F II		1		
		アクティブ・イングリッシュ A		1		
		アクティブ・イングリッシュ B		2		
		アクティブ・イングリッシュ C		3		
		中国語 I		1		
		中国語 II		1		
		フランス語 I		1		
	フランス語 II		1			
	韓国語 I		1			
	韓国語 II		1			
	ツ ス ポ ー ト ・ 健 康 科 目	生涯スポーツ A	1			
		生涯スポーツ B	1			
		健康科学	2			
	初 年 次 教 育 科 目	情報機器演習 A	1			
		情報機器演習 B	1			
		基礎ゼミ I	2			
		基礎ゼミ II	2			
	学 部 共 通 科 目	基 幹 科 目	キリスト教と教育	2		
			データサイエンス入門	2		
データ分析と教育			1			
キャリアデザイン I			1			
キャリアデザイン II			1			
キャリアデザイン III			1			
キャリアデザイン IV			1			
キャリアデザイン V			1			
キャリアデザイン VI			1			
プロゼミ A			2			
プロゼミ B			2			
専門ゼミ I			4			
専門ゼミ II			4			
卒業研究				4		
地域社会と子ども			2			
教育学概論			2			
教職論			2			
特別支援教育論	2					

授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
学部 共通科目	英語 特色科目	コミュニケーション・イングリッシュ	2		
		プラクティカル・イングリッシュ		2	
		キッズ・イングリッシュA		2	
		キッズ・イングリッシュB	2		
		シンプル・イングリッシュA		2	
		シンプル・イングリッシュB		2	
		スピーチ&ドラマ	2		
		エクステンシブ・リーディング		2	
		トラベル・イングリッシュA		2	
		トラベル・イングリッシュB		2	
		プレゼンテーション	2		
		ムービー・イングリッシュA		2	
		ムービー・イングリッシュB		2	
		ビジネス・イングリッシュA		2	
		ビジネス・イングリッシュB		2	
		インテンシブ・リーディング [*]	2		
		エッセイ・ライティング	2		
	バイブル・イングリッシュ		2		
	応用 科目	音楽演習		1	
		教育史		2	
		比較教育学		2	
		教育学文献講読A 1		2	
		教育学文献講読A 2		2	
		教育学文献講読B 1		2	
		教育学文献講読B 2		2	
		教育実践研究（幼保）		2	
		教育実践研究（小中高）		2	
学科 専門科目	基幹 科目	英語学概論	2		
		発達心理学		2	
		教育心理学	2		
		教育社会学	2		
		総合的な学習の時間の指導法	1		
		教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	2		
		道徳教育指導論	2		
		教育課程編成論	2		
		特別活動の理論と方法	1		
		生徒指導論	1		
		進路指導論	1		
		教育相談	2		
		英語科指導法	2		
		教職実践演習（小中高）		2	
		介護等体験		2	
		異文化間コミュニケーション論		2	
	児童文学		2		
	小学 校教 諭関 連科 目	国語	2		
		社会		2	
		算数		2	
		理科		2	
		生活	2		
		音楽		2	
図画工作		2			
家庭			2		
英語	2				

授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
学科専門科目	小学校教諭 関連科目	国語科指導法（書写を含む）		2	
		社会科指導法		2	
		算数科指導法		2	
		理科指導法		2	
		生活科指導法		2	
		音楽科指導法		2	
		図画工作指導法		2	
		家庭科指導法		2	
		体育科指導法		2	
		教育実習指導（小）		1	
		教育実習Ⅰ（小）		4	
		教育実習Ⅱ（小）		2	
	中学校・高等学校教諭 （英語） 関連科目	英語学		2	
		英語音声学Ⅰ		2	
		英語音声学Ⅱ		2	
		言語教育のための英文法Ⅰ		2	
		言語教育のための英文法Ⅱ		2	
		英語文学Ⅰ		2	
		英語文学Ⅱ		2	
		英語圏の児童文学		2	
		コミュニカティブ・イングリッシュA		2	
		コミュニカティブ・イングリッシュB		2	
		英語科教育法Ⅰ		2	
		英語科教育法Ⅱ		2	
		英語科教育法Ⅲ		2	
		英語科教育法Ⅳ		2	
		教育実習指導（中高）		1	
		教育実習Ⅰ（中高）		4	
		教育実習Ⅱ（中高）		2	

別表 I (授業科目の名称及び単位数)
 (社会学部社会学科 2023年度入学生以降, 学則第29条関係)

授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
大学 共通科目	北 陸 学 院 科 目	北陸学院セミナー I	1		
		北陸学院セミナー II	1		
		キリスト教概論 I	1		
		キリスト教概論 II	1		
		キリスト教人間論 I	1		
		キリスト教人間論 II	1		
	一 般 教 養 科 目	郷土の文学		2	
		日本国憲法		2	
		青年の心理		2	
		食と健康		2	
		政治学		2	
	言 語 教 育 科 目	日本語基礎			1
		英語基礎			1
		英語 A I		1	
		英語 A II		1	
		英語 B I		1	
		英語 B II		1	
		英語 C I		1	
		英語 C II		1	
		英語 D I		1	
		英語 D II		1	
		英語 E I		1	
		英語 E II		1	
		英語 F I		1	
		英語 F II		1	
		アクティブ・イングリッシュ A		1	
		アクティブ・イングリッシュ B		2	
		アクティブ・イングリッシュ C		3	
		中国語 I		1	
		中国語 II		1	
		フランス語 I		1	
	フランス語 II		1		
	韓国語 I		1		
	韓国語 II		1		
	ツ ス ポ ー ト ・ 健 康 科 目	生涯スポーツ A	1		
		生涯スポーツ B	1		
		健康科学	2		
	初 年 次 教 育 科 目	情報機器演習 A	1		
		情報機器演習 B	1		
		基礎ゼミ I	2		
		基礎ゼミ II	2		
	学 部 共 通 科 目	キリスト教と社会	2		
データサイエンス入門		2			
統計データの読み方			2		
キャリアデザイン I		1			
キャリアデザイン II		1			
キャリアデザイン III		1			
キャリアデザイン IV		1			
キャリアデザイン V			1		
キャリアデザイン VI			1		
プロゼミ A		2			
プロゼミ B		2			
専門ゼミ I		4			
専門ゼミ II		4			
卒業研究			4		
ソーシャルサイエンス概説		2			
社会学概論 A		2			
社会学概論 B			2		
社会調査論		2			
社会調査法			2		
質的研究法			2		

		授業科目の名称	単位			備考
			必修	選択	自由	
学科専門科目	基幹科目	データ処理基礎		2		
		心理学統計法		2		
		社会学理論		2		
		家族社会学		2		
		都市社会学		2		
		環境社会学		2		
		現代社会と福祉Ⅰ		2		
		現代社会と福祉Ⅱ		2		
		心理学概論A		2		
		心理学概論B		2		
		教育社会学		2		
		グローバル社会論		2		
		専門科目	応用心理社会統計法		2	
	ビジネス・イングリッシュA			2		
	ビジネス・イングリッシュB			2		
	社会調査実習			4		
	観光と社会			2		
	地域と観光			2		
	ホテルサービス論			2		
	インバウンドツーリズム			2		
	多文化共生論			2		
	社会病理学			2		
	メディア文化論			2		
	地方行政入門			2		
	政治行動論			2		
	経済学Ⅰ			2		
	経済学Ⅱ			2		
	経済学Ⅲ			2		
	経済学Ⅳ			2		
	法律学			2		
	地域社会政策論			2		
	経営学入門			2		
	マーケティング論			2		
	財務諸表の読み方			2		
	経営組織論			2		
経営戦略論			2			
簿記A			1			
簿記B			1			
社会貢献論			2			
社会貢献実習			2			
環境と開発		2				
地域環境マネジメント論		2				
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		2				
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		2				
児童福祉論		2				
高齢者福祉論		2				
障害者福祉論		2				
社会保障論		2				
権利擁護を支える法制度		2				
刑事司法と福祉		2				
図書館概論		2				
情報技術論		2				
データベース演習		2				
プログラミング入門		2				
臨床心理学概論		2				

授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
学科専門科目	専門科目	心理学実験Ⅰ		2		
		心理学実験Ⅱ		2		
		心理学研究法		2		
		心理的アセスメント		2		
		発達心理学		2		
		教育心理学		2		
		人格心理学（感情・人格心理学A）		2		
		社会・集団・家族心理学		2		
		産業・組織心理学		2		
		知覚・認知心理学		2		
		感情心理学（感情・人格心理学B）		2		
		障害者・障害児心理学		2		
		心理学的支援法		2		
		学校心理学（教育・学校心理学）		2		
心理演習			2			
資格科目	社会福祉士国家試験受験資格科目	ソーシャルワークの基盤と専門職		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		2		
		福祉サービスの組織と経営		2		
		公的扶助論		2		
		保健医療サービス		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅳ		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅴ		2		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		2		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		2		
		ソーシャルワーク実習Ⅰ		1		
		ソーシャルワーク実習Ⅱ		4		
	SSW科目	精神保健学		2		
		スクールソーシャルワーク論		2		
		スクールソーシャルワーク演習		1		
		スクールソーシャルワーク実習指導		1		
		スクールソーシャルワーク実習		2		
	図書館司書資格科目	生涯学習概論		2		
		図書館サービス概論		2		
		情報サービス論		2		
		児童サービス論		2		
		情報資源組織論		2		
		図書館制度・経営論		2		
		情報サービス演習Ⅰ		1		
		情報サービス演習Ⅱ		1		
		情報資源組織演習Ⅰ		1		
		情報資源組織演習Ⅱ		1		
		図書館情報資源概論		2		
		図書・図書館史		2		
	図書館実習		1			
	公認心理師科目	公認心理師の職責			2	
		学習・言語心理学		2		
		神経・生理心理学		2		
		人体の構造と機能及び疾病		2		
		福祉心理学		2		
		司法・犯罪心理学			2	
		精神疾患とその治療		2		
		健康・医療心理学		2		
		関係行政論			2	
		心理実習			2	

※ 自由科目は卒業単位に含まれない。

※ SSW科目とは、「スクール(学校)ソーシャルワーク科目」の略。

別表Ⅱ (入学検定料)

(2021年度以降入学生, 学則第51条関係)

区 分	金 額	備 考
一般選抜 大学入学共通テスト利用制	10,000円	
上記以外の入学検定料	30,000円	

別表Ⅲ (入学金, 授業料, 在籍料及びその他納付金)

(2023年度以降入学生, 学則第52条関係)

教育学部 幼児教育学科		
納付金の種類	金 額	備 考
入 学 金	200,000円	入学時のみ
授 業 料	1,120,000円	前期後期に半額ずつ分納可能

教育学部 初等中等教育学科		
納付金の種類	金 額	備 考
入 学 金	200,000円	入学時のみ
授 業 料	1,120,000円	前期後期に半額ずつ分納可能

社会学部 社会学科		
納付金の種類	金 額	備 考
入 学 金	200,000円	入学時のみ
授 業 料	1,020,000円	前期後期に半額ずつ分納可能

区分	金 額	備 考
在籍料	60,000円	前期又は後期

変更事項を記載した書類

I. 変更の事由

1. 変更の事由

- (1) 本学人間総合学部子ども教育学科及び社会学科を改組し、教育学部幼児教育学科及び教育学部初等中等教育学科並びに社会学部社会学科を設置するため。
- (2) 本学人間総合学部子ども教育学科の入学定員70人を、教育学部幼児教育学科45人、教育学部初等中等教育学科25人に変更するため。
- (3) 本学人間総合学部社会学科の入学定員70人を95人に変更するため。
- (5) 単一学部体制から複数学部体制に変更するため、大学の目的及び教授会組織並びに転学部・転学科等の規定を見直したため。
- (6) 長期履修学生制度を廃止するため。
- (7) 納付金の徴収項目及び納付額を変更するため。
- (8) 学則と「教職課程履修規程」及び「資格取得に関する規程」の関連を整理したため。

2. 変更事項

(1) 第1条（目的）

複数学部設置により、本学に使命及び目的を時代に即した内容に見直しを行った。

(2) 第2章「学部，学科，学生定員」を「組織」に変更

- ① 第5条に設置する学部学科及び入学定員並びに収容定員を新たに規定した。
- ② 第5条の2に各学部及び学科の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を新たに規定した。

(3) 第14条（教授会）

各学部に教授会を設置することを規定し、学部教授会の構成員を変更する。

(4) 第20条（在学年限）

長期履修学生制度の廃止に伴い、第2項における長期履修学生の在学年限の規定を削除した。

(5) 第22条（単位の計算方法）

履修規程に規定している自学自習時間を学則に明文化した。

(6) 第42条（転学部及び転学科）

複数学部設置により、転学部を新たに規定した。

(7) 第46条（卒業要件）

卒業要件としての在任期間について、長期履修学生の規定を削除した。

(8) 第47条（学位）

各学部学科の学位を新たに規定した。

(9) 第49条（資格）

- ① 教職課程以外の資格に関して、資格取得に関する規程に集約するため、本学で各学部学科で取得等可能な資格等に関してまとめて記載した。
- ② 資格取得に関する規程を別に定めることを新たに規定した。
- ③ 保育士養成課程（定員：1学年45名）、社会福祉士養成課程（定員：1学年40名）を明記した。

(10) 第50条（教職に関する免許）

- ① 本学で各学部学科で取得等可能な教職に関する免許を新たに規定した。
- ② 教職課程に関する別表を学則による規定から、教職課程履修規程に規定のため文言を修正した。
- ③ 教職に関する免許に関する規程を別に定めることを新たに規定した。

(11) 第51条（入学検定料）

別表Ⅱ～Ⅲ（資格及び教職課程用の別表）を削除のため、別表Ⅳから別表Ⅱに変更した。

(12) 第52条（入学金，授業料，在籍料及びその他納付金）

- ① 休学時における「在籍料」を新たに明記した。
- ② 別表Ⅱ～Ⅲ（資格及び教職課程用の別表）を削除のため、別表Ⅴから別表Ⅲに変更した。
- ③ 退学、転学、停学、休学における納付金について、明文化した。

(13) 第54条（長期履修学生）

カリキュラムの改編が多く、長期履修生に対する履修科目の長期担保が困難なことや、夜間開講や対象者に対する授業保証が難しいことから長期履修学生制度を廃止した。

(14) 附則

- ① 施行日を明確にするため、附則を追加した。
- ② 「人間総合学部子ども教育学科及び人間総合学部社会学科の存続に関する経過措置」を記載した。

(15) 別表Ⅰ

- ① 人間総合学部子ども教育学科及び社会学科の教育課程を削除した。
- ② 教育学部幼児教育学科、教育学部初等中等教育学科、社会学部社会学科の教育課程を新たに定めた。

(16) 別表Ⅱ

- ① 「資格取得等に関する規程」に規定のため「保育士資格に関する科目」「司書資格に関する科目」を削除した。
- ② 「入学検定料」に関して、別表Ⅳから別表Ⅱに変更した。

(17) 別表Ⅲ

- ① 「教職課程履修規程」に規定のため、「教育職員に関する科目（高等学校教諭一種免許状（英語）免許課程科目、中学校教諭一種免許状（英語）免許課程科目、小学校教諭一種免許状免許課程科目、幼稚園教諭一種免許状免許課程科目）」を削除した。
- ② 「入学金，授業料，在籍料及びその他納付金」に関して、別表Ⅴから別表Ⅲに変更した。

- ③ 納付金徴収項目を「入学金」「授業料」「施設設備費」「実習費」から「入学金」「授業料」に変更し、併せて近隣大学及び本学の収支状況を勘案し納付金額の見直しを行った。

(18) 別表Ⅳ

- ① 「入学検定料」に関して、別表Ⅳから別表Ⅱに変更したため削除した。

(19) 別表Ⅴ

- ② 「入学金，授業料，在籍料及びその他納付金」に関して、別表Ⅴから別表Ⅲに変更したため削除した。

Ⅱ. 変更の時期

2023（令和5）年4月1日

以上

新	旧	備考																												
<p style="text-align: center;">北陸学院大学 学則</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 本学は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、北陸学院の継続した教育体系の学問研究及び教育の最高機関として、<u>高度な教養を授け、学術の理論及び応用を教授研究する。また、全世界のすべての人が豊かで質の高い持続可能な生活を享受する地域及び人類社会を実現するために、自分に与えられた使命 (Mission) を発見し、愛の精神をもってその実現を目指す人材を育成することを目的とする。</u></p> <p>第2条～第4条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第2章 組織</p> <p>(組織)</p> <p>第5条 本学に、次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="163 1056 979 1213"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>編入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学部</td> <td>幼児教育学科</td> <td>45名</td> <td></td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>初等中等教育学科</td> <td>25名</td> <td></td> <td>100名</td> </tr> <tr> <td>社会学部</td> <td>社会学科</td> <td>95名</td> <td></td> <td>380名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(教育研究上の目的及び養成する人材像)</p>	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	教育学部	幼児教育学科	45名		180名	初等中等教育学科	25名		100名	社会学部	社会学科	95名		380名	<p style="text-align: center;">北陸学院大学 学則</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 本学は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に<u>のっとり、学問研究及び教育の機関として責任を伴う自由で自立した人格を形成するとともに、愛と奉仕の精神をもって、地域社会と人類社会に貢献する国際的感覚の豊かな人材の育成を目的とする。</u></p> <p>第2条～第4条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第2章 学部、学科、学生定員</p> <p>(学部、学科、定員)</p> <p>(新規)</p> <p>第5条 本学に人間総合学部を置く。</p> <p>2 本学部は、第1条の目的を達成するため、人間を時間的つながりと社会的広がりの視点から多角的・学際的に研究し、すべての人が豊かで質の高い生活を可能とする社会の実現に貢献できる総合的かつ専門的な人材の育成を目的とする。</p> <p>3 第1項の学部に置く学科及び学生の定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1121 1476 1765 1591"> <thead> <tr> <th></th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども教育学科</td> <td>70名</td> <td>280名</td> </tr> <tr> <td>社会学科</td> <td>70名</td> <td>280名</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 子ども教育学科に以下のコースを置く。 幼児教育・保育コース、幼児・児童教育コース、初等・中等教育コース</p> <p>5 子ども教育学科は、人生の初期段階の乳幼児期から青年前期にわたる発達に関する包括的視野と学問的実践力を培うことを教育研究の目的とし、もって科学的探求心と知的創造力を備えた人間形成の補助者・先導者としての保育者・教育者を育成する。</p> <p>6 社会学科は、人間についての理解と学びを社会の視点から複眼的にとらえ、知識を統合しつつ、その集大成として専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材を育成する。</p> <p>(新規)</p>		入学定員	収容定員	子ども教育学科	70名	280名	社会学科	70名	280名	<p>・学部改組に伴い「目的」の見直しをおこなったため。</p> <p>・学部改組により変更のため。</p>
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員																										
教育学部	幼児教育学科	45名		180名																										
	初等中等教育学科	25名		100名																										
社会学部	社会学科	95名		380名																										
	入学定員	収容定員																												
子ども教育学科	70名	280名																												
社会学科	70名	280名																												

新	旧	備考
<p><u>第5条の2 前条の学部、学科の教育研究上の目的及び養成する人材像は、次のとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 教育学部</u> <u>教育学部は、キリスト教的人間観に基づき、保育及び幼児教育、初等中等教育の保育者・教育者養成課程において保育者・教育者の役割や職務内容、子どもの育ちの連続性を理解した上で、子どもの育ちや発達に関する専門的知識と技能を身に付け、保育・教育を実践することを教育研究の目的とする。</u> <u>専門的知識と技能によって、一人一人の子どもを多角的に理解して保育・教育ができるとともに、グローバル化する地域社会において、子どもに関する諸課題に対して、子どもと保護者に寄り添いながら支援ができる人材を養成する。</u></p> <p><u>(2) 教育学部 幼児教育学科</u> <u>幼児教育学科は、幼児一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導及び実践力を高め、他者を価値ある存在として尊重し、地域と協働、地域に貢献できる保育・教育について教育研究することを目的とする。</u> <u>キリスト教的人間観を理解し、幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設等における保育や教育、地域の子育て支援を専門的に担い、子どもたちが自分の個性を發揮し、成長することに寄与する専門的知識と高い実践力を備えた保育者・教育者を養成する。</u></p> <p><u>(3) 教育学部 初等中等教育学科</u> <u>初等中等教育学科は、様々な個性を發揮する児童・生徒を価値ある存在として尊重し、個に応じた専門的な指導・支援の理解に基づき、グローバル化する地域社会において、多様な他者や地域社会と協働し貢献できる教育について教育研究することを目的とする。</u> <u>キリスト教的人間観を理解し、小学校、中学校、高等学校の教員として児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者として専門的知識と高い実践力を備えた教育者を養成する。</u></p> <p><u>(5) 社会学部 社会学科</u> <u>社会学科は、社会と人間に対する理解を深めるとともに、様々な学問領域を通じて総合的な視野と知識を深め、社会の諸課題を探究し、人に寄り添い、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的とする。</u> <u>キリスト教的人間観を理解し、国際社会から地域社会における多様化・複雑化する社会や人に関する諸課題に対して、社会学に関する知識や技能を身に付けるとともに、社会福祉や人間の心理に関する知識や技能、社会科学に関する知識を修得し、社会をより深く理解し、批判的思考力と共感的対話力をもって解決できる、高度な専門知識と高い実践力を備えた人材を育成する。</u></p>	<p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p>	
<p>第6条 (省略)</p> <p>第3章 教職員組織</p> <p>第7条～第12条 (省略)</p>	<p>第6条 (省略)</p> <p>第3章 教職員組織</p> <p>第7条～第12条 (省略)</p>	

新	旧	備考
<p style="text-align: center;">第4章 大学評議会，教授会</p> <p>第13条 (省略)</p> <p>(教授会)</p> <p>第14条 <u>本学の学部</u>に、それぞれ教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、<u>教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。</u></p> <p>3 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長に対して意見を述べるものとする。</p> <p>(1) 学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項</p> <p>(2) 学位の授与に関する事項</p> <p>(3) 教育課程の編成及び授業に関する事項</p> <p>(4) 第1号以外の学生の学籍に関する事項</p> <p>(5) 研究生，委託生，科目等履修生，聴講生，特別聴講生の入学等に関する事項</p> <p>(6) 学生の賞罰に関する事項</p> <p>(7) その他学長から諮問された事項</p> <p>4 教授会に関し，必要な事項は，別に定める。</p> <p>第15条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第5章 学年，学期及び休業日</p> <p>第16条～第18条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第6章 修業年限及び在学年限</p> <p>第19条 (省略)</p> <p>(在学年限)</p> <p>第20条 学生は，8年を超えて在学することはできない。ただし，第36条及び第37条の規定により入学した学生は，規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。</p> <p><u>(削除)</u></p> <p style="text-align: center;">第7章 教育課程及び履修方法</p> <p>(教育課程)</p> <p>第21条 (省略)</p> <p>(単位の計算方法)</p> <p>第22条 各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。</p> <p>(1) 講義については，<u>15時間の授業時間及び30時間の自学自習時間をもって1単位とする。</u></p>	<p style="text-align: center;">第4章 大学評議会，教授会</p> <p>第13条 (省略)</p> <p>(教授会)</p> <p>第14条 <u>本学に教授会を置く。</u></p> <p>2 教授会は，<u>学長，副学長，教授，准教授，講師及び助教をもって構成する。</u></p> <p>3 教授会は，次に掲げる事項を審議し，学長に対して意見を述べるものとする。</p> <p>(1) 学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項</p> <p>(2) 学位の授与に関する事項</p> <p>(3) 教育課程の編成及び授業に関する事項</p> <p>(4) 第1号以外の学生の学籍に関する事項</p> <p>(5) 研究生，委託生，科目等履修生，聴講生，特別聴講生の入学等に関する事項</p> <p>(6) 学生の賞罰に関する事項</p> <p>(7) その他学長から諮問された事項</p> <p>4 教授会に関し，必要な事項は，別に定める。</p> <p>第15条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第5章 学年，学期及び休業日</p> <p>第16条～第18条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">第6章 修業年限及び在学年限</p> <p>第19条 (省略)</p> <p>(在学年限)</p> <p>第20条 学生は，8年を超えて在学することはできない。ただし，第36条及び第37条の規定により入学した学生は，規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。</p> <p><u>2 前項の規定にかかわらず，第54条に定める長期履修学生の在学年数は12年とする。</u></p> <p style="text-align: center;">第7章 教育課程及び履修方法</p> <p>(教育課程)</p> <p>第21条 (省略)</p> <p>(単位の計算方法)</p> <p>第22条 各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。</p> <p>(1) 講義については，<u>15時間の授業をもって1単位とする。</u></p>	<p>・複数学部になるため，各学部に教授会を設置する。</p> <p>※ 各学部教授会規程において合同開催することを規定する。</p> <p>・長期履修学生制度を廃止するため。</p> <p>・履修規程に規定している自学自習時間を学則に明文化。</p>

新	旧	備考
<p>(2) 演習については、<u>30時間の授業時間及び15時間の自学自習時間をもって1単位とする。ただし、15時間の授業時間及び30時間の自学自習時間をもって1単位とすることがある。</u></p> <p>(3) 実験及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(4) 実習については、<u>45時間の授業時間をもって1単位とする。ただし、30時間の授業をもって1単位とすることがある。</u></p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p> <p>第22条の2～第29条（省略）</p> <p>第8章 入学、休学、転学、転学科、退学及び除籍等</p> <p>第30条～第41条（省略）</p> <p><u>(転学部及び転学科)</u></p> <p>第42条 <u>他の学部又は他の学科への転学部及び転学科を希望する者は、選考の上、学長が許可することがある。</u></p> <p><u>2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。</u></p> <p>第43条～第45条（省略）</p> <p>第9章 卒業、学位及び免許等資格</p> <p>(卒業要件)</p> <p>第46条 本学に4年 <u>(第36条第1項又は第37条第1項の規定により編入学、転入学、再入学又は転学科を許可された者、それぞれ定められた在学すべき年数)</u> 以上在学し、所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者とする。</p> <p>2 学長は、前1項の規定を満たし卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。</p> <p>(学位)</p> <p>第47条 本学を卒業した者に対し、<u>次の区分により、学士の学位を授与する。</u></p> <p><u>(1) 教育学部 幼児教育学科 学士(教育学)</u></p> <p><u>(2) 教育学部 初等中等教育学科 学士(教育学)</u></p> <p><u>(3) 社会学部 社会学科 学士(社会学)</u></p> <p><u>2 前項の学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p><u>3 学長は、前1項の規定を満たし卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。</u></p> <p>第48条（省略）</p> <p>(資格)</p> <p>第49条 本学において取得できる<u>資格等及び開設学部学科</u>は、次のとおりとする。</p>	<p>(2) 演習については、<u>15時間または30時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>(3) 実験及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(4) 実習については、<u>30時間または45時間の授業をもって1単位とする。</u></p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p> <p>第22条の2～第29条（省略）</p> <p>第8章 入学、休学、転学、転学科、退学及び除籍等</p> <p>第30条～第41条（省略）</p> <p><u>(転学科)</u></p> <p>第42条 <u>他の学科への転学科を希望する者は、学長の許可を得なければならない。</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p>第43条～第45条（省略）</p> <p>第9章 卒業、学位及び免許等資格</p> <p>(卒業要件)</p> <p>第46条 本学に4年 <u>(第36条第1項又は第37条第1項の規定により編入学、転入学、再入学又は転学科を許可された者並びに第54条に定める長期履修学生は、それぞれ定められた在学すべき年数)</u> 以上在学し、所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者とする。</p> <p>2 学長は、前1項の規定を満たし卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。</p> <p>(学位)</p> <p>第47条 本学を卒業した者に対し、<u>子ども教育学科は学士(教育学)を、社会学科は学士(社会学)の学位を授与する。</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>2 学長は、前1項の規定を満たし卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。</u></p> <p>第48条（省略）</p> <p>(資格)</p> <p>第49条 本学において取得できる<u>保育士資格の開設学科</u>は、次のとおりとする。</p>	<p>・履修規程に規定している自学自習時間を学則に明文化。</p> <p>・履修規程に規定している自学自習時間を学則に明文化。</p> <p>・複数学部設置により、転学部を規定するため。</p> <p>・長期履修学生制度を廃止するため</p> <p>・学部改組による変更</p> <p>・別に定める学位規程を明文化。</p> <p>・項番号の変更。</p> <p>・教職課程以外の資格に関して、資格取得に関する規程に集約するため、本学で各学部学科で取得等可能な資格等に関し</p>

新		旧		備考
資格等の種類	開設学部学科	資格等の種類	開設学科	てまとめて記載する。
<u>保育士資格</u>	<u>教育学部幼児教育学科</u>	<u>保育士資格</u>	<u>子ども教育学科</u> <u>70名</u>	
<u>准学校心理士資格</u>	<u>教育学部幼児教育学科</u>	2 <u>子ども教育学科</u> において保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法及び児童福祉法施行規則に基づき、別表Ⅱの1に定める単位を修得しなければならない。		
<u>社会福祉主事任用資格</u>	<u>教育学部幼児教育学科</u>			
	<u>教育学部初等中等教育学科</u>			
	<u>社会学部社会学科</u>			
	<u>健康科学部栄養学科</u>			
<u>司書資格</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
<u>社会福祉士受験資格</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
<u>公認心理師となるために必要な科目の取得</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
<u>認定心理士資格</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
<u>社会調査士資格</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
<u>スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程</u>	<u>社会学部社会学科</u>			
2 <u>前項の資格等の取得に関し必要な事項は、別に定める。</u>		<u>(新規)</u>		・別に定める規定を追加。
3 <u>教育学部幼児教育学科における保育士養成課程の定員は、1学年45名とする。</u>		<u>(新規)</u>		・保育士養成課程の定員を明文化する。
4 <u>社会学部社会学科における社会福祉士養成課程の定員は、1学年40名とする。</u>		<u>(新規)</u>		・社会福祉士養成課程の定員を明文化する。
第49条の1 <u>(削除)</u>		第49条の1 <u>本学において取得できる司書資格の開設学科は、次のとおりとする。</u>		・資格取得に関する規程に明記するため削除する。
		<u>資格等の種類</u> <u>開設学科</u>		
		<u>司書資格</u> <u>社会学科</u>		
		2 <u>社会学科において司書の資格を取得しようとする者は、図書館法に基づき、別表Ⅱの2に定める単位を修得しなければならない。</u>		
(教職に関する免許)		(教職に関する免許)		
第50条 本学の学部・学科において取得できる教育職員の免許状の種類は、次のとおりとする。		第50条 本学の学部・学科において取得できる教育職員の免許状の種類は、次のとおりとする。		
	<u>学部・学科</u>	<u>免許状の種類</u>	<u>学部・学科</u>	<u>免許状の種類</u>
	<u>教育学部 幼児教育学科</u>	<u>幼稚園教諭一種免許状</u>	<u>人間総合学部 子ども教育学科</u>	<u>高等学校教諭一種免許状（英語）</u>
	<u>教育学部 初等中等教育学科</u>	<u>高等学校教諭一種免許状（英語）</u>		<u>中学校教諭一種免許状（英語）</u>
		<u>中学校教諭一種免許状（英語）</u>		<u>小学校教諭一種免許状</u>
		<u>小学校教諭一種免許状</u>		<u>幼稚園教諭一種免許状</u>
2 <u>各学部学科において教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に基づき、必要な単位を修得しなければならない。</u>		2 <u>子ども教育学科において教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に基づき、別表Ⅲの1から4に定める単位を修得しなければならない。</u>		・教職課程に関する別表を学則による規定から教職課程規程に規定のため文言の修正。
3 <u>前項の教職課程に関する必要な事項は、別に定める。</u>		<u>(新規)</u>		・規程の別に定める規定を追加。
第10章 入学検定料，入学金，授業料及びその他納付金		第10章 入学検定料，入学金，授業料及びその他納付金		
(入学検定料)		(入学検定料)		
第51条 入学志願者は、入学検定料を納付しなければならない。		第51条 入学志願者は、入学検定料を納付しなければならない。		

新	旧	備考
<p>2 入学検定料は、<u>別表II</u>のとおりとする。 (<u>入学金、授業料、在籍料及びその他納付金</u>)</p> <p><u>第52条 入学金、授業料、在籍料及びその他納付金は、別表IIIに掲げるとおりとする。</u></p> <p>2 <u>入学金、授業料、在籍料及びその他納付金等の納期、納付方法について必要な事項は別に定める。</u></p> <p><u>3 退学する者、転学する者は、学籍を有した学期分の授業料及びその他の納付金を納入しなければならない。</u></p> <p><u>4 停学の者は、停学期間に相当する学期分の授業料及びその他の納付金を納入しなければならない。</u></p> <p><u>5 休学する者は、休学期間に相当する学期分の授業料及びその他の納付金が免除され、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。ただし、学期の途中から休学する者、又は学期の途中で復学する者は、休学、又は復学した学期の授業料及びその他の納付金の全額を納入しなければならない。</u></p> <p>第53条 (省略)</p> <p><u>第11章 削除</u></p> <p><u>第54条 削除</u></p> <p>第12章 特待生</p> <p>第55条 (省略)</p> <p>第13章 研究生、委託生、科目等履修生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生</p> <p>第56条～第61条 (省略)</p> <p>第14章 附属図書館、付属施設及び公開講座</p> <p>第62条～第64条 (省略)</p> <p>第15章 厚生施設</p> <p>第65条 (省略)</p> <p>第16章 賞罰</p> <p>第66条～第67条 (省略)</p>	<p>2 入学検定料は、<u>別表IV</u>のとおりとする。 (<u>入学金、授業料及びその他納付金</u>)</p> <p><u>第52条 入学金、授業料及びその他納付金は、別表Vに掲げるとおりとする。</u></p> <p>2 <u>入学金、授業料及びその他納付金等の納期、納付方法について必要な事項は別に定める。</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p><u>(新規)</u></p> <p>第53条 (省略)</p> <p><u>第11章 長期履修学生</u></p> <p><u>(長期履修学生)</u></p> <p><u>第54条 学長は、学生が職業を有している等の事情により、第19条に定める修業年限を超える一定の期間にわたり計画的に授業科目を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を学長が認めることができる。</u></p> <p><u>2 長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>第12章 特待生</p> <p>第55条 (省略)</p> <p>第13章 研究生、委託生、科目等履修生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生</p> <p>第56条～第61条 (省略)</p> <p>第14章 附属図書館、付属施設及び公開講座</p> <p>第62条～第64条 (省略)</p> <p>第15章 厚生施設</p> <p>第65条 (省略)</p> <p>第16章 賞罰</p> <p>第66条～第67条 (省略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別表II～IIIを削除のため、別表IIに変更。 ・休学時の在籍料を明記した。 ・休学時の在籍料を明記した。別表II～IIIを削除のため、別表IIIに変更。 ・休学時の在籍料を明記した。 <p>・退学、転学、停学、休学における納付金について、明文化した。</p> <p>・カリキュラムの改編が多く、長期履修生に対する履修科目の長期担保が困難なことや、夜間開講や対象者に対する授業保証が難しいことから、制度を廃止する。</p>

新	旧	備考
<p style="text-align: center;">第17章 学則の改正</p> <p>第68条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">附 則 (直近までの附則を省略)</p> <p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p><u>1 この学則は、2023（令和4）年4月1日から施行する。</u> <u>(人間総合学部子ども教育学科及び人間総合学部社会学科の存続に関する経過措置)</u></p> <p><u>人間総合学部子ども教育学科及び人間総合学部社会学科は、改正後の学則第5条第1項の規定にかかわらず、2023(令和5)年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、当該学生に関しては、改正（2023（令和5）年4月1日）前の学則を適用する。</u></p>	<p style="text-align: center;">第17章 学則の改正</p> <p>第68条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">附 則 (直近までの附則を省略)</p> <p style="text-align: center;"><u>(新規)</u></p>	<p>・附則の追加</p>

新	旧				備考		
(削除)	別表 I (授業科目の名称及び単位数) (子ども教育学科 2019年度入学生以降, 学則第29条関係)					・別表 I (授業科目の名称及び単位数) 「子ども教育学科 2022年度入学生以降」を削除	
			単位		備考		
	授業科目の名称		共通 必修	選択			自由
	北陸学院科目	北陸学院セミナー I	1				
		北陸学院セミナー II	1				
		キリスト教概論 I	1				
		キリスト教概論 II	1				
		キリスト教人間論 I	1				
		キリスト教人間論 II	1				
	総合教養科目	総合教養 A I		2			
		総合教養 A II		2			
		総合教養 B I		2			
		総合教養 B II		2			
		総合教養 C I		2			
		総合教養 C II		2			
		総合教養 D I		2			
		総合教養 D II		2			
	全学共通科目 言語教育科目	日本語基礎			1		
		日本語表現法 I	1				
		日本語表現法 II	1				
		英語基礎			1		
		英語 A I		1			
		英語 A II		1			
		英語 B I		1			
		英語 B II		1			
		英語 C I		1			
		英語 C II		1			
		英語 D I		1			
		英語 D II		1			
		英語 E I		1			
		英語 E II		1			
		英語 F I		1			
		英語 F II		1			
		アクティブ・イングリッシュ A		1			
		アクティブ・イングリッシュ B		2			
		アクティブ・イングリッシュ C		3			
		中国語 I		1			
	中国語 II		1				
	フランス語 I		1				
	フランス語 II		1				
康ツス 科・ポ 目健	生涯スポーツ A	1					
	生涯スポーツ B	1					
	健康科学		2				
キャ リ ア 教 育 科 目	キャリアデザイン I	1					
	キャリアデザイン II	1					
	キャリアデザイン III		1				
	キャリアデザイン IV		1				
	キャリアデザイン V		1				
	キャリアデザイン VI		1				
	情報機器演習 A	1					
	情報機器演習 B	1					

新	旧						備考
	授業科目の名称		単位				備考
			幼児教育・保育コース必修	幼児・児童教育コース必修	初等・中等教育コース必修	選択	
基幹科目	基礎ゼミⅠ	2	2	2			
	基礎ゼミⅡ	2	2	2			
	プロゼミA	2	2	2			
	プロゼミB	2	2	2			
	専門ゼミⅠ	4	4	4			
	専門ゼミⅡ	4	4	4			
	卒業研究				4		
	地域社会と子ども	2	2	2			
	教育学概論	2	2	2			
	教職論	2	2	2			
	保育者論				2		
	特別支援教育論		2	2	2		
	発達心理学	2			2		
	教育心理学			2	2		
	キリスト教と教育	2	2	2			
	初歩文献講読				2		
	日本国憲法	2	2	2			
	異文化間コミュニケーション論				2		
児童文学				2			
郷土の文学を楽しむ				2			
学科専門科目	英語学概論	2	2	2			
	英語学			2	2		
	英語音声学Ⅰ			2	2		
	英語音声学Ⅱ			2	2		
	言語教育のための英文法Ⅰ			2	2		
	言語教育のための英文法Ⅱ			2	2		
	英語文学Ⅰ		2	2	2		
	英語文学Ⅱ				2		
	英語圏の児童文学	2	2		2		
	コミュニケーション・イングリッシュA			2	2		
	コミュニケーション・イングリッシュB			2	2		
	英語科教育法Ⅰ		2	2	2		
	英語科教育法Ⅱ		2	2	2		
	英語科教育法Ⅲ			2	2		
	英語科教育法Ⅳ			2	2		
	コミュニケーション・イングリッシュ	2	2		2		
	プラクティカル・イングリッシュ	2	2		2		
	キッズ・イングリッシュA	2	2		2		
	キッズ・イングリッシュB	2	2	2			
	シンプル・イングリッシュA	2	2		2		
	シンプル・イングリッシュB	2	2	2			
	スピーチ&ドラマ	2	2	2			
	エクステンシブ・リーディング		2	2	2		
	トラベル・イングリッシュA				2		
	トラベル・イングリッシュB				2		
	プレゼンテーション			2	2		
	ムービー・イングリッシュA	2	2		2		
	ムービー・イングリッシュB				2		
ビジネス・イングリッシュA				2			
ビジネス・イングリッシュB				2			
インテンシブ・リーディング			2	2			
エッセイ・ライティング			2	2			
バイブル・イングリッシュ				2			

新	旧						備考
	学科専門科目	授業科目の名称	単位			備考	
			幼児教育・保育コース必修	幼児・児童教育コース必修	初等・中等教育コース必修		選択
		理科				2	
		社会				2	
		家庭				2	
		国語科指導法（書写を含む）				2	
		算数科指導法				2	
		理科指導法				2	
		社会科指導法				2	
		生活科指導法				2	
		図画工作指導法				2	
		音楽科指導法				2	
		家庭科指導法				2	
		体育科指導法				2	
		英語科指導法	2	2	2		
		道徳教育指導論（小中）			2	2	
		教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）			2	2	
		生徒・進路指導論（小中高）			2	2	
		教育相談（小中高）			2	2	
		国語		2		2	
		算数				2	
		生活		2		2	
		図画工作	2	2		2	
		音楽				2	
		体育				2	
		英語	2	2	2		
		教育社会学	2	2	2		
		教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）		2	2	2	
		器楽入門					1
		器楽Ⅰ				1	
		器楽Ⅱ				1	
		教育課程論	2			2	
		保育内容総論	1			1	
		保育内容・環境指導法	2			2	
		環境				2	
		保育内容・健康指導法	2			2	
		健康活動				2	
		保育内容・言葉指導法	2			2	
		言葉				2	
		保育内容・人間関係指導法	2			2	
		人間関係				2	
		保育内容・表現指導法	2			2	
		表現				2	
		幼児理解	2			2	
		子どもの理解と援助				1	
		保育原理				2	
		子ども家庭福祉論Ⅰ				2	
		子ども家庭福祉論Ⅱ				2	
社会福祉				2			
家庭支援の心理学				2			
社会的養護				2			
社会的養護内容				2			
子どもの保健				2			
子どもの健康				2			
子どもの食と栄養				2			
家庭支援論				2			
乳児保育Ⅰ				2			
乳児保育Ⅱ				2			
障がい児保育				2			

新	旧							備考
	授業科目の名称		単位				備考	
			幼児教育・保育コース必修	幼児・児童教育コース必修	初等・中等教育コース必修	選択	自由	
	学科専門科目	子育てと支援				2		
		音楽表現Ⅰ				1		
		音楽表現Ⅱ				1		
		身体表現				1		
		児童文化				2		
		絵本論				2		
		心理学概論A				2		
		心理学概論B				2		
		臨床心理学概論				2		
		心理学統計法				2		
		心理学実験Ⅰ				2		
		心理学実験Ⅱ				2		
		心理学研究法				2		
		心理的アセスメント				2		
		人格心理学（感情・人格心理学A）				2		
		社会・集団・家族心理学				2		
		産業・組織心理学				2		
		知覚・認知心理学				2		
		感情心理学（感情・人格心理学B）				2		
		心理学の支援法				2		
		学校心理学（教育・学校心理学）				2		
		障害者・障害児心理学				2		
		心理演習				2		
		選択音楽				1		
		教育史				2		
		子どもと法				2		
		比較教育学				2		
		教育学文献講読A 1				2		
		教育学文献講読A 2				2		
		教育学文献講読A 3				2		
		教育学文献講読B 1				2		
		教育学文献講読B 2				2		
		教育学文献講読B 3				2		
	教育学理論研究				2			
	教育実践研究A				2			
	教育実践研究B				2			
	資格科目	教育実習指導Ⅰ（幼）				1		
		教育実習指導Ⅱ（幼）				1		
		教育実習Ⅰ（幼）				2		
		教育実習Ⅱ（幼）				2		
		教育実習指導（小）				1		
		教育実習Ⅰ（小）				4		
		教育実習Ⅱ（小）				2		
		教育実習指導（中高）				1		
		教育実習Ⅰ（中高）				4		
		教育実習Ⅱ（中高）				2		
		保育実習指導Ⅰ（施設）				1		
		保育実習Ⅰ（施設）				2		
		保育実習指導Ⅰ（保育所）				1		
		保育実習Ⅰ（保育所）				2		
		保育実習指導Ⅱ				1		
		保育実習Ⅱ（保育所）				2		
		保育実習指導Ⅲ				1		
		保育実習Ⅲ（施設）				2		
		教職実践演習（幼小中高・保）				2		
		介護等体験				2		

※ 自由科目は卒業単位に含まれない。 ※ 基幹科目及び学科専門科目は所属するコースの必修科目を修得する必要がある。

新	旧				備考												
(削除)	別表 I (授業科目の名称及び単位数) (社会科学 2021年度入学生以降, 学則第29条関係)				・別表 I (授業科目の名称及び単位数) 「社会科学 2019年度入学生以降」を削除												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="1107 218 1774 285">授業科目の名称</th> <th colspan="3" data-bbox="1774 218 1982 285">単位</th> <th data-bbox="1982 218 2086 285">備考</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th data-bbox="1774 247 1822 285">必修</th> <th data-bbox="1822 247 1869 285">選択</th> <th data-bbox="1869 247 1982 285">自由</th> <th></th> </tr> </thead> </table>				授業科目の名称		単位			備考			必修	選択	自由		
	授業科目の名称		単位			備考											
			必修	選択	自由												
	北陸学院科目	北陸学院セミナー I	1														
		北陸学院セミナー II	1														
		キリスト教概論 I	1														
		キリスト教概論 II	1														
		キリスト教人間論 I	1														
		キリスト教人間論 II	1														
	総合教養科目	総合教養 A I		2													
		総合教養 A II		2													
		総合教養 B I		2													
		総合教養 B II		2													
		総合教養 C I		2													
		総合教養 C II		2													
		総合教養 D I		2													
		総合教養 D II		2													
	全学共通科目	日本語基礎			1												
		日本語表現法 I	1														
		日本語表現法 II	1														
		英語基礎			1												
		英語 A I		1													
		英語 A II		1													
		英語 B I		1													
		英語 B II		1													
		英語 C I		1													
		英語 C II		1													
		英語 D I		1													
		英語 D II		1													
		英語 E I		1													
		英語 E II		1													
		英語 F I		1													
		英語 F II		1													
		アクティブ・イングリッシュ A		1													
		アクティブ・イングリッシュ B		2													
		アクティブ・イングリッシュ C		3													
		中国語 I		1													
	中国語 II		1														
	フランス語 I		1														
フランス語 II		1															
スポーツ・健康科目	生涯スポーツ A	1															
	生涯スポーツ B	1															
	健康科学		2														
キャリア教育科目	キャリアデザイン I	1															
	キャリアデザイン II	1															
	キャリアデザイン III	1															
	キャリアデザイン IV	1															
	キャリアデザイン V	1															
	キャリアデザイン VI	1															
	情報機器演習 A	1															
情報機器演習 B	1																

新	旧				備考
	授業科目の名称		単位		備考
	基幹科目	基礎ゼミ I	2		
		基礎ゼミ II	2		
		プロゼミ A	2		
		プロゼミ B	2		
		専門ゼミ I	4		
		専門ゼミ II	4		
		卒業研究		4	
		社会学リレー講義	2		
		社会学概論 A	2		
		社会学概論 B		2	
		社会調査論	2		
		社会調査法		2	
		統計データの読み方	2		
		質的研究法		2	
		データ処理基礎		2	
		心理学統計法		2	
	社会学理論		2		
	家族社会学		2		
	都市社会学		2		
	環境社会学		2		
	文化人類学		2		
	現代社会と福祉 I		2		
	現代社会と福祉 II		2		
	心理学概論 A		2		
	心理学概論 B		2		
	応用心理社会統計法		2		
	社会調査実習		4		
	宗教と社会		2		
	石川の伝統文化と産業		2		
	教育社会学		2		
	若者文化論		2		
	社会と言語		2		
	多文化共生論		2		
	グローバル社会論		2		
	社会病理学		2		
	メディア文化論		2		
	地域行政入門		2		
	経済学 I		2		
	経済学 II		2		
	経済学 III		2		
	経済学 IV		2		
	法律学		2		
	政治学		2		
	地域社会政策論		2		
	経営学入門		2		
	社会貢献論		2		
社会貢献実習		2			
環境と開発		2			
地域環境マネジメント論		2			
地域福祉と包括的支援体制 I		2			
地域福祉と包括的支援体制 II		2			
児童福祉論		2			
高齢者福祉論		2			
障害者福祉論		2			

新		旧				備考			
		授業科目の名称	単位			備考			
			必修	選択	自由				
	学科専門科目	社会保障論		2					
		権利擁護を支える法制度		2					
		刑事司法と福祉		2					
		障害者スポーツ		2					
		図書館概論		2					
		情報技術論		2					
		マーケティング論		2					
		臨床心理学概論		2					
		心理学実験Ⅰ		2					
		心理学実験Ⅱ		2					
		心理学研究法		2					
		心理的アセスメント		2					
		発達心理学		2					
		教育心理学		2					
		人格心理学（感情・人格心理学A）		2					
		社会・集団・家族心理学		2					
		産業・組織心理学		2					
		知覚・認知心理学		2					
		感情心理学（感情・人格心理学B）		2					
		障害者・障害児心理学		2					
		心理学的支援法		2					
		学校心理学（教育・学校心理学）		2					
		心理演習		2					
			資格科目	社会福祉士国家試験受験資格科目	ソーシャルワークの基盤と専門職		2		
					ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ					2				
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ					2				
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ					2				
福祉サービスの組織と経営					2				
公的扶助論					2				
保健医療サービス					2				
ソーシャルワーク演習Ⅰ					2				
ソーシャルワーク演習Ⅱ					2				
ソーシャルワーク演習Ⅲ					2				
ソーシャルワーク演習Ⅳ					2				
ソーシャルワーク演習Ⅴ					2				
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ					2				
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ					2				
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ					2				
ソーシャルワーク実習Ⅰ					1				
ソーシャルワーク実習Ⅱ					4				
S※SW科目	精神保健学					2			
	スクールソーシャルワーク論					2			
	スクールソーシャルワーク演習				1				
	スクールソーシャルワーク実習指導				1				
	スクールソーシャルワーク実習				2				
司書資格科目	生涯学習概論				2				
	図書館サービス概論				2				
	情報サービス論		2						
	児童サービス論		2						
	情報資源組織論		2						

新	旧				備考																																																																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="1115 142 1774 205" rowspan="2">授業科目の名称</th> <th colspan="3" data-bbox="1774 142 1976 184">単位</th> <th data-bbox="1976 142 2071 205" rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th data-bbox="1774 184 1846 214">必修</th> <th data-bbox="1846 184 1917 214">選択</th> <th data-bbox="1917 184 1976 214">自由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1115 214 1187 466" rowspan="9">資格科目</td> <td data-bbox="1187 214 1288 466" rowspan="9">司書科目資格</td> <td data-bbox="1288 214 1774 243">図書館制度・経営論</td> <td data-bbox="1774 214 1846 243"></td> <td data-bbox="1846 214 1917 243">2</td> <td data-bbox="1917 214 1976 243"></td> <td data-bbox="1976 214 2071 243"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 243 1774 273">情報サービス演習Ⅰ</td> <td data-bbox="1774 243 1846 273"></td> <td data-bbox="1846 243 1917 273">1</td> <td data-bbox="1917 243 1976 273"></td> <td data-bbox="1976 243 2071 273"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 273 1774 302">情報サービス演習Ⅱ</td> <td data-bbox="1774 273 1846 302"></td> <td data-bbox="1846 273 1917 302">1</td> <td data-bbox="1917 273 1976 302"></td> <td data-bbox="1976 273 2071 302"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 302 1774 331">情報資源組織演習Ⅰ</td> <td data-bbox="1774 302 1846 331"></td> <td data-bbox="1846 302 1917 331">1</td> <td data-bbox="1917 302 1976 331"></td> <td data-bbox="1976 302 2071 331"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 331 1774 361">情報資源組織演習Ⅱ</td> <td data-bbox="1774 331 1846 361"></td> <td data-bbox="1846 331 1917 361">1</td> <td data-bbox="1917 331 1976 361"></td> <td data-bbox="1976 331 2071 361"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 361 1774 390">図書館情報資源概論</td> <td data-bbox="1774 361 1846 390"></td> <td data-bbox="1846 361 1917 390">2</td> <td data-bbox="1917 361 1976 390"></td> <td data-bbox="1976 361 2071 390"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 390 1774 420">図書・図書館史</td> <td data-bbox="1774 390 1846 420"></td> <td data-bbox="1846 390 1917 420">2</td> <td data-bbox="1917 390 1976 420"></td> <td data-bbox="1976 390 2071 420"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 420 1774 449">図書館実習</td> <td data-bbox="1774 420 1846 449"></td> <td data-bbox="1846 420 1917 449">1</td> <td data-bbox="1917 420 1976 449"></td> <td data-bbox="1976 420 2071 449"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 449 1774 781" rowspan="10">資格科目</td> <td data-bbox="1187 449 1288 781" rowspan="10">公認心理師科目</td> <td data-bbox="1288 449 1774 478">公認心理師の職責</td> <td data-bbox="1774 449 1846 478"></td> <td data-bbox="1846 449 1917 478">2</td> <td data-bbox="1917 449 1976 478"></td> <td data-bbox="1976 449 2071 478"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 478 1774 508">学習・言語心理学</td> <td data-bbox="1774 478 1846 508"></td> <td data-bbox="1846 478 1917 508">2</td> <td data-bbox="1917 478 1976 508"></td> <td data-bbox="1976 478 2071 508"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 508 1774 537">神経・生理心理学</td> <td data-bbox="1774 508 1846 537"></td> <td data-bbox="1846 508 1917 537">2</td> <td data-bbox="1917 508 1976 537"></td> <td data-bbox="1976 508 2071 537"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 537 1774 567">福祉心理学</td> <td data-bbox="1774 537 1846 567"></td> <td data-bbox="1846 537 1917 567">2</td> <td data-bbox="1917 537 1976 567"></td> <td data-bbox="1976 537 2071 567"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 567 1774 596">司法・犯罪心理学</td> <td data-bbox="1774 567 1846 596"></td> <td data-bbox="1846 567 1917 596">2</td> <td data-bbox="1917 567 1976 596"></td> <td data-bbox="1976 567 2071 596"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 596 1774 625">健康・医療心理学</td> <td data-bbox="1774 596 1846 625"></td> <td data-bbox="1846 596 1917 625">2</td> <td data-bbox="1917 596 1976 625"></td> <td data-bbox="1976 596 2071 625"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 625 1774 655">人体の構造と機能及び疾病</td> <td data-bbox="1774 625 1846 655"></td> <td data-bbox="1846 625 1917 655">2</td> <td data-bbox="1917 625 1976 655"></td> <td data-bbox="1976 625 2071 655"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 655 1774 684">精神疾患とその治療</td> <td data-bbox="1774 655 1846 684"></td> <td data-bbox="1846 655 1917 684">2</td> <td data-bbox="1917 655 1976 684"></td> <td data-bbox="1976 655 2071 684"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 684 1774 714">関係行政論</td> <td data-bbox="1774 684 1846 714"></td> <td data-bbox="1846 684 1917 714">2</td> <td data-bbox="1917 684 1976 714"></td> <td data-bbox="1976 684 2071 714"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 714 1774 781">心理実習</td> <td data-bbox="1774 714 1846 781"></td> <td data-bbox="1846 714 1917 781">2</td> <td data-bbox="1917 714 1976 781"></td> <td data-bbox="1976 714 2071 781"></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1115 806 1436 835">※ 自由科目は卒業単位に含まれない。</p> <p data-bbox="1115 840 1703 869">※ S S W科目とは、「スクール（学校）ソーシャルワーク科目」の略。</p>				授業科目の名称		単位			備考	必修	選択	自由	資格科目	司書科目資格	図書館制度・経営論		2			情報サービス演習Ⅰ		1			情報サービス演習Ⅱ		1			情報資源組織演習Ⅰ		1			情報資源組織演習Ⅱ		1			図書館情報資源概論		2			図書・図書館史		2			図書館実習		1			資格科目	公認心理師科目	公認心理師の職責		2			学習・言語心理学		2			神経・生理心理学		2			福祉心理学		2			司法・犯罪心理学		2			健康・医療心理学		2			人体の構造と機能及び疾病		2			精神疾患とその治療		2			関係行政論		2			心理実習		2			
授業科目の名称		単位					備考																																																																																																					
		必修	選択	自由																																																																																																								
資格科目	司書科目資格	図書館制度・経営論		2																																																																																																								
		情報サービス演習Ⅰ		1																																																																																																								
		情報サービス演習Ⅱ		1																																																																																																								
		情報資源組織演習Ⅰ		1																																																																																																								
		情報資源組織演習Ⅱ		1																																																																																																								
		図書館情報資源概論		2																																																																																																								
		図書・図書館史		2																																																																																																								
		図書館実習		1																																																																																																								
		資格科目	公認心理師科目	公認心理師の職責		2																																																																																																						
学習・言語心理学				2																																																																																																								
神経・生理心理学				2																																																																																																								
福祉心理学				2																																																																																																								
司法・犯罪心理学				2																																																																																																								
健康・医療心理学				2																																																																																																								
人体の構造と機能及び疾病				2																																																																																																								
精神疾患とその治療				2																																																																																																								
関係行政論				2																																																																																																								
心理実習				2																																																																																																								

新		旧		備考		
別表 I (授業科目の名称及び単位数) (教育学部幼児教育学科 2023年度入学生以降, 学則第29条関係)		(新規)		・別表 I (授業科目の名称及び単位数) 「教育学部幼児教育学科 2023年度入学生以降」を新規追加		
授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
大学共通科目	北陸学院	北陸学院セミナー I	1			
		北陸学院セミナー II	1			
		キリスト教概論 I	1			
		キリスト教概論 II	1			
		キリスト教人間論 I	1			
		キリスト教人間論 II	1			
	一般教養科目	郷土の文学		2		
		日本国憲法	2			
		青年の心理		2		
		食と健康		2		
		政治学		2		
	言語教育科目	日本語基礎			1	
		英語基礎			1	
		英語 A I		1		
		英語 A II		1		
		英語 B I		1		
		英語 B II		1		
		英語 C I		1		
		英語 C II		1		
		英語 D I		1		
		英語 D II		1		
		英語 E I		1		
		英語 E II		1		
		英語 F I		1		
		英語 F II		1		
		アクティブ・イングリッシュ A		1		
		アクティブ・イングリッシュ B		2		
		アクティブ・イングリッシュ C		3		
		中国語 I		1		
		中国語 II		1		
		フランス語 I		1		
	フランス語 II		1			
	韓国語 I		1			
	韓国語 II		1			
	スポーツ・健康	生涯スポーツ A	1			
		生涯スポーツ B	1			
		健康科学	2			
	初年次教育科目	情報機器演習 A	1			
		情報機器演習 B	1			
		基礎ゼミ I	2			
		基礎ゼミ II	2			
	学部共通科目	基幹科目	キリスト教と教育	2		
			データサイエンス入門	2		
			データ分析と教育	1		
			キャリアデザイン I	1		
キャリアデザイン II			1			
キャリアデザイン III			1			
キャリアデザイン IV			1			
キャリアデザイン V			1			
キャリアデザイン VI			1			
プロゼミ A			2			
プロゼミ B			2			
専門ゼミ I			4			
専門ゼミ II			4			
卒業研究				4		
地域社会と子ども			2			
教育学概論			2			
教職論	2					
特別支援教育論	2					

新		単位			備考	旧	備考
授業科目の名称		必修	選択	自由			
学部共通科目	英語特色科目	コミュニケーション・イングリッシュ	2				
		プラクティカル・イングリッシュ		2			
		キッズ・イングリッシュA	2				
		キッズ・イングリッシュB		2			
		シンプル・イングリッシュA	2				
		シンプル・イングリッシュB		2			
		スピーチ&ドラマ		2			
		エクステンシブ・リーディング		2			
		トラベル・イングリッシュA		2			
		トラベル・イングリッシュB		2			
		プレゼンテーション		2			
		ムービー・イングリッシュA		2			
		ムービー・イングリッシュB		2			
		ビジネス・イングリッシュA		2			
		ビジネス・イングリッシュB		2			
	インテンシブ・リーディング*		2				
	エッセイ・ライティング		2				
	バイブル・イングリッシュ		2				
	応用科目	音楽演習		1			
		教育史		2			
		比較教育学		2			
		教育学文献講読A 1		2			
		教育学文献講読A 2		2			
		教育学文献講読B 1		2			
		教育学文献講読B 2		2			
教育実践研究（幼保）			2				
教育実践研究（小中高）			2				
学科専門科目		基幹科目	発達心理学	2			
	教育心理学			2			
	教育社会学		2				
	幼児理解		2				
	教育課程論		2				
	保育内容総論		1				
	保育内容・環境指導法		2				
	保育内容・健康指導法		2				
	保育内容・言葉指導法		2				
	保育内容・人間関係指導法		2				
	保育内容・表現指導法		2				
	環境		2				
	健康活動		2				
	言葉		2				
	人間関係		2				
	表現		2				
	図画工作		2				
	教職実践演習（幼保）			2			
	異文化間コミュニケーション論		2				
	児童文学	2					
	音楽表現Ⅰ		1				
	音楽表現Ⅱ		1				
	幼稚園教諭関連科目	教育の方法・技術（幼保）	2				
		国語	2				
		算数		2			
生活		2					
音楽			2				
英語			2				
教育実習指導Ⅰ（幼）			1				
教育実習指導Ⅱ（幼）		1					
教育実習Ⅰ（幼）		2					
教育実習Ⅱ（幼）		2					

新				旧			備考
授業科目の名称		単位			備考		
		必修	選択	自由			
学科専門科目	保育士関連科目	保育者論	2				
		保育原理	2				
		子どもの理解と援助	1				
		子ども家庭福祉論Ⅰ	2				
		子ども家庭福祉論Ⅱ	2				
		社会福祉	2				
		家庭支援の心理学	2				
		社会的養護	2				
		社会的養護内容	2				
		子どもの保健	2				
		子どもの健康と安全	2				
		子どもの食と栄養	2				
		家庭支援論	2				
		乳児保育Ⅰ	2				
		乳児保育Ⅱ	2				
		障がい児保育	2				
		子育てと支援	2				
		器楽入門			1		
		器楽Ⅰ	1				
		器楽Ⅱ	1				
		身体表現	1				
		児童文化	2				
		絵本論	2				
		保育実習指導Ⅰ（施設）	1				
		保育実習Ⅰ（施設）	2				
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	1				
		保育実習Ⅰ（保育所）	2				
		保育実習指導Ⅱ（保育所）	1				
		保育実習Ⅱ（保育所）	2				
		保育実習指導Ⅲ（施設）	1				
保育実習Ⅲ（施設）	2						

新		旧			備考	
別表Ⅰ（授業科目の名称及び単位数） （教育学部初等中等教育学科 2023年度入学生以降，学則第29条関係）		<u>（新規）</u>			・別表Ⅰ（授業科目の名称及び単位数） 「教育学部初等中等教育学科 2023年度入学生以降」を新規追加	
授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
大学共通科目	北陸学院 科目	北陸学院セミナーⅠ	1			
		北陸学院セミナーⅡ	1			
		キリスト教概論Ⅰ	1			
		キリスト教概論Ⅱ	1			
		キリスト教人間論Ⅰ	1			
		キリスト教人間論Ⅱ	1			
	一般教養科目	郷土の文学		2		
		日本国憲法	2			
		青年の心理		2		
		食と健康		2		
		政治学		2		
	言語教育科目	日本語基礎			1	
		英語基礎			1	
		英語AⅠ		1		
		英語AⅡ		1		
		英語BⅠ		1		
		英語BⅡ		1		
		英語CⅠ		1		
		英語CⅡ		1		
		英語DⅠ		1		
		英語DⅡ		1		
		英語EⅠ		1		
		英語EⅡ		1		
		英語FⅠ		1		
		英語FⅡ		1		
		アクティブ・イングリッシュA		1		
		アクティブ・イングリッシュB		2		
		アクティブ・イングリッシュC		3		
		中国語Ⅰ		1		
		中国語Ⅱ		1		
		フランス語Ⅰ		1		
	フランス語Ⅱ		1			
	韓国語Ⅰ		1			
	韓国語Ⅱ		1			
	スポーツ・健康 科目	生涯スポーツA	1			
		生涯スポーツB	1			
		健康科学	2			
	初年次 科目教育	情報機器演習A	1			
		情報機器演習B	1			
		基礎ゼミⅠ	2			
		基礎ゼミⅡ	2			
	学部共通科目	基幹科目	キリスト教と教育	2		
			データサイエンス入門	2		
			データ分析と教育	1		
			キャリアデザインⅠ	1		
			キャリアデザインⅡ	1		
			キャリアデザインⅢ	1		
キャリアデザインⅣ			1			
キャリアデザインⅤ			1			
キャリアデザインⅥ			1			
プロゼミA			2			
プロゼミB			2			
専門ゼミⅠ			4			
専門ゼミⅡ			4			
卒業研究				4		
地域社会と子ども			2			
教育学概論			2			
教職論			2			
特別支援教育論	2					

新					旧					備考				
授業科目の名称		単位			備考									
		必修	選択	自由										
学部 共通科目	英語 特色科目	コミュニケーション・イングリッシュ	2											
		プラクティカル・イングリッシュ		2										
		キッズ・イングリッシュA		2										
		キッズ・イングリッシュB	2											
		シンプル・イングリッシュA		2										
		シンプル・イングリッシュB		2										
		スピーチ&ドラマ	2											
		エクステンシブ・リーディング		2										
		トラベル・イングリッシュA		2										
		トラベル・イングリッシュB		2										
		プレゼンテーション	2											
		ムービー・イングリッシュA		2										
		ムービー・イングリッシュB		2										
		ビジネス・イングリッシュA		2										
		ビジネス・イングリッシュB		2										
		インテンシブ・リーディング*	2											
		エッセイ・ライティング	2											
	バイブル・イングリッシュ		2											
	応用 科目	音楽演習		1										
		教育史		2										
		比較教育学		2										
		教育学文献講読A 1		2										
		教育学文献講読A 2		2										
		教育学文献講読B 1		2										
		教育学文献講読B 2		2										
		教育実践研究（幼保）		2										
		教育実践研究（小中高）		2										
学科 専門科目	基幹 科目	英語学概論	2											
		発達心理学		2										
		教育心理学	2											
		教育社会学	2											
		総合的な学習の時間の指導法	1											
		教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	2											
		道徳教育指導論	2											
		教育課程編成論	2											
		特別活動の理論と方法	1											
		生徒指導論	1											
		進路指導論	1											
		教育相談	2											
		英語科指導法	2											
		教職実践演習（小中高）		2										
		介護等体験		2										
		異文化間コミュニケーション論		2										
		児童文学		2										
	小学 校教 諭関 連科 目	国語	2											
		社会		2										
		算数		2										
		理科		2										
		生活	2											
		音楽		2										
		図画工作	2											
		家庭		2										
		体育		2										
		英語	2											

新					旧			備考
授業科目の名称		単位			備考			
		必修	選択	自由				
学科専門科目	小学校教諭 関連科目	国語科指導法（書写を含む）		2				
		社会科指導法		2				
		算数科指導法		2				
		理科指導法		2				
		生活科指導法		2				
		音楽科指導法		2				
		図画工作指導法		2				
		家庭科指導法		2				
		体育科指導法		2				
		教育実習指導（小）		1				
	教育実習Ⅰ（小）		4					
	教育実習Ⅱ（小）		2					
	中学校・高等学校 教諭（英語） 関連科目	英語学		2				
		英語音声学Ⅰ		2				
		英語音声学Ⅱ		2				
		言語教育のための英文法Ⅰ		2				
		言語教育のための英文法Ⅱ		2				
		英語文学Ⅰ		2				
		英語文学Ⅱ		2				
		英語圏の児童文学		2				
		コミュニケーション・イングリッシュA		2				
		コミュニケーション・イングリッシュB		2				
		英語科教育法Ⅰ		2				
		英語科教育法Ⅱ		2				
		英語科教育法Ⅲ		2				
		英語科教育法Ⅳ		2				
		教育実習指導（中高）		1				
		教育実習Ⅰ（中高）		4				
教育実習Ⅱ（中高）			2					

新		旧				備考
別表 I (授業科目の名称及び単位数) (社会学部社会学科 2023年度入学生以降, 学則第29条関係)		(新規)				・別表 I (授業科目の名称及び単位数) 「社会学部社会学科 2023年度入学生以降」を新規追加
授業科目の名称		単位			備考	
		必修	選択	自由		
大学 共通科目	北 陸 学 院	北陸学院セミナー I	1			
		北陸学院セミナー II	1			
		キリスト教概論 I	1			
		キリスト教概論 II	1			
		キリスト教人間論 I	1			
		キリスト教人間論 II	1			
	一 般 教 養 科 目	郷土の文学		2		
		日本国憲法		2		
		青年の心理		2		
		食と健康		2		
		政治学		2		
	言 語 教 育 科 目	日本語基礎			1	
		英語基礎			1	
		英語 A I		1		
		英語 A II		1		
		英語 B I		1		
		英語 B II		1		
		英語 C I		1		
		英語 C II		1		
		英語 D I		1		
		英語 D II		1		
		英語 E I		1		
		英語 E II		1		
		英語 F I		1		
		英語 F II		1		
		アクティブ・イングリッシュ A		1		
		アクティブ・イングリッシュ B		2		
		アクティブ・イングリッシュ C		3		
		中国語 I		1		
		中国語 II		1		
		フランス語 I		1		
	フランス語 II		1			
	韓国語 I		1			
	韓国語 II		1			
	ツ ス ポ ー ト ・ 健 康 科 目	生涯スポーツ A	1			
		生涯スポーツ B	1			
		健康科学	2			
	初 年 次 科 目 教 育	情報機器演習 A	1			
		情報機器演習 B	1			
		基礎ゼミ I	2			
		基礎ゼミ II	2			
	学 部 共 通 科 目	キリスト教と社会	2			
		データサイエンス入門	2			
		統計データの読み方		2		
		キャリアデザイン I	1			
		キャリアデザイン II	1			
		キャリアデザイン III	1			
キャリアデザイン IV		1				
キャリアデザイン V			1			
キャリアデザイン VI			1			
プロゼミ A		2				
プロゼミ B		2				
専門ゼミ I		4				
専門ゼミ II		4				
卒業研究			4			
ソーシャルサイエンス概説		2				
社会学概論 A		2				
社会学概論 B			2			
社会調査論	2					
社会調査法		2				
質的研究法		2				

新		旧			備考
授業科目の名称		単位			備考
		必修	選択	自由	
学 科 専 門 科 目	基 幹 科 目	データ処理基礎		2	
		心理学統計法		2	
		社会学理論		2	
		家族社会学		2	
		都市社会学		2	
		環境社会学		2	
		現代社会と福祉Ⅰ		2	
		現代社会と福祉Ⅱ		2	
		心理学概論A		2	
		心理学概論B		2	
		教育社会学		2	
		グローバル社会論		2	
	専 門 科 目	応用心理社会統計法		2	
		ビジネス・イングリッシュA		2	
		ビジネス・イングリッシュB		2	
		社会調査実習		4	
		観光と社会		2	
		地域と観光		2	
		ホテルサービス論		2	
		インバウンドツーリズム		2	
		多文化共生論		2	
		社会病理学		2	
		メディア文化論		2	
		地方行政入門		2	
		政治行動論		2	
		経済学Ⅰ		2	
		経済学Ⅱ		2	
		経済学Ⅲ		2	
		経済学Ⅳ		2	
		法律学		2	
		地域社会政策論		2	
		経営学入門		2	
		マーケティング論		2	
		財務諸表の読み方		2	
		経営組織論		2	
		経営戦略論		2	
		簿記A		1	
		簿記B		1	
		社会貢献論		2	
		社会貢献実習		2	
環境と開発		2			
地域環境マネジメント論		2			
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		2			
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		2			
児童福祉論		2			
高齢者福祉論		2			
障害者福祉論		2			
社会保障論		2			
権利擁護を支える法制度		2			
刑事司法と福祉		2			
図書館概論		2			
情報技術論		2			
データベース演習		2			
プログラミング入門		2			
臨床心理学概論		2			

新				旧			備考
授業科目の名称		単位			備考		
		必修	選択	自由			
学科専門科目	専門科目	心理学実験Ⅰ		2			
		心理学実験Ⅱ		2			
		心理学研究法		2			
		心理的アセスメント		2			
		発達心理学		2			
		教育心理学		2			
		人格心理学（感情・人格心理学A）		2			
		社会・集団・家族心理学		2			
		産業・組織心理学		2			
		知覚・認知心理学		2			
		感情心理学（感情・人格心理学B）		2			
		障害者・障害児心理学		2			
		心理学的支援法		2			
		学校心理学（教育・学校心理学）		2			
心理演習			2				
資格科目	社会福祉士国家試験受験資格科目	ソーシャルワークの基盤と専門職		2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		2			
		福祉サービスの組織と経営		2			
		公的扶助論		2			
		保健医療サービス		2			
		ソーシャルワーク演習Ⅰ		2			
		ソーシャルワーク演習Ⅱ		2			
		ソーシャルワーク演習Ⅲ		2			
		ソーシャルワーク演習Ⅳ		2			
		ソーシャルワーク演習Ⅴ		2			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		2			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		2			
		ソーシャルワーク実習Ⅰ		1			
		ソーシャルワーク実習Ⅱ		4			
	SSW科目	精神保健学		2			
		スクールソーシャルワーク論		2			
		スクールソーシャルワーク演習		1			
		スクールソーシャルワーク実習指導		1			
		スクールソーシャルワーク実習		2			
	図書館司書資格科目	生涯学習概論		2			
		図書館サービス概論		2			
		情報サービス論		2			
		児童サービス論		2			
		情報資源組織論		2			
		図書館制度・経営論		2			
		情報サービス演習Ⅰ		1			
		情報サービス演習Ⅱ		1			
		情報資源組織演習Ⅰ		1			
		情報資源組織演習Ⅱ		1			
		図書館情報資源概論		2			
		図書・図書館史		2			
	図書館実習		1				
	公認心理師科目	公認心理師の職責			2		
		学習・言語心理学		2			
		神経・生理心理学		2			
		人体の構造と機能及び疾病		2			
		福祉心理学		2			
		司法・犯罪心理学			2		
精神疾患とその治療			2				
健康・医療心理学			2				
関係行政論				2			
心理実習			2				

※ 自由科目は卒業単位に含まれない。

※ SSW科目とは、「スクール(学校)ソーシャルワーク科目」の略。

新	旧		備考																																																																																																																																																																																																																																																																															
<p>(削除)</p>	別表Ⅱの1 (保育士資格に関する科目) (子ども教育学科 2019年度以降入学生, 学則第49条第2項関係)		・別表Ⅱの1 (保育士資格に関する科目) 「子ども教育学科 2019年度以降入学生」を資格取得に関する規程に規定のため削除																																																																																																																																																																																																																																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">系列</th> <th rowspan="2">教科目</th> <th rowspan="2">単位数</th> <th colspan="3">2019(H31)年度本学開講授業科目</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>左に対応して開設されている教科目</th> <th>授業形態</th> <th>単位(注) 必修 選択 合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="20">教養科目・告示による教科目</td> <td rowspan="6">外国語, 体育以外の基礎科目</td> <td rowspan="6">6以上</td> <td>キリスト教概論Ⅰ</td> <td>講義</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>キリスト教概論Ⅱ</td> <td>講義</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語表現法Ⅰ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語表現法Ⅱ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報機器演習A</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報機器演習B</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="14">基礎科目</td> <td rowspan="14">外国語</td> <td rowspan="14">2以上</td> <td>英語AⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> <td rowspan="14">*1</td> </tr> <tr> <td>英語AⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語BⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語BⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語CⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語CⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語DⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語DⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語EⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語EⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語FⅠ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>英語FⅡ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>1</td> <td>健康科学</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>生涯スポーツA</td> <td>実技</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10単位以上</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="30">必修科目・告示別表1による教科目</td> <td rowspan="7">保育の本質・目的に関する科目</td> <td rowspan="7">2</td> <td>保育原理</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>教育原理</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭福祉</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会福祉</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会的養護Ⅰ</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育者論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">保育の対象の理解に関する科目</td> <td rowspan="5">2</td> <td>保育の心理学</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援の心理学</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子どもの理解と援助</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>子どもの保健</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子どもの食と栄養</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">保育の内容・方法に関する科目</td> <td rowspan="2">2</td> <td>保育の計画と評価</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容総論</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">5</td> <td>保育内容演習</td> <td>保育内容・健康指導法</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・人間関係指導法</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・環境指導法</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・言葉指導法</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・表現指導法</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">4</td> <td>音楽表現Ⅰ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>図画工作</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>身体表現</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>児童文化</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>乳児保育Ⅰ</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>乳児保育Ⅱ</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子どもの健康と安全</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>障害児保育</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>社会的養護Ⅱ</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子育て支援</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">保育実習</td> <td rowspan="2">4</td> <td>保育実習Ⅰ(保育所)</td> <td>実習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育実習Ⅰ(施設)</td> <td>実習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>保育実習指導Ⅰ(保育所)</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保育実習指導Ⅰ(施設)</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>総合演習</td> <td>保育実践演習</td> <td>2</td> <td>教職実践演習(幼小中高・保)</td> <td>演習</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>51単位</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>60</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table>	系列	教科目	単位数	2019(H31)年度本学開講授業科目			備考	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位(注) 必修 選択 合計	教養科目・告示による教科目	外国語, 体育以外の基礎科目	6以上	キリスト教概論Ⅰ	講義	1	1		キリスト教概論Ⅱ	講義	1	1		日本語表現法Ⅰ	演習	1	1		日本語表現法Ⅱ	演習	1	1		情報機器演習A	演習	1	1		情報機器演習B	演習	1	1		基礎科目	外国語	2以上	英語AⅠ	演習	1	1	*1	英語AⅡ	演習	1	1	英語BⅠ	演習	1	1	英語BⅡ	演習	1	1	英語CⅠ	演習	1	1	英語CⅡ	演習	1	1	英語DⅠ	演習	1	1	英語DⅡ	演習	1	1	英語EⅠ	演習	1	1	英語EⅡ	演習	1	1	英語FⅠ	演習	1	1	英語FⅡ	演習	1	1	体育	1	健康科学	講義	2	2	1	生涯スポーツA	実技	1	1	計	10単位以上			9	2	11	必修科目・告示別表1による教科目	保育の本質・目的に関する科目	2	保育原理	講義	2	2	教育原理	講義	2	2	子ども家庭福祉	講義	2	2	社会福祉	講義	2	2	子ども家庭支援論	講義	2	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	保育者論	講義	2	2	保育の対象の理解に関する科目	2	保育の心理学	講義	2	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2	子どもの理解と援助	演習	1	1	子どもの保健	講義	2	2	子どもの食と栄養	演習	2	2	保育の内容・方法に関する科目	2	保育の計画と評価	講義	2	2	保育内容総論	演習	1	1	5	保育内容演習	保育内容・健康指導法	演習	2	2	保育内容・人間関係指導法	演習	2	2	保育内容・環境指導法	演習	2	2	保育内容・言葉指導法	演習	2	2	保育内容・表現指導法	演習	2	2	4	音楽表現Ⅰ	演習	1	1	図画工作	演習	2	2	身体表現	演習	1	1	児童文化	演習	2	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	2	乳児保育Ⅱ	演習	2	2	子どもの健康と安全	演習	2	2	障害児保育	演習	2	2	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	2	子育て支援	演習	2	2	保育実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2	2	保育実習Ⅰ(施設)	実習	2	2	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1	1	保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	1	1	総合演習	保育実践演習	2	教職実践演習(幼小中高・保)	演習	2	2	計	51単位			2	60	62
系列	教科目				単位数	2019(H31)年度本学開講授業科目			備考																																																																																																																																																																																																																																																																									
		左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位(注) 必修 選択 合計																																																																																																																																																																																																																																																																														
教養科目・告示による教科目	外国語, 体育以外の基礎科目	6以上	キリスト教概論Ⅰ	講義	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			キリスト教概論Ⅱ	講義	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			日本語表現法Ⅰ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			日本語表現法Ⅱ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			情報機器演習A	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			情報機器演習B	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
	基礎科目	外国語	2以上	英語AⅠ	演習	1	1	*1																																																																																																																																																																																																																																																																										
				英語AⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語BⅠ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語BⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語CⅠ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語CⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語DⅠ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語DⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語EⅠ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語EⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語FⅠ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				英語FⅡ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
				体育	1	健康科学	講義		2	2																																																																																																																																																																																																																																																																								
				1	生涯スポーツA	実技	1		1																																																																																																																																																																																																																																																																									
計	10単位以上			9	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																												
必修科目・告示別表1による教科目	保育の本質・目的に関する科目	2	保育原理	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			教育原理	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子ども家庭福祉	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			社会福祉	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子ども家庭支援論	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			社会的養護Ⅰ	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			保育者論	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
	保育の対象の理解に関する科目	2	保育の心理学	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子ども家庭支援の心理学	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子どもの理解と援助	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子どもの保健	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子どもの食と栄養	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
	保育の内容・方法に関する科目	2	保育の計画と評価	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			保育内容総論	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
		5	保育内容演習	保育内容・健康指導法	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																											
			保育内容・人間関係指導法	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			保育内容・環境指導法	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			保育内容・言葉指導法	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			保育内容・表現指導法	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
		4	音楽表現Ⅰ	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			図画工作	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			身体表現	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																												
			児童文化	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			乳児保育Ⅰ	講義	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			乳児保育Ⅱ	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			子どもの健康と安全	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
			障害児保育	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																													
		子育て支援	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保育実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
保育実習Ⅰ(施設)			実習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																													
2		保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																													
	保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																														
総合演習	保育実践演習	2	教職実践演習(幼小中高・保)	演習	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																												
計	51単位			2	60	62																																																																																																																																																																																																																																																																												

新	旧							備考
選択必修科目・告示別表2による教科目	系列	教科目	単位数	2019(H31)年度本学開講授業科目			備考	
	左に対応して開設されている教科目				授業形態	単位(注) 必修 選択 合計		
	保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	15単位以上	子ども家庭福祉論Ⅱ	講義	2	2	
	保育の対象の理解に関する科目			地域社会と子ども	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			特別支援教育論	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			教育心理学	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			健康活動	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			人間関係	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			環境	講義	2	2	*2
	保育の内容・方法に関する科目			言葉	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			表現	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目			絵本論	講義	2	2	
	保育の内容・方法に関する科目	音楽表現Ⅱ	演習	1	1			
	保育の内容・方法に関する科目	器楽Ⅰ	演習	1	1			
	保育の内容・方法に関する科目	器楽Ⅱ	演習	1	1			
	保育の内容・方法に関する科目	保育実習Ⅱ又はⅢ	2	保育実習Ⅱ(保育所)	実習	2	2	*3
	保育の内容・方法に関する科目	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	1	保育実習Ⅲ(施設)	実習	2	2	*3
保育の内容・方法に関する科目	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	1	保育実習指導Ⅱ	演習	1	1	*4	
保育の内容・方法に関する科目	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	1	保育実習指導Ⅲ	演習	1	1	*4	
計		18単位以上			2	27	29	
<p>保育士資格を取得するものは、平成30年厚生労働省告示第216号に定める所定単位を修得すること。</p> <p>*1 英語AⅠから英語FⅡの中から、いずれか二つを選択必修しなければならない。</p> <p>*2 「健康活動」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」より1科目以上選択必修しなければならない。(幼稚園教諭一種免許も取得する場合、3科目以上選択必修しなければならない。)</p> <p>*3 「保育実習Ⅱ(保育所)」「保育実習Ⅲ(施設)」のいずれかを必ず修得しなければならない。</p> <p>*4 「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを必ず修得しなければならない。</p>								

新	旧	備考																																																																																																																																																								
<p><u>(削除)</u></p>	<p>別表Ⅱの2 (司書資格に関する科目) (社会学科 2018年度以降入学生, 学則第49条の1第2項関係)</p> <table border="1" data-bbox="1121 205 2071 1054"> <thead> <tr> <th colspan="2">法令上の科目</th> <th colspan="5">本学における開講科目</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">科目名</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">科目名</th> <th rowspan="2">授業形態</th> <th colspan="3">単位</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習概論</td> <td>2</td> <td>生涯学習概論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="14">*1</td> </tr> <tr> <td>図書館概論</td> <td>2</td> <td>図書館概論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>図書館制度・経営論</td> <td>2</td> <td>図書館制度・経営論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>図書館情報技術論</td> <td>2</td> <td>情報技術論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>図書館サービス概論</td> <td>2</td> <td>図書館サービス概論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>情報サービス論</td> <td>2</td> <td>情報サービス論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>児童サービス論</td> <td>2</td> <td>児童サービス論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">情報サービス演習</td> <td rowspan="2">2</td> <td>情報サービス演習Ⅰ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報サービス演習Ⅱ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>図書館情報資源概論</td> <td>2</td> <td>図書館情報資源概論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>情報資源組織論</td> <td>2</td> <td>情報資源組織論</td> <td>講義</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">情報資源組織演習</td> <td rowspan="2">2</td> <td>情報資源組織演習Ⅰ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報資源組織演習Ⅱ</td> <td>演習</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>図書館基礎特論</td> <td>1</td> <td>知覚・認知心理学</td> <td>講義</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="7">*2</td> </tr> <tr> <td>図書館サービス特論</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書館情報資源特論</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書・図書館史</td> <td>1</td> <td>図書・図書館史</td> <td>講義</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>図書館施設論</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書館総合演習</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書館実習</td> <td>1</td> <td>図書館実習</td> <td>実習</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 甲群の開講科目のすべてを修得しなければならない。 *2 乙群の開講科目の中から、二科目以上を選択し履修しなければならない。</p>	法令上の科目		本学における開講科目					備考	科目名	単位	科目名	授業形態	単位			必修	選択	合計	生涯学習概論	2	生涯学習概論	講義	2		2	*1	図書館概論	2	図書館概論	講義	2		2	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	講義	2		2	図書館情報技術論	2	情報技術論	講義	2		2	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	講義	2		2	情報サービス論	2	情報サービス論	講義	2		2	児童サービス論	2	児童サービス論	講義	2		2	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	演習	1		1	情報サービス演習Ⅱ	演習	1		1	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	講義	2		2	情報資源組織論	2	情報資源組織論	講義	2		2	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	演習	1		1	情報資源組織演習Ⅱ	演習	1		1	図書館基礎特論	1	知覚・認知心理学	講義		2	2	*2	図書館サービス特論	1					図書館情報資源特論	1					図書・図書館史	1	図書・図書館史	講義		2	2	図書館施設論	1					図書館総合演習	1					図書館実習	1	図書館実習	実習		1	1	<p>・別表Ⅱの2 (司書資格に関する科目) 「社会学科 2018年度以降入学生」を資格取得に関する規程に規定のため削除</p>
	法令上の科目		本学における開講科目					備考																																																																																																																																																		
	科目名	単位	科目名	授業形態	単位																																																																																																																																																					
					必修	選択	合計																																																																																																																																																			
	生涯学習概論	2	生涯学習概論	講義	2		2	*1																																																																																																																																																		
	図書館概論	2	図書館概論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	図書館情報技術論	2	情報技術論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	情報サービス論	2	情報サービス論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	児童サービス論	2	児童サービス論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	演習	1		1																																																																																																																																																			
			情報サービス演習Ⅱ	演習	1		1																																																																																																																																																			
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	講義	2		2																																																																																																																																																			
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	講義	2		2																																																																																																																																																			
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	演習	1		1																																																																																																																																																				
		情報資源組織演習Ⅱ	演習	1		1																																																																																																																																																				
図書館基礎特論	1	知覚・認知心理学	講義		2	2	*2																																																																																																																																																			
図書館サービス特論	1																																																																																																																																																									
図書館情報資源特論	1																																																																																																																																																									
図書・図書館史	1	図書・図書館史	講義		2	2																																																																																																																																																				
図書館施設論	1																																																																																																																																																									
図書館総合演習	1																																																																																																																																																									
図書館実習	1	図書館実習	実習		1	1																																																																																																																																																				

新	旧	備考																																																																																																																																																																																											
<p>(削除)</p>	<p>別表Ⅲの1 (教育職員に関する科目 高等学校教諭一種免許状(英語)免許課程科目) (子ども教育学科 2019年度以降入学生、学則第50条第2項関係)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">免許法施行規則に定める科目区分等</th> <th colspan="3">2019(H31)年度本学開講授業科目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各科目に含まれる必要事項</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">科目名</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">教科及び教科の指導法に関する科目</td> <td rowspan="10">教科に関する専門的事項</td> <td>英語学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="10">全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修</td> </tr> <tr> <td>英語学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語音声学Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語音声学Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語教育のための英文法Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語教育のための英文法Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語文学Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語文学Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語圏の児童文学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション</td> <td>24</td> <td>コミュニケーション・イングリッシュA</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>コミュニケーション・イングリッシュB</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>アクティブ・イングリッシュA</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>アクティブ・イングリッシュB</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>アクティブ・イングリッシュC</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>多文化共生論</td> <td>2</td> <td>社会科学関連科目</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>英語科教育法Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>英語科教育法Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>英語科教育法Ⅲ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>英語科教育法Ⅳ</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">教育の基礎的理解に関する科目</td> <td rowspan="6">教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td> <td>教育学概論</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="6">*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)、『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する</td> </tr> <tr> <td>教職論</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育社会学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育心理学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発達心理学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別支援教育論</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td> <td rowspan="5">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>*1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="5">*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(小中高)』に包含する</td> </tr> <tr> <td>*2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生徒・進路指導論(小中高)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育実践に関する科目</td> <td rowspan="3">教育実践</td> <td>教育実習(中高)</td> <td>1</td> <td></td> <td rowspan="3">事前事後指導を含む</td> </tr> <tr> <td>教育実習Ⅰ(中高)</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育実習Ⅱ(中高)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">大学が独自に設定する科目</td> <td rowspan="4">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>教職実践演習</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="4">『「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、の中から8単位以上を修得』</td> </tr> <tr> <td>英語科指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>道徳教育指導論(小中)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護等体験</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">66条の6に定める科目</td> <td rowspan="4">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>日本国憲法</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>生涯スポーツA</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生涯スポーツB</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語AⅠ～FⅠ *3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">外国語コミュニケーション</td> <td rowspan="2">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>英語AⅡ～FⅡ *3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報機器演習A</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">情報機器の操作</td> <td rowspan="2">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>情報機器演習B</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目			各科目に含まれる必要事項	単位	科目名	単位数		備考	必修	選択	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	2	2	全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修	英語学	2		英語音声学Ⅰ	2		英語音声学Ⅱ	2		言語教育のための英文法Ⅰ	2		言語教育のための英文法Ⅱ	2		英語文学Ⅰ	2		英語文学Ⅱ	2		英語圏の児童文学	2		コミュニケーション	24	コミュニケーション・イングリッシュA	2				コミュニケーション・イングリッシュB	2				アクティブ・イングリッシュA	1				アクティブ・イングリッシュB	2				アクティブ・イングリッシュC	3				多文化共生論	2	社会科学関連科目			英語科教育法Ⅰ	2				英語科教育法Ⅱ	2				英語科教育法Ⅲ	2				英語科教育法Ⅳ	2		教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2		*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)、『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する	教職論	2		教育社会学	2		教育心理学	2		発達心理学	2		特別支援教育論	2		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	*1			*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(小中高)』に包含する	*2			教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2		教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	2		生徒・進路指導論(小中高)	2		教育実践に関する科目	教育実践	教育実習(中高)	1		事前事後指導を含む	教育実習Ⅰ(中高)	4		教育実習Ⅱ(中高)	2		大学が独自に設定する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	教職実践演習	2		『「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、の中から8単位以上を修得』	英語科指導法		2	道徳教育指導論(小中)	2		介護等体験	2		66条の6に定める科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	日本国憲法	2			生涯スポーツA	1		生涯スポーツB	1		英語AⅠ～FⅠ *3	1		外国語コミュニケーション	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語AⅡ～FⅡ *3	1		情報機器演習A	1		情報機器の操作	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	情報機器演習B	1		<p>・別表Ⅲの1 (教育職員に関する科目 高等学校教諭一種免許状(英語)免許課程科目) 「子ども教育学科 2019年度以降入学生」を教職課程履修規程に規定のため削除</p>
免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目																																																																																																																																																																																											
各科目に含まれる必要事項	単位	科目名	単位数		備考																																																																																																																																																																																								
			必修	選択																																																																																																																																																																																									
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	2	2	全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修																																																																																																																																																																																								
		英語学	2																																																																																																																																																																																										
		英語音声学Ⅰ	2																																																																																																																																																																																										
		英語音声学Ⅱ	2																																																																																																																																																																																										
		言語教育のための英文法Ⅰ	2																																																																																																																																																																																										
		言語教育のための英文法Ⅱ	2																																																																																																																																																																																										
		英語文学Ⅰ	2																																																																																																																																																																																										
		英語文学Ⅱ	2																																																																																																																																																																																										
		英語圏の児童文学	2																																																																																																																																																																																										
		コミュニケーション	24	コミュニケーション・イングリッシュA		2																																																																																																																																																																																							
		コミュニケーション・イングリッシュB	2																																																																																																																																																																																										
		アクティブ・イングリッシュA	1																																																																																																																																																																																										
		アクティブ・イングリッシュB	2																																																																																																																																																																																										
		アクティブ・イングリッシュC	3																																																																																																																																																																																										
		多文化共生論	2	社会科学関連科目																																																																																																																																																																																									
		英語科教育法Ⅰ	2																																																																																																																																																																																										
		英語科教育法Ⅱ	2																																																																																																																																																																																										
		英語科教育法Ⅲ	2																																																																																																																																																																																										
		英語科教育法Ⅳ	2																																																																																																																																																																																										
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2		*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)、『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する																																																																																																																																																																																								
		教職論	2																																																																																																																																																																																										
		教育社会学	2																																																																																																																																																																																										
		教育心理学	2																																																																																																																																																																																										
		発達心理学	2																																																																																																																																																																																										
		特別支援教育論	2																																																																																																																																																																																										
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	*1			*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(小中高)』に包含する																																																																																																																																																																																								
		*2																																																																																																																																																																																											
		教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2																																																																																																																																																																																										
		教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	2																																																																																																																																																																																										
		生徒・進路指導論(小中高)	2																																																																																																																																																																																										
教育実践に関する科目	教育実践	教育実習(中高)	1		事前事後指導を含む																																																																																																																																																																																								
		教育実習Ⅰ(中高)	4																																																																																																																																																																																										
		教育実習Ⅱ(中高)	2																																																																																																																																																																																										
大学が独自に設定する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	教職実践演習	2		『「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、の中から8単位以上を修得』																																																																																																																																																																																								
		英語科指導法		2																																																																																																																																																																																									
		道徳教育指導論(小中)	2																																																																																																																																																																																										
		介護等体験	2																																																																																																																																																																																										
66条の6に定める科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	日本国憲法	2																																																																																																																																																																																										
		生涯スポーツA	1																																																																																																																																																																																										
		生涯スポーツB	1																																																																																																																																																																																										
		英語AⅠ～FⅠ *3	1																																																																																																																																																																																										
外国語コミュニケーション	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語AⅡ～FⅡ *3	1																																																																																																																																																																																										
		情報機器演習A	1																																																																																																																																																																																										
情報機器の操作	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	情報機器演習B	1																																																																																																																																																																																										

*3 英語AⅠ, BⅠ, CⅠ, DⅠ, EⅠ, FⅠ及び英語AⅡ, BⅡ, CⅡ, DⅡ, EⅡ, FⅡのそれぞれのグループから、1つずつ選択。

新	旧	備考																																																																																																																																								
<p>(削除)</p>	<p>別表Ⅲの2 (教育職員に関する科目 中学校教諭一種免許状(英語)免許課程科目) (子ども教育学科 2019年度以降入学生、学則第50条第2項関係)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">免許法施行規則に定める科目区分等</th> <th colspan="3">2019(H31)年度本学開講授業科目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各科目に含める必要事項</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">科目名</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">教科及び教科の指導法に関する科目</td> <td rowspan="10">28</td> <td>英語学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="10">全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修</td> </tr> <tr> <td>英語学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語音声学 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語音声学 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語教育のための英文法 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語教育のための英文法 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語文学 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語文学 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語圏の児童文学</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語コミュニケーション</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異文化理解</td> <td rowspan="2">2</td> <td>多文化共生論</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="2">社会科学開講科目</td> </tr> <tr> <td>各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">教育の基礎的理解に関する科目</td> <td rowspan="6">10</td> <td>教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="6">*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)』に包含する</td> </tr> <tr> <td>教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育に関する社会的、制度的又は経費的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td> <td rowspan="6">10</td> <td>道徳の理論及び指導法</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="6">*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)』に包含する</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習の時間の指導法</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別活動の指導法</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生徒指導の理論及び方法</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">教育実践に関する科目</td> <td rowspan="4">7</td> <td>教育実践(中高)</td> <td>1</td> <td></td> <td rowspan="4">*3 事前事後指導を含む</td> </tr> <tr> <td>教育実践 I (中高)</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育実践 II (中高)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職実践演習(幼小中高・保)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学が独自に設定する科目</td> <td rowspan="2">4</td> <td>〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の中から、2単位以上を修得〕</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>英語科指導法 介護等体験</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">定める科目に</td> <td rowspan="4">2</td> <td>日本国憲法</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>外国語コミュニケーション</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報機器の操作</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目			各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考	必修	選択	教科及び教科の指導法に関する科目	28	英語学	2	2	全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修	英語学	2		英語音声学 I	2		英語音声学 II	2		言語教育のための英文法 I	2		言語教育のための英文法 II	2		英語文学 I	2		英語文学 II	2		英語圏の児童文学	2		英語コミュニケーション	2		異文化理解	2	多文化共生論	2		社会科学開講科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	2		教育の基礎的理解に関する科目	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2		*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)』に包含する	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	2		教育に関する社会的、制度的又は経費的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	2		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2	2	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	2		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法	2		*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)』に包含する	総合的な学習の時間の指導法	2		特別活動の指導法	2		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	2	生徒指導の理論及び方法	2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2		教育実践に関する科目	7	教育実践(中高)	1		*3 事前事後指導を含む	教育実践 I (中高)	4		教育実践 II (中高)	2		教職実践演習(幼小中高・保)	2		大学が独自に設定する科目	4	〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の中から、2単位以上を修得〕				英語科指導法 介護等体験	2	2	定める科目に	2	日本国憲法	2	2		体育	2	1	外国語コミュニケーション	2	1	情報機器の操作	2	1	<p>・別表Ⅲの2 (教育職員に関する科目 中学校教諭一種免許状(英語)免許課程科目) 「子ども教育学科 2019年度以降入学生」を教職課程履修規程に規定のため削除</p>
免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目																																																																																																																																								
各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考																																																																																																																																					
			必修	選択																																																																																																																																						
教科及び教科の指導法に関する科目	28	英語学	2	2	全学共通開設科目 いずれか1科目 選択必修																																																																																																																																					
		英語学	2																																																																																																																																							
		英語音声学 I	2																																																																																																																																							
		英語音声学 II	2																																																																																																																																							
		言語教育のための英文法 I	2																																																																																																																																							
		言語教育のための英文法 II	2																																																																																																																																							
		英語文学 I	2																																																																																																																																							
		英語文学 II	2																																																																																																																																							
		英語圏の児童文学	2																																																																																																																																							
		英語コミュニケーション	2																																																																																																																																							
異文化理解	2	多文化共生論	2		社会科学開講科目																																																																																																																																					
		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	2																																																																																																																																							
教育の基礎的理解に関する科目	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2		*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)』に包含する																																																																																																																																					
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	2																																																																																																																																							
		教育に関する社会的、制度的又は経費的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	2																																																																																																																																							
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2	2																																																																																																																																						
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	2																																																																																																																																							
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2																																																																																																																																							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法	2		*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法は『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)』に包含する																																																																																																																																					
		総合的な学習の時間の指導法	2																																																																																																																																							
		特別活動の指導法	2																																																																																																																																							
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	2																																																																																																																																						
		生徒指導の理論及び方法	2																																																																																																																																							
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2																																																																																																																																							
教育実践に関する科目	7	教育実践(中高)	1		*3 事前事後指導を含む																																																																																																																																					
		教育実践 I (中高)	4																																																																																																																																							
		教育実践 II (中高)	2																																																																																																																																							
		教職実践演習(幼小中高・保)	2																																																																																																																																							
大学が独自に設定する科目	4	〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の中から、2単位以上を修得〕																																																																																																																																								
		英語科指導法 介護等体験	2	2																																																																																																																																						
定める科目に	2	日本国憲法	2	2																																																																																																																																						
		体育	2	1																																																																																																																																						
		外国語コミュニケーション	2	1																																																																																																																																						
		情報機器の操作	2	1																																																																																																																																						

*3 中学校教諭一種免許状(英語)のみ取得希望者は『教育実践 I (中高)』を修得すること。また複数免許を取得する者は、『教育実践 II (中高)』と隣接校種の『教育実践 II』の2単位を併せ必修4単位と替える(認定)ことができる。

*4 英語A I、B I、C I、D I、E I、F I及び英語A II、B II、C II、D II、E II、F IIのそれぞれのグループから、1つずつ選択。

新	旧	備考																																																																																																																																																				
<p>(削除)</p>	<p>別表Ⅲの3 (教育職員に関する科目 小学校教諭一種免許状免許課程科目) (子ども教育学科 2019年度以降入学生、学則第50条第2項関係)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">免許法施行規則に定める科目区分等</th> <th colspan="4">2019(H31)年度本学開講授業科目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各科目に含める必要事項</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">科目名</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">教科及び教科の指導法に関する科目</td> <td rowspan="14">30</td> <td rowspan="14">教科に関する専門的事項</td> <td>国語</td> <td>2</td> <td rowspan="14">幼児教育・保育コース 幼児・児童教育コースとも …選択必修から1科目2単位を修得</td> </tr> <tr><td>社会</td><td>2</td></tr> <tr><td>算数</td><td>2</td></tr> <tr><td>理科</td><td>2</td></tr> <tr><td>生活</td><td>2</td></tr> <tr><td>音楽</td><td>2</td></tr> <tr><td>図画工作</td><td>2</td></tr> <tr><td>家庭</td><td>2</td></tr> <tr><td>体育</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語</td><td>2</td></tr> <tr><td>国語科指導法(書写を含む)</td><td>2</td></tr> <tr><td>社会科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>算数科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>理科指導法</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="14">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</td> <td rowspan="14">30</td> <td rowspan="14">各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</td> <td>国語科指導法</td> <td>2</td> <td rowspan="14"></td> </tr> <tr><td>社会科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>算数科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>理科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>生活科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>音楽科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>図画工作指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>家庭科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>体育科指導法</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語科指導法</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="6">教育の基礎的理解に関する科目</td> <td rowspan="6">10</td> <td rowspan="6">教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)</td> <td>教育学概論</td> <td>2</td> <td rowspan="6">*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する</td> </tr> <tr><td>教職論</td><td>2</td></tr> <tr><td>教育社会学</td><td>2</td></tr> <tr><td>教育心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>発達心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>特別支援教育論</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td> <td rowspan="6">10</td> <td rowspan="6">道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法</td> <td>道徳教育指導論(小中)</td> <td>2</td> <td rowspan="6">*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(幼小中高)』に包含する</td> </tr> <tr><td>*2</td><td></td></tr> <tr><td>教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)</td><td>2</td></tr> <tr><td>教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)</td><td>2</td></tr> <tr><td>生徒・進路指導論(小中高)</td><td>2</td></tr> <tr><td>教育相談(小中高)</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="2">教育実践に関する科目</td> <td rowspan="2">7</td> <td rowspan="2">教育実践に関する科目</td> <td>教育実習指導(小)</td> <td>1</td> <td rowspan="2">事前事後指導を含む</td> </tr> <tr> <td>教育実習 I (小)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学が独自に設定する科目</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">大学が独自に設定する科目</td> <td>教育実習 II (小)</td> <td>2</td> <td rowspan="2">*3</td> </tr> <tr> <td>教職実践演習</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">6条の6に定める科目</td> <td rowspan="5">6</td> <td rowspan="5">6条の6に定める科目</td> <td>介護等体験</td> <td>2</td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr><td>日本国憲法</td><td>2</td></tr> <tr><td>生涯スポーツA</td><td>1</td></tr> <tr><td>生涯スポーツB</td><td>1</td></tr> <tr><td>英語A I ~ F I *4</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="2">外国語コミュニケーション</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">外国語コミュニケーション</td> <td>英語A II ~ F II *4</td> <td>1</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr><td>英語A II ~ F II *4</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="2">情報機器の操作</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">情報機器の操作</td> <td>情報機器演習A</td> <td>1</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr><td>情報機器演習B</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>*3 小学校教諭一種免許状のみ取得希望者は『教育実習 I (小)』を修得すること。また複数免許を取得する者は、『教育実習 II (小)』と『教育実習 II (小中高)』の2単位を併せ必修4単位と替える(認定)ことができる。</p> <p>*4 英語A I, B I, C I, D I, E I, F I及び英語A II, B II, C II, D II, E II, F IIのそれぞれのグループから、1つずつ選択。</p>	免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目				各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考	必修	選択	教科及び教科の指導法に関する科目	30	教科に関する専門的事項	国語	2	幼児教育・保育コース 幼児・児童教育コースとも …選択必修から1科目2単位を修得	社会	2	算数	2	理科	2	生活	2	音楽	2	図画工作	2	家庭	2	体育	2	英語	2	国語科指導法(書写を含む)	2	社会科指導法	2	算数科指導法	2	理科指導法	2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	30	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	国語科指導法	2		社会科指導法	2	算数科指導法	2	理科指導法	2	生活科指導法	2	音楽科指導法	2	図画工作指導法	2	家庭科指導法	2	体育科指導法	2	英語科指導法	2	教育の基礎的理解に関する科目	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育学概論	2	*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する	教職論	2	教育社会学	2	教育心理学	2	発達心理学	2	特別支援教育論	2	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	道徳教育指導論(小中)	2	*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(幼小中高)』に包含する	*2		教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2	教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	2	生徒・進路指導論(小中高)	2	教育相談(小中高)	2	教育実践に関する科目	7	教育実践に関する科目	教育実習指導(小)	1	事前事後指導を含む	教育実習 I (小)	4	大学が独自に設定する科目	2	大学が独自に設定する科目	教育実習 II (小)	2	*3	教職実践演習	2	6条の6に定める科目	6	6条の6に定める科目	介護等体験	2		日本国憲法	2	生涯スポーツA	1	生涯スポーツB	1	英語A I ~ F I *4	1	外国語コミュニケーション	2	外国語コミュニケーション	英語A II ~ F II *4	1		英語A II ~ F II *4	1	情報機器の操作	2	情報機器の操作	情報機器演習A	1		情報機器演習B	1	<p>・別表Ⅲの3 (教育職員に関する科目 小学校教諭一種免許状免許課程科目) 「子ども教育学科 2019年度以降入学生」を教職課程履修規程に規定のため削除</p>
免許法施行規則に定める科目区分等		2019(H31)年度本学開講授業科目																																																																																																																																																				
各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考																																																																																																																																																	
			必修	選択																																																																																																																																																		
教科及び教科の指導法に関する科目	30	教科に関する専門的事項	国語	2	幼児教育・保育コース 幼児・児童教育コースとも …選択必修から1科目2単位を修得																																																																																																																																																	
			社会	2																																																																																																																																																		
			算数	2																																																																																																																																																		
			理科	2																																																																																																																																																		
			生活	2																																																																																																																																																		
			音楽	2																																																																																																																																																		
			図画工作	2																																																																																																																																																		
			家庭	2																																																																																																																																																		
			体育	2																																																																																																																																																		
			英語	2																																																																																																																																																		
			国語科指導法(書写を含む)	2																																																																																																																																																		
			社会科指導法	2																																																																																																																																																		
			算数科指導法	2																																																																																																																																																		
			理科指導法	2																																																																																																																																																		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	30	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	国語科指導法	2																																																																																																																																																		
			社会科指導法	2																																																																																																																																																		
			算数科指導法	2																																																																																																																																																		
			理科指導法	2																																																																																																																																																		
			生活科指導法	2																																																																																																																																																		
			音楽科指導法	2																																																																																																																																																		
			図画工作指導法	2																																																																																																																																																		
			家庭科指導法	2																																																																																																																																																		
			体育科指導法	2																																																																																																																																																		
			英語科指導法	2																																																																																																																																																		
			教育の基礎的理解に関する科目	10		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育学概論	2	*1 教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)は『教育課程編成論(特別活動を含む)』(小中高)』に包含する																																																																																																																																													
							教職論	2																																																																																																																																														
							教育社会学	2																																																																																																																																														
							教育心理学	2																																																																																																																																														
発達心理学	2																																																																																																																																																					
特別支援教育論	2																																																																																																																																																					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	道徳教育指導論(小中)	2	*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 『教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)』(幼小中高)』に包含する																																																																																																																																																	
			*2																																																																																																																																																			
			教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2																																																																																																																																																		
			教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	2																																																																																																																																																		
			生徒・進路指導論(小中高)	2																																																																																																																																																		
			教育相談(小中高)	2																																																																																																																																																		
教育実践に関する科目	7	教育実践に関する科目	教育実習指導(小)	1	事前事後指導を含む																																																																																																																																																	
			教育実習 I (小)	4																																																																																																																																																		
大学が独自に設定する科目	2	大学が独自に設定する科目	教育実習 II (小)	2	*3																																																																																																																																																	
			教職実践演習	2																																																																																																																																																		
6条の6に定める科目	6	6条の6に定める科目	介護等体験	2																																																																																																																																																		
			日本国憲法	2																																																																																																																																																		
			生涯スポーツA	1																																																																																																																																																		
			生涯スポーツB	1																																																																																																																																																		
			英語A I ~ F I *4	1																																																																																																																																																		
外国語コミュニケーション	2	外国語コミュニケーション	英語A II ~ F II *4	1																																																																																																																																																		
			英語A II ~ F II *4	1																																																																																																																																																		
情報機器の操作	2	情報機器の操作	情報機器演習A	1																																																																																																																																																		
			情報機器演習B	1																																																																																																																																																		

新	旧	備考																																																																																																																																																																			
<p>(削除)</p>	<p>別表Ⅲの4 (教育職員に関する科目 幼稚園教諭一種免許状免許課程科目) (子ども教育学科 2019年度以降入学生, 学則第50条第2項関係)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">免許法施行規則に定める科目区分等</th> <th colspan="3">2019(H31)年度本学開講授業科目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各科目に含める必要事項</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">科目名</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">領域及び保育内容の指導法に関する科目</td> <td rowspan="5">健康</td> <td>健康活動</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="10">領域のいずれか1領域以上を修得する。本学は3科目6単位以上修得</td> </tr> <tr> <td>人間関係</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>言葉</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>表現</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用法を含む。)</td> <td>保育内容・健康指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・人間関係指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・環境指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・言葉指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育内容・表現指導法</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育内容総論</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">教育の基礎的理解に関する科目</td> <td rowspan="3">教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td> <td>教育学概論</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="7"></td> </tr> <tr> <td>教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</td> <td>教育心理学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>発達心理学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</td> <td>特別支援教育論</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)</td> <td>教育課程論</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td> <td>教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</td> <td>教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法</td> <td>幼児理解</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教育実践に関する科目</td> <td rowspan="2">教育実習</td> <td>教育実習指導Ⅰ(幼)</td> <td></td> <td>1</td> <td rowspan="4">事前事後指導を含む *1</td> </tr> <tr> <td>教育実習指導Ⅱ(幼)</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教職実践演習</td> <td>教育実習Ⅰ(幼)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>教育実習Ⅱ(幼)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>教職実践演習(幼小中高・保)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">大学が独自に設定する科目</td> <td rowspan="5">14</td> <td colspan="3">〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、教育相談に関する科目〕、「教育実践に関する科目」の中から、6単位以上を修得</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="2">2</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生活</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="2">2</td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>図画工作</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">6 6 条 の 6 に 定 め る 科 目</td> <td rowspan="5">2</td> <td>日本国憲法</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>生涯スポーツA</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生涯スポーツB</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>外国語コミュニケーション</td> <td>英語AⅠ～FⅠ *2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>英語AⅡ～FⅡ *2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">情報機器の操作</td> <td rowspan="2">2</td> <td>情報機器演習A</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報機器演習B</td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 幼稚園教諭一種免許状を取得する者は、すべて修得すること。 小学校教諭一種免許状も取得する者は、これらに併せ「教育実習指導(小)」、「教育実習Ⅱ(小)」を修得すること。</p> <p>*2 英語AⅠ、BⅠ、CⅠ、DⅠ、EⅠ、FⅠ及び英語AⅡ、BⅡ、CⅡ、DⅡ、EⅡ、FⅡのそれぞれのグループから、1つずつ選択。</p>	免許法施行規則に定める科目区分等			2019(H31)年度本学開講授業科目			各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考	必修	選択	領域及び保育内容の指導法に関する科目	健康	健康活動		2	領域のいずれか1領域以上を修得する。本学は3科目6単位以上修得	人間関係		2	環境		2	言葉		2	表現		2	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用法を含む。)	保育内容・健康指導法		2	保育内容・人間関係指導法		2	保育内容・環境指導法		2	保育内容・言葉指導法		2	保育内容・表現指導法		2			保育内容総論		1	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論		2		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		2	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		2	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学		2	発達心理学		2	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論		2	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論		2	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)		2	幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	幼児理解		2	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導Ⅰ(幼)		1	事前事後指導を含む *1	教育実習指導Ⅱ(幼)		1	教職実践演習	教育実習Ⅰ(幼)		2	教育実習Ⅱ(幼)		2			教職実践演習(幼小中高・保)		2	大学が独自に設定する科目	14	〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、教育相談に関する科目〕、「教育実践に関する科目」の中から、6単位以上を修得				国語		2	2	算数		2	生活		2	2	音楽		2	図画工作		2	6 6 条 の 6 に 定 め る 科 目	2	日本国憲法		2		体育	生涯スポーツA		1		生涯スポーツB		1	外国語コミュニケーション	英語AⅠ～FⅠ *2		1		英語AⅡ～FⅡ *2		1	情報機器の操作	2	情報機器演習A		1	情報機器演習B		1	<p>・別表Ⅲの4 (教育職員に関する科目 幼稚園教諭一種免許状免許課程科目) 「子ども教育学科 2019年度以降入学生」を教職課程履修規程に規定のため削除</p>
免許法施行規則に定める科目区分等			2019(H31)年度本学開講授業科目																																																																																																																																																																		
各科目に含める必要事項	単位	科目名	単位数		備考																																																																																																																																																																
			必修	選択																																																																																																																																																																	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	健康	健康活動		2	領域のいずれか1領域以上を修得する。本学は3科目6単位以上修得																																																																																																																																																																
		人間関係		2																																																																																																																																																																	
		環境		2																																																																																																																																																																	
		言葉		2																																																																																																																																																																	
		表現		2																																																																																																																																																																	
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用法を含む。)	保育内容・健康指導法		2																																																																																																																																																																	
		保育内容・人間関係指導法		2																																																																																																																																																																	
		保育内容・環境指導法		2																																																																																																																																																																	
		保育内容・言葉指導法		2																																																																																																																																																																	
		保育内容・表現指導法		2																																																																																																																																																																	
		保育内容総論		1																																																																																																																																																																	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論		2																																																																																																																																																																	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		2																																																																																																																																																																	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		2																																																																																																																																																																	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学		2																																																																																																																																																																	
		発達心理学		2																																																																																																																																																																	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論		2																																																																																																																																																																	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論		2																																																																																																																																																																	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)		2																																																																																																																																																																	
	幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	幼児理解		2																																																																																																																																																																	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導Ⅰ(幼)		1	事前事後指導を含む *1																																																																																																																																																																
		教育実習指導Ⅱ(幼)		1																																																																																																																																																																	
教職実践演習	教育実習Ⅰ(幼)		2																																																																																																																																																																		
	教育実習Ⅱ(幼)		2																																																																																																																																																																		
		教職実践演習(幼小中高・保)		2																																																																																																																																																																	
大学が独自に設定する科目	14	〔「大学が独自に設定する科目」のうち「選択科目」、又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、教育相談に関する科目〕、「教育実践に関する科目」の中から、6単位以上を修得																																																																																																																																																																			
		国語		2	2																																																																																																																																																																
		算数		2																																																																																																																																																																	
		生活		2	2																																																																																																																																																																
		音楽		2																																																																																																																																																																	
図画工作		2																																																																																																																																																																			
6 6 条 の 6 に 定 め る 科 目	2	日本国憲法		2																																																																																																																																																																	
		体育	生涯スポーツA			1																																																																																																																																																															
			生涯スポーツB			1																																																																																																																																																															
		外国語コミュニケーション	英語AⅠ～FⅠ *2			1																																																																																																																																																															
			英語AⅡ～FⅡ *2			1																																																																																																																																																															
情報機器の操作	2	情報機器演習A		1																																																																																																																																																																	
		情報機器演習B		1																																																																																																																																																																	

新			旧			備考
別表Ⅱ (入学検定料) (2021年度以降入学生, 学則第51条関係)			別表Ⅳ (入学検定料) (2021年度以降入学生, 学則第51条関係)			・別表Ⅱ～Ⅲを削除のため, 別表Ⅱに変更。
区 分	金 額	備 考	区 分	金 額	備 考	
一般選抜 大学入学共通テスト利用制	10,000円		一般選抜 大学入学共通テスト利用制	10,000円		・別表Ⅱ～Ⅲを削除のため, 別表Ⅲに変更。 ・納付金の徴収項目及び納付金額変更。
上記以外の入学検定料	30,000円		上記以外の入学検定料	30,000円		
別表Ⅲ (入学金, 授業料, 在籍料及びその他納付金) (2023年度以降入学生, 学則第52条関係)			別表Ⅴ (入学金, 授業料及びその他納付金) (2020年度以降入学生, 学則第52条関係)			・別表Ⅱ～Ⅲを削除のため, 別表Ⅲに変更。 ・納付金の徴収項目及び納付金額変更。
教育学部 幼児教育学科			子ども教育学科			
納付金の種類	金 額	備 考	納付金の種類	金 額	備 考	
入 学 金	200,000円	入学時のみ	入 学 金	200,000円	入学時のみ	
授 業 料	1,120,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	授 業 料	640,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)	(削除)	施設設備費	340,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)		実 習 費	28,000円		
教育学部 初等中等教育学科			(新規)			
納付金の種類	金 額	備 考	納付金の種類	金 額	備 考	
入 学 金	200,000円	入学時のみ	入 学 金	200,000円	入学時のみ	
授 業 料	1,120,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	授 業 料	640,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)	(削除)	施設設備費	340,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)		実 習 費	26,000円		
社会学部 社会学科			社会学科			
納付金の種類	金 額	備 考	納付金の種類	金 額	備 考	
入 学 金	200,000円	入学時のみ	入 学 金	200,000円	入学時のみ	
授 業 料	1,020,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	授 業 料	640,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)	(削除)	施設設備費	340,000円	前期後期に半額ずつ分納可能	
(削除)	(削除)		実 習 費	26,000円		
区分			(新規)			
区 分	金 額	備 考	区 分	金 額	備 考	
在籍料	60,000円	前期又は後期				
						・休学時の在籍料を明記した。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2 頁
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	2 頁
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	5 頁
(1) 教育課程の変更内容	5 頁
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	8 頁
(3) 教員組織の変更内容	11 頁
(4) 大学全体の施設・設備の変更内容	13 頁
4. 教育課程等の概要（別記様式 2 号（その 2 の 1））	15 頁
【資料 1】社会学部 社会学科	
【資料 2】教育学部 幼児教育学科	
【資料 3】教育学部 初等中等教育学科	

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

北陸学院大学は1学部2学科を、令和5（2023）年度より3学部4学科体制に改組する。また、併設する短期大学部の学生募集を停止する。これにより、現行の大学及び短期大学部の収容定員は800人より、短期大学部を廃止後は924人と124人増加する。

【現行（令和4（2022）年度）】

人間総合学部	子ども教育学科	入学定員	70人	収容定員	280人
	社会学科	入学定員	<u>70人</u>	収容定員	<u>280人</u>

【現行 短期大学部（令和4（2022）年度）】

短期大学部	食物栄養学科	入学定員	60人	収容定員	140人
	※ 令和4（2023）年度より入学定員を80人から60人に変更				
	コミュニティ文化学科	入学定員	40人	収容定員	80人

【令和5（2023）年度より】

教育学部	幼児教育学科	入学定員	45人	収容定員	180人
	初等中等教育学科	入学定員	25人	収容定員	100人
社会学部	社会学科	入学定員	<u>95人（25人増）</u>	収容定員	<u>380人（100人増）</u>
健康科学部	栄養学科	入学定員	65人		
	3年次編入学定員	2人		収容定員	264人

なお、人間総合学部子ども教育学科（入学定員70人、収容定員280人）は、定員を教育学部幼児教育学科（入学定員45人、収容定員180人）と教育学部初等中等教育学科（入学定員25人、収容定員100人）に割り振り改組し、人間総合学部社会学科（入学定員70人、収容定員280人）は、社会学部社会学科（入学定員95人、収容定員380人）と定員を増やし（入学定員25人、収容定員100人増）、令和4（2022）年4月に学部設置届出を予定している。

健康科学部栄養学科は併設する短期大学部食物栄養学科を学部へ改組し、令和4（2022）年3月に学部設置の設置認可申請を行うことにしている。また、短期大学部食物栄養学科は、令和4（2022）年度より入学定員を80人より60人に変更し、短期大学部コミュニティ文化学科（入学定員40人、収容定員80人）の両学科を令和5（2023）年度より学生募集を停止し、在学生の卒業をもって短期大学部を廃止する予定である。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学人間総合学部社会学科を社会学部社会学科、人間総合学部子ども教育学科を教育学部幼児教育学科及び教育学部初等中等教育学科に改組する必要性に関しては、大きく以下の2点である。

（1）学部の学びを明確にする

これまで人間総合学部は「人間の時間的つながりと社会的広がり」の視点から多角的・学問的に研究し、すべての人が豊かで質の高い生活を可能とする社会の実現に貢献できる総合的かつ専門的な人材の育成」を目的としてきた。しかし、文部科学省中央教育審議会の答申において「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教

育を行っていること。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていること」と示された。これを受け学部名称を含め具体的な学びと、身に付けることができる知識・技能を地域社会に明確な言葉で発信する必要があると考えられた。これまでの人間総合学部を社会学部と教育学部へと改組し、学びを明確に示す学部名称にするとともに、それぞれの特長を生かした教育研究体制とすることは大いに意義があると判断した。

(2) 地域の要請により一層応えていく

【社会学部】

社会における現象や問題を発見し、それを科学的に解明して、適切な対応を提示できる人材が求められており、人間総合学部社会学科においては、こうした社会からの要請に応え、社会の各分野において貢献できる人材を育てることを目的としてきた。その成果の一つとも言える卒業後の進路においては、公務員、一般企業、金融機関、社会福祉施設等、社会学科の多様な学びを反映した人材を輩出し、雇用先等から一定の評価を得ているところである。また、研究活動や地域貢献事業においても着実に実績を積み重ねてきた。

急速に進む少子高齢化と人口減少、グローバル化や甚大な自然災害の発生、新型コロナウイルスによるパンデミックなど、日常的、非日常的に社会のありようがめまぐるしく変化し、多様化、高度化、複雑化が加速している。これまでの常識を疑い社会の諸問題を読み解く社会学の学びが、今日ほど必要とされる時代はないと言えよう。こうした状況を踏まえ、キリスト教的人間観に基づき、広く人々に寄り添い、すべての人が持続可能な豊かで質の高い生活を享受する社会を形成するため、人間総合学部社会学科の学びをより深化・発展させ、新たな社会学部社会学科へと改組することが必要と考えている。

【教育学部】

地域の幼児教育、初等中等教育を担う専門職養成の需要も依然として高く、本学に期待される幼児教育、初等中等教育を担う専門職養成の強みを生かしていくために、自分の将来の進路を重点的に履修できる学科体制の強化及び明確化が求められている。

既設の人間総合学部子ども教育学科では3つのコース「幼児教育・保育コース」「幼児・児童教育コース」「初等・中等教育コース」を設定し、入学後に自身の進路を選択する仕組みとしていたが、新たな教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科は、自身の将来の進路に関して「幼児教育」又は「初等中等教育」を選択し入学することで、人間総合学部子ども教育学科の学びをより学問領域を明らかにした専門職として必要な学びに深化・発展させ、今まで以上に自分の使命と強みを持って地域社会の期待に応え貢献することができるよう、人間総合学部子ども教育学科から、教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科へと改組することが必要と考えている。

(3) 収容定員変更の必要性

【社会学部】

既設の人間総合学部社会学科の過去5年間の志願者、入学者数は以下のとおりである。【表1】

【表1】既設の人間総合学部社会学科の過去5年間の志願者、入学者数

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	<u>70</u>
志願者(人)	139	171	200	241	298	<u>210</u>
合格者(人)	132	165	190	219	225	186
入学者(人)	53	84	80	115	82	<u>83</u>
入定充足率(%)	75.7	120.0	114.3	164.3	117.1	<u>118.3</u>

人間総合学部社会学科は平成24(2012)年度に社会福祉学科より改組し、新たに設置した学科である。平成28(2016)年3月に改組して初めて卒業生を送り出し出口が明確にされたこと、平成29(2017)年度の学生募集から履修モデルコースを追加し、学ぶ領域を分かりやすくしたこと等が功を奏し、平成30(2018)年度以降は定員超過の状況である。志願者も年々着実に増加しており、受験生からの高い進学需要への積極的な対応に向けて入学選抜の機能が低下しない範囲である入学定員70人から25人増の95とする収容定員変更を行うこととした。

【教育学部】

既設の人間総合学部子ども学科の過去5年間の志願者、入学者数は以下のとおりである。【表2】

【表2】既設の人間総合学部子ども学科の過去5年間の志願者、入学者数

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	<u>70</u>
志願者(人)	181	154	171	153	197	<u>171</u>
合格者(人)	164	143	162	143	163	155
入学者(人)	79	74	76	57	55	<u>68</u>
入定充足率(%)	112.9	105.7	108.6	81.4	78.6	<u>97.4</u>

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数は171人、平均入学者数は68人、平均入学者充足率は97.4%であり、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響を受けることなく、安定的な入学志願状況等を維持している。

今回、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学定員70人を、教育学部幼児教育学科の入学定員45人、教育学部初等中等教育学科の入学定員25人に、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学定員数を変えずに各学科に割り振りを行った。

既設の人間総合学部子ども教育学科では3つのコース「幼児教育・保育コース」「幼児・児童教育コース」「初等・中等教育コース」を設けており、令和3(2021)年5月

時点の3つのコースの選択割合（1年次から4年次の平均）は、「幼児教育・保育コース」が57.5%、「幼児・児童教育コース」が25.6%、「初等・中等教育コース」が16.9%である。

教育学部に設置する幼児教育学科の入学定員45人（教育学部の入学定員との割合64%）、初等中等教育学科の入学定員25人（教育学部の入学定員との割合36%）であり、既設の子ども教育学科の「幼児・児童教育コース」が新たに設置する「幼児教育学科」もしくは「初等中等教育学科」のいずれかに分かれることを考慮すれば、新たに設置する教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の両学科とも、既設の人間総合学部子ども教育学科より割り振りした入学定員は妥当であると考えられる。【表3】

【表3】人間総合学部子ども教育学科 各コースの選択者数 令和3（2021）年5月1日現在

	在籍者数	幼児教育・保育コース		幼児・児童教育コース		初等・中等教育コース	
1年生	55	30	54.5%	13	23.6%	12	21.8%
2年生	58	31	53.4%	12	20.7%	15	25.9%
3年生	72	41	56.9%	20	27.8%	11	15.3%
4年生	69	44	63.8%	20	29.0%	5	7.2%
平均	64	37	57.5%	16	25.6%	11	16.9%

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（1）教育課程の変更内容

学びを明確にするために既設の人間総合学部社会学科を社会学部社会学科、人間総合学部子ども教育学科を教育学部幼児教育学科及び教育学部初等中等教育学科に改組することに合わせて、科目群の見直しを行った。

具体的には、既設の人間総合学部社会学科では、「全学共通科目」「基幹科目」「学科専門科目」「資格科目」の4つの科目群で編成していたが、新たな社会学部社会学科では、「大学共通科目」「学部共通科目」「学科専門科目」「資格科目」の4つの科目群とした。

既設の人間総合学部子ども教育学科では、「全学共通科目」「基幹科目」「学科専門科目」「資格科目」の4つの科目群で編成していたが、新たな教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科では、「大学共通科目」「学部共通科目」「学科専門科目」の3つの科目群とした。

なお、「大学共通科目」は社会学部及び教育学部共通の科目配置としている。

① 「大学共通科目」

【社会学部・教育学部共通】

既設の人間総合学部社会学科及び子ども教育学科では「全学共通科目」とし、「北陸学院科目」「総合教養科目」「言語教育科目」「スポーツ・健康科目」「キャリア教育科目」の5つの科目群を配置していた。

「全学共通科目」については、併設している短期大学部と共通の科目群を配置していたことから、「全学共通科目」としていたが、短期大学部を廃止することにしたため「大学共通科目」に名称を変更した。

なお、「大学共通科目」については、1・2年次に履修する科目である。従来の「全学共通科目」も併設する短期大学部と共通で開講していたこともあり、短期大学部を廃止することで、1・2年次の履修者数は減少（既設の入学定員260人（大学及び短期大学部の計）、改組後の入学定員230人（大学））するため授業の運営及び他の学部に支障はない。

配置している科目群では以下の2点を変更している。

1) 「総合教養科目」を「一般教養科目」に変更

既設の「総合教養科目」では、本学の大学及び短期大学部で設置していた4学科の特長を教養科目として4科目配置していたが、価値観が多様化するなかで「本質」を見極めるために必要な知識を身につけ、さらには知性を深めるために「文学」「心理学」「政治学」「健康学」の分野、5科目を配置した。

2) 「キャリア教育科目」を「初年次教育科目」に変更

既設の「キャリア教育科目」では、「キャリアデザイン科目」及び「情報機器演習科目」を配置していたが、キャリア関連の科目は、各学部の特性に合わせたカリキュラムの必要性から、既設の「全学共通科目」群から新たな「学部共通科目」群に配置を変更した

また、大学全体として大学生として身につけておくべき、自主的な学びを支えるため学修スキルの修得や、望ましい学修態度の育成を目的とした「初年次教育科目」を新たに配置し、既設の「基幹科目」で配置していた「基礎ゼミ」、「キャリア教育科目」で配置していた「情報機器演習」科目を初年次教育科目として配置した。

② 「学部共通科目」

【社会学部】

新たに社会学部を設置することに合わせ、社会学部の特色を活かした教養教育科目を学ぶ科目群を新たに配置した。具体的には、新たに学部に関する「キリスト教関連科目」、既設の「全学共通科目」に配置していた「キャリア関連科目」、既設の「基幹科目」に配置していた「ゼミ・卒業研究科目」、そして新たに文理融合科目として「データサイエンス科目」、社会学部として基礎的な知識・技能を身につける「ソーシャルサイエンス概説」「社会調査論」「社会調査法」等を「学部共通科目」に配置した。

【教育学部】

新たに教育学部を設置することに合わせ、教育学部の特色を活かし「学部共通科目」に「基幹科目」「英語特色科目」「応用科目」群を配置した。

「基幹科目」には新たに学部に関する「キリスト教関連科目」、既設の「全学共通科目」に配置していた「キャリア関連科目」、既設の「基幹科目」に配置していた「ゼミ・卒業研究科目」、そして新たに文理融合科目として「データサイエンス

科目」、教育学部として共通の知識・技能を身につける「教育学概論」「教職論」「特別支援教育論」を「基幹科目」に配置した。

「英語特色科目」は、教育学部の特長の一つである異文化理解を推進することを目的とし、既設の人間総合学部子ども教育学科の「学科専門科目」より、「学部共通科目」の「英語特色科目」として配置した。

「応用科目」は、教育職として高度専門職業人養成を目的とし、既設の人間総合学部子ども教育学科の「学科専門科目」より、「学部共通科目」の「応用科目」として配置した。

③ 「学科専門科目」

【社会学部】

既設の人間総合学部社会学科は「学科専門科目」は「基本科目」と「応用領域」に区分していたが、社会学部社会学科では「基幹科目」と「専門科目」に区分した。

「基幹科目」には「学部共通科目」を基礎として、社会科学を学ぶ上で必要とされるデータ分析法に関する科目、発展的・各論的な社会学に関する科目、心理学、社会福祉学についての入門的な科目を配置する（科目：「データ処理基礎」「心理学統計法」「社会学理論」「家族社会学」「都市社会学」「環境社会学」「教育社会学」「グローバル社会論」「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「心理学概論A」「心理学概論B」）。

社会福祉学、心理学の科目については、人間総合学部社会福祉学科設置時から継続して学びを充実させてきたことから、社会学科でも社会学との関連を考えつつ重視してきた科目である。各分野の入門となるためだけではなく、社会福祉学、心理学は、社会学と関連している事項が多く、それらを学ぶことで社会をより深く理解することができるようになることを視野に入れている。社会学の研究対象はミクロからマクロなレベルにまで及ぶが、心理学を学ぶことによって社会を構成する個々人というミクロな視座と方法を学ぶことができる。

「専門科目」は「基幹科目」よりも専門性の高い知識や技能を修得し、各分野に関する学びを深化させるための科目を配置する。

社会学部の学生の進路は多様であることが予想される。それぞれの学生が目指す進路や学修目的の達成に必要な専門科目を自ら選択できるように専門性の高い科目の多くをこの区分に配置する。

なお、収容定員増により、学生の科目の選択肢を増やすこと、および学生の履修者数を分散させるために配置科目数を、既設の人間総合学部社会学科の「応用科目」に配置していた52科目から、社会学部社会学科の「専門科目」では58科目と科目数を多く配置した。

【教育学部 幼児教育学科】

「学科専門科目」には、免許資格に関わらず保育者として身に付けておくべき知識・技能を修得するための「基幹科目」、幼稚園教諭として身に付けておくべき知識・技能を講義・演習及び実習によって修得する「幼稚園教諭関連科目」、保育士として身に付けておくべき知識・技能を講義・演習及び実習によって修得する「保育士関連科目」と

目的に応じた区分とし、既設の人間総合学部子ども教育学科の「学科専門科目」を各科目群に配置した。

【初等中等教育学科】

「学科専門科目」には、免許資格に関わらず教育者として身に付けておくべき知識・技能を修得するための「基幹科目」、小学校教諭として身に付けておくべき知識・技能を講義・演習及び実習によって修得する「小学校教諭関連科目」、中学高等学校の英語教諭として身に付けておくべき知識・技能を講義・演習及び実習によって修得する「中学校・高等学校教諭（英語）関連科目」と目的に応じた区分とし、既設の人間総合学部子ども教育学科の「学科専門科目」を各科目群に配置した。

④ 「資格科目」

【社会学部】

「資格科目」群の科目配置の変更は行わなかった。

【教育学部】

資格に関する科目を「学科専門科目」に集約したため、「資格科目」群を廃止した。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

【社会学部】

新たに社会学部社会学科の設置及び定員変更に伴い、教員体制を13人から17人体制に強化するため、定員変更前の教育方法及び履修指導方法は従前どおり対応し、教員体制を強化することにより、定員変更後も教育方法及び履修指導方法は十分に担保しており、他の学部への影響もない。

【教育学部】

新たに教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科の設置により、教員体制は既設の人間総合学部子ども教育学科の18人から、教育学部幼児教育学科9人、教育学部初等中等教育学科9人に割り振るため、教育方法及び履修指導方法は十分に担保しており、他の学部への影響もない。

【社会学部・教育学部共通】

社会学部及び教育学部では、教育方法及び履修指導方法については、教育効果を高め、学生の自主性と一人ひとりの能力に応じた教育を保障することにより、学生自らが学習および研究の目標を確立できるように以下の事項で対処する。

① 小規模クラス編成

【社会学部・教育学部共通】

より効果的な授業が展開できるように、一部の演習科目・実習科目は10～20人程度の少人数クラスに分割する。

② 習熟度別クラス編成

【社会学部・教育学部共通】

言語教育科目などは、入学後の年度当初にプレースメントテストを実施し、その結果によって習熟度別のクラスを編成することで、より効果的な学習を可能とする。

③ セメスター制の導入

【社会学部・教育学部共通】

学生がより効果的な履修計画を立てられるようにするため、半期完結型のセメスター制度を導入する。

④ 授業計画（シラバス）の提示

【社会学部・教育学部共通】

学生が履修計画を立てる際に、予めより具体的な授業内容の把握ができるように、全科目について「授業のねらい」、「授業内容」、「教授方法」、「評価方法」、「使用テキスト」などを細かく記載し、開講科目についての情報を提供する。

⑤ 学生オリエンテーション

【社会学部・教育学部共通】

入学時のオリエンテーションをはじめ、年度初めのオリエンテーションでは、教務・学生・宗教・事務と各分野から授業、学生生活全般の指導を行い、学生の学習および学生生活が円滑に進むように配慮する。

⑥ 個別指導に対応したアドバイザーシステム

【社会学部・教育学部共通】

近年、学習および生活上の様々な困難を抱える学生が増加している。そこで、本学では、専任教員が「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」（1年次）、「プロゼミA」「プロゼミB」（2年次）と連動し、1年から2年までの間、授業はもちろんのこと学生生活全般についての相談を行う。なお、この間は担当者が半期毎に交代し、学生がより多くの教員と交流できるように配慮した。また、3年から4年までは「専門ゼミ」と連動して、専任教員が2年間にわたり、卒業後の進路を視野に入れ、社会に出た際に職業人として要求される様々な出来事に対処できるように指導する。

⑦ オフィス・アワー

【社会学部・教育学部共通】

学生が授業以外に教員の研究室を訪ね自由に質問できる時間として、オフィス・アワーを設定する。専任教員は、特別な所用がない限り、研究室等において学生からの授業内容についての質問など学習面での指導・助言だけでなく、生活面における相談などについても指導やアドバイスをを行う。

⑧ 履修科目の年間登録上限

本学では、学習すべき授業科目を精選することで十分な学習時間を確保し、授業内容を深く理解するために「北陸学院大学 履修規程」において、履修登録単位数の上限を定めている。これは、4年間にわたって計画的に授業科目を履修できるようにするための制度（CAP制）である。上限となる年間の履修登録単位数は、学科で修得すべき学習成果と教育課程編成・実施の方針に基づき、社会学部では、半期24単位以内、年間48単位、教育学部では、半期25単位以内、年間49単位に定める。

なお、自由科目など卒業要件に算入しない科目や、集中講義や学外実習など長期休暇中など、本来、学習すべき授業科目にプラスして配置している科目や学期中における日常的な学習時間を要しない以下の科目についてはCAP制に含めない。

【卒業単位に算入しない授業科目】

【社会学部・教育学部共通】

- ・ 学外施設で行われる実習及び実習指導に関する科目、並びに集中講義
- ・ 自由科目（進級、卒業及び課程履修に必要な単位とはならない科目）
- ・ 本学が認めた単位互換科目（いしかわシティカレッジ、放送大学）

【教育学部】

- ・ 学部共通科目における「英語特色科目」の選択科目

【幼児教育学科】

- ・ 1年次修了時の GPA が 3.0 以上で、教育学部初等中等教育学科に配置する科目の履修を許可された科目

【初等中等教育学科】

- ・ 1年次修了時の GPA が 3.0 以上で、教育学部幼児教育学科に配置する科目の履修を許可された科目

⑨ GPA 制度の導入による適正な成績評価および指導

【社会学部・教育学部共通】

学生が主体的かつ充実した学習効果を上げられるように、大学開学時から Grade Point Average（評定平均値、以下「GPA」という）制度を導入しているが、シラバスに記載されている成績評価の算定基準や方法とも整合性を持たせ、より適正な運用に努める。なお、成績評価は、S、A、B、C、F の5段階で行い、F は不合格とする。それぞれの成績評価に対する Grade Point (GP) の設定基準は、以下のとおりである。

評価	成績	合否	GP
S	100～90点	合格	4.0
A	89～80点		3.0
B	79～70点		2.0
C	69～60点		1.0
F	59点以下	不合格	0.0

GPAは以下の計算式により算出する。
なお、小数点第3位を四捨五入し小数点第2位までを表す。

$$\frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目のGrade Point})] \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$$

GPAは、学生の成績評価をより明確にすることにより、授業に対する学生の意識を高めるとともに、学期ごとの学習指導に役立てている。具体的な指導は以下のとおりであり、『学生要覧』に記載し、学生に周知している。

- ・ 各学期においてGPAが、1.00未満であった学生に対し、本人および保証人（保護者等）に対し、学科長より、文書等による警告を行う。
- ・ GPA 2.00未満が2学期（2セメスター）連続した学生は、本人を呼び出しゼミ担当教員（アドバイザー）による注意と指導を行う。
- ・ GPA 2.00未満が3学期（3セメスター）連続した場合、または連続しなくても通算で4学期になった学生は、本人及び保証人（保護者等）を交え、ゼミ担当教員（アドバイザー）による注意と指導を行う。
- ・ GPA 1.50未満が3学期（3セメスター）連続した学生は、本人及び保証人と学科長とが面接し、引き続き学習する意思があるか確認を行う。

- ・ GPA 1.00未満が3学期（3セメスター）連続した学生に対し、学部長等より本人および保証人（保護者等）宛に退学勧告を行う。

⑩ 履修指導

【社会学部・教育学部共通】

本学では幅広い分野にわたり学習・研究することから、学生が履修計画を立てる際の指針となる履修モデルを提示する。また、履修指導では、学生は1年次から4年次まで配置されている各ゼミおよびオフィスアワー等を利用して、履修についての相談や指導を担当教員から受ける。

既述したように、本学ではアドバイザー制度を設けており、アドバイザーが学生に対してゼミを通しての指導はもちろん、随時、履修について指導する。具体的には、入学時のオリエンテーションにおいて、学部の理念や目標、教育課程について説明を行い必修科目の履修漏れがないか確認しながら、学生は自らの履修登録を行う。教員は学生一人ひとりの単位修得状況を把握しつつ、学生自身の目標と照らし合わせながら、卒業要件を満たす履修設計になっているか確認し、指導をおこなう。

（3）教員組織の変更内容

【社会学部】

前述どおり、社会学部社会学科の設置及び収容定員の変更に伴い、教員体制を13人から17人体制に強化するため、教育の質は担保できると考える。

具体的には、現在の教員体制13人（教授8人、准教授4人、講師1人）の内、2人（教授2人）が開設年度前に定年退職等により退職し、1名が他の学部へ異動（教授1名、キリスト教科目担当）、1名が他の学部から異動（教授1名、キリスト教科目担当）、6名を採用（教授2人、准教授1人、講師1人、助教2人）し、17人（教授8人、准教授5人、講師2人、助教2人）の体制となる。定員変更後の大学設置基準上の教員数は12人（内教授6人）であり、S T比も既設の人間総合学部社会学科では教員一人あたり 21.5人、社会学部社会学科では教員一人あたり 22.3人と定員変更前と比較しても教員体制に影響はない。なお、殆どが既設の人間総合学部社会学科からの配置転換となるため他の学部への影響もない。

新たに設置する社会学部では、学科の中核となる科目は専任教員が担当することを前提として教員組織を編成している。特に、1年次からのゼミ（「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」、「プロゼミA」「プロゼミB」、「専門ゼミⅠ」「専門ゼミⅡ」、「卒業研究」（選択））は必ず専任教員が担当する。

社会学部に配置する専任教員は17名（うち教授8名）で、いずれも社会学および関連する学問領域に精通した教員であり、教育・研究の組織的対応が可能である。これら専任教員のうち、博士の学位を有する教員は8名、修士の学位を有する教員は7名であり、それぞれの研究領域において十分な研究業績を持っている。

専任教員組織の年齢構成については、30代が1名、40代が5名、50代が8名、60代以上が3名とバランスのとれた構成となっている。

上記の教員組織によって展開される主な研究分野は、社会学・社会福祉学分野を中心として、社会科学分野から構成されることから、同じ分野間の教員同士による教育・研究交流にとどまらず、異分野間の教員同士による教育・研究の相互交流が活発化する研究支援体制とする。

【教育学部】

前述どおり、教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科の設置に伴い、教員体制を18人を維持するため、教育の質は担保できると考える。

研究分野における専門的力量、業績、専門職としての実務経験があることを前提とした上で、地域貢献活動に関心を持ち、本学の理念である「キリスト教教育」に共感し、研究、教育及び北陸学院大学の運営に取り組める教員を採用している。また、学科専門科目はもちろんのこと、学部共通科目を担当できる教員を採用する。

幼児教育学科では、基礎となる幼児教育学・保育学の教員のほとんどは教育研究業績を満たし、なおかつ実務経験（幼稚園教諭、保育士、小学校校長、カウンセラー）がある教員によって構成されている。

幼児教育学科の専任教員9名の年齢構成は、教授職は3人であり、そのうち、60代が1名、50代が2名となっている。准教授は1名であり、30代である。講師は4名であり、そのうち60代は1名、40代が2名、30代が1名、助教は1名であり40代である。男女比は3：6である。

初等中等教育学科では、基礎となる学校教育学の教員のほとんどは教育研究業績を満たし、なおかつ実務経験（小学校教員、中学校教員、高等学校教員）がある教員によって構成されている。

初等中等教育学科の専任教員9名の年齢構成は、教授職は7人であり、そのうち、70代が2名、60代が3名、50代が2名となっている。准教授は2名であり、そのうち50代が1名、40代が1名である。男女比は5：4である。

新たに設置する教育学部では、幼児教育学科及び初等中等教育学科の中核となる科目は専任教員が担当することを前提として教員組織を編成している。特に、1年次からのゼミ（「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「プロゼミA・B」、「専門ゼミⅠ・Ⅱ」、「卒業研究（選択）」）は必ず専任教員が担当する。

教育学部に配置する専任教員は18名（うち教授10名）で、いずれも教育学・保育学および関連する学問領域に精通した教員であり、教育・研究の組織的対応が可能である。これら専任教員のうち、博士の学位を有する教員は4名、修士の学位を有する教員は12名であり、それぞれの研究領域において十分な研究業績を持っている。

上記の教員組織によって展開される主な研究分野は、教育学・保育学分野で構成されることから、同じ分野間の教員同士による教育・研究交流による教育・研究の相互交流が活発化する研究支援体制とする。

【社会学部・教育学部共通】

「学校法人北陸学院 就業規則」では、教育職員の定年を満65歳と規定し、定年に達した日の属する年度末に退職となる。ただし、「北陸学院大学再任教員に関する規程」

により、再雇用の上で、「教育上、特別な事情がある場合には、大学及び短期大学の教員に限り、期間を延長することがある。」旨を規定している。完成年度後は公募を原則としつつ公募以外の方法とあわせて、教員組織の若返りを図れるよう、採用人事には十分に留意する。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

【社会学部・教育学部共通】

校地・運動場については、既存の人間総合学部及び短期大学部（2023（令和5）年度学生募集停止予定）で使用しているものを転用・共用して活用するため、新たな整備計画はない。

大学の校地は、三小牛キャンパスに小学校、幼稚園を併設している。三小牛キャンパスは金沢駅よりバス約30分で、緑に抱かれた、なだらかな丘陵地で自然豊かな環境である。校舎及び校地については、大学設置基準に定める面積を十分満たしている。【表4】
【表5】

① 校地、運動場

【社会学部・教育学部共通】

三小牛キャンパスには、「本館（別棟含む）」「愛真館（学生会館）」「国際交流研修センター」「番匠鐵雄記念礼拝堂」「ヘッセル記念図書館」「ライザー記念館」の各建物がある。それぞれの建築年度に違いはあるが、主な講義室やアメニティスペースを設置している場所には、屋外に出ることなく移動することが可能である。

屋外運動場は、面積 11,684㎡のグラウンドに、テニスコート（3面）、ゴルフグリーン（1面）の施設を整備している。また、キャンパス内には体育館を設置している。施設は管理者（担当教員）の許可を得ることにより、授業時間以外いつでもクラブ活動等を行うことができる。

校舎は、8時から22時まで開放されている。コミュニケーションスペースとしては、「本館」には「食堂A（256席）」、「愛真館」には「ラウンジ（129席）」、「国際交流研修センター」には「フレンドシップホール（74席）」がある。また、学生からの多くの要望に応え、コンビニエンスストアを設置している。

学生の自習スペースとしては、図書館はもちろん、学習支援室を毎日（土日を含む）22時まで開放している。また、学生には貴重品や荷物等を保管できるロッカーを1人に1カ所貸与している。

② 校舎等施設の整備計画

【社会学部・教育学部共通】

校舎及び校地については、現行においても大学設置基準及び短期大学設置基準に定める面積【表4】及び収容定員変更後も大学設置基準【表5】を十分満たしており、校地・運動場・校舎・図書については、既存の人間総合学部及び短期大学部（2023（令和5）年度学生募集停止予定）で使用しているものを転用・共用して活用するため、新たな整備計画はない。

【表4】〔現行〕土地及び建物 大学及び短期大学設置基準との比較

	設置基準 (大学及び短期大学合計)	現行
土地	8,000m ²	80,295m ²
建物	7,316m ²	15,234m ²

【表5】〔収容定員変更後〕土地及び建物 大学設置基準との比較

	設置基準 (大学)	現行
土地	9,240m ²	80,295m ²
建物	9,849m ²	15,234m ²

北陸学院大学社会学部及び教育学部の教育環境整備については、現行の人間総合学部社会学部及び子ども教育学科の改組であること、新たに健康科学部を設置するが既設の短期大学部食物栄養学科からの四大化であること、既設の短期大学部コミュニティ文化学科の学生募集を停止するため、既設の大学及び短期大学部で開講する総科目数【表6】が、新たに収容定員を変更等を行った場合【表7】よりも、総科目数が若干増加するが、既設の人間総合学部子ども教育学科を教育学部幼児教育学科及び教育学部初等中等教育学科の2学科にするため、教育学部の両学科共通して開講する授業が40科目あり、実際の開講科目数は減少することから、大学に新たな建物の建築を必要としない。

【表6】既設の大学及び短期大学部で開講する総科目数

	学部・学科		全学共通科目	学科専門科目 資格科目	計
大学	人間総合学部	子ども教育学科	48	166	214
大学	人間総合学部	社会学部	48	123	171
短期大学部	食物栄養学科		33	59	92
短期大学部	コミュニティ文化学科		33	71	104
計					581

【表7】大学の改組及び短期大学部学生募集停止後に開講する総科目数

	学部・学科		大学共通科目	学部共通科目 学科専門科目 資格科目	計
大学	教育学部	幼児教育学科	41	103	144
大学	教育学部	初等中等教育学科	41	96	137
大学	社会学部	社会学部	41	136	177
大学	健康科学部	栄養学科	41	99	140
計					598

また、社会学科に新たに5人の教員を採用するが、既設の短期大学部コミュニティ文化学科の教員6人が使用していた研究室を流用するため、専任教員の研究室は一人1室を確保しており、研究環境にも支障はない。

③ 図書等の資料及び図書館の整備計画

【社会学部・教育学部共通】

本学図書館は、鉄筋コンクリート2階建であり、閲覧席、書架スペース、電動書架のほか、ラーニング・コモンズ (Library Learning Commons) を設けている。延べ施設面積1,604.8㎡、閲覧席数 285席、蔵書冊数 173,000冊、学術雑誌 156冊 (うち外国雑誌17種)、電子ジャーナル数11種 (うち、国外ジャーナル10種)、年間図書受入数約2,900冊である。

一般図書及び参考図書の蔵書構成は、教育学部、社会学部に関連する社会科学系図書の割合が多く約 36,000冊である。その他、情報系及び哲学・宗教、歴史を含む教養系の図書が約 34,000冊、自然科学系が約 10,000冊、技術・工業、産業系約 8,000冊、芸術、語学、文学系約 31,000冊である。

本学図書館は、学生、教職員のみならず学外の利用者也利用可能である。館内には、閲覧スペースのほか、学習スペースを設け、学修環境を整備している。また、ホームページ上にOPAC蔵書検索や利用案内、北陸学院リポジトリを公開している。利用者は、館内の専用端末でOPACに自由にアクセスし、資料を検索することができる。

なお、本学図書館の特長としては、貸出冊数に制限を設けていないことが挙げられる。課題が多数ある時でも、十分準備できるよう配慮しており、大学改組後及び収容定員変更後も十分な閲覧数など適切な環境を維持している。

また、毎年、社会学部及び教育学部の図書として各学部 55万円を予算措置し、時代の学び及び研究に合わせた図書を購入していく。

デジタルデータベースについては、館内のパソコンから「国立国会図書館デジタルコレクション」「インターネット辞書・辞典検索Japan Knowledge」「朝日新聞記事データベース 聞蔵Ⅱテキスト」を利用することができる。また、教職員はOPACから「NBL Search」や国立情報学研究所が運営する「Cinii Articles」にアクセスし、雑誌・紀要論文の文献複写や相互貸借の依頼をすることができる。

4. 教育課程等の概要 (別記様式2号 (その2の1))

資料を別紙添付

【資料1】社会学部社会学科

【資料2】教育学部幼児教育学科

【資料3】教育学部初等中等教育学科

以上

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
北陸学院科目	北陸学院セミナー I	1通	1				○		1						兼1	
	北陸学院セミナー II	2通	1				○		1						兼1	
	キリスト教概論 I	1前	1			○			1							
	キリスト教概論 II	1後	1			○			1							
	キリスト教人間論 I	2前	1			○									兼1	
	キリスト教人間論 II	2後	1			○									兼1	
	小計(6科目)	—	6	0	0		—		2	0	0	0	0	0	兼1	—
一般教養科目	郷土の文学	1後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1前		2		○									兼1	
	青年の心理	1前		2		○									兼1	
	食と健康	1後		2		○									兼1	
	政治学	1後		2		○			1							
	小計(5科目)	—	0	10	0		—		1	0	0	0	0	0	兼4	—
大学共通科目	日本語基礎	1前			1		○								兼1	
	英語基礎	1前			1		○								兼1	
	英語A I	1前		1			○								兼1	
	英語A II	1後		1			○								兼1	
	英語B I	1前		1			○								兼1	
	英語B II	1後		1			○								兼1	
	英語C I	1前		1			○								兼1	
	英語C II	1後		1			○								兼1	
	英語D I	1前		1			○								兼1	
	英語D II	1後		1			○								兼1	
	英語E I	1前		1			○								兼5	
	英語E II	1後		1			○								兼5	
	英語F I	1前		1			○					1			兼1	
	英語F II	1後		1			○					1			兼1	
	アクティブ・イングリッシュA	1・2・3・4前・後		1				○							兼1	
	アクティブ・イングリッシュB	1・2・3・4前・後		2				○							兼1	
	アクティブ・イングリッシュC	1・2・3・4前・後		3				○							兼1	
	中国語 I	2前		1				○							兼1	
	中国語 II	2後		1				○							兼1	
	フランス語 I	2前		1				○							兼1	
	フランス語 II	2後		1				○							兼1	
	韓国語 I	2前		1				○							兼1	
	韓国語 II	2後		1				○							兼1	
	小計(23科目)	—	0	24	2		—		0	0	0	1	0	兼14	—	
スポーツ・健康科目	生涯スポーツA	1前	1					○							兼4	共同(一部)
	生涯スポーツB	1後	1					○							兼2	共同(一部)
	健康科学	1後	2			○									兼1	
	小計(3科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—	
初年次教育科目	情報機器演習A	1前	1				○		1							
	情報機器演習B	1後	1				○		1							
	基礎ゼミ I	1前	2				○		4	2	1	1			共同(一部)	
	基礎ゼミ II	1後	2				○		4	2		2			共同(一部)	
	小計(4科目)	—	6	0	0		—		5	3	1	2	0	兼0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 共通 科目	キリスト教と社会	3前	2			○			1						共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 (一部) 共同 (一部) 共同 (一部) 共同 (一部) 共同 (一部) オムニバス
	データサイエンス入門	1後	2			○			1						
	統計データの読み方	1後		2		○			1						
	キャリアデザインⅠ	1前	1				○		2	2	1				
	キャリアデザインⅡ	1後	1				○		1		1				
	キャリアデザインⅢ	2前	1				○		2			1			
	キャリアデザインⅣ	2後	1				○		1			1			
	キャリアデザインⅤ	3前		1			○			1		1			
	キャリアデザインⅥ	3後		1			○			1		1			
	プロゼミA	2前	2				○		6	1		1			
	プロゼミB	2後	2				○		4	3	1	1			
	専門ゼミⅠ	3通	4				○		9	4	1	2			
	専門ゼミⅡ	4通	4				○		9	4	1	2			
	卒業研究	4通		4			○		9	4	1	2			
	ソーシャルサイエンス概説	1前	2				○		8	4	1	2			
	社会学概論A	1前	2				○		1						
	社会学概論B	1後		2			○			1					
	社会調査論	1前	2				○		1						
	社会調査法	1後		2			○		1						
質的研究法	2前		2			○		1							
小計(20科目)	—		26	14	0	—	—	—	11	4	1	2	0	兼0	—
学科 専門 科目	基幹 科目	データ処理基礎	2前		2			○		1					兼1
		心理学統計法	2前		2			○		1					
		社会学理論	2前		2			○							
		家族社会学	2前		2			○		1					
		都市社会学	2後		2			○		1					
		環境社会学	2後		2			○		1					
		現代社会と福祉Ⅰ	1前		2			○		1					
		現代社会と福祉Ⅱ	1後		2			○		1					
		心理学概論A	1前		2			○				1			
		心理学概論B	1後		2			○		1					
		教育社会学	3前		2			○			1				
		グローバル社会論	2前		2			○					1		
小計(12科目)	—		0	24	0	—	—	—	5	1	1	1	0	兼1	—
学科 専門 科目	専 門 科 目	応用心理社会統計法	3前		2			○		1					兼1
		ビジネス・イングリッシュA	2前		2			○					1		
		ビジネス・イングリッシュB	2後		2			○					1		
		社会調査実習	3通		4					2					
		観光と社会	2後		2			○		1					
		地域と観光	3前		2				○	1					
		ホテルサービス論	2・3・4前		2			○					1		
		インバウンドツーリズム	2・3・4後		2			○					1		
		多文化共生論	2後		2			○		1					
		社会病理学	2・3・4後		2			○			1				
		メディア文化論	3・4前		2			○							
		地方行政入門	3前		2				○	1					
政治行動論	3後		2			○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科 専門科目	経済学Ⅰ	2前		2		○				1					
	経済学Ⅱ	2後		2		○				1					
	経済学Ⅲ	3前		2		○				1					
	経済学Ⅳ	3後		2		○				1					
	法律学	3・4前		2		○								兼1	
	地域社会政策論	2・3・4前		2		○			1						
	経営学入門	1後		2		○			1						
	マーケティング論	3・4前		2		○			1						
	財務諸表の読み方	2前		2		○			1						
	経営組織論	2後		2		○			1						
	経営戦略論	3後		2		○			1						
	簿記A	2前		1			○							兼1	
	簿記B	2後		1			○							兼1	
	社会貢献論	2後		2		○			1						
	社会貢献実習	3前		2				○	1						
	環境と開発	2・3・4後		2		○			1						
	地域環境マネジメント論	3前		2			○		1						
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2後		2		○			1						
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3前		2		○			1						
	児童福祉論	1後		2		○				1					
	高齢者福祉論	2前		2		○			1						
	障害者福祉論	1後		2		○			1						
	社会保障論	2後		2		○								兼1	
	権利擁護を支える法制度	3前		2		○				1					
	刑事司法と福祉	3後		2		○				1					
	図書館概論	2前		2		○				1					
	情報技術論	2前		2		○			1						
	データベース演習	3前		2			○		1						
	プログラミング入門	2後		2			○		1						
	臨床心理学概論	1後		2		○				1					
	心理学実験Ⅰ	2前		2				○	1		1			オムニバス	
	心理学実験Ⅱ	2後		2				○	1		1			兼1	オムニバス
	心理学研究法	2前		2		○			1						
	心理的アセスメント	2後		2		○				1					
	発達心理学	2前		2		○								兼1	
	教育心理学	2後		2		○								兼1	
	人格心理学(感情・人格心理学A)	2前		2		○								兼1	
	社会・集団・家族心理学	3前		2		○			1						
	産業・組織心理学	3後		2		○			1						
	知覚・認知心理学	3前		2		○			1						
感情心理学(感情・人格心理学B)	3後		2		○			1					兼1	オムニバス	
障害者・障害児心理学	3前		2		○					1					
心理学的支援法	3前		2		○					1					
学校心理学(教育・学校心理学)	3後		2		○								兼1		
心理演習	3後			2		○			1				兼1	共同	
小計(58科目)		—	0	114	2	—	—	9	4	1	2	0	兼6	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会福祉士国家試験受験資格科目	ソーシャルワークの基盤と専門職	2前		2		○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2		○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後		2		○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前		2		○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後		2		○			1							
	福祉サービスの組織と経営	3後		2		○				1						
	公的扶助論	3後		2		○										兼1
	保健医療サービス	3前		2		○										兼1
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		2			○		1							
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		2			○		1							
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前		2			○		1							
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前		2			○		1							
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		2			○									兼1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		2			○		1							
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		2			○		1							
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		2			○		1							
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後		1				○	1							
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前		4				○	1							
	小計(18科目)		—	0	37	0	—	—	2	1	0	0	0		兼3	—
	SSW科目	精神保健学	3前		2		○			1						
スクールソーシャルワーク論		3後		2		○			1							
スクールソーシャルワーク演習		4前		1			○		1							
スクールソーシャルワーク実習指導		4後		1			○		1							
スクールソーシャルワーク実習		4後		2				○	1							
小計(5科目)		—	0	8	0	—	—	1	0	0	0	0		兼0	—	
図書館司書資格科目	生涯学習概論	1後		2		○									兼1	集中
	図書館サービス概論	2前		2		○				1						
	情報サービス論	2後		2		○				1						
	児童サービス論	3後		2		○									兼1	
	情報資源組織論	2後		2		○				1						
	図書館制度・経営論	3後		2		○									兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前		1			○			1						
	情報サービス演習Ⅱ	3後		1			○			1						
	情報資源組織演習Ⅰ	3前		1			○			1						
	情報資源組織演習Ⅱ	3後		1			○			1						
	図書館情報資源概論	3前		2		○				1						
	図書・図書館史	4前		2		○				1						
	図書館実習	4前		1				○		1						
小計(13科目)		—	0	21	0	—	—	0	1	0	0	0		兼2	—	
公認心理師科目	公認心理師の職責	1後			2	○				1					兼1	共同
	学習・言語心理学	2後		2		○					1					
	神経・生理心理学	2後		2		○									兼1	集中
	人体の構造と機能及び疾病	2前		2		○									兼1	集中
	福祉心理学	3前		2		○									兼1	集中
	司法・犯罪心理学	3前			2	○									兼1	集中
	精神疾患とその治療	3前		2		○									兼1	集中
	健康・医療心理学	3後		2		○									兼1	
	関係行政論	3後			2	○									兼1	
	心理実習	4前			2			○	1	1					兼1	
小計(10科目)		—	0	12	8	—	—	1	1	1	0	0		兼8	—	
合計(177科目)		—	42	264	12	—	—	11	4	1	2	0		兼42	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（社会学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>【卒業要件】 大学共通科目から24単位以上 内 北陸学院科目 6 単位，一般教養科目 4 単位以上，言語教育科目 4 単位以上，スポーツ・健康科目 4 単位，初年次教育科目 6 単位を履修すること。なお、言語教育科目については、英語科目2単位（英語A I と英語A II、英語B I と英語B II、英語C I と英語C II、英語D I と英語D II、英語E I と英語E II、英語F I と英語F II のいずれかの組み合わせから一つを選択）を含むとともに、中国語、フランス語又は韓国語のいずれかを履修する場合はそれぞれ I と II の組み合わせにより履修すること。</p> <p>学部共通科目から32単位以上</p> <p>学科専門科目及び資格科目から50単位以上 内 基幹科目18単位以上，専門科目及び資格科目から32単位以上を履修すること。</p> <p>合計124単位以上</p> <p>【履修登録単位の上限】 半期24単位、年間48単位 上記の上限には以下の科目は含まれないものとする。 1.学外施設で行われる実習及び実習指導に関する科目、並びに集中講義 2.自由科目 3.単位互換科目</p>						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部幼児教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
北陸学院科目	北陸学院セミナーⅠ	1通	1				○				1			兼1		
	北陸学院セミナーⅡ	2通	1				○				1			兼1		
	キリスト教概論Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	キリスト教概論Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	キリスト教人間論Ⅰ	2前	1			○								兼1		
	キリスト教人間論Ⅱ	2後	1			○								兼1		
	小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	—	0	0	1	0	0	兼2	—	
一般教養科目	郷土の文学	1後		2		○			1					兼1		
	日本国憲法	1前	2			○								兼1		
	青年の心理	1前		2		○								兼1		
	食と健康	1後		2		○								兼1		
	政治学	1後		2		○								兼1		
小計(5科目)	—	2	8	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼4	—		
大学共通科目 言語教育科目	日本語基礎	1前			1		○							兼1		
	英語基礎	1前			1		○							兼1		
	英語AⅠ	1前		1			○							兼1		
	英語AⅡ	1後		1			○							兼1		
	英語BⅠ	1前		1			○							兼1		
	英語BⅡ	1後		1			○							兼1		
	英語CⅠ	1前		1			○							兼1		
	英語CⅡ	1後		1			○							兼1		
	英語DⅠ	1前		1			○							兼1		
	英語DⅡ	1後		1			○							兼1		
	英語EⅠ	1前		1			○							兼4		
	英語EⅡ	1後		1			○							兼5		
	英語FⅠ	1前		1			○							兼2		
	英語FⅡ	1後		1			○							兼2		
	アクティブ・イングリッシュA	1・2・3・4前・後		1				○							兼1	
	アクティブ・イングリッシュB	1・2・3・4前・後		2				○							兼1	
	アクティブ・イングリッシュC	1・2・3・4前・後		3				○							兼1	
	中国語Ⅰ	2前		1				○							兼1	
	中国語Ⅱ	2後		1				○							兼1	
	フランス語Ⅰ	2前		1				○							兼1	
	フランス語Ⅱ	2後		1				○							兼1	
	韓国語Ⅰ	2前		1				○							兼1	
	韓国語Ⅱ	2後		1				○							兼1	
小計(23科目)	—	0	24	2	—	—	—	0	0	0	0	0	兼15	—		
スポーツ・健康	生涯スポーツA	1前	1					○						兼4	共同(一部)	
	生涯スポーツB	1後	1					○						兼2	共同(一部)	
	健康科学	1後	2			○								兼1		
小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—		
初年次教育科目	情報機器演習A	1前	1				○							兼1		
	情報機器演習B	1後	1				○							兼1		
	基礎ゼミⅠ	1前	2				○			2	1			兼5	共同(一部)	
	基礎ゼミⅡ	1後	2				○			2	1			兼5	共同(一部)	
小計(4科目)	—	6	0	0	—	—	—	0	0	2	1	0	兼6	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部幼児教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基 幹 科 目	キリスト教と教育	4前	2			○			1						兼1 共同
	データサイエンス入門	1後	2			○									兼1
	データ分析と教育	2前	1				○								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前	1				○				1				
	キャリアデザインⅡ	1後	1				○								兼1
	キャリアデザインⅢ	2前	1				○				1				兼1
	キャリアデザインⅣ	2後	1				○				2				
	キャリアデザインⅤ	3通	1				○		1						
	キャリアデザインⅥ	4通	1				○		1						
	プロゼミA	2前	2				○		1	1	2				兼4 共同 (一部)
	プロゼミB	2後	2				○		1	1	2				兼4 共同 (一部)
	専門ゼミⅠ	3通	4				○		3	1	4	1			兼9 共同 (一部)
	専門ゼミⅡ	4通	4				○		3	1	4	1			兼9 共同 (一部)
	卒業研究	4通		4			○		3	1	4	1			兼9 共同 (一部)
	地域社会と子ども	1前	2				○					2			兼3 共同
	教育学概論	1前	2				○								兼1
	教職論	2前	2				○		1						兼1 オムニバス
	特別支援教育論	1後	2				○		1		1				兼2 オムニバス
小計(18科目)	—	—	31	4	0	—	—	—	3	1	4	1	0	兼12	—
学 部 共 通 科 目	コミュニケーション・イングリッシュ	1前	2				○								兼2
	プラクティカル・イングリッシュ	1後		2			○								兼2
	キッズ・イングリッシュA	1前	2				○								兼2
	キッズ・イングリッシュB	1後		2			○								兼1
	シンプル・イングリッシュA	1前	2				○								兼1
	シンプル・イングリッシュB	1後		2			○								兼1
	スピーチ&ドラマ	2前		2			○								兼1
	エクステンシブ・リーディング	2前		2			○								兼1
	トラベル・イングリッシュA	2前		2			○								兼1
	トラベル・イングリッシュB	2後		2			○								兼1
	プレゼンテーション	2後		2			○								兼1
	ムービー・イングリッシュA	3前		2			○								兼1
	ムービー・イングリッシュB	3後		2			○								兼1
	ビジネス・イングリッシュA	3前		2			○								兼1
	ビジネス・イングリッシュB	3後		2			○								兼1
	インテンシブ・リーディング	3前		2			○								兼1
	エッセイ・ライティング	3後		2			○								兼1
	バイブル・イングリッシュ	3後		2			○								兼1
小計(18科目)	—	—	6	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8	—
応 用 科 目	音楽演習	4前		1			○						1		
	教育史	3後		2			○								兼1
	比較教育学	4前		2			○		1						
	教育学文献講読A 1	3前		2			○			1					
	教育学文献講読A 2	3前		2			○		1		1				
	教育学文献講読B 1	3後		2			○		1						
	教育学文献講読B 2	3後		2			○		1						
	教育実践研究 (幼保)	4前		2			○		2						オムニバス
	教育実践研究 (小中高)	3後		2			○								兼5 オムニバス
小計(9科目)	—	—	0	17	0	—	—	—	3	1	0	1	0	兼6	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部幼児教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
基 幹 科 目	発達心理学	2前	2			○				1						
	教育心理学	2後		2		○				1						
	教育社会学	3前	2			○									兼1	
	幼児理解	4前	2				○				1	2				オムニバス
	教育課程論	2前	2			○				1						
	保育内容総論	2後	1				○			1						
	保育内容・環境指導法	1前	2				○					1				
	保育内容・健康指導法	2後	2				○								兼1	
	保育内容・言葉指導法	1後	2				○			1		1				オムニバス
	保育内容・人間関係指導法	2前	2				○					1				
	保育内容・表現指導法	2後	2				○					1	1		兼1	オムニバス
	環境	3後	2				○						1			
	健康活動	3後	2				○								兼1	
	言葉	3後	2				○			1		1				オムニバス
	人間関係	3後	2				○					1				
	表現	3後	2				○					1	1		兼1	オムニバス
	図画工作	1後	2					○						1	兼1	
	教職実践演習(幼保)	4後		2				○		1		3				共同
	異文化間コミュニケーション論	2前		2			○			1						
	児童文学	3前	2				○			1						
	音楽表現Ⅰ	1前		1				○						1	兼1	オムニバス
	音楽表現Ⅱ	1後		1				○						1	兼1	オムニバス
小計(22科目)	—	—	33	8	0	—	—	—	3	1	3	1	0	兼4	—	
学 科 専 門 科 目	教育の方法・技術(幼栄)	3前	2			○									兼1	
	国語	2後	2				○			1					兼2	共同(一部)
	算数	2前		2			○								兼1	
	生活	1後	2				○								兼1	
	音楽	2前		2			○					1				
	英語	2後	2				○								兼2	
	教育実習指導Ⅰ(幼)	2通	1				○			1		1				共同
	教育実習指導Ⅱ(幼)	3前	1				○			1		1				共同
	教育実習Ⅰ(幼)	2通	2					○		1		1				
	教育実習Ⅱ(幼)	3前	2					○		1		1				
小計(10科目)	—	—	6	12	0	—	—	—	2	0	1	1	0	兼7	—	
保 育 士 関 連 科 目	保育者論	2後		2		○				1						
	保育原理	1前		2		○				1						
	子どもの理解と援助	3後		1			○			1						
	子ども家庭福祉論Ⅰ	2前		2		○						1				
	子ども家庭福祉論Ⅱ	3後		2		○						1				
	社会福祉	1後		2		○									兼1	
	家庭支援の心理学	3後		2		○					1					
	社会的養護	2前		2		○									兼1	
	社会的養護内容	2後		2			○					1				
	子どもの保健	2前		2		○									兼1	
	子どもの健康と安全	3前		2			○								兼1	
	子どもの食と栄養	3前		2			○								兼3	オムニバス
	家庭支援論	3後		2		○						1				
	乳児保育Ⅰ	2後		2		○						1				
乳児保育Ⅱ	3前		2			○					1					
障がい児保育	2後		2			○								兼1		
子育てと支援	4前		2			○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部幼児教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
学 科 専 門 科 目	保 育 士 関 連 科 目	器楽入門			1		○						1		兼4 共同 (一部) 兼4 共同 (一部) 兼1 兼1 兼1 共同 共同 共同 共同
		器楽Ⅰ		1			○						1		
		器楽Ⅱ		1			○						1		
		身体表現		1			○								
		児童文化		2			○								
		絵本論		2			○								
		保育実習指導Ⅰ(施設)		1				○		1	1				
		保育実習Ⅰ(施設)		2					○	1	1				
		保育実習指導Ⅰ(保育所)		1				○				2			
		保育実習Ⅰ(保育所)		2					○			2			
		保育実習指導Ⅱ(保育所)		1				○				2			
		保育実習Ⅱ(保育所)		2					○			2			
		保育実習指導Ⅲ(施設)		1				○		1	1				
		保育実習Ⅲ(施設)		2					○	1	1				
小計(31科目)		—	0	52	1	—	—	1	1	3	1	0	兼14	—	
合計(149科目)		—	94	155	3	—	—	3	1	4	1	0	兼49	—	
学位又は称号	学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>【卒業要件】</p> <p>大学共通科目から24単位以上 内 北陸学院科目6単位、一般教養科目4単位以上、言語教育科目4単位以上、スポーツ・健康科目4単位、初年次教育科目6単位を履修すること。なお、言語教育科目については、英語科目2単位(英語AⅠと英語AⅡ、英語BⅠと英語BⅡ、英語CⅠと英語CⅡ、英語DⅠと英語DⅡ、英語EⅠと英語EⅡ、英語FⅠと英語FⅡのいずれかの組み合わせから一つを選択)を含むとともに、中国語、フランス語又は韓国語のいずれかを履修する場合はそれぞれⅠとⅡの組み合わせにより履修すること。</p> <p>学部共通科目から43単位以上 内 基幹科目31単位以上、英語特色科目6単位以上、応用科目6単位以上を履修すること。</p> <p>学科専門科目から40単位以上 内 基幹科目23単位以上を履修すること。</p> <p>合計124単位以上</p> <p>【履修登録単位の上限】 半期25単位、年間49単位 上記の上限には以下の科目は含まれないものとする。 1.学外施設で行われる実習及び実習指導に関する科目、並びに集中講義 2.自由科目 3.学部共通科目における「英語特色科目」の選択科目 4.1年次修了時のGPAが3.0以上で、教育学部初等中等教育学科に配置する科目の履修を許可された科目</p>						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部初等中等教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
大学 共通科目	北陸学院セミナーⅠ	1通	1				○								兼2		
	北陸学院セミナーⅡ	2通	1				○								兼2		
	キリスト教概論Ⅰ	1前	1			○									兼1		
	キリスト教概論Ⅱ	1後	1			○									兼1		
	キリスト教人間論Ⅰ	2前	1			○									兼1		
	キリスト教人間論Ⅱ	2後	1			○									兼1		
	小計(6科目)	—	6	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	—	
	一般教養科目	郷土の文学	1後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1前	2			○									兼1	
		青年の心理	1前		2		○									兼1	
		食と健康	1後		2		○									兼1	
		政治学	1後		2		○									兼1	
		小計(5科目)	—	2	8	0		—		0	0	0	0	0	0	兼5	—
		日本語基礎	1前			1		○								兼1	
		英語基礎	1前			1		○		1						兼1	
		英語AⅠ	1前		1			○								兼1	
		英語AⅡ	1後		1			○								兼1	
		英語BⅠ	1前		1			○								兼1	
		英語BⅡ	1後		1			○								兼1	
		英語CⅠ	1前		1			○								兼1	
		英語CⅡ	1後		1			○								兼1	
		英語DⅠ	1前		1			○								兼1	
		英語DⅡ	1後		1			○								兼1	
	英語EⅠ	1前		1			○		1						兼3		
	英語EⅡ	1後		1			○		2						兼3		
	英語FⅠ	1前		1			○								兼2		
	英語FⅡ	1後		1			○								兼2		
	アクティブ・イングリッシュA	1・2・3・4前・後		1			○		1								
	アクティブ・イングリッシュB	1・2・3・4前・後		2			○		1								
	アクティブ・イングリッシュC	1・2・3・4前・後		3			○		1								
	中国語Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	中国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	フランス語Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	フランス語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	韓国語Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	韓国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	小計(23科目)	—	0	24	2		—		3	0	0	0	0	0	兼12	—	
スポーツ・健康科目	生涯スポーツA	1前	1					○	1	1					兼2	共同(一部)	
	生涯スポーツB	1後	1					○	1	1					兼2	共同(一部)	
	健康科学	1後	2			○			1								
	小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	1	0	0	0	0	兼2	—	
初年次教育科目	情報機器演習A	1前	1				○								兼1		
	情報機器演習B	1後	1				○								兼1		
	基礎ゼミⅠ	1前	2				○		3	2					兼3	共同(一部)	
	基礎ゼミⅡ	1後	2				○		3	2					兼3	共同(一部)	
	小計(4科目)	—	6	0	0		—		3	2	0	0	0	0	兼4	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部初等中等教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基幹科目	キリスト教と教育	4後	2			○									兼2 共同	
	データサイエンス入門	1後	2			○									兼1	
	データ分析と教育	2前	1				○		1						兼1	
	キャリアデザインⅠ	1前	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅡ	1後	1				○			1					兼1	
	キャリアデザインⅢ	2前	1				○			1					兼1	
	キャリアデザインⅣ	2後	1				○								兼2	
	キャリアデザインⅤ	3通	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅥ	4通	1				○								兼1	
	プロゼミA	2前	2				○		3	1					兼4 共同 (一部)	
	プロゼミB	2後	2				○		3	1					兼4 共同 (一部)	
	専門ゼミⅠ	3通	4				○		6	3					兼9 共同 (一部)	
	専門ゼミⅡ	4通	4				○		6	3					兼9 共同 (一部)	
	卒業研究	4通		4			○		6	3					兼9 共同 (一部)	
	地域社会と子ども	1前	2				○		2	1					兼2 共同	
	教育学概論	1前	2				○		1							
	教職論	2前	2				○			1					兼1 オムニバス	
	特別支援教育論	1後	2				○		1						兼3 オムニバス	
	小計(18科目)	—	—	31	4	0	—	—	6	3	0	0	0	0	兼12	—
	学部共通科目	コミュニケーション・イングリッシュ	1前	2				○								兼2
ブラクティカル・イングリッシュ		1後		2			○								兼2	
キッズ・イングリッシュA		1前		2			○								兼2	
キッズ・イングリッシュB		1後	2				○								兼1	
シンプル・イングリッシュA		1前		2			○		1							
シンプル・イングリッシュB		1後		2			○		1							
スピーチ&ドラマ		2前	2				○								兼1	
エクステンシブ・リーディング		2前		2			○								兼1	
トラベル・イングリッシュA		2前		2			○								兼1	
トラベル・イングリッシュB		2後		2			○								兼1	
プレゼンテーション		2後	2				○								兼1	
ムービー・イングリッシュA		3前		2			○								兼1	
ムービー・イングリッシュB		3後		2			○								兼1	
ビジネス・イングリッシュA		3前		2			○								兼1	
ビジネス・イングリッシュB		3後		2			○								兼1	
インテンシブ・リーディング		3前	2				○		1							
エッセイ・ライティング		3後	2				○		1							
バイブル・イングリッシュ	3後		2			○								兼1		
小計(18科目)	—	—	12	24	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼7	—	
応用科目	音楽演習	4前		1			○								兼1	
	教育史	3後		2			○		1							
	比較教育学	4前		2			○								兼1	
	教育学文献講読A 1	3前		2				○							兼1	
	教育学文献講読A 2	3前		2				○							兼1	
	教育学文献講読B 1	3後		2				○							兼1	
	教育学文献講読B 2	3後		2				○							兼1	
	教育実践研究 (幼保)	4前		2			○								兼2 オムニバス	
教育実践研究 (小中高)	3後		2			○		1	2					兼2 オムニバス		
小計(9科目)	—	—	0	17	0	—	—	2	2	0	0	0	0	兼7	—	

教育課程等の概要

(教育学部初等中等教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
基 幹 科 目	英語学概論	2前	2			○			1								
	発達心理学	2前		2		○											兼1
	教育心理学	2後	2			○											兼1
	教育社会学	3前	2			○											兼1
	総合的な学習の時間の指導法	3後	1			○			1								
	教育の方法・技術 (ICT活用の理論と実践を含む)	3前	2			○			1								
	道徳教育指導論	3後	2			○			1								
	教育課程編成論	3後	2			○			2								オムニバス
	特別活動の理論と方法	3後	1			○			1								
	生徒指導論	3前	1			○				1							
	進路指導論	3前	1			○			1			1					
	教育相談	4前	2			○											兼1
	英語科指導法	3前	2			○			1								
	教職実践演習 (小中高)	4後		2			○		3	1							共同
	介護等体験	3前		2				○	1								
	異文化間コミュニケーション論	2前		2			○										兼1
	児童文学	3前		2			○										兼1
小計(17科目)		—	20	10	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼5	—		
学 科 専 門 科 目	国語	2後	2				○			1							兼2
	社会	2後		2			○				1						共同 (一部)
	算数	2前		2			○		1								
	理科	2前		2			○		1								
	生活	1後	2				○				1						
	音楽	2前		2			○										兼1
	図画工作	1後	2				○										兼1
	家庭	2前		2			○										兼1
	体育	3前		2			○		1	1							共同 (一部)
	英語	2後	2				○		2								
	国語科指導法 (書写を含む)	3前		2			○				1						
	社会科指導法	3前		2			○				1						
	算数科指導法	2後		2			○		1								
	理科指導法	2後		2			○		1								
	生活科指導法	2前		2			○				1						
	音楽科指導法	2後		2			○										兼1
	図画工作指導法	2前		2			○										兼1
家庭科指導法	2後		2			○										兼1	
体育科指導法	3前		2			○		1									
教育実習指導 (小)	3前		1				○	2	2							共同	
教育実習 I (小)	3前		4					2	2								
教育実習 II (小)	4前		2					2	2								
小計(22科目)		—	8	37	0	—	—	—	5	3	0	0	0	兼5	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部初等中等教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目 中学校・高等学校 教諭(英語) 関連科目	英語学	2後		2		○			1							
	英語音声学Ⅰ	1前		2			○		1							
	英語音声学Ⅱ	1後		2			○		1							
	言語教育のための英文法Ⅰ	1前		2			○		1							
	言語教育のための英文法Ⅱ	1後		2			○		1							
	英語文学Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	英語文学Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	英語圏の児童文学	3後		2		○									兼1	
	コミュニケーション・イングリッシュA	2前		2			○		1							
	コミュニケーション・イングリッシュB	2後		2			○		1							
	英語科教育法Ⅰ	2前		2			○		1							
	英語科教育法Ⅱ	2後		2			○		1							
	英語科教育法Ⅲ	3前		2			○		1							
	英語科教育法Ⅳ	3後		2			○		1							
	教育実習指導(中高)	3前		1			○		1							
	教育実習Ⅰ(中高)	3前		4				○	2							
	教育実習Ⅱ(中高)	4前		2				○	2							
小計(17科目)		—	0	35	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼1	—	
合計(142科目)		—	89	159	2	—	—	6	3	0	0	0	0	兼40	—	
学位又は称号	学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
【卒業要件】 大学共通科目から24単位以上 内 北陸学院科目6単位、一般教養科目4単位以上、言語教育科目4単位以上、スポーツ・健康科目4単位、初年次教育科目6単位を履修すること。なお、言語教育科目については、英語科目2単位(英語AⅠと英語AⅡ、英語BⅠと英語BⅡ、英語CⅠと英語CⅡ、英語DⅠと英語DⅡ、英語EⅠと英語EⅡ、英語FⅠと英語FⅡのいずれかの組み合わせから一つを選択)を含むとともに、中国語、フランス語又は韓国語のいずれかを履修する場合はそれぞれⅠとⅡの組み合わせにより履修すること。 学部共通科目から49単位以上 内 基幹科目31単位以上、英語特色科目12単位以上、応用科目6単位以上を履修すること。 学科専門科目から40単位以上 内 基幹科目20単位以上を履修すること。 合計124単位以上 【履修登録単位の上限】 半期25単位、年間49単位 上記の上限には以下の科目は含まれないものとする。 1.学外施設で行われる実習及び実習指導に関する科目、並びに集中講義 2.自由科目 3.学部共通科目における「英語特色科目」の選択科目 4.1年次修了時のGPAが3.0以上で、教育学部幼児教育学科に配置する科目の履修を許可された科目						1学年の学期区分		2学期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

学生確保の見通し等を記載した書類

目 次

I 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

- 1 学生の確保の見通し 2 頁
 - (1) 定員充足の見込み(概要)
 - (2) 定員充足の概要となる客観的なデータの概要
 - (3) 学生納付金の設定の考え方

- 2 学生確保に向けた具体的な取組状況 39 頁
 - (1) オープンキャンパス
 - (2) 進学相談会
 - (3) 高等学校訪問
 - (4) 高等学校教員及び学習塾向け説明会

II 人材需要の動向等社会の要請

- 1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的(概要) 41 頁
 - (1) 人材の養成に関する目的
 - (2) 養成する人材

- 2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 41 頁
 - (1) 最近4年間〔社会学部〕・最近3年間〔教育学部〕の求人件数の状況
 - (2) 最近4年間〔社会学部〕・最近3年間〔教育学部〕の就職者数の状況
 - (3) 想定される競合大学の就職者数の状況

- 3 専門の調査機関による採用意向調査結果及び関連資料に基づく需要見通し 46 頁

I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

1 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み（概要）

【入学定員の考え方】

〔社会学部〕

令和5（2023）年4月より新たに設置する社会学部の社会学科の入学定員の考え方は、社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近における志願状況や就職状況を踏まえるとともに、石川県、富山県、福井県、新潟県の高等学校を卒業した者の大学進学状況、競合が想定される学部等の受験者動向で入学定員を設定し、さらには、石川県をはじめとする周辺地域等に所在する高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果で確認を行い、十分な学生確保を見込むことができると考えている。

具体的には、社会学部の社会学科の入学定員を95人とし、社会学部の社会学科が設置された場合に学生募集の停止を予定している既設の人間総合学部の社会学科から70人を移行し、25人の入学定員については、定員増を行うこととする。

〔教育学部〕

令和5（2023）年4月より新たに設置する教育学部の幼児教育学科、初等中等教育学科の入学定員の考え方は、幼児教育学科、初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近における志願状況や就職状況を踏まえるとともに、石川県、富山県、福井県、新潟県の高等学校を卒業した者の大学進学状況、競合が想定される学部等の受験者動向で入学定員を設定し、さらには、石川県をはじめとする周辺地域等に所在する高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果で確認を行い、十分な学生確保を見込むことができると考えている。

具体的には、既設の人間総合学部の子ども教育学科の入学定員70人を、より学びを明確にするために、教育学部の幼児教育学科の入学定員を45人、初等中等教育学科の入学定員を25人としており、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学定員と同じにしている。

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等

社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数（第一志望のみ）は204人、（第二志望含む）は273人、平均受験者数（第一志望のみ）は201人、（第二志望含む）は265人、平均入学者数は80人、平均入学定員充足率は114.3%、平均歩留まり率は44.2%となっており

【表1】、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響はなく、平成30（2018）年度から4年間、むしろ定員を超過した状況である。第一志望のみの志願者数では、平成31（2019）年度より200人を超える状況が続いている。進路ニーズに応じていくこととし、社会学部の社会学科として設置し定員を増やすことで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表 1】最近 5 年間の人間総合学部社会科学の入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	平均	
定員(人)	70	70	70	70	70	70	70	
志願者(人)	第一志望のみ	134	171	200	241	267	209	204
	第二志望含む	-	-	-	-	310	235	273
受験者(人)	第一志望のみ	133	171	197	239	256	207	201
	第二志望含む	-	-	-	-	298	232	265
合格者(人)	第一志望のみ	132	165	190	219	195	185	181
	第二志望含む	-	-	-	-	225	220	223
手続者(人)	63	94	89	123	96	73	90	
辞退者(人)	10	9	9	8	14	8	10	
入学者(人)	53	85	80	115	82	65	80	
歩留率(%)	40.2	51.5	42.1	52.5	42.1	35.1	44.2	
入定充足率(%)	75.7	121.4	114.3	164.3	117.1	92.9	114.3	

② 教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近 5 年間の入学志願状況等

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近 5 年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数（第一志望のみ）は 152人、（第二志望含む）は 175人、平均受験者数（第一志望のみ）は 151人、（第二志望含む）は 169人、平均入学者数は 63人、平均入学定員充足率は 90.5%、平均歩留まり率は 44.9%であり【表 2】、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響を受けることなく、安定的な入学志願状況等を維持していることから、教育学部の幼児教育科及び初等中等教育学科として設置することで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表 2】最近 5 年間の人間総合学部子ども教育学科 入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	平均	
定員(人)	70	70	70	70	70	70	70	
志願者(人)	第一志望のみ	181	154	171	153	139	111	152
	第二志望含む	-	-	-	-	206	143	175
受験者(人)	第一志望のみ	180	152	170	152	138	111	151
	第二志望含む	-	-	-	-	197	141	169
合格者(人)	第一志望のみ	164	143	162	143	128	107	141
	第二志望含む	-	-	-	-	163	137	150
手続者(人)	91	77	83	69	63	41	71	
辞退者(人)	12	3	7	12	8	2	7	
入学者(人)	79	74	76	57	55	39	63	
歩留率(%)	48.2	51.7	46.9	39.9	43.0	36.4	44.9	
入定充足率(%)	112.9	105.7	108.6	81.4	78.6	55.7	90.5	

なお、既設の人間総合学部子ども教育学科の3つのコース「幼児教育・保育コース」「幼児・児童教育コース」「初等・中等教育コース」の、令和3（2021）年5月時点の選択割合（1年次から4年次の平均）は、「幼児教育・保育コース」が57.5%、「幼児・児童教育コース」が25.6%、「初等・中等教育コース」が16.9%と、教育学部に設置する幼児教育学科の入学定員45人（教育学部の入学定員との割合64%）、初等中等教育学科の入学定員25人（教育学部の入学定員との割合36%）についても、既設の子ども教育学科の「幼児・児童教育コース」が新たに設置する「幼児教育学科」もしくは「初等中等教育学科」のいずれかに分かれることを考慮すれば、新たに設置する教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の両学科ともそれぞれに学生確保の見通しがあるものと考えられる。【表3】

【表3】人間総合学部子ども教育学科 各コースの選択者数 令和3（2021）年5月1日現在

	在籍者数	幼児教育・保育コース		幼児・児童教育コース		初等・中等教育コース	
1年生	55	30	54.5%	13	23.6%	12	21.8%
2年生	58	31	53.4%	12	20.7%	15	25.9%
3年生	72	41	56.9%	20	27.8%	11	15.3%
4年生	69	44	63.8%	20	29.0%	5	7.2%
平均	64	37	57.5%	16	25.6%	11	16.9%

③ 石川県、富山県、福井県、新潟県の高等学校及び中学校の在籍者数

本学のこれまでの入学者や志願者の出身県を見ると、石川県が最も多く、石川県、富山県、福井県、新潟県の4県で多くを占めており、広報活動を行っている地域も主にこの4県である。【表4】

【表4】最近5年間の 県別新入生数

人間総合学部社会学科

出身県	入学年度	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	平均
		(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	
石川県	(人)	43	68	63	97	69	68
	(%)	81.1	81.0	78.8	84.3	84.1	81.9
富山県	(人)	8	12	14	15	9	12
	(%)	15.1	14.3	17.5	13.0	11.0	14.2
福井県	(人)	0	1	1	1	0	1
	(%)	0.0	1.2	1.3	0.9	0.0	0.7
新潟県	(人)	0	1	1	1	2	1
	(%)	0.0	1.2	1.3	0.9	2.4	1.1
その他	(人)	2	2	1	1	2	2
	(%)	3.8	2.4	1.3	0.9	2.4	2.1
計	(人)	53	84	80	115	82	83

人間総合学部 子ども教育学科

入学年度		平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	平均
出身県		(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	
石川県	(人)	63	63	68	48	49	58
	(%)	79.7	85.1	89.5	84.2	89.1	<u>85.5</u>
富山県	(人)	10	10	4	3	3	6
	(%)	12.7	13.5	5.3	5.3	5.5	8.4
福井県	(人)	1	0	1	2	1	1
	(%)	1.3	0.0	1.3	3.5	1.8	1.6
新潟県	(人)	2	0	0	3	0	1
	(%)	2.5	0.0	0.0	5.3	0.0	1.6
その他	(人)	3	1	3	1	2	2
	(%)	3.8	1.4	3.9	1.8	3.6	2.9
計	(人)	79	74	76	57	55	68

令和3（2021）年度の石川県、富山県、福井県、新潟県の学校基本調査によると、社会学部及び教育学部の開設初年度に受験対象者となる石川県を含む4県の全日制高等学校に在籍している2年生の生徒は41,169人、社会学部及び教育学部の開設2年目に受験対象者となる石川県を含む4県の高等学校に在籍している1年生の生徒数は40,800人となっている。【表5】

【表5】学校基本調査：高等学校の学年別生徒数（抜粋） 令和3（2021）年5月1日現在

	1学年	2学年	3学年	計
全 国	966,106	977,637	980,715	2,924,458
①石川県	9,518	9,592	9,977	29,087
②富山県	8,235	8,277	8,371	24,883
③福井県	6,651	6,603	6,549	19,803
④新潟県	16,396	16,697	16,847	49,940
①-④計	<u>40,800</u>	<u>41,169</u>	41,744	123,713

また、社会学部及び教育学部の開設3年目に受験対象者となる石川県を含む4県の中学校に在籍している3年生の生徒は44,232人、社会学部及び教育学部の開設4年目に受験対象者となる石川県を含む4県の中学校に在籍している2年生の生徒は43,878人となっている。

【表6】

【表6】学校基本調査：中学校の学年別生徒数（抜粋） 令和3（2021）年5月1日現在

	1学年	2学年	3学年	計
全 国	1,071,635	1,079,904	1,078,168	3,229,707
①石川県	9,977	10,297	10,062	30,336
②富山県	8,567	8,705	8,874	26,146
③福井県	7,023	7,074	7,099	21,196
④新潟県	17,723	17,802	18,197	53,722
①-④計	43,290	<u>43,878</u>	<u>44,232</u>	131,400

なお、令和3（2021）年3月の石川県を含む4県の中学校を卒業した者の高等学校への進学率の過去3年間の平均は99.5%となっており、石川県を含む4県の中学校を卒業した者の高等学校等への進学率を見ても、今後、石川県を含む4県の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。【表7】

【表7】学校基本調査：中学校を卒業した者の高等学校等への進学率(抜粋)

卒業年	区分	卒業生数 (人)	高等学校等 進学者 (人)	高等学校等 進学率 (%)
平成30（2018）年 3月卒業生	全 国	1,133,016	1,119,580	98.8
	①石川県	10,560	10,498	99.4
	②富山県	9,656	9,594	99.4
	③福井県	7,466	7,416	99.3
	④新潟県	19,201	19,124	99.6
	①－④計	46,883	46,632	99.5
平成31（2019）年 3月卒業生	全 国	1,112,083	1,098,876	98.8
	①石川県	10,674	10,609	99.4
	②富山県	9,552	9,472	99.2
	③福井県	7,186	7,138	99.3
	④新潟県	19,056	18,986	99.6
	①－④計	46,468	46,205	99.4
令和2（2020）年 3月卒業生	全 国	1,087,468	1,074,708	98.8
	①石川県	10,156	10,093	99.4
	②富山県	9,304	9,240	99.3
	③福井県	7,107	7,065	99.4
	④新潟県	18,495	18,417	99.6
	①－④計	45,062	44,815	99.5
過去3年間 の平均値	全 国	1,110,856	1,097,721	98.8
	①石川県	10,463	10,400	99.4
	②富山県	9,504	9,435	99.3
	③福井県	7,253	7,206	99.4
	④新潟県	18,917	18,842	99.6
	①－④計	46,138	45,884	99.5

④ 石川県、富山県、福井県、新潟県の人口動向等（年齢別人口による中長期的な見通し）

全国的に18歳人口の減少が予測されている中で、石川県、富山県、福井県、新潟県における学齢人口も減少傾向が示されており、石川県、富山県、福井県、新潟県が公表している最新の年齢（5歳階級）別推計人口をみると、15歳～19歳の人口は 249,000人、10歳～14歳の人口は 226,000人、9歳～5歳の人口は 209,000人となっており、今後の大学受験対象者となる14歳～5歳までの年齢別人口は 16.1%減少しているが、本学の既設の人間総合学部社会学科では石川県出身者の割合が過去5カ年の平均で81.9%と高く【表4】、石川県においては、14歳～5歳の人口減少率は 15.8%であり、中長期的にみても大学受験者が急激に減少することはないものと見込まれる。【表8】

【表8】石川県、富山県、福井県、新潟県人口統計（5歳階級）（抜粋） 平成30(2018)年10月1日現在

	総数 (千人)	0～4歳 (千人)	5～9歳 (千人)	10～14歳 (千人)	15歳～19歳 (千人)
全 国	126443	4838	5184	5392	5907
① 石川県	1143	44	48	51	57
② 富山県	1050	37	40	45	50
③ 福井県	774	30	33	36	39
④ 新潟県	2246	78	88	94	103
①-④ 合計	5213	189	209	226	249

*北陸三県及び新潟県の15～19歳から5～9歳の人口減少率 16.1%

*石川県の15～19歳から5～9歳の人口減少率 15.8%

⑤ 石川県、富山県、福井県、新潟県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

令和3（2021）年度の石川県、富山県、福井県、新潟県の学校基本調査によると、石川県、富山県、福井県、新潟県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学進学状況は、平成30（2018）年度は卒業生 45,807人のうち大学進学者は 20,601人で大学進学率は 45.0%、令和元（2019）年度は卒業生 45,310人のうち大学進学者は 20,379人で大学進学率は 45.0%、令和2（2020）年度は卒業生 45,181人のうち大学進学者は 21,261人で大学進学率は 47.1%となっている。

石川県、富山県、福井県、新潟県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学進学率は、平成30（2018）年の 45.0%から微増し令和2（2020）年は 47.1%となっており、18歳人口の減少期においても安定した大学進学状況で推移していることから、中長期的な確保の見通しがあるものと考えられる。【表9】

【表9】学校基本調査：高等学校卒業生の県別大学進学率(抜粋)

卒業年	区分	高等学校 卒業生数(人)	左のうち大学に 進学した者* (人)	大学進学率 (%)
平成30(2018)年 3月卒業生	全 国	1,056,378	524,158	49.6
	① 石川県	10,357	5,038	48.6
	② 富山県	9,195	4,078	44.4
	③ 福井県	7,365	3,736	50.7
	④ 新潟県	18,890	7,749	41.0
	①-④計	45,807	20,601	45.0
平成31(2019)年 3月卒業生	全 国	1,050,559	523,466	49.8
	① 石川県	10,439	5,014	48.0
	② 富山県	9,142	4,048	44.3
	③ 福井県	7,167	3,600	50.2
	④ 新潟県	18,562	7,717	41.6
	①-④計	45,310	20,379	45.0
令和2(2020)年 3月卒業生	全 国	1,037,284	529,009	51.0
	① 石川県	10,418	5,221	50.1
	② 富山県	9,192	4,351	47.3
	③ 福井県	7,260	3,737	51.5
	④ 新潟県	18,311	7,952	43.4
	①-④計	45,181	21,261	47.1

* 短期大学は除く

⑥ 想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況

〔社会学部〕

社会学部と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科は令和3年4月現在、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（入学定員 45人、金沢市）、富山国際大学現代社会学部現代社会学科（入学定員 120人、富山市）で、2大学が公表している入試方式の集計値によると、北陸大学（令和3年開設）は、募集定員 45人に対して志願者数 215人、志願倍率 4.7倍、入学定員充足率は 102.2%、富山国際大学は最近3年間の平均で、募集人員 120人に対して志願者数 315人、志願倍率 2.6倍、入学定員充足率は 103.3%となっており、安定的な入学志願状況等を維持している。

【表10】

【表10】 類似学科等の過去3年間の志願者状況等

大学名	学部・学科	入学年度	定員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	入学者 (人)	志願倍率 (倍)	入定充 足率(%)
北陸大学	国際コミュニケーション学部 心理社会学科 (令和3年度開設)	令和3(2021)	45	215	211	46	4.7	102.2
富山 国際大学	現代社会学部 現代社会学科	平成31(2019)	120	329	326	146	2.3	121.7
		令和2(2020)	120	310	307	114	2.7	95.0
		令和3(2021)	120	306	305	113	2.7	94.2
		3年間平均	120	315	313	124	2.6	103.3

〔教育学部〕

幼児教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科は令和3年4月現在、金城大学社会福祉学部子ども福祉学科（入学定員 70人、石川県白山市内）、仁愛大学人間生活学部子ども教育学科（入学定員 70人、福井県越前市内）、金沢星稜大学人間科学部こども学科（入学定員 68人、金沢市内）、富山国際大学子ども育成学部子ども育成学科（入学定員 90人、富山市内）で、4大学が公表している入試方式の集計値による最近3年間の志願者状況をみると、募集人員 754人に対して志願者数 3,016人、志願倍率 4.0倍、入学定員充足率は 93%となっており、安定的な入学志願状況等を維持している。

初等中等教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科は令和3年4月現在、金沢学院大学教育学部教育学科（入学定員 70人、金沢市内）であり、同大学が公表している入試方式の集計値による最近3年間の志願者状況をみると、募集人員 240人に対して志願者数 991人、志願倍率 4.1倍、入学定員充足率は 111%となっており、安定的な入学志願状況等を維持している。【表11】

なお、幼児教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科とした、仁愛大学人間生活学部子ども教育学科、金沢星稜大学人間科学部こども学科、富山国際大学子ども育成学部子ども育成学科においては、小学校教員免許が取得可能であることから、少なからず初等中等教育学科と共通する競合大学であり、初等中等教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科、かつ競合が想定される大学の学部・学科とした金沢学院大学教育学部教育学科においては、保育士及び幼

稚園教諭免許を取得可能であることから、少なからず幼児教育学科と共通する競合大学でもある。

【表11】類似学科等の過去3年間の志願者状況等

大学名	学部・学科	入学年度	定員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	入学者 (人)	志願倍率 (倍)	入定充 足率(%)
金城大学	社会福祉学部 子ども福祉学科	平成31(2019)	70	-	-	45	-	64.3
		令和2(2020)	70	-	-	50	-	71.4
		令和3(2021)	70	155	152	66	2.3	94.3
仁愛大学	人間生活学部 子ども教育学科	平成31(2019)	70	-	132	51	-	72.9
		令和2(2020)	70	-	162	71	-	101.4
		令和3(2021)	70	-	129	54	-	77.1
金沢星稜大学	人間科学部 こども学科	平成31(2019)	68	506	496	73	6.9	107.4
		令和2(2020)	68	630	620	70	9.0	102.9
		令和3(2021)	68	436	428	65	6.7	95.6
富山国際大学	子ども育成学部 子ども育成学科	平成31(2019)	90	270	270	99	2.7	110.0
		令和2(2020)	90	276	276	89	3.1	98.9
		令和3(2021)	90	320	320	104	3.1	115.6
金沢学院大学	文学部 教育学科 (2022年度 教育学部開設)	平成31(2019)	100	257	-	89	2.9	89.0
		令和2(2020)	70	365	-	89	4.1	127.1
		令和3(2021)	70	369	-	90	4.1	128.6

* 学科学部の名称は、令和3(2021)年5月現在

* - は、不明

・ 幼児教育学科と競合する4大学（金城大学、仁愛大学、金沢星稜大学、富山国際大学）の3年間の平均の志願者等の状況
3年間の平均志願倍率 4.0倍（3年間の志願者数総計÷3年間の入学定員数総計）

3年間の志願者数総計 3016人（金城大学^{*}155人（R3）+仁愛大学^{*}423人（132人（H31）+162人（R2）+129人（R3））
+金沢星稜大学1572人（506人（H31）+630人（R2）+436人（R3））+富山国際大学866
人（270人（H31）+276人（R2）+320人（R3））／

3年間の入学定員数総計 754人（金城大学 70（R3）+仁愛大学210人（70人（H31）+70人（R2）+70人（R3））+金沢
星稜大学204人（68人（H31）+68人（R2）+68人（R3））+富山国際大学292人（90人
（H31）+90人（R2）+90人（R3））

※ 金城大学は令和3（2021）年度のみ、仁愛大学は受験者数で算出

3年間の入学定員充足率 0.93倍（3年間の入学者数総計÷3年間の入学定員数総計）

3年間の入学者数総計 837人（金城大学161人（45人（H31）+50人（R2）+66人（R2））+仁愛大学176人（73人
（H31）+70人（R2）+65人（R3））+金沢星稜大学208人（73人（H31）+70人（R2）+
65人（R3））+富山国際大学292人（99人（H31）+89人（R2）+104人（R3））／

3年間の入学定員数総計 894人（金城大学 210人（70人（H31）+70人（R2）+70人（R3））+仁愛大学210人（70人
（H31）+70人（R2）+70人（R3））+金沢星稜大学204人（68人（H31）+68人（R2）+
68人（R3））+富山国際大学270人（90人（H31）+90人（R2）+90人（R3））

・ 初等中等教育学科と競合する大学（金沢学院大学）の3年間の平均の志願者状況

3年間の平均志願倍率 4.10倍（3年間の志願者数総計÷3年間の入学定員数総計）

3年間の志願者数総計 991人（金沢学院大学991人（257人（H31）+365人（R2）+369人（R3））

3年間の入学定員数総計 240人（金沢学院大学 100人（H31）+70人（R2）+70人（R3））

3年間の入学定員充足率 1.11倍（3年間の入学者数総計÷3年間の入学定員数総計）

3年間の入学者数総計 268人（金沢学院大学268人（89人（H31）+89人（R2）+90人（R3））

3年間の入学定員数総計 240人（金沢学院大学 100人（H31）+70人（R2）+70人（R3））

⑦ 専門の調査機関による進学意向調査結果

社会学部及び教育学部の母体となる既設の人間総合学部社会学科及び子ども教育学科の最近における志願状況や就職状況を踏まえるとともに、石川県、富山県、福井県、新潟県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、競合が想定される学科等の受験者動向などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、社会学部社会学科及び教育学部幼児教育学科並びに教育学部初等中等教育学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、石川県をはじめとする周辺地域に所在する高等学校、及び本学の重要な教育方針であるキリスト教教育を理解しているキリスト教主義学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

なお、キリスト教学校教育同盟には毎年、指定校として指定人数およびキリスト教学校教育同盟向け奨学制度を案内しており、受験及び入学者の実績もあることからアンケートの実施対象校とした。

【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書

また、追加調査として、2022（令和4）年6月～7月に、下記のイ・ウの調査を行った。

⑧ 高校生アンケート調査結果の対象者、実施時期、回答者数について

新学部設置に関する高校生アンケートについて、下記の3種類の集計結果を順に示す。

ア. 【資料1】による、高校生アンケート調査

対象者：北陸地域（石川県、富山県、福井県）、新潟県に所在する高等学校及び、
キリスト教学校教育同盟加盟校の高等学校2年生

実施時期：令和3（2021）年8月～9月

回答者数（有効回答数）：8,522人

イ. 北陸学院高等学校への再アンケート調査

対象者：北陸学院高等学校3年生

実施時期：令和4（2022）年6月

回答者数（有効回答数）：324人

ウ. WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査

対象者：本学メールアドレス登録者（3年生）及び、石川県立金沢泉丘高等学校（通信制）、第一学院高等学校[金沢キャンパス]3年生

実施時期：令和4（2022）年6月26日（日）～7月3日（日）

回答者数（有効回答数）：35人 ※ 回答者は、ア及びイの重複者でない者

〔社会学部〕

⑨ 【資料1】による高校生アンケート調査結果アについて

令和3（2021）年8月～9月に実施し、回収校数は78校で、回答者数（有効回答数）は、8,522人であった。このうち、高校卒業後に大学進学を希望する者（以下、「大学進学希望者」という。）は5,631人（66.1%）である。【表12】

【表 12】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
回答者 全体	5,631 (66.1%)	410 (4.8%)	1,050 (12.3%)	1,173 (13.8%)	195 (2.3%)	63 (0.7%)	8,522 (100.0%)

注) 上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)

<進学希望分野(第1希望、第2希望)>

進学を希望する分野について、大学進学希望者5,631人のうち第1希望として「社会科学関係」と回答したのは1,301人(23.1%)、第2希望として「社会科学関係」と回答したのは987人(17.5%)であり、合計すると2,288人(40.6%)の大学進学希望者が「社会科学関係」への進学を希望している。【表 13】

【表 13】 大学進学希望者の進学希望分野(第1希望、第2希望)

		1 家政学関 係	2 社会科学 関係	3 教育学・保 育学関係	4 人文科学 関係	5 理学・工 学・農学 関係	6 保健衛生 学関係	7 医学・歯 学・薬学 関係	8 芸術学関 係	9 その他	不 明	合 計
大学進学 希望者	第1希望	277 (4.9)	1,301 (23.1)	569 (10.1)	806 (14.3)	1,176 (20.9)	753 (13.4)	286 (5.1)	222 (3.9)	198 (3.5)	43 (0.8)	5,631 (100.0)
	第2希望	452 (8.0)	987 (17.5)	787 (14.0)	969 (17.2)	512 (9.1)	512 (9.1)	529 (9.4)	434 (7.7)	147 (2.6)	302 (5.4)	5,631 (100.0)
	計	729 (12.9)	2,288 (40.6)	1,356 (24.1)	1,775 (31.5)	1,688 (30.0)	1,265 (22.5)	815 (14.5)	656 (11.6)	345 (6.1)	345 (6.1)	5,631 (—)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望している2,288人について、社会学科を「受験したい」と回答したのは191人(8.3%)、「受験を検討する」と回答したのは476人(20.8%)であり、合計すると667人(29.1%)が社会学科の受験に関心を示している。【表 14】

【表 14】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不 明	合 計
大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	191 (8.3)	476 (20.8)	1,595 (69.7)	26 (1.1)	2,288 (100.0)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した191人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは58人(30.4%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは132人(69.1%)である。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した476人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは42人(8.8%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは426人(89.5%)である。【表 15】

【表 15】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学したい	2 併願先の結果によって は入学したい	不 明	合 計
大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	(社会学科) 受験したい	58 (30.4)	132 (69.1)	1 (0.5)	191 (100.0)
	(社会学科) 受験を検討する	42 (8.8)	426 (89.5)	8 (1.7)	476 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（％）

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは48人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは120人である。この「入学したい」と回答した48人については、社会学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した120人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは33人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは344人である。この「入学したい」と回答した33人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した344人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表 16】

【表 16】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	8 (13.8)	48 (82.8)	1 (1.7)	1 (1.7)	58 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	7 (5.3)	120 (90.9)	3 (2.3)	2 (1.5)	132 (100.0)
大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	6 (14.3)	33 (78.6)	1 (2.4)	2 (4.8)	42 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	36 (8.5)	344 (80.8)	18 (4.2)	28 (6.6)	426 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（％）

以上が、アの令和3（2021）年8月～9月に実施した新学部設置に関する高校生アンケートの結果である。

⑩ 北陸学院高等学校への再アンケート調査結果イについて

本学の併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、令和4（2022）年6月に、再度新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3（2021）年9月実施の高校生アンケートの回答者（当時2年生）と同じ対象者である。前回の結果（当時2年生）と再調査の結果（現在3年生）を比較して示し、再調査結果を基に説明を行う。

再調査の回答者数（有効回答数）は324人であった。このうち、大学進学希望者は260人（80.2%）である。【表17】

【表17】高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月(2年時)	258 (80.6%)	11 (3.4%)	40 (12.5%)	5 (1.6%)	5 (1.6%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
2022(令和4)年 6月(3年時)	260 (80.2%)	5 (1.5%)	48 (14.8%)	6 (1.9%)	2 (0.6%)	3 (0.9%)	324 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者260人のうち第1希望として「社会科学関係」と回答したのは69人（26.5%）、第2希望として「社会科学関係」と回答したのは64人（24.6%）であり、合計すると133人（51.1%）の大学進学希望者が「社会科学関係」への進学を希望している。【表18】

【表18】大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

			1 家政学 関係	2 社会科 学関係	3 教育学・ 保育学 関係	4 人文科 学関係	5 理学・工 学・農学 関係	6 保健衛 生学関 係	7 医学・歯 学・薬学 関係	8 芸術学 関係	9 その他	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学 希望者	第1希望	17 (6.6)	67 (26.0)	29 (11.2)	50 (19.4)	21 (8.1)	41 (15.9)	10 (3.9)	11 (4.3)	12 (4.7)	0 (0.0)	258 (100.0)
		第2希望	21 (8.1)	53 (20.5)	34 (13.2)	49 (19.0)	23 (8.9)	17 (6.6)	22 (8.5)	22 (8.5)	6 (2.3)	11 (4.3)	258 (100.0)
		計	38 (14.7)	120 (46.5)	63 (24.4)	99 (38.4)	44 (17.0)	58 (22.5)	32 (12.4)	33 (12.8)	18 (7)	11 (4.3)	258 (—)
2022(令和4)年 6月 (3年時)	大学進学 希望者	第1希望	20 (7.7)	69 (26.5)	27 (10.4)	52 (20.0)	29 (11.2)	39 (15.0)	7 (2.7)	7 (2.7)	8 (3.1)	2 (0.8)	260 (100.0)
		第2希望	19 (7.3)	64 (24.6)	21 (8.1)	45 (17.3)	12 (4.6)	20 (7.7)	16 (6.2)	17 (6.5)	9 (3.5)	37 (14.2)	260 (100.0)
		計	39 (15)	133 (51.1)	48 (18.5)	97 (37.3)	41 (15.8)	59 (22.7)	23 (9.4)	24 (9.2)	17 (6.6)	39 (15.0)	260 (—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望している 133人について、社会学科を「受験したい」と回答したのは 17人 (12.8%)、「受験を検討する」と回答したのは 30人 (22.6%)であり、合計すると 47人 (35.4%) が社会学科の受験に関心を示している。【表19】

【表19】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

		1 受験したい	2 受験を 検討する	3 受験しない	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月(2年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	20 (16.7)	34 (28.3)	64 (53.3)	2 (1.7)	120 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	17 (12.8)	30 (22.6)	83 (62.4)	3 (2.3)	133 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した 17人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 11人 (64.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6人 (35.3%)である。また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した 30人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 5人 (16.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 25人 (83.3%)である。【表20】

【表20】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によっ ては入学したい	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月(2年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	(社会学科) 受験したい	12 (60.0)	7 (35.0)	1 (5.0)	20 (100.0)
		(社会学科) 受験を検討する	8 (23.5)	26 (76.5)	0 (0.0)	34 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	(社会学科) 受験したい	11 (64.7)	6 (35.3)	0 (0.0)	17 (100.0)
		(社会学科) 受験を検討する	5 (16.7)	25 (83.3)	0 (0.0)	30 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは 11人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6人である。この「入学したい」と回答した 11人については、社会学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 6人については、社会学科への入学を第1希

望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは2人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは23人である。この「入学したい」と回答した2人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した23人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表21】

【表21】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科(社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			1	2	3	4	合計
			健康科学部 栄養学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
2021(令和3)年 9月(2年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	2 (16.7)	9 (75.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	1 (14.7)	5 (71.4)	1 (14.3)	0 (0.0)	7 (100.0)
	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	3 (37.5)	5 (62.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	4 (15.4)	19 (73.1)	3 (11.5)	0 (0.0)	26 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (100.0)	6 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	2 (8.0)	23 (92.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、イの本学併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、再度高校生アンケートを実施した結果である。

⑪ WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査について

令和4(2022)年6月26日(日)～7月3日(日)に本学にメールアドレス登録がある、高等学校3年生に対して、WEBアンケートを実施した。また、石川県立金沢泉丘高等学校(通信制)と、第一学院高等学校に対し、追加のアンケートを実施した。なお、対象者はア

及びイの回答者として重複がないことと、現在3年生であることを確認し、集計を行った。回答者数（有効回答数）は35人であった。このうち大学進学希望者は24人（68.6%）である。【表22】

【表22】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	24 (68.6%)	3 (8.6%)	4 (11.4%)	4 (11.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者24人のうち第1希望として「社会科学関係」と回答したのは11人（45.8%）、第2希望として「社会科学関係」と回答したのは5人（20.8%）であり、合計すると16人（50.8%）の大学進学希望者が「社会科学関係」への進学を希望している。【表23】

【表23】 大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

		1 家政学 関係	2 社会科 学関係	3 教育学・ 保育学関 係	4 人文科 学関係	5 理学・工 学・農学 関係	6 保健衛 生学関 係	7 医学・歯 学・薬学 関係	8 芸術学 関係	9 その他	不 明	合 計
2022(令和4)年 6月 WEB・追加 アンケート	第1希望	2 (8.3)	11 (45.8)	4 (16.7)	6 (25.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)
	第2希望	4 (16.7)	5 (20.8)	3 (12.5)	6 (25.0)	2 (8.3)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	24 (100.0)
	計	6 (25.0)	16 (50.8)	7 (29.2)	12 (50.0)	2 (8.3)	2 (8.4)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	24 (—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望している16人について、社会学科を「受験したい」と回答したのは5人（31.3%）、「受験を検討する」と回答したのは8人（50.0%）であり、合計すると13人（81.3%）が社会学科の受験に関心を示している。【表24】

【表24】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

	1 受験したい	2 受験を 検討する	3 受験しない	不 明	合 計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	5 (31.3)	8 (50.0)	3 (18.8)	0 (0.0)	16 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した5人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは4人(80.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人(20.0%)である。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した8人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは2人(25.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは6人(75.0%)である。【表25】

【表25】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によつて は入学したい	不 明	合 計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者	(社会学科) 受験したい	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
		(社会学科) 受験を検討する	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)	8 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは4人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人である。この「入学したい」と回答した4人については、社会学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した1人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会学科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは1人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは6人である。この「入学したい」と回答した1人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した6人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表26】

【表 26】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			2 社会学部 社会学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	4 (100.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	大学進学・ 社会科学関係 進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	6 (100.0)	0 (0.0)	6 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、ウのWEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査を実施した結果である。

⑫ 過去3年間における人間総合学部社会学科の入学者の進路決定時期

以上のアンケート調査ア、イ、ウの結果を踏まえ、本学部の入学希望者について検討する。はじめに、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部社会学科の入学者の過去3年間における結果が【表27】である。

【表27】 人間総合学部社会学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期
令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度		第1志望			第1志望以外			合計
		1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人	2	34	3	0	36	5	80
	%	2.5	42.5	3.8	0.0	45.0	6.3	100.0
令和2 (2020)	人	6	51	3	0	54	1	115
	%	5.2	44.3	2.6	0.0	47.0	0.9	100.0
令和3 (2021)	人	9	51	3	0	15	2	80
	%	11.3	63.8	3.8	0.0	18.8	2.5	100.0
総計	人	17	136	9	0	105	8	275
	%	6.2	49.5	3.3	0.0	38.2	2.9	100.0
		58.9			41.1			

人間総合学部社会学科の入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.9%、第1志望以外としていたのは41.1%であり、約6割は第1志望、約4割は第1志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査アは高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決

めていたのは、本学第1志望の学生では6.2%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

⑬ 高校生アンケート調査結果ア・イ・ウからの社会学部社会学科入学希望者検討

アンケート集計の区分を、区分1～区分4とした。イの北陸学院高等学校の区分1～区分4について、2021（令和3）年の調査結果と2022（令和4）年の再調査結果を比較した表が【表28】である。回答対象者が重複するため、入学希望者検討には、ア（北陸学院高校集計数）とイの調査結果との増減回答数を使用する。

【表28】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「社会科学」を選択 問5（2）「社会学部社会学科に入学希望」を選択	ア2021年9月 （2年時） 回答数	イ2022年6月 （3年時） 回答数	増減 （イ-ア） 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	9人	11人	+2人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	5人	6人	+1人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	5人	2人	-3人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	19人	23人	+4人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：社会学部社会学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

【表27】で示したとおり、本学への入学者層は、高校2年後半から3年後半に進路決定する割合が多く、【表28】の北陸学院高等学校の結果では、区分1及び区分2の「受験したい」の回答数が、14名から17名に増えた。また、区分1の社会学部社会学科への受験を希望し、かつ入学希望である回答数が9名から11名に増え、より明確に進路決定したことが窺える。最終的な回答数を算出するにあたり、アの調査結果より、イの北陸学院高等学校の重複を避けるため、【表28】の増減回答数と、ウのWEBアンケート及び高等学校追加アンケート調査の回答数を含め、入学希望者数を試算する根拠とする、最終アンケート回答数を【表29】に示す。

【表29】高校生アンケート（最終） 区分表

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「社会科学」を選択 問5（2）「社会学部社会学科に入学希望」を選択	ア 2021年8 月～9月 回答数	イ 北陸学院高 等学校アン ケート（増 減）回答数	ウ 2022年6月 WEB及び 追加アンケ ート回答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	48人	+2人	4人	54人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	120人	+1人	1人	122人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	33人	-3人	1人	31人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	344人	+4人	6人	354人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：社会学部社会学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

⑭ 社会学部社会学科入学希望者数の推計

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分をまず、2つのパターンに分けて考える。パターン1は、区分1及び区分2の「受験したい」と回答した、受験意向が強い層とし、パターン2は区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層とする。それぞれのパターンには、「入学したい」と回答した入学意向が強い層と、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した入学意向が弱い層がある。この、入学意向の違いを踏まえ入学希望者を試算するにあたり、パターン1では、本学の過去5年間の入学選抜試験での歩留率を根拠とし、試算を行う。なお、推計では区分1は、専願選抜の歩留率を、区分2は、併願選抜の歩留率を用いる。【表30】

【表30】過去5年間の人間総合学部社会学科入学選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

社会学科		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)	
2017 (H29)	専願選抜 合計	18	18	18	18	100.0	40.2
	併願選抜 合計	116	115	114	35	30.7	
2018 (H30)	専願選抜 合計	42	42	42	42	100.0	51.5
	併願選抜 合計	129	129	123	43	35.0	
2019 (H31)	専願選抜 合計	26	26	26	26	100.0	42.1
	併願選抜 合計	174	171	164	54	32.9	
2020 (R2)	専願選抜 合計	41	41	41	41	100.0	52.5
	併願選抜 合計	200	198	178	74	41.6	
2021 (R3)	専願選抜 合計	53	53	52	52	100.0	42.1
	併願選抜 合計	214	203	143	30	21.0	
総計	専願選抜 合計	180	180	179	179	100.0	46.1
	併願選抜 合計	833	816	722	236	32.7	

※ 専願選抜は、総合型選抜専願制、学校推薦型選抜指定校制・公募制の計。

※ 併願選抜は、総合型選抜併願制、一般選抜、大学入学共通テスト利用制、社会人選抜の計。

パターン1の推計の根拠を以下に示す。人間総合学部社会学科の歩留率の5年平均（専願選抜合計100%、併願選抜合計32.7%）【表30】を用いる。

「区分1」は社会学科の受験及び、入学を強く志望しており、専願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分2」は社会学科の受験を希望し、入学は検討中であり、併願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計1」100%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。

【表31】区分1及び区分2における社会学部社会学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^{注1}
区分1 54人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	54人×1.0×1.0⇒54人
区分2 122人	100%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。	122人×0.327×1.0⇒39人
—	合計	93人

(注1) 端数切り捨て。

上記、「【表31】区分1及び区分2における社会学部社会学科入学希望者数」の結果、本学の社会学部社会学科へ強い受験意向層の入学希望者数は、入学定員95人とほぼ同数となる93人となった。

次に、パターン2として、【表29】の区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層の推計を検討する。この、受験意向が弱い層からの受験者数を試算するにあたり、本学の過去5年間のオープンキャンパス参加者からの受験者割合を根拠とし、試算を行う。【表32】

【表32】過去5年間のオープンキャンパス参加者（実数）（高校1～3年のいずれかで参加）の受験・入学率

高校卒業年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値
オープンキャンパス参加者（人）	578	631	543	439	356	509.4
うち受験者（人）	200	225	217	159	147	189.6
専願選抜（人）	149	132	128	139	119	133.4
併願選抜（人）	51	93	89	20	28	56.2
オープンキャンパス参加者の受験率	34.6%	35.7%	40.0%	36.2%	41.3%	37.2%
専願選抜	25.8%	20.9%	23.6%	31.7%	33.4%	26.2%
併願選抜	8.8%	14.7%	16.4%	4.6%	7.9%	11.0%
入学者（人）	180	191	182	155	133	168.2
オープンキャンパス参加者の入学率	31.1%	30.3%	33.5%	35.3%	37.4%	33.0%

パターン2の推計の根拠を以下に示す。「受験を検討する」と回答した層を、本学のオープンキャンパス参加者に仮定し、【表32】過去5年間のオープンキャンパス参加者（高校1～3年のいずれかで参加）からの併願選抜平均受験率である、11.0%を用いる。なお、オープンキャンパス参加者は希望学部学科が変化する場合や、未定とする者も多いため、本学の人間総合及び短期大学部合算での入学率を使用する。「受験を検討する」と回答した回答者のうち、11.0%が本学を受験するとする。

「区分3」は社会学科の受験は検討中であり、合格した場合は入学を希望している。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分4」は社会学科の受験は検討中であり、入学も検討中である。入学志望度はパターン1同様に、併願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。

【表33】 区分3及び区分4における社会学部社会学科入学希望者数

アンケート結果		推計	入学希望者数 ^{注1}
区分3	31人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	31人×0.11×1.0⇒3人
区分4	354人	11.0%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。	354人×0.11×0.327⇒12人
—		合計	15人

(注1) 端数切り捨て。

上記、「【表33】 区分3及び区分4における社会学部社会学科入学希望者数」の結果、本学の社会学部社会学科へ弱い受験意向層の入学希望者数は、入学定員95人の15%である15人となった。

⑮ 社会学部社会学科入学希望者検討のまとめ

「受験したい」と回答した受験意向が強い層の推計であるパターン1で入学希望者数を試算した結果、定員95人とほぼ同数の93人の入学希望者が見込まれる結果となった。

パターン2の「受験を検討する」と回答した受験意向が弱い層については、本学を実際に受験するかどうか定かではないことから、入学希望者として考えるには不確実な層である。しかし、本学人間総合学部の在学学生においては、高校2年生の中頃に本学を受験することを決めていたのはごくわずかであることから【表27】、アンケート回答時点（高校2年生の8月～9月）では「受験を検討する」と回答した層の中にも、本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。本学の過去のオープンキャンパス参加者を「受験を検討する」と回答した層と考え、その中から本学に併願選抜で入学した者の割合（11.0%）をもとに試算した結果では、15人の入学希望者がいるという結果であった。この推計の人数が実際に入学すると想定することはできないが、この中から実際に入学する者が出てくる可能性はあると考えられる。

受験意向が弱い層は385人おり【表29】、この中にも入学希望者がいる可能性はある。更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努めていきたい。

〔教育学部〕

⑯ 【資料1】による高校生アンケート調査結果アについて

令和3（2021）年8月～9月に実施し、回収校数は78校で、回答者数（有効回答数）は、8,522人であった。このうち、高校卒業後に大学進学を希望する者（以下、「大学進学希望者」という。）は5,631人（66.1%）である。【再掲：表12】

【再掲：表12】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
回答者 全体	5,631 (66.1%)	410 (4.8%)	1,050 (12.3%)	1,173 (13.8%)	195 (2.3%)	63 (0.7%)	8,522 (100.0%)

注) 上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者5,631人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは569人（10.1%）、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは787人（14.0%）であり、合計すると1,356人（24.1%）の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表13】

【再掲：表13】 大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
		家政学関係	社会科学関係	教育学・保育学関係	人文科学関係	理学・工学・農学関係	保健衛生学関係	医学・歯学・薬学関係	芸術学関係	その他		
大学進学希望者	第1希望	277 (4.9)	1,301 (23.1)	569 (10.1)	806 (14.3)	1,176 (20.9)	753 (13.4)	286 (5.1)	222 (3.9)	198 (3.5)	43 (0.8)	5,631 (100.0)
	第2希望	452 (8.0)	987 (17.5)	787 (14.0)	969 (17.2)	512 (9.1)	512 (9.1)	529 (9.4)	434 (7.7)	147 (2.6)	302 (5.4)	5,631 (100.0)
	計	729 (12.9)	2,288 (40.6)	1,356 (24.1)	1,775 (31.5)	1,688 (30.0)	1,265 (22.5)	815 (14.5)	656 (11.6)	345 (6.1)	345 (6.1)	5,631 (—)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科に係る受験意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している1,356人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは100人（7.4%）、「受験を検討する」と回答したのは236人（17.4%）であり、合計すると336人（24.8%）が幼児教育学科の受験に関心を示している。初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは73人（5.4%）、「受験を検討する」と回答したのは289人（21.3%）であり、合計すると362人（26.7%）が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表34】

【表34】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科受験意向

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
大学進学・ 教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	100 (7.4)	236 (17.4)	997 (73.5)	23 (1.7)	1,356 (100.0)
大学進学・ 教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	73 (5.4)	289 (21.3)	966 (71.2)	28 (2.1)	1,356 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した100人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは32人（32.0%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは67人（67.0%）である。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科について「受験を検討する」と回答した236人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは33人（14.0%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは198人（83.9%）である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した73人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは19人（26.0%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは52人（71.2%）である。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科について「受験を検討する」と回答した289人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは36人（12.5%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは249人（86.2%）である。【表35】

【表35】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学したい	2 併願先の結果によっては 入学したい	不 明	合 計
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者	(幼児教育学科) 受験したい	32 (32.0)	67 (67.0)	1 (1.0)	100 (100.0)
	(幼児教育学科) 受験を検討する	33 (14.0)	198 (83.9)	5 (2.1)	236 (100.0)
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者	(初等中等教育学科) 受験したい	19 (26.0)	52 (71.2)	2 (2.7)	73 (100.0)
	(初等中等教育学科) 受験を検討する	36 (12.5)	249 (86.2)	4 (1.4)	289 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは25人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは47人である。この「入学したい」と回答した25人については、幼児教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した47人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは11人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは85人である。この「入学したい」と回答した11人については、アンケート回答時点において幼児教育学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した85人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、幼児教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表36】

【表 36】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育 学科	合計
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部幼児教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (78.1)	7 (21.9)	32 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	3 (4.5)	4 (6.0)	47 (70.1)	13 (19.4)	67 (100.0)
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部幼児教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	6 (18.2)	6 (18.2)	11 (33.3)	10 (30.3)	33 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	21 (10.6)	28 (14.1)	85 (43.0)	64 (32.3)	198 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（％）

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは15人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは42人である。この「入学したい」と回答した15人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した42人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは9人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは134人である。この「入学したい」と回答した9人については、アンケート回答時点において初等中等教育学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した134人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表 37】

【表 37】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部初等中等教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (21.0)	15 (79.0)	19 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	1 (1.9)	2 (3.8)	7 (13.5)	42 (80.8)	52 (100.0)
大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	3 (8.3)	7 (19.4)	17 (47.2)	9 (25.0)	36 (100.0)
	(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	21 (8.4)	40 (16.1)	54 (21.7)	134 (53.8)	249 (100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（％）

以上が、アの令和3（2021）年8月～9月に実施した新学部設置に関する高校生アンケートの結果である。

⑰ 北陸学院高等学校への再アンケート調査結果イについて

本学の併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、令和4（2022）年6月に、再度新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3（2021）年9月実施の高校生アンケートの回答者（当時2年生）と同じ対象者である。前回の結果（当時2年生）と再調査の結果（現在3年生）を比較して示し、再調査結果を基に説明を行う。

再調査の回答者数（有効回答数）は324人であった。このうち、大学進学希望者は260人（80.2％）である。【再掲：表17】

【再掲：表17】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月(2年時)	258 (80.6%)	11 (3.4%)	40 (12.5%)	5 (1.6%)	5 (1.6%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
2022(令和4)年 6月(3年時)	260 (80.2%)	5 (1.5%)	48 (14.8%)	6 (1.9%)	2 (0.6%)	3 (0.9%)	324 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者260人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは27人（10.4％）、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは21人（8.1％）であり、合計すると48人（18.5％）の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表18】

【再掲載：表18】大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
			家政学 関係	社会科 学関係	教育学・ 保育学 関係	人文科 学関係	理学・工 学・農学 関係	保健衛 生学関 係	医学・歯 学・薬学 関係	芸術学 関係	その他		
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学 希望者	第1希望	17 (6.6)	67 (26.0)	29 (11.2)	50 (19.4)	21 (8.1)	41 (15.9)	10 (3.9)	11 (4.3)	12 (4.7)	0 (0.0)	258 (100.0)
		第2希望	21 (8.1)	53 (20.5)	34 (13.2)	49 (19.0)	23 (8.9)	17 (6.6)	22 (8.5)	22 (8.5)	6 (2.3)	11 (4.3)	258 (100.0)
		計	38 (14.7)	120 (46.5)	63 (24.4)	99 (38.4)	44 (17.0)	58 (22.5)	32 (12.4)	33 (12.8)	18 (7)	11 (4.3)	258 (—)
2022(令和4)年 6月 (3年時)	大学進学 希望者	第1希望	20 (7.7)	69 (26.5)	27 (10.4)	52 (20.0)	29 (11.2)	39 (15.0)	7 (2.7)	7 (2.7)	8 (3.1)	2 (0.8)	260 (100.0)
		第2希望	19 (7.3)	64 (24.6)	21 (8.1)	45 (17.3)	12 (4.6)	20 (7.7)	16 (6.2)	17 (6.5)	9 (3.5)	37 (14.2)	260 (100.0)
		計	39 (15)	133 (51.1)	48 (18.5)	97 (37.3)	41 (15.8)	59 (22.7)	23 (9.4)	24 (9.2)	17 (6.6)	39 (15.0)	260 (—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

＜教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科に係る受験意向＞

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している48人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは10人(20.8%)、「受験を検討する」と回答したのは6人(12.5%)であり、合計すると16人(33.3%)が幼児教育学科の受験に関心を示している。

初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは3人(6.3%)、「受験を検討する」と回答したのは12人(25.0%)であり、合計すると15人(31.3%)が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表38】

【表38】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科受験意向

		1 受験したい	2 受験を 検討する	3 受験しない	不明	合計
2021(令和3)年 9月(2年時)	大学進学・教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	10 (15.9)	19 (30.2)	33 (52.4)	1 (1.6)	63 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	3 (4.8)	15 (23.8)	40 (63.5)	5 (7.9)	63 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学・教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	10 (20.8)	6 (12.5)	29 (60.4)	3 (6.3)	48 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	3 (6.3)	12 (25.0)	29 (60.4)	4 (8.3)	48 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

＜北陸学院大学に係る入学意向＞

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した10人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは7人(70.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは3人(30.0%)である。

また、「受験を検討する」と回答した6人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは1人(16.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは5人(83.3%)である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した 3人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 2人（66.7%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 1人（33.3%）である。また「受験を検討する」と回答した 12人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 4人（33.3%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 8人（66.7%）である。【表39】

【表39】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によ っては入学したい	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学 教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	(幼児教育学科) 受験したい	8 (80.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
		(幼児教育学科) 受験を検討する	7 (36.8)	11 (57.9)	1 (5.3)	19 (100.0)
	大学進学 教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	(初等中等教育学科) 受験したい	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
		(初等中等教育学科) 受験を検討する	5 (33.3)	10 (66.7)	0 (0.0)	15 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学 教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	(幼児教育学科) 受験したい	7 (70.0)	3 (30.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
		(幼児教育学科) 受験を検討する	1 (16.7)	5 (83.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	大学進学 教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	(初等中等教育学科) 受験したい	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
		(初等中等教育学科) 受験を検討する	4 (33.3)	8 (66.7)	0 (0.0)	12 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは 7人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 3人である。この「入学したい」と回答した 7人については、幼児教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 3人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは 0人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 2人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 2人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、幼児教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表40】

【表40】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
2021(令和3)年 9月(2年時)	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学 学関係進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (14.3)	0 (0.0)	4 (57.1)	2 (28.6)	7 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	1 (9.1)	2 (18.2)	6 (54.5)	2 (18.2)	11 (100.0)
2022(令和4)年 6月(3年時)	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学 学関係進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	5 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは2人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人である。この「入学したい」と回答した2人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは0人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは6人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した6人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表41】

【表41】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部附属中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			1	2	3	4	合計
			健康科学部 栄養学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
2021(令和3) 年9月(2年 時)	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育 学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育 学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	5 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	9 (90.0)	10 (100.0)
2022(令和4) 年6月(3年 時)	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育 学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学 関係進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育 学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によ っては入学したい	0 (0.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	6 (75.0)	8 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、イの本学併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、再度高校生アンケートを実施した結果である。

⑩ WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査について

令和4(2022)年6月26日(日)～7月3日(日)に本学にメールアドレス登録がある、高等学校3年生に対して、WEBアンケートを実施した。また、石川県立金沢泉丘高等学校(通信制)と、第一学院高等学校に対し、追加のアンケートを実施した。なお、対象者はア及びイの回答者として重複がないことと、現在3年生であることを確認し、集計を行った。回答者数(有効回答数)は35人であった。このうち大学進学希望者は24人(68.6%)である。【再掲:表22】

【再掲:表22】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	24 (68.6%)	3 (8.6%)	4 (11.4%)	4 (11.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者 24人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは 4人（16.7%）、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは 3人（12.5%）であり、合計すると 7人（29.2%）の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表23】

【再掲：表23】 大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
			家政学 関係	社会科 学関係	教育学・ 保育学関 係	人文科 学関係	理学・工 学・農学 関係	保健衛 生学関 係	医学・歯 学・薬学 関係	芸術学 関係	その他		
2022 (令和4)年6月 WEB・追加 アンケート	大学進学 希望者	第1希望	2 (8.3)	11 (45.8)	4 (16.7)	6 (25.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)
		第2希望	4 (16.7)	5 (20.8)	3 (12.5)	6 (25.0)	2 (8.3)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	24 (100.0)
		計	6 (25.0)	16 (50.8)	7 (29.2)	12 (50.0)	2 (8.3)	2 (8.4)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	24 (—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科に係る受験意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している 7人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは 3人（42.9%）、「受験を検討する」と回答したのは 0人（0.0%）であり、合計すると3人（42.9%）が幼児教育学科の受験に関心を示している。

初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは 1人（14.3%）、「受験を検討する」と回答したのは 1人（14.3%）であり、合計すると 2人（28.6%）が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表42】

【表42】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科受験意向

		1	2	3	不明	合計
		受験したい	受験を 検討する	受験しない		
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	大学進学・教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	3 (42.9)	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	7 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0 (0.0)	7 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した 3人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 3人（100.0%）である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した 1人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 1人（100.0%）である。また「受験を検討する」と回答した 1人について、北陸学院大学を

受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 0人 (0.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 1人 (0.0%) である。【表43】

【表43】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によって は入学したい	不 明	合 計
2022(令和4) 年6月 WEB・追加ア ンケート	大学進学・ 教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	(幼児教育学科) 受験したい	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
		(幼児教育学科) 受験を検討する	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	大学進学・ 教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	(初等中等教育学科) 受験したい	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
		(初等中等教育学科) 受験を検討する	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは2人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは0人である。この「入学したい」と回答した2人については、幼児教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者は居なかった。【表 44】

【表 44】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
2022(令和4)年6月 WEB・追加ア ンケート	大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 幼児教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは1人である。この「入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保

育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表45】

【表45】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
2022(令和4)年6月 WEB・追加アンケート	大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	大学進学・ 教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっ ては入学したい	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、ウのWEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査を実施した結果である。

⑱ 過去3年間における人間総合学部子ども教育学科の入学者の進路決定時期

以上のアンケート調査ア、イ、ウの結果を踏まえ、本学部の入学希望者について検討する。はじめに、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学者の過去3年間における結果が【表46】である。

【表46】 人間総合学部子ども教育学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期
令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度		第1志望			第1志望以外			合計
		1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人	6	33	4	0	32	1	76
	%	7.9	43.4	5.3	0.0	42.1	1.3	100.0
令和2 (2020)	人	5	23	0	0	27	0	55
	%	9.1	41.8	0.0	0.0	49.1	0.0	100.0
令和3 (2021)	人	9	21	1	0	13	0	44
	%	20.5	47.7	2.3	0.0	29.5	0.0	100.0
総計	人	20	77	5	0	72	1	175
	%	11.4	44.0	2.9	0.0	41.1	0.6	100.0
		58.3			41.7			

人間総合学部子ども教育学科の入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.3%、第1志望以外としていたのは41.7%であり、約6割は第1志望、約4割は第1位志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では11.4%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

⑳ 高校生アンケート調査結果ア・イ・ウからの教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者検討

アンケート集計の区分を、区分1～区分4とした。イの北陸学院高等学校の区分1～区分4について、2021（令和3）年の調査結果と2022（令和4）年の再調査結果を比較した表が【表47】【表48】である。回答対象者が重複するため、入学希望者検討には、ア（北陸学院高校集計数）とイの調査結果との増減回答数を使用する。

【表47】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数
幼児教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5（2）「教育学部幼児教育学科に入学希望」を選択	ア 2021年9月 （2年時） 回答数	イ 2022年6月 （3年時） 回答数	増減 （イ-ア） 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	8人	7人	-1人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	2人	3人	+1人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	4人	0人	-4人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	6人	2人	-4人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：教育学部幼児教育学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

【表48】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数
初等中等教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5（2）「教育学部初等中等教育学科に入学希望」 を選択	ア 2021年9月 （2年時） 回答数	イ 2022年6月 （3年時） 回答数	増減 （イ-ア） 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	1人	2人	+1人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	1人	1人	0人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	2人	0人	-2人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	9人	6人	-3人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：教育学部初等中等教育学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

最終的な回答数を算出するにあたり、アの調査結果より、イの北陸学院高等学校の重複を避けるため、【表 47】【表 48】の増減回答数と、ウのWEBアンケート及び高等学校追加アンケート調査の回答数を含め、入学希望者数を試算する根拠とする、最終アンケート回答数を【表 49】【表 50】に示す。

【表49】高校生アンケート（最終） 区分表
幼児教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5（2）「教育学部幼児教育学科に入学希望」を選択	ア 2021年8月～9月 回答数	イ 北陸学院高等学校アンケート（増減）回答数	ウ 2022年6月WEB及び追加アンケート回答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	25人	-1人	2人	26人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	47人	+1人	0人	48人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	11人	-4人	0人	7人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	85人	-4人	0人	81人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：教育学部幼児教育学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

【表50】高校生アンケート（最終） 区分表
初等中等教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5（2）「教育学部初等中等教育学科に入学希望」を選択	ア 2021年8月～9月 回答数	イ 北陸学院高等学校アンケート（増減）回答数	ウ 2022年6月WEB及び追加アンケート回答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	15人	+1人	1人	17人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	42人	0人	0人	42人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	9人	-2人	0人	7人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	134人	-3人	1人	132人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：教育学部初等中等教育学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

② 教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者数の推計

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分をまず、2つのパターンに分けて考える。パターン1は、区分1及び区分2の「受験したい」と回答した、受験意向が強い層とし、パターン2は区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層とする。それぞれのパターンには、「入学したい」と回答した入学意向が強い層と、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した入学意向が弱い層がある。この、入学意向の違いを踏まえ入学希望者を試算するにあたり、パターン1では、本学の過去5年間の入学選抜試験での歩留率を根拠とし、試算を行う。なお、推計では区分1は、専願選抜の歩留率を、区分2は、併願選抜の歩留率を用いる。【表51】

【表51】過去5年間の人間総合学部子ども教育学科入学選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

子ども教育学科

入学年度		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)	
2017 (H29)	専願選抜 合計	31	31	31	31	100.0	48.2
	併願選抜 合計	150	149	133	48	36.1	
2018 (H30)	専願選抜 合計	42	42	42	42	100.0	51.7
	併願選抜 合計	112	110	101	32	31.7	
2019 (H31)	専願選抜 合計	29	29	29	29	100.0	46.9
	併願選抜 合計	142	141	133	47	35.3	
2020 (R2)	専願選抜 合計	24	24	24	24	100.0	39.9
	併願選抜 合計	129	128	119	33	27.7	
2021 (R3)	専願選抜 合計	34	34	34	34	100.0	43.0
	併願選抜 合計	105	104	94	21	22.3	
総計	専願選抜 合計	160	160	160	160	100.0	46.1
	併願選抜 合計	638	632	580	181	31.2	

※ 専願選抜は、総合型選抜専願制、学校推薦型選抜指定校制・公募制の計。

※ 併願選抜は、総合型選抜併願制、一般選抜、大学入学共通テスト利用制、社会人選抜の計。

パターン1の推計の根拠を以下に示す。人間総合学部子ども教育学科の歩留率の5年平均（専願選抜合計100%、併願選抜合計31.2%）【表51】を用いる。

「区分1」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験及び、入学を強く志望しており、専願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分2」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験を希望し、入学は検討中であり、併願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。

【表52】区分1及び区分2における幼児教育学科入学希望者数

アンケート結果		推計	入学希望者数 ^{注1}
区分1	26人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	26人×1.0×1.0⇒26人
区分2	48人	100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	48人×1.0×0.312⇒14人
—		合計	40人

(注1) 端数切り捨て。

【表53】区分1及び区分2における初等中等教育学科入学希望者数

アンケート結果		推計	入学希望者数 ^{注1}
区分1	17人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	17人×1.0×1.0⇒17人
区分2	42人	100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	42人×1.0×0.312⇒13人
—		合計	30人

(注1) 端数切り捨て。

上記、「【表52】区分1及び区分2における幼児教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部幼児教育学科への入学希望者数は入学定員45人の約9割の40人となった。

「【表53】区分1及び区分2における初等中等教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部初等中等教育学科への入学希望者数は入学定員25人を上回る30人となった。

次に、パターン2として、【表49】【表50】の区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層の推計を検討する。社会学部同様に、【表32】を根拠とし、試算を行う。パターン2の推計の根拠を以下に示す。「受験を検討する」と回答した層を、本学のオープンキャンパス参加者に仮定し、【表32】過去5年間のオープンキャンパス参加者（高校1～3年のいずれかで参加）からの併願選抜平均受験率である、11.0%を用いる。なお、オープンキャンパス参加者は希望学部学科が変化する場合や、未定とする者も多いため、本学の間人総合及び短期大学部合算での入学率を使用する。「受験を検討する」と回答した回答者のうち、11.0%が本学を受験するとする。

「区分3」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験は検討中であり、合格した場合は入学を希望している。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分4」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験は検討中であり、入学も検討中である。入学志望度はパターン1同様に、併願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。

【表54】区分3及び区分4における幼児教育学科入学希望者数

アンケート結果		推計	入学希望者数 ^{注1}
区分3	7人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	$7人 \times 0.11 \times 1.0 \Rightarrow 0人$
区分4	81人	11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	$81人 \times 0.11 \times 0.312 \Rightarrow 2人$
—		合計	2人

(注1) 端数切り捨て。

【表55】区分3及び区分4における初等中等教育学科入学希望者数

アンケート結果		推計	入学希望者数 ^{注1}
区分3	7人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	$7人 \times 0.11 \times 1.0 \Rightarrow 0人$
区分4	132人	11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	$132人 \times 0.11 \times 0.312 \Rightarrow 4人$
—		合計	4人

(注1) 端数切り捨て。

上記、「【表54】区分3及び区分4における幼児教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部幼児教育学科への入学希望者数は入学定員45人の約4%の2人となった。

「【表55】区分3及び区分4における初等中等教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部初等中等教育学科への入学希望者数は入学定員25人の16%の4人となった。

⑳ 教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者検討のまとめ

「受験したい」と回答した受験意向が強い層の推計であるパターン1で試算した結果、幼児教育学科の入学希望者は、定員45人中40人、初等中等教育学科の入学希望者数は、定員25人中30人の入学希望者が見込まれる結果となった。

パターン2の「受験を検討する」と回答した受験意向が弱い層については、本学を実際に受験するかどうか定かではないことから、入学希望者として考えるには不確実な層である。しかし、本学人間総合学部の在在学生においては、高校2年生の中頃に本学を受験することを決めていたのはごくわずかであることから【表46】、アンケート回答時点（高校2年生の8月～9月）では「受験を検討する」と回答した層の中にも、本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。本学の過去のオープンキャンパス参加者を「受験を検討する」と回答した層と考え、その中から本学に併願選抜で入学した者の割合（11.0%）をもとに試算した結果では、幼児教育学科では2人、初等中等教育学科では4人の入学希望者がいるという結果であった。この推計の人数が実際に入学すると想定することはできないが、この中から実際に入学する者が出てくる可能性はあると考えられる。

受験意向が弱い層は幼児教育学科では88人、初等中等教育学科では139人おり【表49】【表50】、この中にも入学希望者がいる可能性はある。更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努めていきたい。

また、本学の入学者は、過去5年間平均で、人間総合学部子ども教育学科は85.5%が所在地である石川県内からの入学者である。【表4】高校生アンケートにおける石川県内の回答者数は、5,087人であったが、【表5】の石川県の高等学校2年生は9,592人であることから、高校生アンケートは、石川県内高校2年生の約半数に実施したことになる。このため、高校生アンケートに回答していない者の中からも、本学部に入学を希望する者がいる可能性はあることから、広報活動の強化を通じて入学希望者の掘り起こしを図り、定員の充足につなげていきたい。

（3）学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学校運営に係る財政的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合が想定される類似の学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育活動収支差額や経常収支差額を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費や教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。

【表56】

【表56】学科別学生納付金一覧

〔社会学部〕

(円)					
大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	社会学部社会学科	200,000	1,020,000	1,220,000	4,280,000
北陸大学	国際コミュニケーション学部心理社会学科	200,000	1,100,000	1,300,000	4,600,000
富山国際大学	現代社会学部現代社会学科	200,000	980,000	1,180,000	4,120,000

〔教育学部〕

(円)					
大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	教育学部幼児教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000
	教育学部初等中等教育学科				
金城大学	社会福祉学部 子ども福祉学科	270,000	940,000	1,210,000	4,150,000
仁愛大学	人間生活学部 子ども教育学科	250,000	880,000	1,130,000	4,520,000
金沢星稜大学	人間科学部こども学科	120,000	1,110,000	1,230,000	4,560,000
富山国際大学	子ども育成学部子ども育成学科	200,000	1,030,000	1,230,000	4,320,000
金沢学院大学	教育学部教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000

2 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内、リーフレット等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けのSNS等の電子媒体による情報の提供、進学雑誌等の各種メディアを活用したPR活動を行うとともに、資料請求者に対する各種情報の提供を行うこととしている。

また、高等学校訪問、オープンキャンパス、高等学校教員向け説明会をはじめ各地域又は高等学校内における進学相談会などの開催を通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針、教育課程編成の方針、入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路など様々な教育情報について、石川県、富山県、福井県、新潟県を中心とする高校生や保護者に対して広く周知を図ることとしている。

なお、キリスト教学校教育同盟加盟校には、上記の募集活動に併せてキリスト教学校教育同盟向け奨学制度を周知している。

(1) オープンキャンパス

本学への入学を希望・検討している高校生やその保護者を対象として、模擬授業をはじめとする各種体験プログラムや学内施設を積極的に公開し、本学への関心を深めてもらうため、オープンキャンパスの実施を予定している。学部就任予定者による学部説明、在学のオープンキャンパススタッフによる施設見学会、授業担当予定教員による模擬授業、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活について個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深めてもらうとともに、入学後のミスマッチがおきにくい学生を入学させることの効果が期待される。

(2) 進学相談会

石川県、富山県、福井県で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加を予定しており、大学・学部資料の配布から、学位授与・教育課程編成・入学者受入の方針、入学者選抜方法の種類や試験科目、書類審査、学力試験、面接試験、小論文試験などの実施方法、授業科目や講義等の内容、取得可能な資格、想定される卒業後の進路などの情報を広く提供することを予定している。高校生と本学の教職員と直接触れ合う機会を多くし、本学への興味・関心を増やしていくことで、オープンキャンパスの参加やホームページへ誘導し、本学への興味・関心を増やしていくことにより受験者数を確保し、確実に学生を確保することが期待される。

【資料2】2022年度 広報行動計画 5頁

(3) 高等学校訪問

高等学校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略の強化を図ることとしており、具体的には、入試業務全般を所管し、学生募集に係る業務を担っているアドミッションセンターの職員が中心となって、石川県及び隣接県の高等学校を中心とし、進路指導時期に基づき、進学校と進路多様校のセグメントに基づく高等学校訪問計画を策定し、石川県及び隣接県内の高等学校からの確実な入学者の確保を目指すこととする。

【資料2】2022年度 広報行動計画 6頁

高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高等学校の教員との信頼関係を築くことができるものであり、高等学校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高等学校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介などの効果が期待される。

(4) 高等学校教員及び学習塾向け説明会

特に進学者が多い、石川県と富山県の2箇所では高等学校の教員を対象とする説明会を開催する予定としており、学長や学部長による大学紹介、学部・学科別の個別説明、開学初年度の入試概要、奨学金制度、大学施設の見学など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を行うこととしている。本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらふことの効果が期待される。

また、石川県にある学習塾対象とした説明会の開催も予定しており、学習塾に対して本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員と同様に本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらふことの効果が期待される。

【資料2】2022年度 広報行動計画 6頁

II 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的（概要）

〔社会学部〕

（1）人材の養成に関する目的

社会と人間に対する理解を深めるとともに、様々な学問領域を通じて総合的な視野と知識を深め、社会の諸課題を探究し、人に寄り添い、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的とする。

（2）養成する人材

キリスト教的人間観を理解し、国際社会から地域社会における多様化・複雑化する社会や人に関する諸課題に対して、社会学に関する知識や技能を身に付けるとともに、社会福祉や人間の心理に関する知識や技能、社会科学に関する知識を修得し、社会をより深く理解し、批判的思考力と共感的対話力をもって解決できる、高度な専門知識と高い実践力を備えた人材を育成する。

〔教育学部〕

（1）人材の養成に関する目的

① 幼児教育学科

幼児一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導及び実践力を高め、他者を価値ある存在として尊重し、地域と協働、地域に貢献できる保育・教育について教育研究することを目的とする。

② 初等中等教育学科

初等中等教育学科は、様々な個性を発揮する児童・生徒を価値ある存在として尊重し、個に応じた専門的な指導・支援の理解に基づき、グローバル化する地域社会において、多様な他者や地域社会と協働し貢献できる教育について教育研究することを目的とする。

（2）養成する人材

① 幼児教育学科

キリスト教的人間観を理解し、幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設等における保育や教育、地域の子育て支援を専門的に担い、子どもたちが自分の個性を発揮し、成長することに寄与する専門的知識と高い実践力を備えた保育者・教育者を養成する。

② 初等中等教育学科

キリスト教的人間観を理解し、小学校、中学校、高等学校の教員として児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者として専門的知識と高い実践力を備えた教育者を養成する。

2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

〔社会学部〕

社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近4年間の求人件数や就職希望者数に対する就職者数の実績は、以下に示す通り、昨今の就職難の状況下においても大きな影

響を受けることなく、高い数値で推移しており、このことは、既設の人間総合学部の社会学科における人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものである。

今般の社会学部の社会学科の設置計画は、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、より充実した教育組織による教育内容として設置することから、これまで以上に求人件数を見込むことができるとともに、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。

(1) 最近4年間の求人件数の状況

社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近4年間の求人件数の実績は、平成30（2018）年度の就職希望者 27人に対して求人件数 692件で求人倍率は 25.6倍、令和元（2019）年度は就職希望者 35人に対して求人件数 835件で求人倍率は 23.9倍、令和2（2020）年度は就職希望者 37人に対して求人件数 786件で求人倍率は 21.2倍、令和3（2021）年度は就職希望者 61人に対して求人件数 668件で求人倍率は 11.0倍と高い求人倍率となっている。【表57】

【表57】 社会学科 最近4年間の求人状況等

求人年度		平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	平均
就職希望者数		27	35	37	61	40
福祉職	企業数(社)	71	48	63	54	59
	募集人数(人)	158	104	148	122	133
福祉職以外の 求人*	企業数(社)	237	299	225	221	246
	募集人数(人)	534	731	638	546	612
合計	企業数(社)	308	347	288	275	305
	募集人数(人)	692	835	786	668	745
求人倍率(倍)		25.6	23.9	21.2	11.0	18.6

なお、令和4（2022）年度6月末時点での求人状況について、令和3（2021）年度の同時期における求人状況との比較を行ったところ、前年度と同程度の求人が寄せられており、引き続き高い人材需要があることがわかる。【表58】

【表58】 社会学科 令和3（2021）年度6月時点と令和4（2022）年度6月時点における求人状況の比較

求人年度		令和3 (2021)	令和4 (2022)
就職希望者数		61	78
福祉職	企業数(社)	30	31
	募集人数(人)	70	66
福祉職以外の 求人*	企業数(社)	169	168
	募集人数(人)	439	392
合計	企業数(社)	199	199
	募集人数(人)	509	458

(2) 最近4年間の就職者数の状況

社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近4年間の就職内定率は、平成30(2018)年度は96.3%(就職者内定数26人/就職希望者数27人)、令和元(2019)年度は94.3%(就職者内定数33人/就職希望者数35人)、令和2(2020)年度は94.6%(就職内定者数35人/就職希望者数37人)、令和3(2021)年度は96.7%(就職内定者数59人/就職希望者数61人)と高い就職内定率を示している。【表59】

【表59】社会学科 最近4年間の就職実績

卒業年度	平成30	令和元	令和2	令和3	平均
	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	
卒業生数 (人)	32	36	46	70	46
進学者 (人)	0	0	1	1	1
就職希望者数 (人)	27	35	37	61	40
就職内定者数 (人)	26	33	35	59	38
就職内定率 (%)	96.3	94.3	94.6	96.7	95.5
卒業生に対する就職内定率※ (%)	81.3	91.7	77.8	85.5	84.1

【表59】で示した就職実績において、平成30(2018)～令和2(2020)年度の卒業生数は32人から46人で推移しており、内定率は平均約95%と高いものの、就職内定者数としては26人から35人程度となっている。しかし、【表1】のとおり、既設の人間総合学部社会学科は、平成30(2018)年度を境に安定した入学定員充足率を維持しており、令和3(2021)年度においては、卒業生数の増加に伴い、就職希望者数が前年の約1.6倍の61人に増加したが、就職内定率は96.7%と高い就職実績を維持している。令和4(2022)年度以降、卒業生数が80人から100人程度となるが、【表57】【表58】のとおり就職希望者数を大幅に上回る求人が安定的にあることから、地域からの高い人材需要に、より一層応えていくことができるものと考えている。

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

社会学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2(2020)年度の卒業生では、富山国際大学現代社会学部現代社会学科(富山市内)で100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。【表60】

【表60】 想定される競合大学の就職状況

北陸大学 国際コミュニケーション学部 心理社会学科

◆令和3(2021)年度開設のためデータなし

富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科

◆内定率等

	卒業者数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30(2018)年度 卒業者	-	-	-	100.0
令和元(2019)年度 卒業者	99	85	85	100.0
令和2(2020)年度 卒業者	102	89	89	100.0

〔教育学部〕

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近3年間の求人件数や就職希望者数に対する就職者数の実績は、以下に示す通り、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、高い数値で推移しており、このことは、既設の人間総合学部の子ども教育学科における人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものである。

今般の教育学部の幼児教育学科、初等中等教育学科の設置計画は、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、より充実した教育組織による教育内容として設置することから、これまで以上に求人件数を見込むことができるとともに、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。

(1) 最近3年間の求人件数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近3年間の求人件数の実績は、平成30(2018)年度は就職希望者 82人に対して求人件数 931件(内 教育及び保育職 397件)で求人倍率は 11.4倍、令和元(2019)年度は就職希望者 56人に対して求人件数 1,084件(内 教育及び保育職 353件)で求人倍率は 19.4倍、令和2(2020)年度は就職希望者 57人に対して求人件数 972件(内 教育及び保育職 334件)で求人倍率は 17.1倍と高い求人倍率となっている。【表61】

【表61】 人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の求人状況等

求人年度		平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
就職希望者数		82	56	57	65
教育及び 保育職	企業数(社)	186	172	158	172
	募集人数(人)	397	353	334	361
教育及び 保育職以外 の求人*	企業数(社)	237	299	225	254
	募集人数(人)	534	731	638	634
合計	企業数(社)	423	471	383	426
	募集人数(人)	931	1084	972	996
求人倍率(倍)		11.4	19.4	17.1	15.3

*福祉職を除く

(2) 最近3年間の就職者数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部子ども教育学科の最近3年間の就職率は、平成30(2018)年度は100%(就職者数82人/就職希望者数82人、(内教育及び保育職57人))、令和元(2019)年度は100%(就職者数56人/就職希望者数56人(内教育及び保育職48人))、令和2(2020)年度は100%(就職者数57人/就職希望者数57人(内教育及び保育職39人))と高い就職率を示している。【表62】

【表62】人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の就職実績

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業者数	86	59	64	70
進学者	1	1	2	1
就職希望者数	82	56	57	65
就職内定者数	82	56	57	65
(内 訳)	① 幼稚園教諭	5	6	6
	② 保育教諭	25	16	11
	③ 保育士	15	13	6
	④ 小学校教員(講師含む)	12	13	16
	⑤ 福祉職	2	1	5
	⑥ 一般企業	23	7	13
就職内定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教育職(①~④)の人数	57	48	39	48
教育職(①~④)の割合	69.5%	85.7%	68.4%	74.5%

*令和元(2019)年度以前は、幼児児童教育学科

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

幼児教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2(2020)年度の卒業生では、金城大学社会福祉学部子ども福祉学科(石川県白山市内)で100%、仁愛大学人間生活学部子ども教育学科(福井県越前市内)で98.3%、金沢星稜大学人間科学部こども学科(金沢市内)で100%、富山国際大学子ども育成学部子ども育成学科(富山市内)で100%である。

すべての大学で就職内定率100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。

なお、初等中等教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される金沢学院大学教育学部教育学科(金沢市内)は、平成30(2018)年度開設のため就職実績はない。【表63】

【表63】想定される競合大学の就職状況

金城大学 社会福祉学部 子ども福祉学科

◆就職率等

	卒業者数	就職希望者	内定者	就職率%
令和2(2020)年度 卒業生	*	33	33	100.0

* 学科単位の卒業生数は不明

仁愛大学人間生活学部 子ども教育学科

◆就職率等

	卒業者数	就職希望者	就職者	就職率%
平成30(2018)年度 卒業生	54	54	54	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	67	67	67	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	61	60	59	98.3

金沢星稜大学 人間科学部 こども学科

◆名目就職率等

	卒業者数	就職希望者	内定者	名目就職率%
令和元(2019)年度 卒業生	62	60	60	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	71	71	71	100.0

富山国際大学 子ども育成学部 子ども育成学科

◆内定率等

	卒業者数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30(2018)年度 卒業生	92	85	85	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	95	92	92	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	114	106	106	100.0

金沢学院大学 文学部 教育学科

◆平成30(2018)年度 開設のためデータなし

3 専門の調査機関による採用意向調査結果及び関連資料に基づく需要見通し

〔社会学部〕

(1) 専門の調査機関による採用意向調査結果

① 社会学部社会学科で学んだ卒業生の採用

社会学部社会学科卒業生の採用意向を把握するために、石川県を中心に富山県、福井県等に所在する事業所を対象にアンケート調査を実施した。

回答件数は329件であり、石川県所在の事業所は241件、富山県は43件、福井県は9件、これら北陸三県以外が36件であるが、職員を採用する地域（複数回答）として石川県と回答したのは296件、富山県が126件、福井県が86件、北陸三県以外が68件であり、回答事業所の多くは石川県を中心とした北陸三県において職員の採用を行っている事業所である。

社会学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 329件の 36.5%にあたる 120件が「採用したい」と回答しており、46.5%にあたる 153件が「採用を検討したい」と回答している。

また、毎年採用想定人数については、「採用したい」と回答した 120事業所では、「1人」が30件、「2～3人」が23件、「4～5人」が20件、「6～7人」が6件、「10人以上」が8件、「わからない」が22件である。「2～3人」を2人、「4～5人」を4人、「6～7人」を6人、「8～9人」を8人、「10人以上」を10人として、毎年採用想定人数を合計すると、「採用したい」と回答した 120事業所において毎年採用想定人数は 360人となる。「採用を検討したい」と回答した 153事業所においても、「1人」が57件、「2～3人」が15件、「4～5

人」が6件、「6～7人」が4件、「8～9人」が3件、「10人以上」が2件、「わからない」が10件であることから、採用想定人数はさらに増える可能性も考えられる。このことから、社会学科の毎年の卒業生（95人）に対して十分な数の採用人数が見込まれ、社会学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

また、社会学部社会学科卒業生を「採用したい」と回答した120事業所について、今後の正規社員採用計画の回答結果を見ると、①3～5年後の採用計画では、「採用人数を増やしたい」が60事業所（50.0%）、「採用人数をやや増やしたい」が19事業所（15.8%）であり、合計すると79事業所（65.8%）は、3～5年後の正規社員の採用を増やしたいと考えている。また、②6～10年後の採用計画では、「採用人数を増やしたい」が50事業所（41.7%）、「採用人数をやや増やしたい」が19事業所（15.8%）であり、合計すると69事業所（57.5%）は、6～10年後の正規社員の採用を増やしたいと考えている。【表64】

【表64】社会学部社会学科卒業生を「採用したい」と回答した120事業所の今後の正規社員採用計画

	1 採用人数を増 やしたい	2 採用人数をや や増やしたい	3 現状と同じ	4 採用人数をや や減らしたい	5 採用人数を減 らしたい	6 わからない	不明	合計
① 3～5年後								
回答数(件)	60	19	39	0	0	2	0	120
回答割合(%)	(50.0)	(15.8)	(32.5)	(0.0)	(0.0)	(1.7)	(0.0)	(100.0)
② 6～10年後								
回答数(件)	50	19	30	0	2	17	2	120
回答割合(%)	(41.7)	(15.8)	(25.0)	(0.0)	(1.7)	(14.2)	(1.7)	(100.0)

さらに、中長期的な採用見通しとして、6～10年後の正規社員採用計画（【表54】②）において「採用人数を増やしたい」と回答した50事業所の採用想定人数を見ると、毎年の採用想定人数は182人である。また、「採用人数をやや増やしたい」と回答した19事業所については、毎年の採用想定人数は64人である。6～10年後の正規社員の採用を増やしたいと考えている69事業所の毎年の採用想定人数は246人となることから、社会学部社会学科卒業生に対する中長期的な採用意向は、十分にあると考えられる。【表65】

【表65】社会学部社会学科卒業生を「採用したい」と回答した120事業所の6～10年後の正規社員採用計画別採用人数

		1 1人	2 2～3人	3 4～5人	4 6～7人	5 8～9人	6 10人以上	7 わからない	不明	合計
採用人数を増 やしたい	回答数(件)	12	10	10	4	7	3	4	0	50
	採用人数(人)	<12>	<20>	<40>	<24>	<56>	<30>	-	-	<182>
採用人数をや や増やしたい	回答数(件)	6	6	3	1	1	2	0	0	19
	採用人数(人)	<6>	<12>	<12>	<6>	<8>	<20>	-	-	<64>
現状と同じ	回答数(件)	8	5	6	1	1	1	8	0	30
	採用人数(人)	<8>	<10>	<24>	<6>	<8>	<10>	-	-	<66>
採用人数をや や減らしたい	回答数(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	採用人数(人)	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	-	-	<0>
採用人数を減 らしたい	回答数(件)	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	採用人数(人)	<1>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	-	-	<1>
わからない	回答数(件)	2	2	1	0	2	1	9	0	17
	採用人数(人)	<2>	<4>	<4>	<0>	<16>	<10>	-	-	<36>
不明	回答数(件)	1	0	0	0	0	1	0	0	2
	採用人数(人)	<1>	<0>	<0>	<0>	<0>	<10>	-	-	<11>
合計	回答数(件)	30	23	20	6	11	8	22	0	120
	採用人数(人)	<30>	<46>	<80>	<36>	<88>	<80>	-	-	<360>

注) 採用人数(人) = 毎年の採用人数(選択肢1～6) × 当該選択肢の回答数。

ただし、「2～3人」については毎年の採用人数を2人、「4～5人」は4人、「6～7人」は6人、「8～9人」は8人、「10人以上」は10人とする。

【資料3】北陸学院大学における社会学部社会学科設置に関するアンケート調査結果

〔教育学部〕

(1) 関連資料に基づく需要見通し

保育士及び幼稚園教諭に関しては、厚生労働省では、平成25（2013）年度に「待機児童の解消加速化プラン」の確実な実施のために、子ども・子育て支援新制度において国全体で必要となる保育士数を明らかにした上で、数値目標と期限を明示し、人材育成や再就職支援等を協力に進めるための「保育士確保プラン」を策定し、平成29（2018）年度には第2期として「子育て安心プラン」、令和3（2021）年度から第3期として「新子育て安心プラン（令和2（2020）年12月21日公表）」を公表し、令和3（2021）年度から令和6（2024）年度末までの4年間で約14万人分の保育の受け皿を整備するとしており、保育士及び幼稚園教諭に関する人材需要のニーズは今後も非常に高いものとする。【資料4】

【資料4】 厚生労働省「新子育て安心プランの概要」

また、本学が所在する石川県及び近隣においても、すべての業種における有効求人倍率（令和2（2020）年5月）は、石川県 1.32倍、富山県が 1.30倍、福井県が 1.66倍【参考1】の中で、令和2（2020）年5月における保育士の各都道府県の有効求人倍率は、石川県では 1.57倍、富山県では 2.18倍、福井県は 2.02倍【参考2】と、すべての業種の有効求人倍率よりも高く、保育士確保が困難な状況であり、石川県及び近隣においても採用に関するニーズは十分にあると考える。

【参考1】すべての業種における有効求人倍率は「厚生労働省「職業安定業務統計」受理地別・季節調整値・新規学卒者を除きパートタイムを含む」（令和2（2020）年5月）より抜粋

【参考2】保育士の各都道府県の有効求人倍率は「保育の現場・職業の魅力向上検討会（第5回）」令和2（2020）年8月24日開催：資料より抜粋

なお、石川県では、令和3（2021）年度当初予算主要事業として「保育士確保対策と資質向上」として、3,600万円の予算を確保し、保育士確保に向けた取組みを主要事項としている。

【資料5】石川県 令和3年度 実質当初予算主要事業 16頁

文部科学省では、小学校、中学校、高等学校の教員不足の実態を把握するため、初の全国調査を令和3（2021）年5月に実施すると明らかにした。これは退職者の補充のための教員採用に加え、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までに順次進められる小学校の35人学級導入により、5年間で約1万3,500人の教員定数増が必要と試算されている。さらに令和4（2022）年度から教科担任制の本格導入も加わることで、必要な教員数はさらに膨らむことが予想されている。

しかし一方で、令和3（2021）年度の小学校、中学校、高等学校などの学校全体の採用試験倍率は 3.6倍と前年度の 3.9倍を下回り、ピークだった平成20（2000）年度の 13.3倍から右肩下が

りの状態が続いている。特に小学校教員の倍率については、調査結果が残る昭和54（1979）年以來、過去最低の 2.5倍となっている。

本学が所在する石川県においても、令和3（2022）年度の採用倍率は、小学校、中学校、高等学校などの学校全体で 3.8倍（採用者数 315人）、小学校教諭等は 2.7倍（採用者数 135人）である。富山県は小学校、中学校、高等学校などの学校全体で 2.3倍（採用者数 354人。小学校、中学校、高等学校等個別の採用者数は公表していない）である。福井県は小学校、中学校、高等学校などの学校全体で 4.1倍（採用者数 218人）、小学校教諭等は 2.7倍（採用者数 105人）である。新潟県は小学校、中学校、高等学校などの学校全体で 3.0倍（採用者数 1423人）、小学校教諭等は 2.0倍（採用者数 255人）であり、新潟県以外は教員への志願者の減少傾向が続いているが、石川県を含めた近隣県では募集人員の減員を行っていない。

【表66】小・中・高教員の採用試験の過去3年間の推移

		令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	令和4（2022）年度
石川県	志願者数 採用者数	1121人 ^{*1} (3.6倍) 315人	1184人 (3.8倍) 315人	1132人 (3.6倍) 315人
富山県	志願者数 採用者数	782人 ^{*1} (2.4倍) 325人	836人 (2.3倍) 354人	754人 (2.2倍) 335人
福井県	志願者数 採用者数	735人 ^{*1} (3.6倍) 200人	824人 (4.1倍) 218人	758人 (3.4倍) 218人
新潟県	志願者数 採用者数	1156人 (2.7倍) 421人	1163人 (2.5倍) 464人	1423人 (3.0倍) 464人

() 内は志願倍率

* 1 受験者数になります。

※ 上記の志願者数及び採用者数は、各県の教育委員会が発表しているHPより記載。

また、石川県では「第3期 石川の教育振興基本計画 2021→2025」【資料5】において、令和2（2020）年5月現在で、石川県公立学校教員年齢構成において 50歳以上が全体の 36.5%を占めおり、今後の教員の大量退職・大量採用が続き、急激な世代交代が進んでいることから、即戦力となる優秀な教員の確保をはじめ、ベテランの指導力の継承と教員の専門性の向上が喫緊の課題としている。

【資料6】石川県 「第3期 石川の教育振興基本計画 2021→2025」（抜粋）10頁

以上のことから、保育士及び幼稚園教諭並びに教員養成に関しては、社会問題解決に必要な不可欠な課題であることから、教育の質向上に努めることで社会的ニーズは十分であると考えられる。

以上

資 料

【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書

【資料2】2022年度 広報行動計画

【資料3】北陸学院大学における社会学部社会学科設置に関するアンケート調査結果

【資料4】厚生労働省「新子育て安心プランの概要」

【資料5】石川県 令和3年度 実質当初予算主要事業 16頁

【資料6】石川県 「第3期 石川の教育振興基本計画 2021→2025」 (抜粋) 10頁

学生確保の見通し等を記載した書類 資料

目 次

- 【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書・・・2頁
- 【資料2】2022年度 広報行動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35頁
- 【資料3】北陸学院大学における社会学部社会学科設置に関するアンケート調査結果・・・42頁
- 【資料4】厚生労働省「新子育て安心プランの概要」・・・・・・・・・・・・59頁
- 【資料5】石川県 令和3年度 実質当初予算主要事業 16頁・・・・・・・・63頁
- 【資料6】石川県 「第3期 石川の教育振興基本計画 2021→2025」(抜粋)10頁・・・83頁

北陸学院大学における新学部設置に関する
高校生アンケート調査結果

報 告 書

令和3年12月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

I アンケート調査概要	1
II アンケート集計結果	4
III 新学部学科入学意向	15
アンケート調査票	28

I アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

北陸学院大学では、令和5年度に新たに3学部4学科を設置する計画をしており、新学部学科への入学意向を把握するために、高校生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査

3. 調査対象

北陸地域（石川県、富山県、福井県）、新潟県に所在する高等学校、及びキリスト教学校教育同盟加盟校の高等学校の高校2年生を対象にアンケート調査を実施した。

4. 調査実施

令和3年8月～9月に調査を実施した。（一部の高校は10月以降に回収）

5. 調査方法

事前にアンケート調査実施の協力依頼を行い、了解の得られた高等学校に対して郵送及び訪問によるアンケート調査票の配布及び回収を大学が行い、集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。なお、1校のみWebアンケートにより回答を回収した。

6. 回収状況

回収校数 78 校 回収票数 8,522 票（回収表はP.2～P.3参照）

北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査

回収表

回収日	区分 code	区分	高校 code	高等学校名	ナンバリング		回収数
9.17	1	石川県	1	小松大谷高等学校	1383	1505	123
9.02	1	石川県	2	小松高等学校	1	147	147
9.06	1	石川県	3	鶴来高等学校	148	258	111
10.11	1	石川県	4	松任高等学校	6551	6573	23
8.27	1	石川県	5	翠星高等学校	259	295	37
9.21	1	石川県	6	小松市立高等学校	1506	1645	140
9.06	1	石川県	7	野々市明倫高等学校	296	529	234
9.13	1	石川県	8	金沢市立工業高等学校	530	759	230
9.21	1	石川県	9	金沢辰巳丘高等学校	1646	1711	66
9.03	1	石川県	10	遊学館高等学校	5027	5375	349
9.29	1	石川県	11	金沢高等学校	4610	4922	313
9.13	1	石川県	12	金沢龍谷高等学校	760	903	144
10.25	1	石川県	13	星稜高等学校	7887	8062	176
9.01	1	石川県	14	金沢錦丘高等学校	904	975	72
9.13	1	石川県	15	金沢泉丘高等学校	976	1015	40
9.22	1	石川県	16	金沢泉丘高等学校(通信)	1712	1783	72
9.01	1	石川県	17	金沢二水高等学校	1016	1382	367
9.16	1	石川県	18	金沢桜丘高等学校	1784	1932	149
9.09	1	石川県	19	金沢西高等学校	2992	3248	257
9.21	1	石川県	20	金沢中央高等学校	1933	1997	65
9.06	1	石川県	21	金沢伏見高等学校	3249	3450	202
9.27	1	石川県	22	金沢商業高等学校	4359	4609	251
9.24	1	石川県	23	石川県立工業高等学校	4923	5026	104
9.03	1	石川県	24	金沢北陵高等学校	3451	3525	75
10.21	1	石川県	25	金沢向陽高等学校	8063	8120	58
10.11	1	石川県	26	津幡高等学校	6489	6550	62
10.29				津幡高等学校(追加)	8121	8145	25
9.01	1	石川県	27	鵬学園高等学校	3526	3692	167
9.29	1	石川県	28	宝達高等学校	5685	5707	23
9.27	1	石川県	29	鹿西高等学校	5570	5684	115
9.01	1	石川県	30	田鶴浜高等学校	3693	3726	34
9.09	1	石川県	31	飯田高等学校	3727	3821	95
9.13	1	石川県	32	大聖寺実業高等学校	3822	3906	85
9.09	1	石川県	33	大聖寺高等学校	3907	4050	144
9.01	1	石川県	34	加賀高等学校	4051	4063	13
9.03	1	石川県	35	アットマーク国際高等学校	5562	5569	8
9.22	1	石川県	36	穴水高等学校	1998	2022	25
9.14	1	石川県	37	門前高等学校	2023	2036	14
9.29	1	石川県	38	志賀高等学校	5529	5561	33
9.01	1	石川県	39	能登高等学校	4064	4117	54
9.09	1	石川県	40	日本航空高等学校石川	4118	4158	41
9.24	2	富山県	41	入善高等学校	5376	5528	153
未	2	富山県	42	富山西高等学校			
9.21	2	富山県	43	八尾高等学校	2037	2110	74
9.22	2	富山県	44	龍谷富山高等学校	2111	2129	19
10.06	2	富山県	45	富山国際大学付属高等学校	6574	6722	149
9.06	2	富山県	46	新川高等学校	4159	4242	84
10.05	2	富山県	47	小杉高等学校	6723	6758	36
10.18	2	富山県	48	伏木高等学校	8146	8247	102
10.20	2	富山県	49	志貴野高等学校	8248	8321	74

回収日	区分 code	区分	高校 code	高等学校名	ナンバリング		回収数
9. 22	2	富山県	50	砺波高等学校	7713	7886	174
11. 26	2	富山県	51	呉羽高等学校	8452	8522	71
9. 01	2	富山県	52	大門高等学校	4243	4279	37
10. 15	2	富山県	53	南砺福野高等学校	6759	6902	144
9. 22	2	富山県	54	高岡第一高等学校	2130	2222	93
10. 13	2	富山県	55	魚津工業高等学校	6903	7045	143
9. 15	2	富山県	56	中央農業高等学校	2223	2261	39
9. 21	3	福井県	57	北陸高等学校	2262	2399	138
9. 24	3	福井県	58	福井南高等学校	6117	6181	65
9. 01	3	福井県	59	大野高等学校	4280	4306	27
9. 13	3	福井県	60	鯖江高等学校	4307	4334	28
9. 13	3	福井県	61	武生商業高等学校	4335	4358	24
10. 12	3	福井県	62	坂井高等学校	7046	7070	25
9. 24	3	福井県	63	星槎国際 福井	6097	6116	20
9. 17	4	新潟県	64	新潟産業大学附属高等学校	2400	2530	131
10. 12	4	新潟県	65	新潟第一高等学校	7071	7355	285
9. 16	6	キ同盟等	66	東北学院高等学校	2531	2661	131
9. 14	6	キ同盟等	67	会津北嶺高等学校	2662	2745	84
10. 04	6	キ同盟等	68	新島学園高等学校	7356	7519	164
9. 16	6	キ同盟等	69	東京純心女子高等学校	2746	2796	51
9. 21	6	キ同盟等	70	カリタス女子高等学校	2797	2953	157
9. 29	6	キ同盟等	71	九州学院高等学校	5797	6096	300
10. 05	2	富山県	72	氷見高等学校	7520	7555	36
9. 21	2	富山県	73	石動高等学校	2954	2991	38
10. 01	2	富山県	74	砺波工業高等学校	7556	7575	20
10. 12	1	石川県	75	寺井高等学校	7576	7599	24
11. 10	6	キ同盟等	76	香里ヌヴェール学院高等学校	8322	8451	130
9. 29	6	キ同盟等	77	聖心ウルスラ学園高等学校	5708	5796	89
10. 07	3	福井県	78	羽水高等学校	7600	7699	100
9. 03	1	石川県	79	北陸学院高等学校	6182	6488	307
10. 11				北陸学院高等学校(追加)	7700	7712	13
78 校						計	8522

回収状況

高校所在地	校数	票数
石川県	42	5,087
富山県	18	1,486
福井県	8	427
新潟県	2	416
キ同盟等※	8	1,106
計	78	8,522

※キ同盟等：キリスト教同盟校及びカトリック校

Ⅱ アンケート集計結果

「北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査」有効回答票：8,522 票

問1 あなたの居住地についてお尋ねします。

回答者の居住地は、「石川県」が 58.9% (5,022 件) で最も多く、約 6 割の回答者は石川県内居住者である。このほか、「富山県」17.3% (1,471 件)、「福井県」5.0% (425 件)、「新潟県」4.8% (411 件) などとなっている。

	件数	%
1 石川県	5,022	58.9
2 富山県	1,471	17.3
3 福井県	425	5.0
4 新潟県	411	4.8
5 長野県	17	0.2
6 その他	1,119	13.1
不明	57	0.7
合計	8,522	100.0

(「6 その他」の回答)

熊本県	277	福島県	78	関西	1
群馬県	145	愛知県	5	三重県	1
大阪府	128	埼玉県	5	滋賀県	1
宮城県	127	京都府	3	石川県	1
東京都	107	兵庫県	2	東京都、大阪府	1
神奈川県	91	奈良県	2	栃木県	1
宮崎県	82	和歌山県	1		1

問2 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。

高校卒業後の進路について尋ねたところ、「大学進学（専門職大学含む）」が66.1%（5,631件）で最も多く、回答者の3分の2が大学進学を希望している。大学進学以外では、「就職」が13.8%（1,173件）で2番目に多く、「専門学校進学」が12.3%（1,050件）が続いている。「短期大学進学（専門職短期大学含む）」は4.8%（410件）となっている。

	件数	%
1 大学進学（専門職大学含む）	5,631	66.1
2 短期大学進学（専門職短期大学含む）	410	4.8
3 専門学校進学	1,050	12.3
4 就職	1,173	13.8
5 その他	195	2.3
不明	63	0.7
合計	8,522	100.0

（「5 その他」の回答）

未定	24	ピアニスト	1	起業	1
決まっていない。	10	フリーター	1	競輪養成所	1
決まってない。	6	プロかBCリーグ	1	経営	1
まだ決まっていない。	5	まだです。	1	決めていない。	1
留学	4	まだわからない。	1	決めれてないです。	1
まだ考えていない。	3	まだ決まっていない。検討。	1	考えている。	1
わからない。	3	まだ決まってない。	1	国公立	1
考え中	2	まだ決まらない。	1	大学進学と今の事業を続ける。	1
特に決まっていない。	2	まだ決めていない。	1	東京周辺での就職	1
悩んでいる。	2	まだ全く考えていない。	1	農業関係	1
分からない。	2	海外	1	未定です。	1
1と4で悩んでいる。	1	海外進学	1	迷っています。	1
アニメーション学院	1	海上保安	1	迷っている。	1
アニメーション学院系	1	分からない	1		

※ 問3以降は、問2で「1、2、3」のいずれかを回答された方にお聞きします。

問3 あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。

高校卒業後に大学、短期大学もしくは専門学校への進学を希望している回答者について、進学を希望する専門分野を第2希望まで尋ねたところ、第1希望では、「社会科学関係」が19.8%（1,405件）で最も多く、次いで「理学・工学・農学関係」18.5%（1,314件）となっている。このほか、「保健衛生学関係」13.8%（981件）、「人文科学関係」11.8%（839件）、「教育学・保育学関係」10.3%（731件）などが比較的多い。

第2希望では「社会科学関係」が16.0%（1,133件）で最も多く、次いで「人文科学関係」15.3%（1,087件）、「教育学・保育学関係」14.0%（992件）などとなっている。

【全体】

	第1希望		第2希望	
	件数	%	件数	%
1 家政学関係（栄養学、食物学、生活科学、住居学、被服学など）	466	6.6	640	9.0
2 社会科学関係（経済学、社会学、商学・経営学、法学・政治学など）	1,405	19.8	1,133	16.0
3 教育学・保育学関係（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の教員養成、保育士など）	731	10.3	992	14.0
4 人文科学関係（文学、史学、哲学、心理学、外国語など）	839	11.8	1,087	15.3
5 理学・工学・農学関係（数学、物理学、化学、生物学、情報科学、生命科学、機械工学、電気電子工学、建築学、農学、林学、水産学など）	1,314	18.5	620	8.7
6 保健衛生学関係（看護学、理学療法学、作業療法学、臨床検査学、放射線など）	981	13.8	615	8.7
7 医学・歯学・薬学関係	346	4.9	636	9.0
8 芸術学関係（音楽、デザイン、美術など）	407	5.7	648	9.1
9 その他	545	7.7	232	3.3
不明	57	0.8	488	6.9
合計	7,091	100.0	7,091	100.0

次に、高校卒業後の進路として「大学進学（専門職大学含む）」と回答した回答者（以下、「大学進学希望者」という。）に絞って進学希望分野の回答結果をみると、第1希望では「社会科学関係」が23.1%（1,301件）で最も多く、約4分の1を占めている。また、「理学・工学・農学関係」も20.9%（1,176件）と2割以上を占めている。このほか、「人文科学関係」14.3%（806件）、「保健衛生学関係」13.4%（753件）、「教育学・保育学関係」10.1%（569件）などとなっている。

第2希望では、「社会科学関係」が17.5%（987件）で最も多く、次いで「人文科学関係」17.2%（969件）、「教育学・保育学関係」14.0%（787件）などとなっている。

【大学進学希望者】※問2で「1 大学進学（専門職大学含む）」と回答した回答者

	第1希望		第2希望	
	件数	%	件数	%
1 家政学関係（栄養学、食物学、生活科学、住居学、被服学など）	277	4.9	452	8.0
2 社会科学関係（経済学、社会学、商学・経営学、法学・政治学など）	1,301	23.1	987	17.5
3 教育学・保育学関係（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の教員養成、保育士など）	569	10.1	787	14.0
4 人文科学関係（文学、史学、哲学、心理学、外国語など）	806	14.3	969	17.2
5 理学・工学・農学関係（数学、物理学、化学、生物学、情報科学、生命科学、機械工学、電気電子工学、建築学、農学、林学、水産学など）	1,176	20.9	512	9.1
6 保健衛生学関係（看護学、理学療法学、作業療法学、臨床検査学、放射線など）	753	13.4	512	9.1
7 医学・歯学・薬学関係	286	5.1	529	9.4
8 芸術学関係（音楽、デザイン、美術など）	222	3.9	434	7.7
9 その他	198	3.5	147	2.6
不明	43	0.8	302	5.4
合計	5,631	100.0	5,631	100.0

（「9 その他」の回答）

第1希望			
美容	53	介護福祉	1
スポーツ	22	看護福祉	1
美容師	15	観光	1
ブライダル	10	観光、ブライダル	1
美容系	10	観光、国際	1
トリマー	7	観光学	1
製菓	7	技術	1
スポーツ関係	6	救命救急	1
医療事務	6	競輪養成所	1
美容関係	6	経済、経営	1
未定	6	芸術工学	1
国際関係	5	芸能	1
体育学	5	芸能、声優関係	1
動物	5	芸能マネージャー	1
美容、理容	5	芸能活動	1
スポーツ学	4	決まってません。	1

体育系	4	健康、スポーツ	1
動物看護	4	健康福祉	1
動物関係	4	語学関係、美容関係	1
スポーツ系	3	公務員	1
自動車整備	3	公務員(事務系)	1
社会福祉	3	公務員事務系	1
獣医学	3	考え中です	1
声優	3	航空宇宙工学	1
体育	3	航空関係	1
福祉	3	航空系	1
理容、美容	3	航空操縦学	1
ウェディング	2	国際関係など	1
スポーツトレーナー	2	国際教養	1
ブライダルプランナー	2	国際教養学	1
まだ決まっていない。	2	国際商学	1
介護	2	自動車	1
国際学	2	自動車整備士	1
国際学部	2	社会福祉(介護)	1
国際系	2	社会福祉系	1
司書	2	社会福祉士	1
地域創造	2	柔道整復師	1
美専	2	柔道整復師的なの	1
美容理容	2	獣医、獣医看護学	1
理美容	2	獣医学(動物看護師)	1
理容美容	2	消防学校	1
映像	2	情報、Youtube	1
TV関係	1	情報学	1
アニメやゲームなど	1	食事	1
アメリカの大学で航空	1	人間科学	1
イベント	1	声を使う仕事	1
ウエディングプランナー	1	声優、タレント、アニメーション	1
エステ	1	声優、ナレーター	1
エステティシャン	1	製菓、動物	1
エステティシャン、メイクアップアーティスト	1	製菓、美容	1
キャビンアテンダント	1	総合学	1
ゲーム	1	体育・スポーツ系	1
ゲームのプログラミング	1	体育学関係	1
ゲームプログラミング	1	体育学部	1
サッカー選手	1	体育専門、スポーツ	1
スポーツ、健康	1	調理	1
スポーツ、体	1	調理、製菓	1
スポーツ、体育	1	調理系	1
スポーツに関わること。	1	調理師	1
スポーツに関係のある大学	1	都市デザイン	1
スポーツ科学	1	動物(トリマー)	1
スポーツ学科	1	動物(ペット)	1
スポーツ系、体育系	1	動物、トリマー	1
スポーツ系のところ	1	動物、ペット	1
スポーツ健康	1	動物看護学	1
スポーツ健康、スポーツマネジメント	1	動物専門	1
スポーツ健康学部	1	美容、ファッション	1
ソフトウェアプログラミング	1	美容、ヘアメイク	1
ドッグトレーナー	1	美容、メイク	1
トリマー、ペットショップ、美容	1	美容、メイク、ウエディングプランナー	1
ビジネス関係(いろいろ)	1	美容、理容、美容部員	1
ファッション	1	美容、理容系	1
ブライダル、ウエディング	1	美容・理容	1
ブライダル、ネイリスト	1	美容科	1
ブライダル、美容	1	美容学	1

ブライダル科	1	美容師、ブライダル	1
ブライダル関係	1	美容師、ホテル・ブライダル	1
プログラム関係	1	美容師、理容師等	1
プロゴルファー	1	美容専門学校	1
ペット、トリマーなど	1	美容理容学校	1
ペット、美容	1	美容理容専門学校	1
ペットトリマー	1	美容・理容関係	1
ペット総合学科	1	病棟クラーク	1
ホテル、ブライダル	1	服飾系	1
まだわからない	1	福祉(介護・老人ホーム等)	1
まだ考えていない。	1	福祉、介護	1
マッサージ師(柔道福祉士)	1	仏教学部	1
メイク	1	分からない。決めてない。	1
リハビリ、公務員	1	文理融合	1
医療	1	保安	1
映像関係	1	放送系	1
映像編集	1	理・美容	1
英語関係の仕事	1	理美容関係	1
音響	1	理容	1
化粧	1	理容、美容、ブライダル	1
何も決まっていない。	1	理容・美容	1
介護関係	1	理容・美容系、ブライダル系	1
介護士	1	理容美容関係	1
調理師免許が取れるところ。他にもそれぞれの食べ物(中華、フランス、製菓)が学べたり、資格が得られるところ。			
第2希望			
美容	11	環境学	1
観光学	5	警察学校	1
スポーツ	4	芸能の専門的知識	1
公務員	3	工場	1
スポーツ学、体育学	2	考え中	1
スポーツ系	2	航海学	1
製菓	2	事務系	1
福祉	2	消防	1
福祉系	2	心理学	1
アニメ	1	人間社会学域	1
アニメーション、映像	1	水産	1
ウェディングプランナー	1	生物	1
ウエディングプランナー	1	体育学関係	1
ゲーム実況者	1	第二希望はない。職に関わることで妥協はしない。	1
ジム	1	調理	1
スポーツ、体育	1	調理、製菓	1
スポーツトレーナー	1	天文学	1
スポーツマネジメント	1	動物	1
スポーツ科学	1	動物看護	1
スポーツ科学部	1	動物系	1
スポーツ健康科学、バイオメカニクス学	1	特に決まっていない。	1
スポーツ健康化学	1	美・理容	1
健康、スポーツ、体育学関係	1	美術	1
ペットトリマー	1	美容・理容	1
ホテル、ブライダル	1	美容師	1
まだわからない	1	服飾	1
ユーチューバー	1	保育系のみです。	1
リハビリ士	1	融合	1
医療事務	1	陸上自衛隊	1
映像	1	歴史学	1
音響	1	環境をよりよくすることができる学問	1
音響学	1		

問4 あなたは北陸学院大学の各学部学科について受験したいと思いますか。

北陸学院大学の改組後の3学部4学科について、それぞれ受験の意向を尋ねた結果が以下の通りである。

① 健康科学部栄養学科

健康科学部栄養学科を「受験したい」と回答したのは3.6% (254件)、「受験を検討する」と回答したのは8.5% (601件)であり、合計すると、12.1% (855件)が受験に関心を示している。

「受験しない」は85.2% (6,039件)である。

次に、大学進学希望者についてみると、「受験したい」は3.4% (191件)、「受験を検討する」は8.9% (500件)であり、12.3% (691件)が受験に関心を示している。

【全体】

	件数	%
1 受験したい	254	3.6
2 受験を検討する	601	8.5
3 受験しない	6,039	85.2
不明	197	2.8
合計	7,091	100.0

【大学進学希望者】

	件数	%
1 受験したい	191	3.4
2 受験を検討する	500	8.9
3 受験しない	4,802	85.3
不明	138	2.5
合計	5,631	100.0

② 社会学部社会学科

社会学部社会学科を「受験したい」と回答したのは3.9% (280件)、「受験を検討する」と回答したのは11.8% (836件)であり、合計すると、15.7% (1,116件)が受験に関心を示している。「受験しない」は81.6% (5,787件)である。

次に、大学進学希望者についてみると、「受験したい」は4.5% (256件)、「受験を検討する」は13.2% (745件)であり、17.7% (1,001件)が受験に関心を示している。

【全体】

	件数	%
1 受験したい	280	3.9
2 受験を検討する	836	11.8
3 受験しない	5,787	81.6
不明	188	2.7
合計	7,091	100.0

【大学進学希望者】

	件数	%
1 受験したい	256	4.5
2 受験を検討する	745	13.2
3 受験しない	4,506	80.0
不明	124	2.2
合計	5,631	100.0

③ 教育学部幼児教育学科

教育学部幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは2.7%（191件）、「受験を検討する」と回答したのは7.7%（549件）であり、合計すると、10.4%（740件）が受験に関心を示している。「受験しない」は86.6%（6,142件）である。

次に、大学進学希望者についてみると、「受験したい」は2.7%（150件）、「受験を検討する」は7.7%（436件）であり、10.4%（586件）が受験に関心を示している。

【全体】			【大学進学希望者】		
	件数	%		件数	%
1 受験したい	191	2.7	1 受験したい	150	2.7
2 受験を検討する	549	7.7	2 受験を検討する	436	7.7
3 受験しない	6,142	86.6	3 受験しない	4,891	86.9
不明	209	2.9	不明	154	2.7
合 計	7,091	100.0	合 計	5,631	100.0

④ 教育学部初等中等教育学科

教育学部初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは1.9%（135件）、「受験を検討する」と回答したのは8.0%（564件）であり、合計すると、9.9%（699件）が受験に関心を示している。「受験しない」は86.9%（6,163件）である。

次に、大学進学希望者についてみると、「受験したい」は2.2%（124件）、「受験を検討する」は8.8%（493件）であり、11.0%（617件）が受験に関心を示している。

【全体】			【大学進学希望者】		
	件数	%		件数	%
1 受験したい	135	1.9	1 受験したい	124	2.2
2 受験を検討する	564	8.0	2 受験を検討する	493	8.8
3 受験しない	6,163	86.9	3 受験しない	4,860	86.3
不明	229	3.2	不明	154	2.7
合 計	7,091	100.0	合 計	5,631	100.0

※ 問5は、問4の①～④のいずれかで「1 受験したい」もしくは「2 受験を検討する」を回答した方にお聞きします。

問5（1）北陸学院大学のいずれかの学部学科を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。

北陸学院大学のいずれかの学部学科を受験して合格した場合の入学意向について尋ねたところ、「入学したい」と回答したのは16.8%（318件）であり、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは81.3%（1,544件）となっている。

大学進学希望者についてみると、「入学したい」は15.6%（249件）であり、「併願先の結果によっては入学したい」は82.5%（1,316件）となっている。

【全体】

	件数	%
1 入学したい	318	16.8
2 併願先の結果によっては入学したい	1,544	81.3
不明	36	1.9
合計	1,898	100.0

【大学進学希望者】

	件数	%
1 入学したい	249	15.6
2 併願先の結果によっては入学したい	1,316	82.5
不明	30	1.9
合計	1,595	100.0

問5（2）あなたが入学したい学部学科を1つだけ選んでください。

3学部4学科の中で入学したい学部学科は、「社会学部社会学科」が40.5%（769件）で最も多く、次いで「健康科学部栄養学科」は26.8%（509件）、「教育学部幼児教育学科」は16.9%（321件）、「教育学部初等中等教育学科」は14.0%（265件）となっている。

大学進学希望者では、「社会学部社会学科」が44.1%（704件）で最も多く、次いで「健康科学部栄養学科」は24.8%（395件）、「教育学部初等中等教育学科」は15.6%（249件）、「教育学部幼児教育学科」は13.7%（218件）となっている。

【全体】

	件数	%
1 健康科学部栄養学科	509	26.8
2 社会学部社会学科	769	40.5
3 教育学部幼児教育学科	321	16.9
4 教育学部初等中等教育学科	265	14.0
不明	34	1.8
合計	1,898	100.0

【大学進学希望者】

	件数	%
1 健康科学部栄養学科	395	24.8
2 社会学部社会学科	704	44.1
3 教育学部幼児教育学科	218	13.7
4 教育学部初等中等教育学科	249	15.6
不明	29	1.8
合計	1,595	100.0

次に、問5（1）の入学意向の回答別に、入学したい学部学科の回答結果をみると、北陸学院大学に「入学したい」と回答した回答者については、「社会学部社会学科」が36.8%（117件）で最も多く、「健康科学部栄養学科」が34.0%（108件）で続いている。「教育学部幼児教育学科」は19.2%（61件）、「教育学部初等中等教育学科」は9.7%（31件）となっている。

北陸学院大学への入学について「併願先の結果によっては入学したい」と回答した回答者については、「社会学部社会学科」が42.2%（652件）で最も多く、「健康科学部栄養学科」は26.0%（401件）、「教育学部幼児教育学科」は16.6%（257件）、「教育学部初等中等教育学科」は15.2%（234件）となっている。

【全体】

問5（1） 北陸学院大学 入学意向		問5（2） 入学したい学部学科					合 計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	不 明	
入学したい	件数	108	117	61	31	1	318
	%	34.0	36.8	19.2	9.7	0.3	100.0
併願先の結果によ っては入学したい	件数	401	652	257	234	0	1,544
	%	26.0	42.2	16.6	15.2	0.0	100.0
不 明	件数	0	0	3	0	33	36
	%	0.0	0.0	8.3	0.0	91.7	100.0
合 計	件数	509	769	321	265	34	1,898
	%	26.8	40.5	16.9	14.0	1.8	100.0

大学進学希望者についてみると、北陸学院大学に「入学したい」と回答した回答者については、「社会学部社会学科」が41.8%（104件）で最も多く、「健康科学部栄養学科」は29.7%（74件）、「教育学部幼児教育学科」は16.9%（42件）、「教育学部初等中等教育学科」は11.2%（28件）となっている。

北陸学院大学への入学について「併願先の結果によっては入学したい」と回答した回答者については、「社会学部社会学科」が45.6%（600件）で最も多く、「健康科学部栄養学科」は24.4%（321件）、「教育学部初等中等教育学科」は16.8%（221件）、「教育学部幼児教育学科」は13.2%（174件）、となっている。

【大学進学希望者】

問5(1) 北陸学院大学 入学意向		問5(2) 入学したい学部学科					合 計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	不 明	
入学したい	件数	74	104	42	28	1	249
	%	29.7	41.8	16.9	11.2	0.4	100.0
併願先の結果によ っては入学したい	件数	321	600	174	221	0	1,316
	%	24.4	45.6	13.2	16.8	0.0	100.0
不 明	件数	0	0	2	0	28	30
	%	0.0	0.0	6.7	0.0	93.3	100.0
合 計	件数	395	704	218	249	29	1,595
	%	24.8	44.1	13.7	15.6	1.8	100.0

Ⅲ 新学部学科入学意向

(1) 健康科学部栄養学科

健康科学部栄養学科（以下、「栄養学科」という。）の入学希望者数について、アンケート調査結果から考察する。

北陸学院大学を受験し合格した場合（問5（1））に「入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「健康科学部栄養学科」と回答した者は**108人**である。また、合格した場合（問5（1））に「併願先の結果によっては入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「健康科学部栄養学科」と回答した者は**401人**である（P.13参照）。

このことから、栄養学科の入学希望者は**108人**であり、併願先の結果により入学する可能性のある者が**401人**いることになり、栄養学科の入学定員65人を超える入学希望者がいると考えることができる。

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として栄養学科とは異なる専門分野を回答している回答者も含まれている。また、栄養学科の受験について「受験しない」と回答している回答者も含まれていることから、さらに精査する必要がある。以下では、高校卒業後の進路（問2）として、「大学進学（専門職大学を含む）」と回答した回答者（大学進学希望者）に限定し、栄養学科の入学希望者について考察する。

栄養学科は、学問体系として「家政学関係」に該当する。大学進学希望者のうち、進学したいと考えている分野（問3）において「家政学関係」と回答したのは**729人**（第1希望277人、第2希望452人）である（P.7参照）。

この**729人**について、栄養学科の受験意向（問4①）の回答結果をみると、「受験したい」が**103人**、「受験を検討する」が**168人**である。

「家政学関係」を希望する大学進学希望者(729人)の栄養学科受験意向(問4①)の回答

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
「家政学関係」 希望者	103	168	436	22	729

次に、栄養学科を「受験したい」と回答した**103人**及び「受験を検討する」と回答した**168人**について、北陸学院大学を受験し合格した場合の入学意向（問5（1））及び入学したい学部学科（問5（2））の回答結果をまとめたものが以下の表である。

栄養学科受験希望者(103人)・検討者(168人)の北陸学院大学入学意向(問5(1)及び入学したい学部学科(問5(2))の回答

問4① 栄養学科 受験意向	問5(1) 北陸学院大学 入学意向	問5(2) 入学したい学部学科					合計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	不明	
受験したい (103人)	入学したい	36	3	2	0	0	41
	併願先の結果によ っては入学したい	46	7	2	1	0	56
	不明	0	0	1	0	5	6
受験を検討 する (168人)	入学したい	15	7	1	0	0	23
	併願先の結果によ っては入学したい	92	28	10	10	0	140
	不明	0	0	0	0	5	5

以上の結果を整理すると、栄養学科の入学希望者を次の4つの区分に整理することができる。

区分	アンケート回答結果	考 察
区分1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・家政学関係を希望し、かつ ・栄養学科の受験を希望し、かつ ・北陸学院大学への入学を希望し、かつ ・栄養学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、栄養学科を第1志望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。 回答者数:36人</p>
区分2	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・家政学関係を希望し、かつ ・栄養学科の受験を検討し、かつ ・北陸学院大学への入学を希望し、かつ ・栄養学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、栄養学科の受験を検討中であり、合格したら栄養学科への入学を希望する、という回答者である。アンケート回答時点(令和3年9月頃)では、受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、区分1に次いで栄養学科へ入学する可能性が高いと考えられる。 回答者数:15人</p>
区分3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・家政学関係を希望し、かつ ・栄養学科の受験を希望し、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は栄養学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、栄養学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。栄養学科を第1志望以外に考えている可能性が高いが、受験する意思はあり、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性が高いと考えられる。 回答者数:46人</p>

区分4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・家政学関係を希望し、かつ ・栄養学科の受験を検討し、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は栄養学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、栄養学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。栄養学科を第1志望以外に考えている可能性が高く、またアンケート回答時点(令和3年9月頃)では受験について意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性があると考えられる。</p> <p>回答者数:92人</p>
-----	--	---

今回のアンケート調査結果から栄養学科の入学希望者について考えると、区分1に該当する回答者(36人)は入学する可能性が最も高く、入学希望者と想定できよう。

区分2に該当する回答者(15人)は、高校2年生の9月頃の段階で栄養学科を受験するかどうか決めていないが、受験し合格した場合は、栄養学科に入学する意思を持っている回答者である。高校2年生の後半あるいは高校3年生になってから受験先を決定すると考えられることから、今後、少しでも多くの者を栄養学科の受験に導くことができれば、入学希望者につなげることができる。高校2年生の後半以降に受験先を決める高校生も多いことから、区分2に該当する回答者(15人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分3に該当する回答者(46人)は、栄養学科を受験する意思は持っているが、栄養学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者であり、他大学を第1志望に考えている可能性が高い。栄養学科は第1志望以外という位置付けになるが、受験の意思はあることから、併願先の結果が希望通りにならなければ、栄養学科へ入学する可能性は高いと考えられる。一般的に、いわゆる偏差値がトップクラスの大学を除けば、当該大学を第1志望以外としていた者が何割かは入学する。北陸学院大学の既設の学部学科においても同様の傾向がみられるとすれば、区分3に該当する回答者(46人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分4に該当する回答者(92人)は、高校2年生の9月頃の段階で栄養学科を受験するかどうか決めておらず、また、栄養学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者である。他大学を第1志望に考えている可能性が高く、栄養学科の受験については今後判断するものと考えられる。併願先の結果が希望通りにならなければ、栄養学科へ入学する可能性も出てくることから、区分4に該当する回答者(92人)のうち少しでも多くの者を栄養学科の受験に導くことができれば、その一部は入学希望者になると考えられる。

(2) 社会学部社会学科

社会学部社会学科（以下、「社会学科」という。）の入学希望者数について、アンケート調査結果から考察する。

北陸学院大学を受験し合格した場合（問5（1））に「入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「社会学部社会学科」と回答した者は117人である。また、合格した場合（問5（1））に「併願先の結果によっては入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「社会学部社会学科」と回答した者は652人である（P.13参照）。

このことから、社会学科の入学希望者は117人であり、併願先の結果により入学する可能性のある者が652人いることになり、社会学科の入学定員95人を超える入学希望者がいると考えることができる。

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として社会学科とは異なる専門分野を回答している回答者も含まれている。また、社会学科の受験について「受験しない」と回答している回答者も含まれていることから、さらに精査する必要がある。以下では、高校卒業後の進路（問2）として、「大学進学（専門職大学を含む）」と回答した回答者（大学進学希望者）に限定し、社会学科の入学希望者について考察する。

社会学科は、学問体系として「社会科学関係」に該当する。大学進学希望者のうち、進学したいと考えている分野（問3）において「社会科学関係」と回答したのは2,288人（第1希望1,301人、第2希望987人）である（P.7参照）。

この2,288人について、社会学科の受験意向（問4②）の回答結果をみると、「受験したい」が191人、「受験を検討する」が476人である。

「社会科学関係」を希望する大学進学希望者(2,288人)の社会学科受験意向(問4②)の回答

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
「社会科学関係」 希望者	191	476	1,595	26	2,288

次に、社会学科を「受験したい」と回答した191人及び「受験を検討する」と回答した476人について、北陸学院大学を受験し合格した場合の入学意向（問5（1））及び入学したい学部学科（問5（2））の回答結果をまとめたものが以下の表である。

社会学科受験希望者(191人)・検討者(476人)の北陸学院大学入学意向(問5(1)及び入学したい学部学科(問5(2))の回答

問4② 社会学科 受験意向	問5(1) 北陸学院大学 入学意向	問5(2) 入学したい学部学科					合計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	不明	
受験したい (191人)	入学したい	8	48	1	1	0	58
	併願先の結果によ っては入学したい	7	120	3	2	0	132
	不明	0	0	0	0	1	1
受験を検討 する (476人)	入学したい	6	33	1	2	0	42
	併願先の結果によ っては入学したい	36	344	18	28	0	426
	不明	0	0	0	0	8	8

以上の結果を整理すると、社会学科の入学希望者を次の4つの区分に整理することができる。

区分	アンケート回答結果	考 察
区分1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・社会科学関係を希望し、かつ ・社会学科の受験を希望し、かつ ・北陸学院大学への入学を希望し、かつ ・社会学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、社会学科を第1志望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。 回答者数:48人</p>
区分2	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・社会科学関係を希望し、かつ ・社会学科の受験を検討し、かつ ・北陸学院大学への入学を希望し、かつ ・社会学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、社会学科の受験を検討中であり、合格したら社会学科への入学を希望する、という回答者である。アンケート回答時点(令和3年9月頃)では、受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、区分1に次いで社会学科へ入学する可能性が高いと考えられる。 回答者数:33人</p>
区分3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・社会科学関係を希望し、かつ ・社会学科の受験を希望し、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は社会学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、社会学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。社会学科を第1志望以外に考えている可能性が高いが、受験する意思はあり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。 回答者数:120人</p>

区分4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・社会科学関係を希望し、かつ ・社会学科の受験を検討し、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は社会学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、社会学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。社会学科を第1志望以外に考えている可能性が高く、またアンケート回答時点(令和3年9月頃)では受験について意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。</p> <p>回答者数:344人</p>
-----	---	--

今回のアンケート調査結果から社会学科の入学希望者について考えると、区分1に該当する回答者(48人)は入学する可能性が最も高く、入学希望者と想定できよう。

区分2に該当する回答者(33人)は、高校2年生の9月頃の段階で社会学科を受験するかどうか決めていないが、受験し合格した場合は、社会学科に入学する意思を持っている回答者である。高校2年生の後半あるいは高校3年生になってから受験先を決定すると考えられることから、今後、少しでも多くの者を社会学科の受験に導くことができれば、入学希望者につなげることができる。高校2年生の後半以降に受験先を決める高校生も多いことから、区分2に該当する回答者(33人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分3に該当する回答者(120人)は、社会学科を受験する意思は持っているが、社会学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者であり、他大学を第1志望に考えている可能性が高い。社会学科は第1志望以外という位置付けになるが、受験の意思はあることから、併願先の結果が希望通りにならなければ、社会学科へ入学する可能性は高いと考えられる。一般的に、いわゆる偏差値がトップクラスの大学を除けば、当該大学を第1志望以外としていた者が何割かは入学する。北陸学院大学の既設の学部学科においても同様の傾向がみられるとすれば、区分3に該当する回答者(120人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分4に該当する回答者(344人)は、高校2年生の9月頃の段階で社会学科を受験するかどうか決めておらず、また、社会学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者である。他大学を第1志望に考えている可能性が高く、社会学科の受験については今後判断するものと考えられる。併願先の結果が希望通りにならなければ、社会学科へ入学する可能性も出てくることから、区分4に該当する回答者(344人)のうち少しでも多くの者を社会学科の受験に導くことができれば、その一部は入学希望者になると考えられる。

(3) 教育学部幼児教育学科

教育学部幼児教育学科（以下、「幼児教育学科」という。）の入学希望者数について、アンケート調査結果から考察する。

北陸学院大学を受験し合格した場合（問5（1））に「入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「教育学部幼児教育学科」と回答した者は**61人**である。また、合格した場合（問5（1））に「併願先の結果によっては入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「教育学部幼児教育学科」と回答した者は**257人**である（P.13参照）。

このことから、幼児教育学科の入学希望者は**61人**であり、併願先の結果により入学する可能性のある者が**257人**いることになり、幼児教育学科の入学定員45人を超える入学希望者がいると考えることができる。

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として幼児教育学科とは異なる専門分野を回答している回答者も含まれている。また、幼児教育学科の受験について「受験しない」と回答している回答者も含まれていることから、さらに精査する必要がある。以下では、高校卒業後の進路（問2）として、「大学進学（専門職大学を含む）」と回答した回答者（大学進学希望者）に限定し、幼児教育学科の入学希望者について考察する。

幼児教育学科は、学問体系として「教育学・保育学関係」に該当する。大学進学希望者のうち、進学したいと考えている分野（問3）において「教育学・保育学関係」と回答したのは**1,356人**（第1希望569人、第2希望787人）である（P.7参照）。

この**1,356人**について、幼児教育学科の受験意向（問4③）の回答結果をみると、「受験したい」が**100人**、「受験を検討する」が**236人**である。

「教育学・保育学関係」を希望する大学進学希望者(1,356人)の幼児教育学科受験意向(問4③)の回答

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
「教育学・保育学関係」 希望者	100	236	997	23	1,356

次に、幼児教育学科を「受験したい」と回答した**100人**及び「受験を検討する」と回答した**236人**について、北陸学院大学を受験し合格した場合の入学意向（問5（1））及び入学したい学部学科（問5（2））の回答結果をまとめたものが以下の表である。

幼児教育学科受験希望者(100人)・検討者(236人)の北陸学院大学入学意向(問5(1)及び入学したい学部学科(問5(2))の回答

問4③ 幼児教育学科 受験意向	問5(1) 北陸学院大学 入学意向	問5(2) 入学したい学部学科					合計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学科	4 教育学部 初等中等教育学科	不明	
受験したい (100人)	入学したい	0	0	25	7	0	32
	併願先の結果によっては入学したい	3	4	47	13	0	67
	不明	0	0	0	0	1	1
受験を検討する (236人)	入学したい	6	6	11	10	0	33
	併願先の結果によっては入学したい	21	28	85	64	0	198
	不明	0	0	0	0	5	5

以上の結果を整理すると、幼児教育学科の入学希望者を次の4つの区分に整理することができる。

区分	アンケート回答結果	考 察
区分1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・幼児教育学科の<u>受験を希望し</u>、かつ ・北陸学院大学への<u>入学を希望し</u>、かつ ・幼児教育学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、幼児教育学科を第1志望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。</p> <p>回答者数:25人</p>
区分2	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・幼児教育学科の<u>受験を検討し</u>、かつ ・北陸学院大学への<u>入学を希望し</u>、かつ ・幼児教育学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、幼児教育学科の受験を検討中であり、合格したら幼児教育学科への入学を希望する、という回答者である。アンケート回答時点(令和3年9月頃)では、受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、区分1に次いで幼児教育学科へ入学する可能性が高いと考えられる。</p> <p>回答者数:11人</p>
区分3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・幼児教育学科の<u>受験を希望し</u>、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は幼児教育学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、幼児教育学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。幼児教育学科を第1志望以外に考えている可能性が高いが、受験する意思はあり、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。</p> <p>回答者数:47人</p>

区分4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・幼児教育学科の<u>受験を検討し</u>、かつ ・北陸学院大学<u>入学は併願先の結果次第</u>、かつ ・入学の場合は幼児教育学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、幼児教育学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。幼児教育学科を第1志望以外に考えている可能性が高く、またアンケート回答時点(令和3年9月頃)では受験について意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性があると考えられる。</p> <p>回答者数:85人</p>
-----	--	---

今回のアンケート調査結果から幼児教育学科の入学希望者について考えると、区分1に該当する回答者(25人)は入学する可能性が最も高く、入学希望者と想定できよう。

区分2に該当する回答者(11人)は、高校2年生の9月頃の段階で幼児教育学科を受験するかどうか決めていないが、受験し合格した場合は、幼児教育学科に入学する意思を持っている回答者である。高校2年生の後半あるいは高校3年生になってから受験先を決定すると考えられることから、今後、少しでも多くの者を幼児教育学科の受験に導くことができれば、入学希望者につなげることができる。高校2年生の後半以降に受験先を決める高校生も多いことから、区分2に該当する回答者(11人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分3に該当する回答者(47人)は、幼児教育学科を受験する意思は持っているが、幼児教育学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者であり、他大学を第1志望に考えている可能性が高い。幼児教育学科は第1志望以外という位置付けになるが、受験の意思はあることから、併願先の結果が希望通りにならなければ、幼児教育学科へ入学する可能性は高いと考えられる。一般的に、いわゆる偏差値がトップクラスの大学を除けば、当該大学を第1志望以外としていた者が何割かは入学する。北陸学院大学の既設の学部学科においても同様の傾向がみられるとすれば、区分3に該当する回答者(47人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分4に該当する回答者(85人)は、高校2年生の9月頃の段階で幼児教育学科を受験するかどうか決めておらず、また、幼児教育学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者である。他大学を第1志望に考えている可能性が高く、幼児教育学科の受験については今後判断するものと考えられる。併願先の結果が希望通りにならなければ、幼児教育学科へ入学する可能性も出てくることから、区分4に該当する回答者(85人)のうち少しでも多くの者を幼児教育学科の受験に導くことができれば、その一部は入学希望者になると考えられる。

(4) 教育学部初等中等教育学科

教育学部初等中等教育学科（以下、「初等中等教育学科」という。）の入学希望者数について、アンケート調査結果から考察する。

北陸学院大学を受験し合格した場合（問5（1））に「入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「教育学部初等中等教育学科」と回答した者は**31**人である。また、合格した場合（問5（1））に「併願先の結果によっては入学したい」と回答し、入学したい学科（問5（2））として「教育学部初等中等教育学科」と回答した者は**234**人である（P.13 参照）。

このことから、初等中等教育学科の入学希望者は**31**人であり、併願先の結果により入学する可能性のある者が**234**人いることになり、初等中等教育学科の入学定員25人を超える入学希望者がいると考えることができる。

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として初等中等教育学科とは異なる専門分野を回答している回答者も含まれている。また、初等中等教育学科の受験について「受験しない」と回答している回答者も含まれていることから、さらに精査する必要がある。以下では、高校卒業後の進路（問2）として、「大学進学（専門職大学を含む）」と回答した回答者（大学進学希望者）に限定し、初等中等教育学科の入学希望者について考察する。

初等中等教育学科は、学問体系として「教育学・保育学関係」に該当する。大学進学希望者のうち、進学したいと考えている分野（問3）において「教育学・保育学関係」と回答したのは**1,356**人（第1希望569人、第2希望787人）である（P.7 参照）。

この**1,356**人について、初等中等教育学科の受験意向（問4④）の回答結果をみると、「受験したい」が**73**人、「受験を検討する」が**289**人である。

「教育学・保育学関係」を希望する大学進学希望者(1,356人)の幼児教育学科受験意向(問4④)の回答

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
「教育学・保育学関係」 希望者	73	289	966	28	1,356

次に、初等中等教育学科を「受験したい」と回答した**73**人及び「受験を検討する」と回答した**289**人について、北陸学院大学を受験し合格した場合の入学意向（問5（1））及び入学したい学部学科（問5（2））の回答結果をまとめたものが以下の表である。

初等中等教育学科受験希望者(73人)・検討者(289人)の北陸学院大学入学意向(問5(1)及び入学したい学部学科(問5(2))の回答

問4④ 初等中等教育学科 受験意向	問5(1) 北陸学院大学 入学意向	問5(2) 入学したい学部学科					合 計
		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	不 明	
受験したい (73人)	入学したい	0	0	4	15	0	19
	併願先の結果によ っては入学したい	1	2	7	42	0	52
	不 明	0	0	0	0	2	2
受験を検討 する (289人)	入学したい	3	7	17	9	0	36
	併願先の結果によ っては入学したい	21	40	54	134	0	249
	不 明	0	0	0	0	4	4

以上の結果を整理すると、初等中等教育学科の入学希望者を次の4つの区分に整理することができる。

区分	アンケート回答結果	考 察
区分1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・初等中等教育学科の<u>受験を希望し</u>、かつ ・北陸学院大学への<u>入学を希望し</u>、かつ ・初等中等教育学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、初等中等教育学科を第1志望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。</p> <p>回答者数:15人</p>
区分2	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・初等中等教育学科の<u>受験を検討し</u>、かつ ・北陸学院大学への<u>入学を希望し</u>、かつ ・初等中等教育学科への入学を希望する。 	<p>該当する回答者は、初等中等教育学科の受験を検討中であり、合格したら初等中等教育学科への入学を希望する、という回答者である。アンケート回答時点(令和3年9月頃)では、受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、区分1に次いで初等中等教育学科へ入学する可能性が高いと考えられる。</p> <p>回答者数:9人</p>
区分3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・初等中等教育学科の<u>受験を希望し</u>、かつ ・北陸学院大学入学は<u>併願先の結果次第</u>、かつ ・入学の場合は初等中等教育学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、初等中等教育学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。初等中等教育学科を第1志望以外に考えている可能性が高いが、受験する意思はあり、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。</p> <p>回答者数:42人</p>

区分4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望し、かつ ・教育学・保育学関係を希望し、かつ ・初等中等教育学科の受験を検討し、かつ ・北陸学院大学入学は併願先の結果次第、かつ ・入学の場合は初等中等教育学科を希望する。 	<p>該当する回答者は、初等中等教育学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する、という回答者である。初等中等教育学科を第1志望以外に考えている可能性が高く、またアンケート回答時点(令和3年9月頃)では受験について意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。</p> <p>回答者数:134人</p>
-----	--	--

今回のアンケート調査結果から初等中等教育学科の入学希望者について考えると、区分1に該当する回答者(15人)は入学する可能性が最も高く、入学希望者と想定できよう。

区分2に該当する回答者(9人)は、高校2年生の9月頃の段階で初等中等教育学科を受験するかどうか決めていないが、受験し合格した場合は、初等中等教育学科に入学する意思を持っている回答者である。高校2年生の後半あるいは高校3年生になってから受験先を決定すると考えられることから、今後、少しでも多くの者を初等中等教育学科の受験に導くことができれば、入学希望者につなげることができる。高校2年生の後半以降に受験先を決める高校生も多いことから、区分2に該当する回答者(9人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分3に該当する回答者(42人)は、初等中等教育学科を受験する意思は持っているが、初等中等教育学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者であり、他大学を第1志望に考えている可能性が高い。初等中等教育学科は第1志望以外という位置付けになるが、受験の意思はあることから、併願先の結果が希望通りにならなければ、初等中等教育学科へ入学する可能性は高いと考えられる。一般的に、いわゆる偏差値がトップクラスの大学を除けば、当該大学を第1志望以外としていた者が何割かは入学する。北陸学院大学の既設の学部学科においても同様の傾向がみられるとすれば、区分3に該当する回答者(42人)のうち一定割合については、入学希望者と想定することも可能と考えられる。

区分4に該当する回答者(134人)は、高校2年生の9月頃の段階で初等中等教育学科を受験するかどうか決めておらず、また、初等中等教育学科への入学は併願先の結果次第と考えている回答者である。他大学を第1志望に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験については今後判断するものと考えられる。併願先の結果が希望通りにならなければ、初等中等教育学科へ入学する可能性も出てくることから、区分4に該当する回答者(134人)のうち少して

も多くの者を初等中等教育学科の受験に導くことができれば、その一部は入学希望者になると考えられる。

北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査票

- 北陸学院大学では、2023（令和5）年度に、リーフレットに記載の通り、新たに3学部4学科を新設する計画をしています。
- このアンケート調査は、高校生の皆様の高校卒業後の進路等に関するご意見等をお聞きし、今後の計画推進の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。
- なお、この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり、他の目的のために使用することはありません。

北陸学院大学新学部学科（設置構想中）の概要 ※いずれも予定であり変更する可能性があります。

- 【学部・学科名（入学定員） 取得可能な資格・免許】
- 健康科学部栄養学科（65人）管理栄養士、栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者・食品衛生監視員
- 社会学部社会学科（95人）社会調査士、公認心理師、認定心理士、司書、社会福祉士
- 教育学部幼児教育学科（45人）幼稚園教諭、保育士
- 教育学部初等中等教育学科（25人）小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）

- 【開設時期】 2023（令和5）年4月
- 【所在地】 石川県金沢市三小牛町イ11番地 JR金沢駅より路線バスで約30分。
※スクールバスあり（金沢駅－平和町－大学、小松駅－白山市松任文化会館－西金沢駅－大学）

【北陸学院大学と近隣大学同系学部学科の学費】 ※2021年8月現在の情報です。
（栄養系）

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	健康科学部栄養学科	200,000円	1,280,000円	1,480,000円	5,320,000円
金沢学院大学	栄養学部栄養学科	200,000円	1,280,000円	1,480,000円	5,320,000円
仁愛大学	人間生活学部健康栄養学科	250,000円	960,000円	1,210,000円	4,840,000円
新潟医療福祉大学	健康科学部健康栄養学科	350,000円	1,500,000円	1,850,000円	6,350,000円

（社会学系）

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	社会学部社会学科	200,000円	1,020,000円	1,220,000円	4,280,000円
北陸大学	国際コミュニケーション学部心理社会学科	200,000円	1,100,000円	1,300,000円	4,600,000円
富山国際大学	現代社会学部現代社会学科	200,000円	980,000円	1,180,000円	4,120,000円

（教育学系）

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	教育学部幼児教育学科	200,000円	1,120,000円	1,320,000円	4,680,000円
北陸学院大学	教育学部初等中等教育学科	200,000円	1,120,000円	1,320,000円	4,680,000円
金沢学院大学	教育学部教育学科	200,000円	1,120,000円	1,320,000円	4,680,000円
金沢星稜大学	人間科学部こども学科	120,000円	1,110,000円	1,230,000円	4,560,000円
富山国際大学	子ども育成学部子ども育成学科	200,000円	1,030,000円	1,230,000円	4,320,000円
松本大学	教育学部学校教育学科	250,000円	1,150,000円	1,400,000円	4,850,000円

【回答欄】

問1 あなたの居住地についてお尋ねします。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|-------|-------------|
| 1 石川県 | 4 新潟県 |
| 2 富山県 | 5 長野県 |
| 3 福井県 | 6 その他（具体的に） |

問2 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | | |
|---------------------|--------------------|--------|----------------------|
| 1 大学進学（専門職大学含む） | } 問3以下へ
お進みください | 4 就職 | } これでアンケート
は終わりです |
| 2 短期大学進学（専門職短期大学含む） | | 5 その他 | |
| 3 専門学校進学 | | （具体的に） | |

（裏面に続く）

※ 問3以降は、問2で「1、2、3」のいずれかを回答された方にお聞きします。

問3 あなたが進学したいと考えている分野はどれですか。次の中から**第2希望まで**選んでください。

- 1 家政学関係（栄養学、食物学、生活科学、住居学、被服学など）
- 2 社会科学関係（経済学、社会学、商学・経営学、法学・政治学など）
- 3 教育学・保育学関係（幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の教員養成、保育士など）
- 4 人文科学関係（文学、史学、哲学、心理学、外国語など）
- 5 理学・工学・農学関係（数学、物理学、化学、生物学、情報科学、生命科学、機械工学、電気電子工学、建築学、農学、林学、水産学など）
- 6 保健衛生学関係（看護学、理学療法学、作業療法学、臨床検査学、放射線など）
- 7 医学・歯学・薬学関係
- 8 芸術学関係（音楽、デザイン、美術など）
- 9 その他（具体的に

第1希望

第2希望

問4 あなたは北陸学院大学の各学部学科について受験したいと思いますか。学部学科ごとに、以下の【選択肢】から**1つだけ**選んでください。

① 健康科学部栄養学科

② 社会学部社会学科

③ 教育学部幼児教育学科

④ 教育学部初等中等教育学科

【選択肢】 1 受験したい 2 受験を検討する 3 受験しない

※ 問5は、問4の①～④のいずれかで「1 受験したい」もしくは「2 受験を検討する」を回答した方にお聞きします。（問4の①～④すべてで「3 受験しない」を回答した方は、これでアンケートは終わりです。）

問5（1） 北陸学院大学のいずれかの学部学科を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。次の中から**1つだけ**選んでください。

- 1 入学したい
- 2 併願先の結果によっては入学したい

問5（2） あなたが入学したい学部学科を**1つだけ**選んでください。

- 1 健康科学部栄養学科
- 2 社会学部社会学科
- 3 教育学部幼児教育学科
- 4 教育学部初等中等教育学科

*** これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 ***

2022（令和4）年度 広報行動計画

アドミッションセンター
広報プロジェクトチーム

I	本学を取り巻く環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	1 新型コロナウイルス感染症による広報の在り方について	
	2 石川県の18歳人口動向について	
	3 石川県高校別入学者数	
	4 競合他校の状況	
II	入学者・非入学者アンケート調査からの検証・・・・・・・・	1～2
	1 入学者アンケート及び非入学者アンケート分析レポートによる結論・課題	
III	情報誌及びWEB資料請求数（中間報告）からの検証・・・・・・・・	2
IV	WEBページ集客状況報告（中間報告）からの検証・・・・・・・・	2
V	オープンキャンパスからの検証・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	1 オープンキャンパスアンケート調査（中間報告）	
	2 オープンキャンパス参加者集計表（最終）	
VI	大学等改組に関する高校生アンケート調査の検証・・・・・・・・	3
VII	2021（令和3）年度広報行動計画の検証（まとめ）・・・・・・・・	3～4
VIII	2022（令和4）年度 広報行動計画について・・・・・・・・	4～6
	1 ブランディングイメージの統一化と大学等改組（新学部設置）の周知	
	2 コマーシャルメッセージ（CM）の作成	
	3 大学案内の作成	
	4 ホームページ（HP）の活用	
	5 オープンキャンパス実施計画	
	6 進学相談会	
	7 高校別 アプローチ年間行動計画の策定	
	8 高校教員及び塾講師向け本学説明会	
	9 2023（令和5）年度入学者選抜制度の周知及び実施	

I 本学を取り巻く環境

1 新型コロナウイルス感染症による広報の在り方について

2021（令和3）年度も、新型コロナウイルス感染症により、対面で行われる広報については、制限を余儀なくされ、困難な面が多々あった。大学の授業同様、対面とWEBの両方での対応を行い、また、感染状況により判断を要することもあった。次年度も、コロナウイルスの動向を注視しながら、状況により臨機応変に判断することを前提とし、2022（令和4）年度広報行動計画を立案する。

2 石川県の18歳人口動向について

資料1のとおり、2021（令和3）年度大学入学者県内18歳人口は10,887名（昨年比マイナス108名）（石川中央地区6,969名）であった。2021（令和3）年度の入学者数は、大学137名、短大部85名の計222名（前年比48名減）であり、昨年同様に大学はほぼ定員を満了したものの、短期大学部は厳しい結果となった。次年度以降もより一層18歳人口の減少が続くことが資料からも見て取れる。2023（令和5）年度入学者の県内18歳人口は、今年度の93.1%（マイナス755名）まで減ることが分かる。

3 石川県高校別入学者数について

資料2は、2016（平成28）年度から2021（令和3）年度の石川県内高校別定員、入学者数である。人口減に伴い定員を減少している高校が多数あり、進学校は定員を満了しているが、進路多様校は、35校中28校で定員割れが生じている。本学への進学者数の経年推移についても、減少している高校については、高校訪問時に状況を伺うなど、状況把握を行う。

4 競合他校の状況

資料3は、県内の高等教育機関のうち、本学と競合している私立大学4校、私立短期大学3校について、設置している学部及び定員充足率、取得可能資格について記した。

他大学の動きとしては、2021（令和3）年度、金沢学院大学は人間健康学部を、スポーツ科学部と栄養学部に改組し、開設した。北陸大学は、医療保健学部に2023（令和5）年度より「理学療法学科」（定員60名）を開設する。

昨年同様に、大学はほぼ、定員を充たしている状況である。一方、短期大学は定員未充足であることが分かる。

II 入学者・非入学者アンケート調査からの検証

1 入学者アンケート及び非入学者アンケート分析レポートによる結論・課題（6月作成）

キーワード：「金沢学院大学」「北陸大学」「ホームページ」「カリキュラム」「学科・コースの内容」「専願」「偏差値」

新型コロナウイルスの関係と、入学者数が昨年度比で48名減となったことにより、例年と比較検討することは難しい部分もあるが、今年度の結果として受け止め、次へ繋げる広報展開の参考としたい。

オープンキャンパスについての設問では、コロナの影響で3年次に思うように参加出来なかったことや、他大学では、対面でのオープンキャンパスを一切実施しなかった大学もあることから、比較は難しい。その中で、金沢学院大学は、非入学者アンケートでは印象が良い大学となり、進学先も一番多い結果であった。入学者、非入学者共通して、本学のオープンキャンパスより、他学のオープンキャンパスの良かったところとして「学科説明」が上がった。「学科説明」の充実について、再検討が必要である。

昨年度、新たな試みとしてWEBオープンキャンパスを実施した。WEBオープンキャンパスに関する設問を新に追加し、閲覧状況を把握した。結果、閲覧数は想像していたより低い結果となった。本学のホームページにはアクセスしているが、そこからWEBオープンキャンパスにたどり着いておらず、誘導ができていないか、興味を引けていないということが分かる。印象が良かったという他大学のWEBオープンキャンパスについては、どのような内容で展開しているか、把握及び検証を行いたい。今後の在り方も、再検討が必要である。

重要な広報ツールは、「ホームページの充実」であると感じている。大学案内（冊子）で大学情報を得るよりも、ホームページで情報を得るということが、主流となっている。特に、高校1.2年生への情報提供の有力な手段として、対象者に訴求したホームページの内容、見せ方が必要である。問「本学の大学案内を見たことがありますか」の結果も、注視していく必要がある。

非入学者アンケートの、問13「本学を受験または、入学しなかった要因」として上がった項目については、2023年度の改組のタイミングにあわせて、強みとして、また、改善策を強調して広報を行いたい。

問33で「大学案内で着目したポイント」で過去2年上位であった「就職支援・就職実績」が外れた。コロナの影響が、大学選択にどう影響したのか、把握する必要がある。

問35「大学案内についての意見」では、「キリスト教だけでは弱い」「授業を掘り下げて欲しい」という意見があった。個別意見ではあるが、次の広報展開のポイントでもあると感じている。入学者、非入学者共通して「学科・コースの内容」「カリキュラム」ということが、複数設問で上位になっており、学びの中身をより詳しく知りたいというニーズがある。改組をチャンスとして、学部の学びを、より分かり易く、興味を引く内容で伝え、2023年に向けての広報展開を検討していきたい。

コロナで、急速に広報がWEB上にシフトしたことは事実であるが、結果を受け止め、次の展開を見定める必要もあると感じた。WEBの良さ、対面の良さを活かせる工夫も必要である。

III 情報誌及びWEB資料請求数（中間報告）からの検証

資料4では、情報誌及びWEB資料請求数の中間報告を検証した。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大で、休校の影響から、430名減少したが、今年度は、昨年度比891名増という結果であった。石川県、富山県、福井県の高校別資料請求数を検証した。

IV WEBページ集客状況報告（中間報告）からの検証

資料5では、WEBページ集客状況について記した。月別アクセス状況は、昨年比96.8%であった。昨年度、本学に新型コロナウイルス感染症の罹患者が出たことにより、アクセス状況が増加した要因があった。今年度は7月に大きく増加した。

使用デバイスについては、スマートフォンからが年々増加し、73.3%という結果であった。新たに、ディスプレイ広告を導入したが、訪問者数が21,491名と、自然検索に次いで多い結果であった。

V オープンキャンパスからの検証

1 オープンキャンパスアンケート調査

資料6は、2021（令和3）年度オープンキャンパス（以下OC）アンケート（中間報告）の集計である。8月1日に予定していたOCは、本学学生が新型コロナウイルスに罹患したことにより中止、その代替として、急遽8月22日の午前開催を設定した。3密（密閉・密集・密接）を避けるため、参加人数を大学60名、短期大学部40名とし、会場を分けて実施した。アンケート結果では、昨年度低くなった、問7「OCの感想 スタッフ」では、「満足」の回答が昨年比15%増となった。学食体験が出来ない分、キャンパスツアーを少人数で実施し、スタッフと参加者が直接会話できる場を設けたことが要因と考える。

2021（令和3）年度8月末までの参加者数は、334名で、昨年比12名増であるが、2年連続して通常の半数という結果であった。

2 オープンキャンパス参加者集計表

資料7は、2021（令和3）年度OC参加者数述べ人数（グロス）と、実質人数（ネット）の最終資料である。1年生から3年生の述べ人数合計は414名で、昨年度比94.1%という結果となった。3年生の延べ人数は323名の参加であり、昨年度比94.7%であった。参加者の78%が、3年生であった。

VI 新学部設置に関する高校生アンケート調査の検証

資料8は、大学等改組に係る、新学部学科への入学意向を把握するため、高校2年生を対象としたアンケート調査結果である。アンケート回収状況は、回収校78校、回収票数8,522票であった。石川県内では、5,087票を回収しており、資料2の高校別入学者数計の10,068名中半数にあたる50.5%に対して、リーフレットの配布ができ、本学の新学部学科構想を周知できたことになる。

VII 2021（令和3）年度広報行動計画の検証（まとめ）

2021（令和3）年度の広報活動は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、未だ通常には戻っていない状況の中で、対面とWEBを使い分けての実施であった。計画で謳っていた、WEBプロモーションとしての動画作成は、進められていない。

検証結果から、これまで、石川県に重点を置いた広報エリアについては、近隣県である、富山県、福井県、新潟県、長野県へも広げていく必要がある。

昨年度は中止した、高校教員向け本学説明会（本学会場、富山会場）、学習塾向け本学説明会についてはZoomを使って、オンラインでの説明を行ったが、参加者数は23名であった。参加者が少なかったことは、課題であると感じている。

北陸学院高校（併設校）向け高大連携会議は、教員を対象に2回実施し、また、生徒対象に、5月入試対策講座（3年生対象）、10月総合型選抜・学校推薦型選抜対策講座（本学受験予定者対象）を実施した。高大連携について、北陸学院高校と情報共有を行いながら、実施している。

大学等改組に関する、高校生アンケートについては、北陸3県の高校に対し、学長、副学長、学部長、教員、事務職員が直接高校へ出向き、依頼を行ったことは、コロナ渦ではあったが、重要な訪問

であったと感じている。石川県内では殆どの高校でご協力をいただき、多くの高校2年生へ、本学の構想を周知できた。リーフレットに続く、広報展開については、引き続き様々なツールで表現し、周知徹底を図る。大学等改組（新学部学科設置）の周知に重点を置いた広報展開を、次年度の広報行動計画とし、確実な入学者の確保を目指したい。

VIII 2022（令和4）年度 広報行動計画について

1 ブランディングイメージの統一化と大学等改組（新学部学科設置）の周知

様々な広報ツールについて、継続して以下のイメージに統一化を図る。

「品があり真摯なイメージ」

さらに、新学部学科設置により、「北陸学院大学の学びが生まれ変わります」というメッセージとして、高校生アンケートの表紙に使用した「ReHGU」*1を、様々なツールで表現し、対象者に刷り込みを行い、周知徹底を図ることを狙いとする。

*1 「ReHGU」・・・改組によって「変化する」「生まれ変わる」ことは Reborn、Rebuild、Rebrandなどと表現することもできます。その頭にある「Re」単体でも「新たに」「さらに」といった意味があることから、北陸学院大学が新しく生まれ変わる＝「ReHGU」という造語をメインキャッチコピーとした案です。

2 コマーシャルメッセージの作成

これまでのコマーシャルメッセージ（以下 CM）は、本学の大学、短大部4学科の紹介と、OCの告知を加え訴求してきた。6年間続けており、卒業生が歌う企画は、本学の CM として定着している。しかし、「北陸学院大学の学びが生まれ変わります」ということを重点的に打ち出すためには、これまでとは違ったコンセプトが必要となる。定着していた CM であったが、また、他のツールで統一して「Re」を打ち出すために、業者を変更し、制作、放映を計画する。

3 大学案内の作成

今年度より、新しい業者での企画により作成を行っている。「自分を愛する。地域を愛する。」という視点で、本学の特色ある活動を全面に打ち出し紹介を行った。

次年度は、新学部学科の紹介となり、改組の内容を、分かり易く紹介したい。リーフレットに記載した「ReHGU」を軸としたイメージでの作成としたい。

4 ホームページの活用

ホームページ（以下 HP）が重要な情報源であることは、アンケート調査や検証結果からも明確であり、広報媒体として、最も重点的に充実を図る必要がある。大学等改組の構想については、特設ページとして、2021年12月中に掲載を行い、随時更新していく。

2022（令和4）年度中に、教育学部、社会学部、健康科学部のページを作成する必要があり、改組の進捗状況と連携しながら、進めていく。また、現行の内容については、全面的に更新する必要があり、現行学部学科と、新学部学科の掲載について、精査しながら見直しを行う。

5 オープンキャンパス実施計画

資料9では、2022（令和4）年度 OC の実施計画を記した。本学の校風・雰囲気を感じていただける場である OC は重要であり、原則、対面での実施とする。コロナ渦でも安心して参加いただくための、感染防止対策を引き続き講じながら実施していきたい。

（1）実施内容の強化点、変更点

① 3学部4学科体制の周知

オープニングは、3学部合同で実施することとする。ただし、参加者人数が多くなった場合には、2会場に分けて実施する。3学部4学科での、新体制について周知を行う。

② 全体会で就職支援・実績の説明実施

アンケートで注目度が高い「就職支援・実績」については、全体会で本学の取り組み等を説明し、全参加者に聞いていただけるプログラムとする。

③ 模擬授業及び、個別相談の時間配分

学食体験は、次年度も引き続き中止とする。そのため、OC の実施時間は、2時間とタイトな中、より充実した内容とするため、これまで模擬授業を50分で実施していたが、35分としたい。新学部学科説明を15分とし、合わせて50分を各学部で使用し、学部説明と、興味を引く内容での模擬授業を行っていただきたい。

個別相談は、バス出発後に設置することで、時間に余裕を持って相談できる体制とする。参加者へ事前にプログラムをお知らせし、個別相談希望者の対応を行いたい。

④ 新型コロナウイルス対策に伴う、人数制限

人数制限は設けず、感染対策を徹底して実施する。ただし、全国的な感染状況を常に注視し、必要に応じて、人数制限を設定すること、開催を中止・延期することとする。

（2）目標値

2022（令和4）年度 OC 参加者目標数を下記の人数とする。2023年度入試募集定員（230名）

延べ人数（グロス） 757名

3年生延べ人数（グロス）510名

6 進学相談会

資料10は、2021（令和3）年度の進学相談会実施一覧である。石川県、富山県、福井県、岐阜県で開催される、民間業者が主催する進学相談会への参加は、高校生に直接触れ合い、本学を紹介する重要な機会であり、興味関心を持ってもらい、OC への参加、HP への誘導を行い、受験につながるアプローチとしたい。

2022（令和4）年度は、入試会場としている、新潟県、長野県での進学相談会の参加も検討している。

7 高校別 アプローチ年間訪問計画

資料 11 では、2022（令和 4）年度の高校訪問計画を記した。石川県、富山県、福井県の高校及び入試会場としている新潟県、長野県の高校に対し訪問を計画している。新学部設置の進捗状況により、訪問目的、持参物等を変える必要があり、丁寧に訪問を行いたい。直接、進路指導教員へ本学の教育情報を説明できる重要な機会として、また、継続的に訪問を行い、信頼関係の構築を図りたい。

8 高校教員及び塾講師向け本学説明会

今年度はオンラインで実施したが、参加者が少ない現状を受け、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、対面での実施としたい。富山県は、管理栄養士養成校が無いため、健康科学部へのニーズは高く、例年通り本学会場及び、富山会場の 2 会場で実施する。また、当日の欠席者及び、遠方の高校、塾講師向けとして、WEB での説明会を配信し、幅広く説明を聞いていただける機会とする。

地区別高校教員向け本学説明会 日程（案）

- 1) 富山会場 2022 年 6 月 14 日（火）
- 2) 本学会場 2022 年 6 月 16 日（木）

北陸学院高校（併設校）は、個別に予め双方で開催日を定め、保護者説明会、連携会議を実施する。今年度同様に、生徒説明会の実施も、検討する。

北陸学院高校（併設校）向け高大連携会議 日程（案） 日時は調整中

- 1) 1 学年保護者向け 2022 年 4 月
- 2) 3 学年担任向け 2022 年 6 月
- 3) 2 学年担任向け 2023 年 2 月

9 2023（令和 5）年度入学者選抜制度の周知及び実施

2022（令和 4）年度に実施される入学者選抜制度については、総合型選抜の内容変更及び、一般選抜（一般制、大学入学共通テスト利用制）についても、科目の変更が決定している。改組に伴う各学部のスケジュールを確認しながら、申請、認可の進捗状況により、募集活動を行う必要がある。PR 活動と募集活動をしっかり理解したうえで、スムーズな実施に向け取り組む。

以上

北陸学院大学における社会学部社会学科設置に関する
アンケート調査結果

報 告 書

令和3年11月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

I アンケート調査概要	1
II アンケート集計結果	2
III 新学部採用意向	11
アンケート調査票	12

I アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

北陸学院大学では、令和 5 年 4 月に向けて「社会学部 社会学科」（仮称）設置の構想をしており、新学部卒業生の採用意向を把握するために、企業を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

北陸学院大学における社会学部設置に関するアンケート調査

3. 調査対象

主に北陸地域（石川県、富山県、福井県）に所在する企業を選定し、アンケート調査を実施した。

4. 調査実施時期

令和 3 年 8 月～10 月に調査を実施した。

5. 調査方法

郵送によるアンケート調査票の配布を大学が行い、郵送による回収を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収状況

回収票数 329 票

回収日	ナンバリング	件数	累計	回収日	ナンバリング	件数	累計
8.30	1	5	5	9.14	281	286	286
8.31	6	10	5	9.16	287	291	291
9.02	11	12	2	9.17	292	293	293
9.03	13	15	3	9.21	294	299	299
9.06	16	155	140	9.22	300	302	302
9.07	156	176	21	9.24	303	305	305
9.08	177	180	4	9.27	306	326	326
9.09	181	191	11	9.28	327	327	327
9.10	192	195	4	10.08	328	329	329
9.13	196	280	85				

Ⅱ アンケート集計結果

「北陸学院大学における社会学部社会学科設置に関するアンケート調査」有効回答：329 票

問1-① 貴事業所の「本社・本部・本店の所在地」について、次の中から該当する番号を1つお選びください。

回答企業の所在地は、「石川県」が73.3%（241件）で最も多く、7割以上を石川県内の企業が占めている。このほか、「富山県」13.1%（43件）、「東京都」4.9%（16件）、「福井県」2.7%（9件）などとなっている。

	件数	%		件数	%
1 北海道	0	0.0	25 滋賀県	1	0.3
2 青森県	0	0.0	26 京都府	1	0.3
3 岩手県	0	0.0	27 大阪府	4	1.2
4 宮城県	1	0.3	28 兵庫県	0	0.0
5 秋田県	0	0.0	29 奈良県	0	0.0
6 山形県	0	0.0	30 和歌山県	0	0.0
7 福島県	0	0.0	31 鳥取県	0	0.0
8 茨城県	1	0.3	32 島根県	0	0.0
9 栃木県	0	0.0	33 岡山県	0	0.0
10 群馬県	0	0.0	34 広島県	0	0.0
11 埼玉県	0	0.0	35 山口県	0	0.0
12 千葉県	0	0.0	36 徳島県	0	0.0
13 東京都	16	4.9	37 香川県	0	0.0
14 神奈川県	2	0.6	38 愛媛県	0	0.0
15 新潟県	2	0.6	39 高知県	0	0.0
16 富山県	43	13.1	40 福岡県	0	0.0
17 石川県	241	73.3	41 佐賀県	0	0.0
18 福井県	9	2.7	42 長崎県	0	0.0
19 山梨県	0	0.0	43 熊本県	0	0.0
20 長野県	0	0.0	44 大分県	0	0.0
21 岐阜県	1	0.3	45 宮崎県	0	0.0
22 静岡県	0	0.0	46 鹿児島県	1	0.3
23 愛知県	6	1.8	47 沖縄県	0	0.0
24 三重県	0	0.0	合計	329	100.0

問1-② 採用地について、チェック☑を入れてください。(複数回答)

回答企業の職員の採用地については、「石川県」が90.0% (296件)で最も多く、次いで「富山県」38.3% (126件)、「福井県」26.1% (86件)、「北陸三県以外」20.7% (68件)であり、石川県を中心に北陸三県において職員を採用している企業が多い。

	件数	%
1 石川県	296	90.0
2 富山県	126	38.3
3 福井県	86	26.1
4 北陸三県以外	68	20.7
合計	329	100.0

※複数回答により合計は100%にならない

問2 貴社の主たる業種は何ですか。

回答企業の主たる業種は、「卸売業・小売業」が 26.7% (88 件) で最も多く、次いで「製造業」16.7% (55 件)、「建設業」13.7% (45 件)、「医療・福祉」13.4% (44 件) などとなっている。

	件数	%
1 建設業	45	13.7
2 製造業	55	16.7
3 情報通信業	10	3.0
4 運輸業	5	1.5
5 卸売業・小売業	88	26.7
6 金融業・保険業	15	4.6
7 不動産業	5	1.5
8 宿泊業・飲食サービス業	12	3.6
9 生活関連サービス業・娯楽業	5	1.5
10 教育・学習支援業	4	1.2
11 医療・福祉	44	13.4
12 その他	41	12.5
合計	329	100.0

(「12 その他」の回答)

- ・ 児童養護施設、児童家庭支援センター
- ・ 農業協同組合
- ・ レンタカー、カーリース
- ・ 警備・セキュリティサービス
- ・ 旅行業
- ・ 警備業
- ・ 総合職
- ・ 自動車リサイクル業
- ・ 総合事業
- ・ 警備業
- ・ 農協法に基づく事業
- ・ 建材リース
- ・ 貸切バス、旅行業
- ・ 農業協同組合
- ・ 航空関連サービス業
- ・ 総合事業
- ・ ガス、リフォーム、不動産
- ・ 測量業
- ・ 情報処理サービス業
- ・ IT、ソフトウェアサービス
- ・ 警備業
- ・ 農業保険事業
- ・ 診療報酬審査支払機関
- ・ 経済団体
- ・ 労働者派遣
- ・ 人材総合サービス
- ・ 総合人材サービス業
- ・ 建設コンサルタント
- ・ フィットネスクラブ
- ・ 建設コンサルタント
- ・ イベント企画・設営管理
- ・ 協同組合
- ・ 複合サービス業
- ・ 列車内サービス (アテンダント)
- ・ 旅行業
- ・ エネルギー事業：太陽光・蓄電池
- ・ 総合サービス業
- ・ 広告代理業

問3 現在の貴社の正規社員数についてお聞きします。

回答企業の正規社員数については、「100～299人」が30.7%（101件）で最も多く、次いで「20～49人」19.8%（65件）、「50～99人」19.5%（64件）、「1000人以上」10.3%（34件）などとなっている。

	件数	%
1 1～19人	15	4.6
2 20～49人	65	19.8
3 50～99人	64	19.5
4 100～299人	101	30.7
5 300～499人	26	7.9
6 500～999人	24	7.3
7 1000人以上	34	10.3
合計	329	100.0

問4 貴社では、過去1年間に正規社員を採用しましたか。

過去1年間の正規社員の採用状況を尋ねたところ、「採用した」と回答した企業が90.3%（297件）を占めており、「採用していない」は9.1%（30件）となっている。

	件数	%
1 採用した	297	90.3
2 採用していない	30	9.1
不明	2	0.6
合計	329	100.0

問5 貴社では、今後の正規社員採用計画についてどのようにお考えですか。①3～5年後、②6～10年程度後について、それぞれ該当する番号を1つお選びください。

3～5年後の正規社員採用計画をみると、「現状と同じ」が43.2%（142件）で最も多いが、「採用人数を増やしたい」が32.5%（107件）、「採用人数をやや増やしたい」が18.5%（61件）であり、これらを合わせると、3～5年後に正規社員の採用を増やす計画を持っている企業が51.0%（168件）と半数を占めている。採用人数を減らす計画の企業は、わずか0.9%（3件）となっている（「採用人数を減らしたい」0.3%（1件）、「採用人数をやや減らしたい」0.6%（2件））。

次に、6～10年後の正規社員採用計画をみると、「採用人数を増やしたい」が28.6%（94件）で最も多く、次いで「現状と同じ」が26.7%（88件）が続いている。「採用人数をやや増やしたい」は18.2%（60件）であることから、6～10年後の正規社員の採用を増やす計画を持っている企業は46.8%（154件）となっている。また、「わからない」との回答が22.5%（74件）と2割強を占めている。

① 3～5年後	件数	%
1 採用人数を増やしたい	107	32.5
2 採用人数をやや増やしたい	61	18.5
3 現状と同じ	142	43.2
4 採用人数をやや減らしたい	2	0.6
5 採用人数を減らしたい	1	0.3
6 わからない	14	4.3
不明	2	0.6
合計	329	100.0

② 6～10年程度後	件数	%
1 採用人数を増やしたい	94	28.6
2 採用人数をやや増やしたい	60	18.2
3 現状と同じ	88	26.7
4 採用人数をやや減らしたい	3	0.9
5 採用人数を減らしたい	2	0.6
6 わからない	74	22.5
不明	8	2.4
合計	329	100.0

問6 貴社では、北陸学院大学社会学部社会学科の卒業生の採用について、どのようなお考えをお持ちですか。

社会学部社会学科の卒業生の採用について、「採用したい」と回答したのは36.5%（120件）であり、「採用を検討したい」は46.5%（153件）であることから、これらを合計すると、採用に関心を示す企業が83.0%（273件）と8割以上を占めている。

	件数	%
1 採用したい	120	36.5
2 採用を検討したい	153	46.5
3 採用は考えない	25	7.6
4 その他	30	9.1
不明	1	0.3
合計	329	100.0

（「4 その他」の回答）

- ・人を見て採用する。
- ・状況に応じて。
- ・公募採用試験の合格者を採用する。
- ・今は事務系の募集はないが、将来的に出た場合は考えたいと思います。
- ・学生が希望されるなら検討したい。
- ・合併を予定していますのでわかりません。
- ・分野は異なるが、技術職での採用を検討。
- ・学生の志望意欲が大切。何をやってきたのか、これから何ができるのかを明確にしておいた方が良いと考えます。
- ・応募があれば人物次第で。
- ・魅力的な人であれば学部は関係ありません。
- ・具体的に大学を指名して採用を考えていない。
- ・事務職で欠員生じた場合。
- ・まだ未定
- ・未定
- ・薬学系が設置されれば採用検討したい。
- ・当社に興味があり、すぐれた人物であれば採用を検討したい。
- ・想定される進路に該当しない様なので弊社を希望される学生さんがいらしたら検討させていただきます。
- ・受験申し込みがあり、合格すれば採用したい。
- ・状況しだい。
- ・実際に身に付けられた学びを拝見させて頂いた後に検討させていただけたらと思います。
- ・面接・試験にて営業に向いているかを見えています。
- ・選考会で人柄なども考慮した上で検討したい。
- ・本社マターのため。
- ・わからない。
- ・優秀な人材であれば学科に関わらず採用したい。

問7 問6で「1 採用したい」もしくは「2 採用を検討したい」を回答された方にお聞きします。採用を考える場合、毎年何人程度の採用が想定されますか。

問6で、社会学部社会学科の卒業生を「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した企業について、毎年の採用想定人数を尋ねたところ、「1人」が31.9%（87件）で最も多く、次いで「わからない」31.5%（86件）、「2～3人」13.9%（38件）、「4～5人」9.5%（26件）となっている。

「採用したい」と回答した企業についてみると、「1人」が25.0%（30件）で最も多く、次いで「2～3人」19.2%（23件）、「わからない」18.3%（22件）、「4～5人」16.7%（20件）となっている。

「採用を検討したい」と回答した企業については、「わからない」が41.8%（64件）で最も多いが、「1人」も37.3%（57件）と4割弱を占めている。

【全体】

	全 体	
	件数	%
1 1人	87	31.9
2 2～3人	38	13.9
3 4～5人	26	9.5
4 6～7人	10	3.7
5 8～9人	14	5.1
6 10人以上	10	3.7
7 わからない	86	31.5
不 明	2	0.7
合 計	273	100.0

【「採用したい」・「採用を検討したい」別回答】

	採用したい		採用を検討したい	
	件数	%	件数	%
1 1人	30	25.0	57	37.3
2 2～3人	23	19.2	15	9.8
3 4～5人	20	16.7	6	3.9
4 6～7人	6	5.0	4	2.6
5 8～9人	11	9.2	3	2.0
6 10人以上	8	6.7	2	1.3
7 わからない	22	18.3	64	41.8
不 明	0	0.0	2	1.3
合 計	120	100	153	100

問8 北陸学院大学社会学部社会学科について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

自由回答意見
近視眼にとらわれず、俯瞰した意見、行動に期待します。
採用職種は「営業」であり、学部問わず、コミュニケーション力、問題発見能力、課題解決能力を有する人材を希望します。
多様化が進む現代社会において、重要な分野であると考えます。生活に必要な不可欠な「お金」を扱う金融機関にとって、活躍できる人材の成長が期待され、楽しみです。
健康科学・教育学部と違い、明確な専門要素（スキル等）が見えなくなりますので、採用においては幅広い業界へ進出できると感じますが、人間力（質）が問われると思います。
キャリア形成、キャリアコンサルティングを学び自己開発能力の向上、ストレスある社会でいかに自分のモチベーションを保ち、向上していくか学生の頃から学べる機会があれば良いと思う。国家資格取得を目指す。
ご案内をいただきまして、ありがとうございます。
弊社は製造業ですが、御校のパンフレットを見るかぎりでは内容が弊社の仕事内容（営業、営業アシスタント、事務、生産等）でマッチングしなかったと感じました。
コロナ禍の為、大学並びに学生と対面する機会が減り、こちらも大学へ訪問することも無くなりました。これを機に宜しく願います。
パンフレットを拝見いたしました。地域社会で活躍できる人財の輩出ができるよう期待しております。
AI化出来る分野での採用は厳しいものになっていくと思います。
営業職、事務職の求人を希望します。
多様性のある人物形成を。
幅広い知識を身につけ、柔軟な対応ができる人材育成に期待しています。
今年度（2022.3卒）もまだ募集中ですので、学生の応募をお待ちしております。
採用については各支店、本社がそれぞれ別に対応しています。採用人数はその年で大きな差がありますが、試験と面接の基準をクリアした方が合格となっています。
良いご縁が生まれれば幸いです。設置の実施を心待ちにしております。
ITソフトウェアエンジニア又は営業の採用を検討しております。
先の社会を見越した中で適応できる人材育成を期待します。4年間の学生生活で地域社会と多くの接点を持つ機会を増やして下さい。
モノ創り（弊社では施工技術）にコミットされる方が居られれば良いが。
地域社会の課題解決に資する人材を育てることで、地域の活性化につながることを期待しています。
リベラルアーツの重要性が益々注目されていく中で社会学部の設置は素晴らしい決断だと思います。
コミュニケーション力の高い人財が社会では高い信頼につながりますので、共感的対話力を身につけた学生さん楽しみです。
今後ともよろしく願い致します。

自由回答意見
貴大学の社会に役立つ人材の育成、企業が求める力を養う教育が更に強化される新学部に期待しています。
コミュニケーション能力が高い人材を育てて欲しい。地域の事を考えられる人材を育てて欲しい。
貴大学の卒業生が当法人で活躍しています。採用だけでなく、実習や見学等でも引き続き良いつながりを維持できましたら幸いです。
福祉系の学生の進出を期待しています。
心理学を活かせる仕事はあまり多くないと思います。必要とする子供達のためにぜひ今後も心理学を学ぶ学生を増やしていただきたいです。
インターンシップ受入での感想で、個人差は当然有ると思いますが、「身につける力」として、会話力・対話力の比重を上げていただきたいです。最近では「電話/通話」が出来ない方が多く見受けられます。発信力強化として検討していただければ。
多くの学生さんとお話できる機会があれば幸いです。今後とも宜しくお願い致します。
時代に即した学部学科と思われます。社会に出てから学んだことを活かせると思います。
人間総合学部から社会学部になられるにあたり、より専門的な学びを得る体制になるのではと期待しております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
車に関する総合的な事業を展開しております。当社に興味を持つ学生様がおいでましたら是非お会いしたいと考えております。
新学部設置ということで、今後も北陸エリアの新店を強化したいと考えているため、引き続きご尽力できればと考えております。
一人でも多くの御校の学生とご縁があればと考えておりますので、引き続き、今後とも宜しく願い申し上げます。
是非説明会の場がありましたらお声かけいただけますと幸いです。
経営全般を学ぶことが出来、将来の実績を積む経験がたくさんある弊社に最適です。
平素よりお世話になっております。今後、学生への説明会（企業説明会）等ありましたら参加したいです。
良い人材をご紹介して頂きたい考えです。今後ともよろしくお願い致します。
看護に興味のある学生の方がおられましたら、いつでも連絡お待ちしております。

Ⅲ 新学部採用意向

社会学部社会学科の卒業生を「採用したい」と回答した企業の採用想定人数の回答結果から毎年の採用想定人数を算定すると、採用想定人数は少なくとも毎年 295 人となる。「採用したい」という採用に強い意向を持つ企業だけでも、毎年の卒業生（95 人）の 3 倍以上の採用意向があることになる。

また、同様に、「採用を検討したい」と回答した企業の採用想定人数の回答結果から毎年の採用想定人数を算定すると 156 人となる。「採用を検討したい」という採用の可能性を示す企業においても、卒業生の採用を希望する企業が出てくる可能性があることから、社会学部社会学科卒業生に対して十分な採用意向があると考えられる。

【設定】		【採用したい】		【採用を検討したい】	
問7 選択肢	採用想定 人数	問7 件数	採用想定 人数	問7 件数	採用想定 人数
1 1人	⇒ 1人	30	30人	57	57
2 2~3人	⇒ 2人	23	46人	15	30
3 4~5人	⇒ 4人	20	60人	6	18
4 6~7人	⇒ 6人	6	24人	4	16
5 8~9人	⇒ 8人	11	55人	3	15
6 10人以上	⇒ 10人	8	80人	2	20
—		合計	295人	合計	156人

北陸学院大学における社会学部設置に関するアンケート調査票

北陸学院大学では、人間総合学部を改組し、新たに「社会学部 社会学科」（仮称）の設置を構想しております。このたび、採用ご担当者の皆様からご意見をお聞きし、学部設置の参考にさせていただきたく、アンケート調査を実施することとなりました。

このアンケート調査は、企業の皆様の本学卒業生の採用意向等についてお聞きし、今後の計画推進の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、個の調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。

新大学の内容等につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

回答は設問の順に該当する番号等を回答欄に直接記入してください。

北陸学院大学社会学部社会学科（設置構想中）の概要※いずれも予定であり変更する可能性があります。

【入学定員】 95名

【開設時期】 2023年（令和5年）4月

※第1期生は2027年（令和9年）3月に卒業予定です。

【所在地】 石川県金沢市三小牛町イ11番地（JR金沢駅より路線バスで約30分。）

【回答欄】

問1-① 貴事業所の「本社・本部・本店の所在地」について、次の中から該当する番号を1つお選びください。

1 北海道	2 青森県	3 岩手県	4 宮城県	5 秋田県	6 山形県	7 福島県
8 茨城県	9 栃木県	10 群馬県	11 埼玉県	12 千葉県	13 東京都	14 神奈川県
15 新潟県	16 富山県	17 石川県	18 福井県	19 山梨県	20 長野県	
21 岐阜県	22 静岡県	23 愛知県	24 三重県			
25 滋賀県	26 京都府	27 大阪府	28 兵庫県	29 奈良県	30 和歌山県	
31 鳥取県	32 島根県	33 岡山県	34 広島県	35 山口県		
36 徳島県	37 香川県	38 愛媛県	39 高知県			
40 福岡県	41 佐賀県	42 長崎県	43 熊本県	44 大分県	45 宮崎県	
46 鹿児島県	47 沖縄県					

本社・本部・本店の所在地

問1-② 採用地について、チェック☑を入れてください。

北陸三県〔 石川県 富山県 福井県 〕

北陸三県以外

問2 貴社の主たる業種は何ですか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 建設業 | 7 不動産業 |
| 2 製造業 | 8 宿泊業・飲食サービス業 |
| 3 情報通信業 | 9 生活関連サービス業・娯楽業 |
| 4 運輸業 | 10 教育・学習支援業 |
| 5 卸売業・小売業 | 11 医療・福祉 |
| 6 金融業・保険業 | 12 その他（具体的に |

（裏面に続く）

問3 現在の貴社の正規社員数についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1つお選びください。

- | | | | | | |
|---|--------|---|----------|---|----------|
| 1 | 1～19人 | 4 | 100～299人 | 7 | 1,000人以上 |
| 2 | 20～49人 | 5 | 300～499人 | | |
| 3 | 50～99人 | 6 | 500～999人 | | |

問4 貴社では、過去1年間に正規社員を採用しましたか。

- | | | | |
|---|------|---|---------|
| 1 | 採用した | 2 | 採用していない |
|---|------|---|---------|

問5 貴社では、今後の正規社員採用計画についてどのようにお考えですか。①3～5年後、②6～10年程度後について、それぞれ該当する番号を 1つお選びください。

- | | | | |
|---|--------------|---|----------|
| 1 | 採用人数を増やしたい | | |
| 2 | 採用人数をやや増やしたい | ① | 3～5年後 |
| 3 | 現状と同じ | | |
| 4 | 採用人数をやや減らしたい | | |
| 5 | 採用人数を減らしたい | ② | 6～10年程度後 |
| 6 | わからない | | |

問6 貴社では、北陸学院大学社会学部社会学科の卒業生の採用について、どのようなお考えをお持ちですか。該当する番号を 1つお選びください。

- | | | | |
|---|----------|--|---|
| 1 | 採用したい | | |
| 2 | 採用を検討したい | | |
| 3 | 採用は考えない | | |
| 4 | その他（具体的に | | ） |

問7 問4で「1 採用したい」もしくは「2 採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。採用を考える場合、毎年何人程度の採用が想定されますか。該当する番号を 1つお選びください。

- | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------|
| 1 | 1人 | 4 | 6～7人 | 7 | わからない |
| 2 | 2～3人 | 5 | 8～9人 | | |
| 3 | 4～5人 | 6 | 10人以上 | | |

問8 北陸学院大学社会学部社会学科について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

*** これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 ***

新子育て安心プランの概要

○ **令和3年度から令和6年度末までの4年間で約14万人分の保育の受け皿を整備する。**

- ・ 第2期市町村子ども・子育て支援事業計画の積み上げを踏まえ、保育の受け皿を整備。
- ・ できるだけ早く待機児童の解消を目指すとともに、女性(25～44歳)の就業率の上昇に対応。

(参考) 平成31年：77.7%、現行の子育て安心プランは80%に対応、令和7年の政府目標：82% (第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略)

平成25年度

待機児童解消加速化プラン
(目標：5年間で約50万人)

平成30年度

子育て安心プラン
(目標：3年間で約32万人)

令和3年度

新子育て安心プラン
(目標：4年間で約14万人)

令和6年度末

○ **新子育て安心プランにおける支援のポイント**

①地域の特性に応じた支援

○ **保育ニーズが増加している地域への支援**

- (例)
- ・ 新子育て安心プランに参加する自治体への**整備費等の補助率の嵩上げ**

○ **マッチングの促進が必要な地域への支援**

- (例)
- ・ **保育コンシエルジュによる相談支援の拡充**
(待機児童数が50人未満である市区町村でも新子育て安心プランに参画すれば利用可能とする)
 - ・ **巡回バス等による送迎**に対する支援の拡充
(送迎バスの台数や保育士の配置に応じたきめ細かな支援を行う)

○ **人口減少地域の保育の在り方の検討**

②魅力向上を通じた保育士の確保

(例)

- ・ **保育補助者の活躍促進** (「勤務時間30時間以下」との補助要件を撤廃)
- ・ **短時間勤務の保育士の活躍促進**
(待機児童が存在する市町村において各クラスで常勤保育士1名必須との規制をなくし、それに代えて2名の短時間保育士で可とする)
- ・ **保育士・保育所支援センターの機能強化**
(現職保育士の就業継続に向けた相談を補助対象に追加)

③地域のあらゆる子育て資源の活用

(例)

- ・ **幼稚園の空きスペースを活用した預かり保育** (施設改修等の補助を新着発料を弾力化) **4**
(「幼稚園の空きスペースを活用した預かり保育」の推進)
- ・ **ベビーシッターの利用料助成の非課税化** (令和3年度税制改正で対応)
- ・ **企業主導型ベビーシッターの利用補助の拡充** (1日1枚→1日2枚)
- ・ **育児休業等取得に積極的に取り組む中小企業への助成事業の創設**
【令和3年の通常国会に子ども・子育て支援法の改正法案を提出予定】

学生確保の見直し等を記載した書類

発料

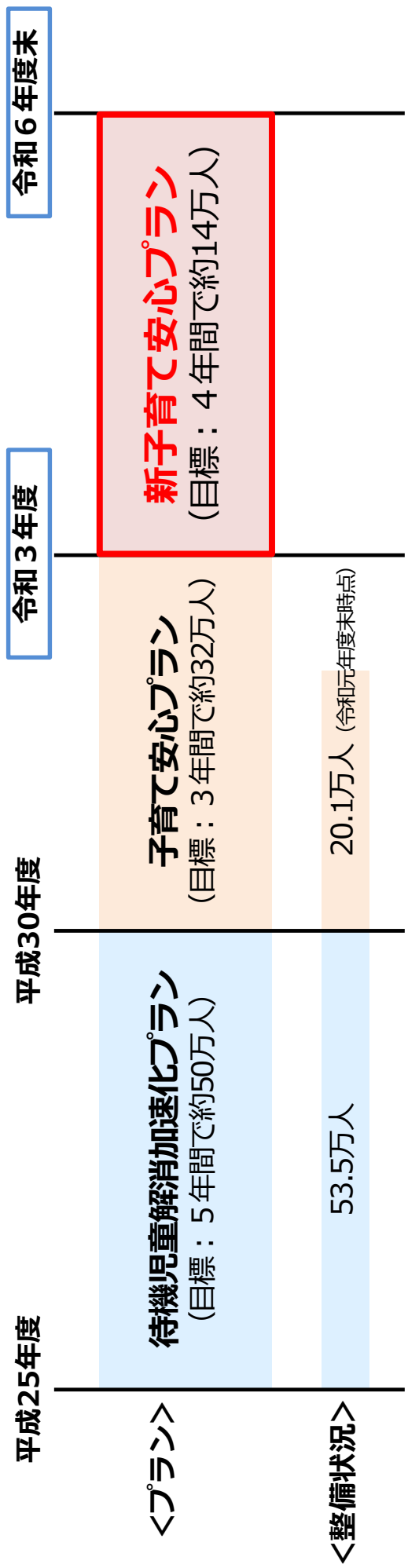
4

新子育て安心プラン

○ **令和3年度から令和6年度末までの4年間で約14万人分の保育の受け皿を整備する。**

＜ポイント＞

- ・ 第2期市町村子ども・子育て支援事業計画の積み上げを踏まえ、保育の受け皿を整備。
 - ・ できるだけ早く待機児童の解消を目指すとともに、女性(25～4歳)の就業率の上昇に対応。
- (参考) 平成31年：77.7%、現行の子育て安心プランは80%に対応、令和7年の政府目標：82% (第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略)
- ・ 地域の特性に応じた支援を実施。
 - ・ 仕事・職場の魅力向上を通じた保育士確保を推進。
 - ・ 幼稚園・ベビーシッターを含めた地域のあらゆる子育て資源を活用。



①地域の特性に応じた支援

必要な方に適切に保育が提供されるよう、地域の課題を丁寧把握しつつ、地域の特性に応じた支援を実施。

○保育ニーズが増加している地域への支援

子育て安心プランにおける保育の受け皿確保の取組を引き続き推進。

＜施策例＞

- ・新子育て安心プランに参加する自治体への**整備費等の補助率の嵩上げ**
- ・待機児童対策協議会に参加する自治体への**改修費等の補助基準額の嵩上げ・先駆的取組への支援**

○マッチングの促進が必要な地域への支援

保護者への「寄り添う支援」を強化し、マッチングを促す。

＜施策例＞

- ・**保育コンシェルジュによる相談支援の拡充**
 - 待機児童数が50人未満である市区町村でも新子育て安心プランに参画すれば利用可能とする
- ・**巡回バス等による送迎**に対する支援の拡充
 - 送迎バスの台数や保育士の配置に応じたきめ細かな支援を行う
- ・**利用者の利便性向上のための改修等の補助**対象への追加

○人口減少地域の保育の在り方についても別枠検討を進める

②魅力向上を通じた保育士の確保

保育士が生涯働ける魅力ある職場づくりを推進するとともに、職業の魅力を広く発信する。

＜施策例＞

- ・**情報発信のプラットフォーム構築**
- ・**保育補助者の活躍促進**
 - 「勤務時間30時間以下」との補助要件を撤廃
- ・**短時間勤務の保育士の活躍促進**
 - 待機児童が存在する市町村において各クラスで常勤保育士1名必須との規制をなくし、それに代えて2名の短時間保育士で可とする
- ・**保育士・保育所支援センターの機能強化**
 - 現職保育士の就業継続に向けた相談を補助対象に追加
- ・**若手保育士や保育事業者等への巡回支援の拡充**
 - 働き方改革支援コンサルタントの巡回や魅力ある職場づくりに向けた啓発セミナーの実施を補助対象に追加

③地域のあらゆる子育て資源の活用

利用者のニーズにきめ細かく対応するため、幼稚園・ベビーシッターなど、地域のあらゆる子育て資源を活用する。

＜施策例＞

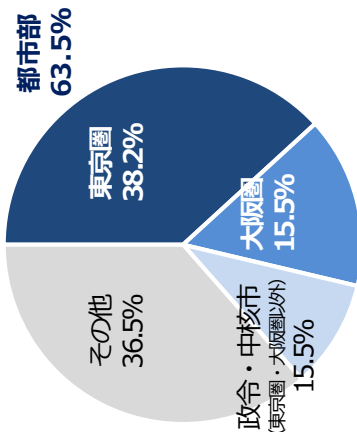
- ・**幼稚園の空きスペースの活用**
 - 預かり保育等のスペース確保のための施設改修等の補助を新設
 - 待機児童が存在する市区町村において空きスペースを活用した小規模保育の利用定員の上限(19人)を弾力化（3人増し→6人増しまで可とする）
- ・**ベビーシッターの活用**
 - 利用料に関する自治体等の助成を非課税所得とする（令和3年度税制改正で対応）
 - 企業主導型ベビーシッターの利用補助を拡充（1日1枚→1日2枚）
- ・**育児休業等の取得促進**
 - 育児休業等取得に積極的に取り組む中小企業への助成事業の創設（令和3年の通常国会に子ども・子育て支援法の改正法案を提出予定）

①待機児童の現状

市区町村の待機児童の状況は様々。全国の市区町村のうち約8割の市区町村は待機児童を解消。待機児童のいる市区町村では以下のような特徴がある。

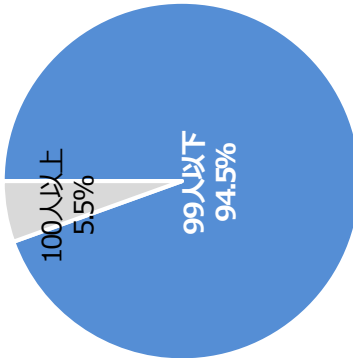
○待機児童の6割超が都市部で発生

＜待機児童の地域別割合＞



○待機児童のいる市区町村の9割超が99人以下

＜待機児童のいる市区町村の割合＞



②保育士確保の現状

保育士の確保を進めるに当たり、保育業務に関する以下の課題が存在する。

○保育士が退職した理由 (複数回答)

仕事量が多い：27.7%

○保育士が再就業する場合の希望条件 (複数回答)

勤務時間：76.3%

雇用形態(パート・非常勤採用)：56.0%

※いずれも「東京都保育士実態調査報告書」(令和元年5月公表)より

③地域における子育て資源の現状

地域においては、保育所以外にも、幼稚園・ベビーシッターなどの子育て資源が存在する。

＜幼稚園＞

- ・令和元年度までに**幼稚園の24.9%が認定こども園に移行**
- ・**預かり保育(3～5歳児)の実施率：87.8%** (令和元年度)
- ・**幼稚園等の定員充足率：63.0%** (令和元年5月1日)

＜ベビーシッター＞

- ・主に通常の保育と組み合わせて利用
- ・**企業主導型について利用の補助(1日1枚、月24枚が上限)を実施**

令和3年度実質当初予算主要事業
(令和3年度当初予算及び令和2年度第1次3月補正予算)

- | | |
|--|--|
| <p>I 新型コロナウイルス感染症・経済対策</p> <p>1 感染拡大の防止</p> <p>(1) 検査体制の確保</p> <p>(2) 医療提供体制の確保</p> <p>(3) ワクチンの円滑な接種に向けた体制整備</p> <p>(4) 感染症対策の現場を支える人材の確保・育成</p> <p>(5) 学校における感染症対策</p> <p>2 地域経済の正常化</p> <p>(1) コロナに打ち克つ経営力強化総合支援プログラムの創設</p> <p>(2) 次世代産業の創造</p> <p>3 差別や偏見等の解消</p> <p>II 本県の勢いを復活させ、北陸新幹線県内全線開業へと繋げていくための「石川の強みの更なる磨き上げ」</p> <p>1 いしかわの個性の更なる磨き上げ</p> <p>(1) 金沢城公園の復元整備と魅力向上</p> <p>(2) 加賀百万石回遊ルート of 更なる魅力向上</p> <p>(3) 兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信</p> <p>(4) いしかわ百万石文化祭2023(国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭)開催(R5年秋)準備の本格化</p> <p>(5) 本県ならではの個性である厚みのある文化の創造と発信</p> <p>(6) 新たな県立図書館の整備推進</p> <p>(7) 地域の強みを活かした里山里海の振興</p> <p>(8) 個性と魅力にあふれる文化と学術の地域づくり</p> <p>(9) スポーツを通じた活力の創造</p> <p>(10) 本県への人の流れの加速</p> <p>2 交流基盤を活用した人やものの交流の活性化</p> <p>(1) 北陸新幹線県内全線開業に向けた着実な準備</p> <p>(2) 金沢港の更なる賑わいの創出</p> <p>(3) 人やものの交流を盛んにする基盤整備と活用</p> <p>(4) 本県ならではの景観の創出と魅力発信</p> <p>(5) いしかわの魅力発信と新たな魅力づくりによる石川ファンの拡大</p> <p>3 地域を支える活力ある産業の創出</p> <p>(1) 特色ある県産農林水産物の生産・販売体制強化とブランド化</p> <p>(2) 他産業と連携した新たな発想による農林水産業の収益力向上</p> <p>(3) 地域の農業を支える多様な担い手の活躍の支援</p> | <p>(4) 本県産業を支える人材確保支援</p> <p>(5) 戦略的な企業誘致の推進</p> <p>4 官民を挙げたデジタル化の推進</p> <p>(1) 行政のデジタル化</p> <p>(2) 産業・生活のデジタル化</p> <p>III 県民生活の安全・安心の更なる確保</p> <p>1 防災・減災対策など安全で安心なくらしの実現</p> <p>(1) 災害に強いまちづくり・地域づくり</p> <p>(2) 原子力防災体制の整備</p> <p>2 カーボンニュートラルへの対応</p> <p>(1) 脱炭素社会に向けた取り組みの強化</p> <p>(2) 循環型社会の形成</p> <p>(3) 再生可能エネルギーの利活用の推進</p> <p>3 みんなで支える安らぎと絆の社会づくり</p> <p>(1) 団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた対応</p> <p>(2) 安らぎのある地域社会づくりの推進</p> <p>(3) ワークライフバランスの実現と男女共同参画社会の形成</p> <p>4 結婚や出産の希望がかない安心して子育てできる社会づくり</p> <p>(1) 結婚を希望する男女への支援体制の強化</p> <p>(2) 妊娠・出産と子育てに対する不安の解消</p> <p>(3) 子どもの健やかな育ちへの支援</p> <p>(4) 保育士確保対策と資質向上</p> <p>5 安全・安心と豊かな社会づくり</p> <p>(1) 安全で良質な地域医療の安定的な確保</p> <p>(2) 身近な安全・安心が確保された社会づくり</p> <p>(3) 自然と人が共生できる社会づくり</p> <p>6 未来を拓く心豊かな人づくり</p> <p>(1) これからの社会を生き抜く心身ともにタフな人づくり</p> <p>(2) 建学の精神を尊重した私学の振興</p> <p>IV 行政経営プログラムに基づく計画的な行政運営の推進</p> <p>(1) 柔軟かつ機動的な組織づくりと人材の育成・確保</p> <p>(2) 県民の視点に立った行政サービスの提供</p> <p>(3) 財政健全性の維持・向上</p> |
|--|--|

I 新型コロナウイルス感染症・経済対策

1 感染拡大の防止

(1) 検査体制の確保(1日4,700件体制)

－ 身近な医療機関を中心とした検査体制の確保	1,400,000 千円
－ PCR検体採取センターの運営	284,000 千円
－ 発熱患者等受診相談センターの運営	71,500 千円

(2) 医療提供体制の確保

－ 患者専用病床を確保する医療機関に対する支援(258床)	22,500,000 千円
－ 宿泊療養施設の継続的な確保(340床)	1,400,000 千円
－ 医療従事者向け宿泊場所の確保に対する支援	56,000 千円
－ いしかわクラスター対策班の派遣	30,000 千円
－ 福祉施設でのクラスター発生時の応援職員相互派遣 高齢者施設、障害者施設、㊦児童養護施設	41,400 千円
－ 専門家会議の開催	1,000 千円

(3) ㊦ワクチンの円滑な接種に向けた体制整備

125,000 千円
県民への正確な情報の提供、副反応等の相談に対応するコールセンターや 医療機関における受診窓口の設置

(4) 感染症対策の現場を支える人材の確保・育成

－ ㊦保健師の増員(67人→81人(R2前倒し採用8人))	
－ ㊦全ての患者受入医療機関での感染管理認定看護師の確保に向けた重点的な支援	16,500 千円
県立看護大学に県内特別枠の創設(10人)、看護師の資格取得支援など	
－ ㊦患者の治療にあたる医療従事者への支援	114,000 千円
寄附金を活用したギフト券の贈呈(新型コロナウイルス感染症対策応援基金)	
－ 高齢者施設等における感染症への対応力の向上	12,000 千円
㊦専門家派遣による現地指導(28法人→61法人)、	
㊦施設管理者向けの感染症発生時対応力強化研修	

(5) 学校における感染症対策

－ スクール・サポート・スタッフの配置	255,000 千円
学校の消毒作業など教員業務の補助	
－ 県立学校における保健衛生用品の配備等	120,800 千円
－ 特別支援学校のスクールバスの感染防止対策	220,119 千円
－ ㊦県立学校衛生環境整備の推進	330,652 千円
トイレの洋式化及び手洗い場の自動水栓化(R5年度までに完了)	

2 地域経済の正常化

(1) コロナに打ち克つ経営力強化総合支援プログラムの創設(総額30億円)

- ・ コロナ禍にあっても前向きに取り組む企業に対して、新たな商品・サービスを「生み出す」段階から「売る」段階までのあらゆる段階を一貫して支援
 - ・ 総勢500人の専門家集団が総力をあげて1,000社を超える企業の成功事例の創出を目指す
 - ・ ㊦「経営力強化総合支援アドバイザー」派遣制度の創設(派遣枠5,000回) 150,000 千円
- 回数制限なし、専門家の複数同時派遣による充実した支援体制により企業を後押し

前向きな取り組みへの後押し

(新たな商品・サービスを「生み出す」段階への支援)

- － ㊦ 企業の新分野進出・事業転換への支援 105,000 千円
 これまでに得たノウハウを活用し新たな事業に取り組む企業を支援
- － いしかわ次世代産業創造ファンド(300億円)による支援 200,000 千円
 次世代の産業を担う成長分野での新技術・新製品の研究開発への助成
- － いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンド(400億円)による支援 283,000 千円
 地域資源を活用した新商品開発やものづくり企業の製品開発への支援など
- － ニッチトップ企業の育成 33,700 千円
 国内外でニッチトップを目指す企業に対する支援、
 ニッチトップの可能性を秘めたネクストニッチトップ企業に対する支援

(新たな商品・サービスを「売る」段階への支援)

- － ㊦ 国内外の展示会出展等の支援 153,000 千円
 オンラインを含めた国内外の展示会出展やPR動画作成等を支援
- － 技術提案型展示商談会の開催 14,000 千円
- － 受注開拓懇談会の開催 29,014 千円
- － 繊維企業と大手アパレル企業の連携強化 8,000 千円
 首都圏での商談会の開催、首都圏デザイナーとの商品開発など
- － 食品王国いしかわの開催 2,000 千円
 加工食品と県産食材を一堂に集めた展示商談会の開催支援
- － 首都圏における本県の伝統工芸の魅力発信 21,000 千円
 いしかわ伝統工芸フェアの開催支援など
- － 海外アンテナショップのモデル実施 40,000 千円
 シンガポール、香港の大手百貨店での県産品販売(販売期間4ヶ月)、
 ㊦オンラインアンテナショップの通年化
- － 海外バイヤー等と連携した商品開発等への支援(中小企業チャレンジ支援ファンド)
 「海外販路拡大枠」による商品開発・改良等への支援
- － 海外バイヤーとのネットワーク構築による販路開拓 6,500 千円
 オンラインビジネス商談会の開催(シンガポール、香港)など

(商品・サービスの付加価値向上に向けた支援)

- － デジタル化実践道場の開講(㊦実践コースに加え座学による基礎コースを新設) 25,000 千円
- － ㊦ デジタル化推進経営アドバイザー制度の創設 15,000 千円
 デジタル技術の活用を経営面からも助言する専門家の派遣
- － デジタル化設備導入・技術開発の支援 390,000 千円
 ㊦設備導入助成枠の倍増(55件→120件)、
 ㊦システム研究開発加速支援枠の創設(4件)
- － 早稲田大学を代表校とする「スマートエスイーIoT/AI石川スクール」の開催 10,000 千円
- － ㊦ UIターンによる即戦力デジタル人材の確保支援 15,000 千円
 企業のデジタル化を牽引する中核人材の採用促進
- － ㊦ デジタル化による競争力強化研究会の設置 3,000 千円
- － ものづくり産業等の5G活用の促進 6,000 千円
 経営者向けセミナー、大手メーカー等との意見交換会の開催など
- － ㊦ プロフェッショナル人材の確保支援 50,000 千円
 企業の競争力強化に資する人材獲得の採用時のマッチングから採用後の
 フォローアップまでの一貫支援

- ・ 需要の創出
 - － 「GoToトラベル事業」に連動した観光需要の取り込み 200,000 千円
旅行商品購入者に対する県特産品プレゼントキャンペーンの実施
 - － ㊦ 「GoToトラベル事業」終了後の反動減対策 400,000 千円
県特産品プレゼントキャンペーンの継続(北陸三県以外)、
北陸三県の県民を対象とした県内宿泊応援キャンペーンの実施
 - － 伝統工芸産業の需要創出 300,000 千円
各種イベントで活用する記念品の制作
- ・ ㊦ セーフティネットの確保
 - － 新型コロナウイルス感染症経営改善支援特別融資制度の創設(融資枠600億円) 443,000 千円
据置期間5年、利率1.0%、信用保証料の免除
 - － 新型コロナウイルス感染症対応中小企業金融支援基金の創設 3,000,000 千円
新型コロナウイルス感染症緊急特別融資(無利子、信用保証料の免除)
の後年度負担分の積み立て
 - － 雇用調整助成金の円滑な利用に向けた専門家の派遣 3,000 千円
 - － 離職者の再就職の際の職種によるミスマッチの解消 66,000 千円
人手不足業種への転職を支援

(2) 次世代産業の創造

- － ㊦ 次世代産業研究会の設置 3,000 千円
脱炭素化の進展に伴う水素など将来の成長分野等への県内企業の参入を支援

3 差別や偏見等の解消

- － ㊦ 「石川県新型コロナウイルス感染症に係る差別の解消の推進に関する条例」の制定
- － 県民への啓発活動の強化 9,000 千円
㊦啓発キャンペーンの実施、㊦児童生徒によるポスターコンクールの開催、
企業・団体向け研修会の開催など

II 本県の勢いを復活させ、北陸新幹線県内全線開業へと繋げていくための「石川の強みの更なる磨き上げ」

1 いしかわの個性の更なる磨き上げ

(1) 金沢城公園の復元整備と魅力向上

- ・ ㊦ 二の丸御殿の復元整備 185,000 千円
「表向」主要部の第一段階の整備(基本設計)、復元整備専門委員会の設置、
二の丸御殿復元整備推進室の設置など
- ・ ㊦ 金沢城調査研究所設立20周年記念事業の実施 7,300 千円
シンポジウム、金沢城現地解説ツアーの開催、出土品・絵図の展示など

(2) 加賀百万石回遊ルートの更なる魅力向上

- ・ 金沢城公園・兼六園の魅力充実と回遊性向上に向けた仕掛けづくり 82,100 千円
㊦金沢城公園の重要文化財特別公開の実施(100日間→160日間)、
㊦金沢城公園の年間を通じた夜間開園・ライトアップ、
「金沢城・兼六園四季物語」の開催(70日間)、
観光・文化施設共通パスポートの発行、スタンプラリーの実施など

- (3) 兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信(日本・いしかわの「文化百工」)
- 国際北陸工芸サミットの開催(8月～12月) 139,000 千円
ハンガリー・ブダペスト国立工芸美術館コレクション展、北陸三県名品展など
 - 国内外の名品が集結する大規模な特別展の開催 88,997 千円
美術館
「北陸三県名品展」、「大樋陶冶斎の世界展」、「加賀百万石文武の誉れ展」など
歴史博物館
「尾張徳川家の至宝展」、「大加州刀展」など
 - 国立工芸館と連携した賑わい創出と回遊性の向上 32,000 千円
国立工芸館開館1周年記念イベントの開催、近代建築物周遊ツアーの実施など
 - 国際ガラス展・漆展「特別展」の開催 4,750 千円
- (4) いしかわ百万石文化祭2023(国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭)開催(R5年秋)準備の本格化
- 実行委員会の設置、実施計画の策定、気運醸成に向けたイベントの開催など 41,500 千円
 - 三の丸尚蔵館所蔵作品の特別展(R5年)の開催に向けた準備 1,000 千円
- (5) 本県ならではの個性である厚みのある文化の創造と発信
- 多彩な文化イベントの再開への支援
- 音楽堂開館20周年記念事業の開催 5,000 千円
新邦楽監督(野村萬斎氏)就任記念公演、OEK特別公演の開催
 - 「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」の開催 58,000 千円
本県が誇る多彩な音楽文化の県内外への発信
 - 「いしかわの伝統芸能プレミアムシアター(仮称)」の開催 77,000 千円
県内トップレベルの文化団体による一流の芸の披露
 - 「金沢芸妓の舞」の開催(15回→33回)(文化振興基金) 5,000 千円
 - 「観能の夕べ」の開催(文化振興基金) 6,000 千円
 - 百万石まちなかめぐりの開催 10,000 千円
金沢都心部における春の桜、秋の紅葉をテーマにしたイベントの実施
 - いしかわ文化の日といしかわ文化推進期間における普及啓発 4,100 千円
記念講演の開催、イベントガイドによる情報発信など
- (6) 新たな県立図書館の整備推進
- 建設・展示工事(12月建物の本体部分完成予定) 8,650,000 千円
本の位置をきめ細かく案内するブックナビゲーションシステムの導入、
耕作や観察等の体験学習も可能な児童向け屋外閲覧エリアの整備など
 - 図書 of 充実 73,000 千円
開架図書の計画的な収集、
石川コレクション(伝統文化・里山里海など)の収集(文化振興基金)
 - 円滑な移転の推進 190,000 千円
現図書館の閉館(10月頃)、図書・物品の移送など
 - 開館に向けた気運の醸成(R4年度前半開館予定) 5,000 千円
建物見学ツアーの開催、愛称の公募など
 - アクセス道路の整備 216,000 千円

(7) 地域の強みを活かした里山里海の振興

- ・ 多様な地域資源を活用した生業づくりの支援と魅力発信
 - － ㊦ 世界農業遺産国際会議2021(仮称)の開催(R3年秋) 34,000 千円
認定から10年を迎える「能登の里山里海」の魅力、取組成果等を国内外に発信
 - － 里山振興ファンドの拡充(120億円→180億円) 3,000,000 千円
㊦地域資源を活用した新たな生業の担い手に対する奨励金制度の創設、
㊦事前調査から商品開発、改良・販路開拓までの一貫支援の実施など
 - － 石川型スローツーリズムの推進 9,200 千円
㊦県内農家民宿の情報や滞在メニュー等を総合的に発信するサイトの開設など
 - － いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラムの推進 2,000 千円
認定を目指す国の研修生に対するオンライン研修の実施
 - － 海女文化の継承と振興 7,780 千円
三重県と連携した海女文化の調査・研究、新規就業海女の技術習得支援など

(8) 個性と魅力にあふれる文化と学術の地域づくり

- ・ いしかわの優れた文化の裾野拡大
 - － いしかわミュージックアカデミー(IMA)の開催 20,140 千円
国内外の著名な講師陣による若手音楽家の育成など
 - － いしかわジュニアアートステージの開催 7,900 千円
次代の文化を担う子どもたちによる発表と交流など
 - － 県内の文化団体活動の活性化(文化振興基金) 公募枠 80,000 千円
自主的、創造的な文化活動に対する助成
- ・ 高等教育機関の集積を活かした「学都石川」の魅力向上
 - － 高等教育機関による高校生への魅力発信 4,600 千円
県内大学等の合同進学説明会の開催、県外高校進路指導教員への情報発信など
 - － 高等教育機関との連携による学術交流の推進 25,000 千円
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットとの連携
- ・ 国際交流の拡大とグローバル化に対応した多文化共生の促進
 - － 日本語・日本文化研修プログラムの実施 17,527 千円
㊦国際交流基金と連携したPR動画の作成など
 - － 県民参加による幅広い国際交流の推進 2,700 千円
㊦友好交流地域とのオンラインを活用した青少年交流など
 - － 多文化共生社会の実現に向けた外国人住民への日本語教育の推進 11,000 千円
日本語指導ボランティア養成講座の開催、日本語教室への専門家派遣など

(9) スポーツを通じた活力の創造

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成
 - － ㊦ 東京オリンピック聖火リレーの実施 50,000 千円
県内全市町における聖火リレーの実施、
地元の伝統芸能の披露や趣向を凝らした聖火出発式、到着式の開催など
 - － ㊦ パラリンピック聖火フェスティバルの開催 7,000 千円
特別支援学校の子どもたちが一貫して参加する採火・集火・出立式の実施
 - － 東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿受け入れ 399,000 千円
競技団体や市町と連携した受け入れ支援、㊦選手の感染防止対策への支援など
 - － オリンピック・パラリンピック教育の推進 2,900 千円
学校でのオリンピック・パラリンピアンによる講演会など

- ・ 本県スポーツの裾野拡大と競技力向上
 - － 「いしかわ県民スポーツの日」における普及啓発
記念イベントの開催、県・市町のスポーツ施設の無料開放など 4,000 千円
 - － いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会の開催 8,000 千円
 - － いしかわスポーツマイレージを活用したスポーツ人口の拡大 8,000 千円
◎身近な散歩コースを歩く「いしかわまるごとウォークチャレンジ」機能の追加
 - － ◎ 本県ゆかりの選手が出場するオリンピック・パラリンピック競技等の体験教室の開催 3,000 千円
 - － 県内トップスポーツチームとの連携協定による地域活性化
選手との体験・交流イベントの開催、スポーツ教室や講演会の実施など 6,000 千円
 - － ジュニアアスリートの発掘・育成 2,400 千円
小学生を対象とした運動能力測定会やスポーツ体験会の開催
 - － 競技力向上対策 223,300 千円
各種競技団体や中学生・高校生の競技力強化に対する支援
 - － ◎ 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の開催 130,319 千円
バレーボール、ソフトテニス、剣道、なぎなた
 - － 障害者スポーツ大会の開催 7,225 千円
 - － 障害者スポーツの普及促進 7,000 千円
パラリンピック応援フォーラムの開催、
地域のスポーツクラブでの障害者スポーツ教室のモデル実施など
 - － 障害者アスリートの競技力向上 2,000 千円
国際大会等への出場に対する支援
 - － ◎ 日本知的障害者陸上競技選手権大会の開催支援 750 千円

(10) 本県への人の流れの加速

- ・ 移住希望者のUIターン促進
 - － 石川の強みを活かした戦略的な魅力発信 80,900 千円
子育て世帯へのセミナーの開催、「いしかわ移住パスポート(Lパス)」の発行など
 - － 地方移住への関心の高まりを契機とした移住の促進 18,000 千円
◎オンラインや現地での移住体験機会の倍増(70件→140件)
 - － ILACにおけるマッチングの促進 76,850 千円
人材紹介会社と連携したマッチングの促進、
三大都市圏・オンラインでの転職イベントなど
 - － 石川版移住支援金及び移住・起業支援金制度の実施 21,500 千円
東京23区からの県内中小企業へのUIターン就職者・起業者への支援金
 - － ◎ プロフェッショナル人材の確保支援(再掲) 50,000 千円
 - － ものづくり中小企業の研究開発人材等の確保支援 6,000 千円
理系大学院修了者に対する奨学金返還助成

2 交流基盤を活用した人やものの交流の活性化

(1) 北陸新幹線県内全線開業に向けた着実な準備

- ・ 北陸新幹線建設費負担金 15,620,000 千円
- ・ 北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプランの推進
 - － 開業に向けた気運の醸成 18,500 千円
新幹線工事現場を見学する全線開業実感ツアーの開催
(高架橋、◎新駅舎(小松・加賀温泉))、
◎大手出版社等との連携による県内全線開業のPRなど
 - － 民間主体の先導的な取り組みに対する支援 59,000 千円
◎開業効果の発現に取り組む民間団体の追加採択など

・	金沢以西延伸後の並行在来線の経営計画策定に向けた検討	3,000 千円
・	のと鉄道に対する沿線市町と連携した支援	181,000 千円
	－ 安全運行対策のための基金の追加造成	
(2)	金沢港の更なる賑わいの創出	
・	分区制度を活用した金沢港の魅力創出	
	－ 年間を通じた賑わいの創出	110,000 千円
	㊦クルーズターミナルでの飲食、物販イベントの開催、	
	㊦県民ワンナイトクルーズの実施(6月)、㊦水産ふ頭のライトアップ実施	
	－ クルーズターミナルと連携したかなざわ総合市場の魅力発信	6,000 千円
	㊦いきいき魚市の飲食提供機能の追加、㊦セリ見学ツアーの開催回数倍増など	
・	クルーズの拠点としての更なる利活用促進	
	－ 国内クルーズの受け入れと誘致	24,900 千円
・	貨物の拠点としての更なる利活用促進	
	－ コンテナ定期航路の利用促進	13,000 千円
	金沢港の利用促進に向けた荷主への支援など	
	－ ㊦ 戦略的な需要開拓による利用促進	4,000 千円
	物流事業者と連携した小口混載貨物サービス確立に向けたトライアルへの支援、	
	鉄道と海上の複合輸送の実現に向けたトライアルへの支援	
	－ 大浜国際物流ターミナルの整備	892,650 千円
	大水深岸壁の整備(航路泊地、西防波堤)	
(3)	人やものの交流を盛んにする基盤整備と活用	
・	航空ネットワークを活用した交流の促進	
	－ 小松空港	
	航空の優位性を活かした国内線の利用促進	98,000 千円
	㊦小松空港開港60周年記念キャンペーンの実施、	
	㊦観光・帰省客を対象としたリピート利用の促進、	
	福井県・航空会社との連携による首都圏からの新規需要開拓、	
	羽田便ビジネス利用・観光利用の促進、駐車場料金の軽減など	
	国際旅客便の利用促進	6,000 千円
	台北便、上海便、ソウル便の運航再開PR	
	国際物流拠点化の推進	23,380 千円
	㊦小松空港の優位性を活かした医薬品などの国際貨物市場の開拓、	
	輸送トライアルへの助成など	
	－ のと里山空港	
	安定需要の確保に向けた利用促進活動の展開	182,500 千円
	㊦能登の食・伝統文化・奥能登国際芸術祭等を活用した旅行商品の造成支援、	
	地元の児童・生徒に対するマイ空港意識の醸成など	
・	七尾港の特性を活かした活性化の推進	
	－ 木材等の総合物流拠点化の推進	12,000 千円
	原木輸出の取扱拡大に向けた輸送トライアルの実施など	
	－ 大田国際物流ターミナルの整備	508,753 千円
	大水深岸壁の整備など	

- ・ 次代の基盤となるみちづくり
 - － 広域交流ネットワーク道路の整備 ～「ダブルラダー輝きの美知」構想の推進～
 - 地域高規格道路等の整備 債務を含め 6,542,509 千円
 - 能越自動車道(輪島道路、田鶴浜七尾道路)、
のと里山海道4車線化(柳田IC～上棚矢駄IC間(最長ゆずりレーン延伸))、
金沢外環状道路 海側幹線(金沢市大河端町～福久町間、今町～鞍月間)
 - 広域交流幹線軸道路の整備 債務を含め 5,590,090 千円
 - 珠洲道路(能登町当目地内ゆずりレーン)、
七尾外環状道路(七尾市古府町～万行町間(Ⓢ工事着手))、
南加賀道路(加賀市細坪町～熊坂町間)など
 - 交流・物流拠点連結道路の整備 債務を含め 3,597,030 千円
 - かほく東西幹線道路(Ⅱ期区間(Ⓢ工事着手))、
加賀海浜産業道路(白山市小川町～川北町橋間、手取川架橋)など
 - 観光周遊道路の整備 債務を含め 1,311,792 千円
 - 奥能登絶景海道(寺家バイパス)など
 - 地域間交流道路の整備 607,516 千円
 - 国道249号(Ⓢ輪島市縄又町)など
 - － 走行性や安全性、利便性の向上につながるきめ細かな道路整備 1,035,000 千円
 - － 兼六駐車場の建替(第2期工事) 2,199,000 千円
 - － 市街地の交通渋滞の解消 債務を含め 669,565 千円
 - 兼六園下交差点改良など
 - ・ 快適で賑わいのあるまちづくり
 - － 市街地再開発事業への支援 80,684 千円
 - 金沢駅武蔵南地区
- (4) 本県ならではの景観の創出と魅力発信
 - ・ 南加賀地域の交流拠点としての木場潟公園の整備
 - － 東園地の整備 債務を含め 1,821,000 千円
 - Ⓢ里山交流ハウス(仮称)等の建設工事、園地整備
 - ・ 魅力ある景観の保全
 - － 無電柱化を核とした街なみ景観形成 債務を含め 1,662,629 千円
 - 河井町横地線(輪島市河井町～杉平町地区)、
北国街道線(小松市龍助町地区)など
 - － 千里浜海岸の砂浜再生 286,911 千円
 - 人工リーフの整備促進、浚渫砂による養浜など
- (5) いしかわの魅力発信と新たな魅力づくりによる石川ファンの拡大
 - ・ ほっと石川観光プラン推進ファンドの延長(総額200億円) 15,000,000 千円
 - ・ 旅行ニーズの変化に対応した受け地の魅力の磨き上げ
 - － 旅行商品造成に向けた魅力づくりの促進 38,800 千円
 - Ⓢ民間事業者と市町との連携による観光素材の開発支援、
地域の観光素材の旅行商品化に向けたプロモーション会議の開催、
Ⓢ交通事業者等による県内周遊旅行商品の造成支援など
 - － 能登・加賀・金沢の魅力を活かした誘客イベントの開催 100,000 千円
 - 能登での食をテーマとしたイベントの開催(Ⓢ予約システムの導入)、
Ⓢ加賀での食と伝統工芸をテーマとしたパンフレット発行やスタンプラリーの実施、
金沢での歴史的建造物と音楽をテーマとしたイベントの開催など
 - － のと鉄道観光列車の魅力発信 3,000 千円
 - Ⓢインターネットを活用した鉄道ファン等に対する動画PRなど

<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 白山白川郷ホワイトロードの利用促進 	24,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> 温泉旅館等の宿泊者を対象とした片道無料化など 	
<ul style="list-style-type: none"> 石川ならではの魅力の重点的な発信 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> JRと連携した誘客キャンペーンの展開 	11,500 千円
<ul style="list-style-type: none"> JR・北陸三県連携による通年誘客キャンペーン 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏アンテナショップを活用した県産品の魅力発信 	62,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> JR東日本グループと連携した広報、イベント・キャンペーンの充実など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏からの誘客推進 	39,800 千円
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ⑩JR東日本との連携による女性やシニアをターゲットとした観光PR、 ⑩善光寺御開帳に合わせた長野県との連携による観光PRなど 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 関西・中京圏からの誘客推進 	30,400 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩福井県との連携によるマイカー誘客推進など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 「いしかわ観光コンシェルジュ」による誘客推進 	23,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩三大都市圏等の大手旅行会社主要店舗での配置拡大(20人→25人)、 店舗での販促キャンペーンの実施 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した誘客推進 	17,500 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩本県が誇る歴史・文化・食・自然等の魅力を訴求するPR動画の制作など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> コンベンション誘致の推進 	40,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> 県内でのコンベンション開催に対する助成(⑩コロナ対策経費など) 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行誘致の推進 	6,300 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩関西圏の公立中学校長の現地研修会の開催など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税制度を活用した県の魅力のPR強化 	30,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> 県外在住の寄附者を対象とした県の特産品等の返礼品贈呈 	
<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携による石川の観光の次代を担う人材の育成 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> いしかわ観光創造塾の開催 	1,600 千円
<ul style="list-style-type: none"> 観光関連産業の若手経営者等を対象とした人材育成プログラム 	
<ul style="list-style-type: none"> インバウンド再開を見据えた受け地の魅力づくり 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 外国人旅行者のニーズに対応した観光素材の磨き上げ 	5,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩観光事業者を対象とした研修会の開催 	

3 地域を支える活力ある産業の創出

<ul style="list-style-type: none"> (1) 特色ある県産農林水産物の生産・販売体制強化とブランド化 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 石川ブランド農林水産物「いしかわ百万石食材」の認定と魅力の浸透 	182,500 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩ロゴマーク活用による食材取扱店の見える化、 ⑩首都圏百貨店と連携したインターネット販売など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ⑩生産に必要な栽培技術の継承、種苗の管理についてブランド化推進条例に明文化 	
<ul style="list-style-type: none"> 市場ニーズに対応した販売力の強化 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 県産農林水産物の海外需要の開拓 	4,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> 石川フェアでのPR(台湾、シンガポール、香港)など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 特色ある県産食材の首都圏へ向けた販路開拓 	23,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> シェフ・バイヤー等を対象とした「いしかわ百万石マルシェ」の開催 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 流通産業との連携による売れる生産・販売体制づくり(一部再掲) 	4,500 千円
<ul style="list-style-type: none"> ⑩首都圏百貨店と連携したインターネット販売、石川県フェアの開催など 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 市場流通における地産地消の推進 	2,000 千円
<ul style="list-style-type: none"> 能登地域の特色ある食材の市場流通(奥能登直行便、中能登直行便)への支援 	
<ul style="list-style-type: none"> イノシシ等鳥獣被害の防止とジビエとしての利活用促進 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 狩猟者の確保・育成 	11,023 千円
<ul style="list-style-type: none"> 狩猟セミナーの開催、技能レベルに応じた捕獲技術習得研修など 	

<ul style="list-style-type: none"> - 農作物被害防止対策の充実(一部再掲) イノシシ防護柵の設置等に対する支援、 ニホンジカの生息数抑制に向けた捕獲の実施など - いしかわジビエの普及推進 Ⓞ豚熱感染確認区域外で捕獲されたイノシシの広域調達への支援、 イベント出展によるPRなど 	186,361 千円 6,300 千円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林資源の利活用と林業の活性化 <ul style="list-style-type: none"> - 県産材の利用促進 県産材使用に対する助成(住宅、Ⓞ木塀等)、 民間非住宅施設における県産材使用のモデルとなる取り組みに対する支援など 	80,000 千円
<p>(2) 他産業と連携した新たな発想による農林水産業の収益力向上</p>	
<ul style="list-style-type: none"> - コマツやIT企業と連携した低コスト水稻生産・畑作生産モデル ドローン・AIを活用したピンポイント追肥技術の開発・実証、 ホイールローダを活用した畑作業の効率化技術の実証 - コマツ・東レと連携した低コスト施設園芸モデル 地下水冷房装置と遮熱シートの組み合わせによる収量の向上、 Ⓞいしかわ耕稼塾における実践研修コースの開設 - トヨタと連携した生産工程「見える化」による収益向上モデル いしかわ耕稼塾における「農業カイゼン塾」の開催など - コマツと連携した先進的林業経営モデル Ⓞ木材需給マッチングシステムの小規模な生産現場における実証など - コマツと連携したスマート農林業人材の育成 Ⓞいしかわ耕稼塾における農家ほ場での農業用ブルドーザ研修コースの開設、 Ⓞドローンや高性能林業機械の普及に向けた操作研修の実施など 	15,000 千円 4,000 千円 6,000 千円 23,500 千円 11,300 千円
<p>(3) 地域の農業を支える多様な担い手の活躍の支援</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等の農業参入の促進など意欲ある担い手の確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> - いしかわ農業参入支援ファンド(200億円)による経営支援 耕作放棄地等に参入する企業・農業法人への支援 - 農地中間管理事業による農地集積の推進 農地の出し手に対する集積協力金の交付 ・ 新規就農者の確保・育成と担い手のスキルアップ支援 <ul style="list-style-type: none"> - 就農希望者に対する総合的な支援 いしかわ農業総合支援機構による農業のワンストップ窓口の運営など - いしかわ耕稼塾による農業人材の育成(一部再掲) 就農希望者に対する技術・経営研修など ・ 多様な担い手のニーズに対応した農地整備・保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> - ほ場整備の推進 輪島市里地区、七尾市熊木地区など - 用排水施設等の整備促進 金沢市二塚地区、白山市井口地区など - Ⓞ大日川ダム取水ゲートの改修(実施設計) - 河北潟周辺地区排水機場等の改修 - 農林水産業の生産基盤の強化 農業機械、木材加工設備の導入等に対する支援 - 大雪による倒壊ビニールハウスの復旧支援 	95,000 千円 354,000 千円 29,300 千円 34,000 千円 5,119,965 千円 1,603,318 千円 40,500 千円 279,000 千円 343,213 千円 120,000 千円

(4) 本県産業を支える人材確保支援

- ・ 学生の県内就職の促進
 - － 県内就職に向けた早期の意識醸成・就職活動支援 25,000 千円
「ふるさと石川就職学生カード (ISica (インカ))」の交付・活用、
☑いしかわ就活スマートナビによる県内就職の促進
 - － 県内大学による県内就職の促進 2,000 千円
1・2年生等を対象とした県内企業でのインターンシップ等の開催支援
 - － 県内企業でのインターンシップの促進 36,500 千円
県内および三大都市圏でのマッチング交流会 (5月、12月)、
魅力的なインターンシッププログラムの開発支援
 - － 県内企業の情報発信の推進 19,667 千円
参加者の関心に応じた若手社員との交流会、保護者向けセミナー、
県内および三大都市圏での合同企業説明会等 (6月、11月、3月)
 - － オンラインを活用した県内就職の促進 13,000 千円
参加者の関心に応じた若手社員との交流会の開催、
合同企業説明会等の開催 (4月～6月、8月、10月、2月)
 - － 県外学生のUターン就職に向けた就職支援協定大学との連携強化 3,000 千円
学内での就職セミナー、大学の就職支援担当者と県内企業との懇談会
 - － 進学する高校生のUターン就職に向けた取り組み 6,600 千円
県内就職の魅力や石川の暮らしやすさを紹介するセミナーの開催、
企業訪問による県内企業の理解促進など
 - － 就職する高校生に向けた県内企業の魅力発信 6,900 千円
企業ガイダンスの開催 (7月)
- ・ 女性や高齢者等の就業促進
 - － 女性の就業支援 9,550 千円
女性が働きやすい職場づくりに向けた企業セミナーの開催など
 - － 高齢者の就業支援 4,350 千円
高齢者に適した軽作業の提供促進に向けた企業セミナーの開催など
 - － 外国人留学生の県内就職の促進 16,520 千円
企業・留学生向けセミナーの開催、留学生に対する奨学金の支給など
- ・ 農林水産業への就業促進
 - － 移住就農希望者に対する総合的な支援 (一部再掲) 29,300 千円
就農相談会や出前講座によるきめ細かな情報発信 (首都圏、関西圏)、
農業法人での見学・短期研修・インターンシップの実施など
 - － 林業就業希望者に対する総合的な支援 (森林環境譲与税事業) 19,000 千円
移住就業希望者の掘り起こしやインターンシップ、
定着率向上に向けた労働環境改善に対する支援など
 - － 漁業就業希望者に対する総合的な支援 (一部再掲) 5,000 千円
現地見学会・体験乗船会・移住予定者を対象とした長期研修の実施など

(5) 戦略的な企業誘致の推進

- － 本社機能を有する事業所誘致の取り組み
本社機能立地促進補助金による研究・開発部門や業務統括部門の誘致の推進 67,000 千円
- － 石川の強みを活かした企業誘致
創造的産業等立地促進条例による企業誘致の推進 1,136,000 千円
雇用拡大関連企業立地促進補助金による企業誘致の推進 890,000 千円
- － サテライトオフィス誘致に係る助成制度の充実
☑対象地域の拡大 (過疎地域等→全県)

4 官民を挙げたデジタル化の推進

－	デジタル化推進本部の設置	
－	㊦ デジタル推進課の設置	
－	㊦ 石川県デジタル化推進計画の策定	2,000 千円
(1)	行政のデジタル化	
－	㊦ 行政手続における押印の廃止	
－	㊦ 行政手続のオンライン化の推進 申請件数の9割のオンライン化	12,355 千円
－	㊦ ウェブ会議の環境整備 行政庁舎の全共用会議室におけるWiFi整備、専用資機材の配備	11,000 千円
－	㊦ テレワークシステムの整備(2班体制)	21,000 千円
(2)	産業・生活のデジタル化	
・	産業分野	
－	デジタル化実践道場の開講(㊦実践コースに加え座学による基礎コースを新設)(再掲)	25,000 千円
－	㊦ デジタル化推進経営アドバイザー制度の創設(再掲)	15,000 千円
－	デジタル化設備導入・技術開発の支援(再掲)	390,000 千円
－	早稲田大学を代表校とする「スマートエスイーIoT/AI石川スクール」の開催(再掲)	10,000 千円
－	㊦ UIターンによる即戦力デジタル人材の確保支援(再掲)	15,000 千円
－	㊦ デジタル化による競争力強化研究会の設置(再掲)	3,000 千円
－	ものづくり産業等の5G活用の促進(再掲)	6,000 千円
・	農業分野	
－	コマツやIT企業と連携した低コスト水稻生産・畑作生産モデル(再掲)	15,000 千円
－	コマツと連携した先進的林業経営モデル(再掲)	23,500 千円
－	コマツと連携したスマート農林業人材の育成(再掲)	11,300 千円
・	福祉分野	
－	介護現場での業務負担軽減や接触機会の削減 ㊦ICT・IoT機器導入への助成(20件→80件)など	94,700 千円
・	教育分野	
－	㊦ GIGAスクール構想の実現による学びの質の向上 管理職・推進リーダー向け研修及び推進リーダーを中心とした校内研修の実施、 GIGAスクールサポート課の設置(教員総合研修センター)、 モデル校における優れた指導法の他校への普及	20,000 千円

III 県民生活の安全・安心の更なる確保

1 防災・減災対策など安全で安心な暮らしの実現

(1) 災害に強いまちづくり・地域づくり

・	頻発する集中豪雨に対する治水・治山対策の強化	
－	河川改良 若山川、熊木川、米町川、森下川、犀川、前川、動橋川など	債務を含め 10,241,477 千円
－	河川の堆積土砂の除去 ㊦予防保全対応による計画的な堆積土砂除去の実施(35河川)	650,000 千円
－	洪水に対する避難体制の強化 ㊦小規模河川における洪水浸水想定区域図の作成	債務を含め 187,000 千円

ー	農業用施設の防災対策の促進 ため池などの老朽化対策	1,390,981 千円
ー	㊦ 大日川ダム取水ゲートの改修(実施設計)(再掲)	40,500 千円
ー	河北潟周辺地区排水機場等の改修(再掲)	279,000 千円
ー	砂防地すべり対策 要配慮者利用施設周辺箇所の重点的整備など	3,530,769 千円
ー	治山対策 かほく市野寺など	1,543,191 千円
・	災害に強い県土の基盤づくり	
ー	緊急輸送道路の整備(再掲) 債務を含め 能越自動車道(輪島道路、田鶴浜七尾道路)、 のと里山海道4車線化(柳田IC～上棚矢駄IC間(最長ゆずりレーン延伸))、 金沢外環状道路 海側幹線(金沢市大河端町～福久町間、今町～鞍月間)、 無電柱化整備(専光寺野田線・鳴和三日市線(金沢市新神田～中村町地区))など	14,080,856 千円
ー	緊急輸送道路の防災対策の促進 債務を含め 橋りょう耐震補強(女原大橋など4橋)、落石対策等(穴水町越の原など20カ所)	1,521,143 千円
ー	橋りょうの長寿命化補修 債務を含め 県下一円での橋りょうの予防保全	1,793,426 千円
ー	県水送水管の耐震化(2系統化)	2,000,000 千円
ー	海岸侵食対策(一部再掲) 増穂浦海岸、押水羽咋海岸、七塚海岸、金沢海岸	555,057 千円
ー	住宅の耐震化促進	45,000 千円
・	大雪による被害からの復旧	
ー	今冬の大雪を踏まえた除雪体制の確保	2,540,000 千円
ー	大雪による倒壊ビニールハウスの復旧支援(再掲)	120,000 千円
・	地域防災力の向上	
ー	自主防災組織の充実・強化 防災士の育成、防災士活動の実践力強化研修の実施	37,125 千円
ー	避難所における感染症対策の強化 ㊦新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設・運営研修の実施	2,000 千円
ー	大学との連携による自主防災活動の活性化 ㊦防災活動に取り組む大学の活動をまとめた事例集の作成、 大学と自主防災組織が連携したワークショップ・共同訓練の実施	2,000 千円
ー	企業と連携した防災自助力の強化 協賛店舗での防災キャンペーンを通じた家庭内備蓄等の推進	1,600 千円
ー	県民一斉防災訓練(シェイクアウトいしかわ) 住民が各地で同時に地震発生時の安全行動をとる訓練の実施	1,400 千円
ー	災害ボランティアの裾野拡大 SNSを活用した災害ボランティアバンクへの登録促進、 専門技術を有する企業・団体向け出前講座の開催	2,500 千円
・	多様で健全な森林の整備・保全	
ー	いしかわ森林環境税による森づくりの推進 放置竹林の除去、里山林における緩衝帯の整備など	399,610 千円
ー	森林環境譲与税による市町の森林整備に対する支援(一部再掲) 市町支援アドバイザーの設置など	63,000 千円
・	白山火山防災対策の推進	
ー	登山届提出の促進 登山届の提出促進に向けた周知啓発、スマートフォンによる登山届の運用など	5,000 千円

- (2) 原子力防災体制の整備
 - － 防災対策の強化 218,162 千円
原子力防災訓練の実施、防災用資機材の整備など
 - － 環境放射線監視体制の整備 334,735 千円
環境放射線監視機器の更新など
 - － 医療提供体制の充実 53,774 千円
放射線測定機器等の整備、医療従事者に対する研修等の実施

2 カーボンニュートラルへの対応

(1) 脱炭素社会に向けた取り組みの強化

- － ㊦ 石川県環境総合計画の改定 3,000 千円
県民・事業者の温暖化や省エネに対する意識調査の実施
- － いしかわ版環境ISOの推進 15,700 千円
家庭・学校・地域・事業者における地球温暖化防止活動の推進
- － エコファミリー倍増に向けた取り組みの加速化(目標12万家庭) 4,000 千円
スマートフォンアプリ運用による省エネ・節電効果の見える化
- － いしかわ工場・施設版環境ISOの推進 15,400 千円
㊦モデル的な省エネ・再エネ設備導入に対する支援、モデル事例の普及など
- － いしかわクールシェア・いしかわウォームシェアの実施 2,000 千円

(2) 循環型社会の形成

- － プラスチック資源循環の推進 2,400 千円
協定締結によるレジ袋等の使い捨てプラスチックの削減に向けた取組促進など
- － ㊦ 製造過程で発生した規格外の食品の利用促進 1,000 千円
規格外品を販売する「もったいない市」の開催と売上のフードバンクへの寄附
- － 事業者と連携した食品ロス削減対策の推進 1,000 千円
食品ロス削減に取り組む飲食店等の登録制度を通じた普及啓発など

(3) 再生可能エネルギーの利活用の推進

- － ㊦ 再生可能エネルギー推進計画の改定 3,000 千円
- － 民間企業の再生可能エネルギー事業への参入促進
再生可能エネルギー導入支援融資 融資枠 5 億円

3 みんなで支える安らぎと絆の社会づくり

(1) 団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた対応

・ 介護・福祉人材の確保

- － 小・中・高校生に対する介護・福祉職の魅力の発信・理解促進 4,000 千円
介護・福祉の仕事の魅力伝道師の派遣、魅力発見ツアーの実施など
- － 福祉人材センターによる介護・福祉人材のマッチング支援 45,500 千円
㊦介護職未経験者向けセミナーの開催(6回→12回)、
㊦介護・福祉就職面談会の開催(10回→14回)など
- － 介護職の就業促進 32,000 千円
㊦他業種からの転職者向け就職支援貸付金の創設(150人)、
㊦再就職準備貸付金の拡充(25人→50人)
- － 外国人介護人材の確保に向けた支援 10,920 千円
介護福祉士を目指す留学生や外国人介護職員に対する日本語教育等への助成
- － 魅力ある職場づくりに取り組む事業所の認定 6,250 千円
㊦中小規模法人への専門家による人材育成計画等策定支援など
- － 介護現場での業務負担軽減や接触機会の削減(再掲) 94,700 千円

- ・ 健康寿命の更なる延伸に向けた取り組み
 - － 企業の「健康経営」に対する総合的な支援 5,300 千円
 専門家による実践セミナーの開催、優良実践企業表彰制度など
 - － 「いしかわヘルシー&デリシャスメニュー」の普及促進 1,900 千円
 社員食堂への普及、スーパー等での総菜販売など
 - ・ 見守り体制等の充実による高齢者の健やかな暮らしへの支援
 - － お達者ですか訪問への支援、傾聴ボランティアの養成など 600 千円
 - － 介護保険関連施設改修等への支援 302,293 千円
 特別養護老人ホーム等の施設改修など(14カ所)、施設の開設準備(5カ所)、
 介護医療院への転換(1カ所)
- (2) 安らぎのある地域社会づくりの推進
- ・ 共生社会づくりの推進
 - － 地域における支え合いの推進 5,200 千円
 障害のある人とない人の共生モデルとなるコミュニティの認証、
 ㊦県民フォーラムの開催、㊦子ども向け学習コンテンツの作成など
 - － 障害者雇用拡大に向けた取り組み 4,500 千円
 障害者向け業務の切り出しへの支援、経営者向けセミナーの開催など
 - － 障害者を対象とした職場実習の実施 14,500 千円
 - － 発達障害者に対する就労支援 10,774 千円
 金沢産業技術専門学校における職業訓練
 - － 障害者の就労機会の拡大に向けた支援 9,000 千円
 農福連携や福福連携による就労支援施設とのマッチング支援(農家、高齢者施設)、
 ㊦インターネットを活用した就労支援施設の商品の販売支援など
 - － 障害者支援施設の整備支援 911,270 千円
 新設(8カ所)、施設改修・設備整備(7カ所)
 - － 障害者スポーツの普及促進(再掲) 7,000 千円
 - － 特別支援学校における技能検定の実施 2,000 千円
 ㊦更なる技能向上に向けた「プレミアム部門」の創設
 - － 特別支援学校における農業分野への就労促進モデル事業の実施 3,000 千円
 農業法人と連携した実践的な実習やカリキュラムの確立など
 - ・ 総合的な自殺防止対策の展開 34,655 千円
 予防に向けた普及啓発、電話による24時間相談対応など
- (3) ワークライフバランスの実現と男女共同参画社会の形成
- － 一般事業主行動計画の策定促進 13,520 千円
 企業への策定意向調査を踏まえた社会保険労務士による計画策定支援、
 登録企業・表彰企業へのロゴマークの付与
 - － いしかわ男女共同参画推進宣言企業「加速化クラス」の認定 3,000 千円
 ㊦認定企業へのアドバイザー派遣など
 - － 男女共同参画社会の形成に向けた意識啓発 2,750 千円
 ㊦家庭での家事分担に関するアイデアコンテストの開催など
- 4 結婚や出産の希望がけない安心して子育てできる社会づくり
- (1) 結婚を希望する男女への支援体制の強化
- － 「縁結びist」による結婚支援の取り組み促進 19,644 千円
 ㊦オンラインを活用したお見合いの実施など
 - － 「いしかわ婚活応援企業」による結婚支援の取り組み促進 3,050 千円
 認定企業による合同交流会のマッチングなど

-	イベントによる気軽な出会いの機会の充実 専用サイト「いしかわ縁結びイベント」の運営など	10,450 千円
-	新婚夫婦や結婚予定者の経済的負担の軽減 「石川しあわせ婚応援パスポート(婚パス)」の発行	2,240 千円
(2)	妊娠・出産と子育てに対する不安の解消	
・	精神的不安と母子の健康に関する不安の解消	
-	子どもを望む夫婦への支援 ㊦体外受精等の助成(2回目以降1回15万円→30万円)、 ㊧健診と健康教育を組み合わせた「いしかわプレ妊活健診」の実施	406,170 千円
-	マイ保育園を活用した妊娠期からの相談支援 子育て支援プランの策定、㊨オンライン相談の実施(23園→70園)など	16,604 千円
-	認定こども園等での通園保育体験への支援 3歳未満児を持つ在宅育児家庭に対する通園に準じた保育サービスの実施	24,000 千円
-	男性の子育て参画の促進 「石川県パパ子育て応援企業」の認定、認定企業へのロゴマークの付与など	4,320 千円
・	子育てに係る経済的負担の軽減	
-	保育料の無料化(0歳～2歳児、第2子以降)	219,000 千円
-	放課後児童クラブ利用料の無料化(第2子以降)	22,000 千円
-	病児・病後児保育利用料の無料化(第2子以降)	1,800 千円
-	子2人以上世帯へのプレミアム・パスポートの発行	6,000 千円
(3)	子どもの健やかな育ちへの支援	
-	子ども虐待防止総合対策の推進 関係機関との連携による虐待の早期発見など	111,144 千円
-	児童福祉施設の整備支援 認定こども園・保育所(26カ所)、放課後児童クラブ(23カ所)	480,497 千円
(4)	保育士確保対策と資質向上	
-	新卒保育士の確保 学生向けの保育所・認定こども園説明会の拡充(㊩オンライン)、 修学資金の貸与など	36,000 千円
-	潜在保育士の就業促進 保育士OBコーディネーターによるマッチング、就職準備金の貸与など	32,525 千円
-	保育士の負担軽減 清掃等を行う補助者の配置支援	224,205 千円
-	認定こども園の保育教諭等の資質向上 ㊪東京大学等と連携した新たな体系に基づく研修の実施など	10,210 千円
5	安全・安心と豊かな社会づくり	
(1)	安全で良質な地域医療の安定的な確保	
・	医師確保対策の推進	
-	緊急医師確保修学資金による県内勤務医師の確保 金沢大学医学類特別枠入学者への貸与(新規枠10人)	144,000 千円
-	地域病院における医師のサポート体制の構築 金大サポートチームによる医師不足診療科の女性医師等に対する支援など	9,000 千円

・	看護師の確保対策と資質向上	
-	看護師等修学資金による県内勤務看護師の確保 能登北部公立4病院に就業を希望する看護学生への貸与(新規枠20人)など	95,808 千円
-	㊦ 全ての患者受入医療機関での感染管理認定看護師の確保に向けた重点的な支援(再掲)	16,500 千円
・	医療提供体制の充実	
-	ドクターヘリ運航による救急医療体制の確保	257,805 千円
-	県立高松病院の整備 ㊦県立こころの病院への名称変更(R3年秋頃)、 管理診療棟の改築(㊦第3期工事着手)	債務を含め 1,753,000 千円
-	回復期病床等への転換支援(4カ所)	77,843 千円
(2)	身近な安全・安心が確保された社会づくり	
・	個人向け緊急小口資金等貸付原資の積み増し(生活福祉資金)	2,810,000 千円
・	安全・安心な消費生活社会づくりの推進	
-	消費生活相談体制の充実・強化 市町の消費生活相談員の資質向上研修の実施など	28,275 千円
-	被害の未然防止のための消費者教育の充実 成年年齢引き下げを見据えたインターネット等による若者への啓発など	19,035 千円
・	配偶者等からの暴力対策の推進	
-	DV予防啓発の推進 パープルリボンキャンペーン、若年層への予防啓発セミナーなど	1,915 千円
-	パープルサポートいしかわ(性暴力被害者支援センター)の運営 若年層の性暴力被害への対応の充実強化(㊦中学生向け出前講座)	6,620 千円
・	治安対策の充実	
-	七尾警察署庁舎の移転整備(R3年秋完成)	1,083,368 千円
-	警察施設の整備 ㊦菊川交番など	75,569 千円
-	防犯まちづくり意識の向上 高齢者向け防犯教室の開催など	1,099 千円
-	㊦「石川県犯罪被害者等支援条例」の制定	
-	犯罪被害者等支援の推進 ㊦犯罪被害を考える週間における県民フォーラムの開催、 ㊦市町・関係機関に対する研修の実施など	1,500 千円
・	生活を支える交通基盤の確保	
-	IRいしかわ鉄道に対する支援 乗継割引・運賃値上げ抑制に対する助成	150,000 千円
-	のと鉄道運行維持への支援	83,850 千円
-	のと鉄道の安全運行対策のための基金の追加造成(再掲)	181,000 千円
-	生活路線バス運行維持への支援	311,353 千円
-	へぐら航路の運航維持への支援	22,088 千円
-	㊦地域公共交通機関における感染拡大防止対策への支援	53,500 千円
・	生活に密着したきめ細かな道路・歩道環境整備	
-	生活密着型道路、安全・安心な歩行空間の整備 幹線道路の舗装補修、通学路等の側溝蓋掛けによる歩道整備など	3,601,661 千円
-	今冬の大雪を踏まえた除雪体制の確保(再掲)	2,540,000 千円

交通安全対策の充実		
－ 交通安全施設の整備(一部再掲)		1,537,327 千円
－ ㊦ 高齢者電動車いすの安全利用の推進		1,500 千円
電動車いす登録制度の創設、安全講習の実施など		
－ 交通安全対策の推進		9,910 千円
高齢者に対する安全運転サポート車等の啓発イベントの開催など		
(3) 自然と人が共生できる社会づくり		
－ トキ舞ういしかわの実現に向けた次代へつなぐ環境教育の推進		2,560 千円
アクションシートによる環境保全活動の促進、トキこども検定の実施など		
－ ㊦ ツキノワグマ人身被害防止対策の強化(一部再掲)		12,000 千円
ドローンを活用したブナの豊凶予測調査の実施、 捕獲強化のための檻の増設(80基→115基)、捕獲隊員養成研修の実施、 市街地出没想定実地研修の実施(1回→5回)など		
－ 高病原性鳥インフルエンザ等の感染防止対策の推進		7,949 千円
－ いしかわ自然学校・いしかわ子ども自然学校の推進		14,074 千円
自然体験プログラム、海洋体験活動の実施など		
－ 白山登山施設の公衆トイレの建替		203,000 千円
南竜ヶ馬場		
6 未来を拓く心豊かな人づくり		
(1) これからの社会を生き抜く心身ともにタフな人づくり		
・ 教員の資質・能力の向上		
－ キャリアステージに応じた研修の実施		9,000 千円
校内研修による若手教員の組織的・体系的な育成、 中堅教員の学校マネジメント力養成など		
－ いしかわ師範塾による即戦力となる人材の育成と確保		10,978 千円
・ 教職員の多忙化改善に向けた取り組み		
－ スクール・サポート・スタッフの配置(再掲)		255,000 千円
－ ㊦ 部活動指導員の配置(100人→115人)		31,775 千円
外部人材による指導・引率の実施		
－ ㊦ 休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実践研究		3,000 千円
・ 活力にあふれた魅力ある学校づくり		
－ 小・中学校における学力向上対策の推進		
小・中学生の基礎学力調査の実施		11,500 千円
小学校4・6年生、中学校3年生		
いしかわ学びの指針12か条の推進		12,572 千円
学力向上プログラムの推進など		
－ 小・中・高等学校を通じた英語教育の充実		3,000 千円
金沢大学と連携した指導法や評価法の改善など		
－ 高等学校「学びの力」向上アクションプランの推進		4,000 千円
探究型学習の推進に向けた指導法や評価法の確立など		
－ いしかわニュースーパーハイスクールの推進		7,500 千円
探究活動の充実を図るための合同宿泊研修の実施など		
－ ㊦ GIGAスクール構想の実現による学びの質の向上(再掲)		20,000 千円
－ ㊦ 県内ものづくり企業との連携による工業科教員を対象としたAI・IoT研修の実施		2,000 千円
工業試験場での基礎研修、県内先進企業での実践研修の実施など		
－ 特別支援学校における技能検定の実施(再掲)		2,000 千円

-	特別支援学校における農業分野への就労促進モデル事業の実施(再掲)	3,000 千円
-	オリンピック・パラリンピック教育の推進(再掲)	2,900 千円
・	県立学校の整備	
-	⑧ いしかわ特別支援学校と明和特別支援学校の教育環境の向上 いしかわ特別支援学校高等部の新校舎の建設(基本計画)	5,000 千円
-	老朽化防止のための大規模改修	1,152,105 千円
-	⑧ 県立学校衛生環境整備の推進(再掲)	330,652 千円
-	産業教育設備の充実	1,000,000 千円
・	いじめ・不登校対策の推進	
-	いじめを見逃さない学校づくりの推進 いじめ対応アドバイザーの派遣など	4,000 千円
-	⑧ スクールカウンセラーの配置(309校→312校)	162,747 千円
・	修学支援	
-	教育費負担軽減奨学金の支給	309,357 千円
-	高等教育の授業料・入学金の軽減(県立大学、私立専修学校)	213,362 千円
(2)	建学の精神を尊重した私学の振興	
-	私立学校の経常費助成	4,152,284 千円
-	私立高等学校の生徒に対する就学支援	1,847,169 千円
-	私立高等学校の生徒に対する授業料の軽減	151,484 千円
-	高等教育の授業料・入学金の軽減(私立専修学校)(一部再掲)	175,559 千円

IV 行政経営プログラムに基づく計画的な行財政運営の推進

(1)	柔軟かつ機動的な組織づくりと人材の育成・確保	
・	組織のパフォーマンスの向上と主体的なキャリア形成の推進	
-	組織のチームワーク強化に向けた研修、女性職員キャリア支援研修の実施など	
(2)	県民の視点に立った行政サービスの提供	
-	デジタル化推進本部の設置(再掲)	
-	⑧ デジタル推進課の設置(再掲)	
-	⑧ 石川県デジタル化推進計画の策定(再掲)	2,000 千円
・	行政のデジタル化	
-	⑧ 行政手続における押印の廃止(再掲)	
-	⑧ 行政手続のオンライン化の推進(再掲)	12,355 千円
-	⑧ ウェブ会議の環境整備(再掲)	11,000 千円
-	⑧ テレワークシステムの整備(2班体制)(再掲)	21,000 千円
(3)	財政健全性の維持・向上	
・	歳入確保に向けた取り組み	
-	税収の確保	
-	個人住民税の滞納整理の推進	
-	滞納整理機構による市町との共同徴収	
-	納税者の利便性の向上	

【資料6 「第3期 石川の教育振興基本計画 2021→2025」(抜粋)】

1. (書類等の題名)

第3期 石川の教育振興基本計画 2012→2025

2. (出典)

石川県・石川県教育委員会

3. (引用範囲)

第1章 計画の策定にあたって 1～2頁

第2章 社会の動向と教育をめぐる現状 3～12頁

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/plan3/index.html>

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	クスト シロ 楠本 史郎 <令和5年4月>		神学 修士		北陸学院大学学長 (令和元.4～令和5.3)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 北陸学院大学

1. 学生確保の見通しの根拠として、令和5年度から学生募集を停止する人間総合学部社会学科における入学志願状況や、社会学部社会学科の進学意向調査の結果に基づき説明しているが、前者については、受験者数が示されておらず、歩留率を考慮した場合に、95名の入学者が確保できるか必ずしも明らかではなく、後者についても、「受験したい」「入学したい」の選択肢を選んだ者は48名に留まっており、かつ他の調査項目とのクロス集計による説明もなされていない。これらのことから、学生確保の見通しが長期的かつ安定的に図ることができる見通しがあるか疑義があるため、より詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠をもとに説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・ 2～45

2. 人材需要の社会的動向の根拠として、既設の人間総合学部社会学科の最近3年間の求人件数や就職者数の状況を根拠として説明しているが、就職者数の状況についても、過去3年の内定者は26人から35人程度で推移しており、十分な社会的需要が見込まれるかは必ずしも明らかではない。これらのことから、人材需要の社会的動向について疑義があるため、本学部の卒業生の中長期的な採用意向等について企業等にアンケートを実施する等、より詳細な分析を加えた上で具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（社会学部 社会学科）

（是正事項）・・ 46～54

(是正事項) 北陸学院大学

1 学生確保の見通しの根拠として、令和5年度から学生募集を停止する人間総合学部社会学科における入学志願状況や、社会学部社会学科の進学意向調査の結果に基づき説明しているが、前者については、受験者数が示されておらず、歩留率を考慮した場合に、95名の入学者が確保できるか必ずしも明らかではなく、後者についても、「受験したい」「入学したい」の選択肢を選んだ者は48名に留まっており、かつ他の調査項目とのクロス集計による説明もなされていない。これらのことから、学生確保の見通しが長期的かつ安定的に図ることができる見通しがあるか疑義があるため、より詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠をもとに説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1への対応として、学生確保の見通しについて、詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠に基づき、以下のとおり改めて説明する。

まず、令和5(2023)年度から学生募集を停止する人間総合学部社会学科における「受験者数」、「辞退者数」、「歩留率」を明記し、また、直近の令和4(2022)年度の入学志願状況等について追記した。志願者数については、平成31(2019)年度より4年連続して、200名を超える状況が続いていることから、進路ニーズに応じていくこととし、社会学部社会学科として設置し定員を増やすことで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。

進学意向調査結果から想定される、社会学部社会学科及び、教育学部幼児教育学科、教育学部初等中等教育学科に受験する可能性および入学する可能性のある学生数について、その根拠となるデータを追加し、より詳細かつ適切な分析をした結果について説明を追加した。

本学が毎年新生に対して行っているアンケート項目のうち『人間総合学部社会学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期』の結果より、志望度に関わらず、高校2年生の中頃ですでに本学への受験を決めていた割合は、1割に満たなかった。そこで今回、本学の併設校である北陸学院高等学校の3年生への再調査と、WEBによる進学調査アンケートの実施、また、当初の進学調査アンケート未実施校に対して追加のアンケート調査を実施し、それらの結果を反映させて、改めて学生確保の見通しを説明した。

これらの結果を踏まえ、アンケート回答者を「受験したい／受験を検討する」「入学したい／併願先の結果によっては入学したい」の組み合わせにより4つの区分に分けた。この4つの区分を、「パターン1：受験したい(受験意向が強い層)」と「パターン2：受験を検討する(受験意向が弱い層)」の2パターンに分けて考えることとし、入学意欲の違いを踏まえて試算を行うこととした。パターン1では、人間総合学部社会学科及び、子ども教育学科の過去5年間の歩留率を用い、推計を行った。

一方、パターン2である「受験を検討する(受験意向が弱い層)」においても、過去5年間の本学のオープンキャンパス参加者からの受験者割合を基に推計を行った。この中に実際に本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。今後更なる広報活動

の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努め、定員の充足につなげていく。

このように、本学を取り巻く志願状況は安定的であり、また進学意向調査の結果による分析からも、入学定員を充足することは十分に可能であると考えている。

以上の対応に基づき、下記のとおり「学生確保の見通し等を記載した書類」を修正する。

(新旧対照表)

・学生確保の見通し等を記載した書類 (2～38 ページ)

新	旧
<p>I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況 (略) (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>① 社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、<u>平均志願者数(第一志望のみ)は204人、(第二志望含む)は273人、平均受験者数(第一志望のみ)は201人、(第二志望含む)は265人、平均入学者数は80人、平均入学定員充足率は114.3%、平均歩留まり率は44.2%</u>となっており【表1】、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響はなく、平成30(2018)年度から4年間、むしろ定員を超過した状況である。<u>第一志望のみの志願者数では、平成31(2019)年度より200人を超える状況が続いている。</u>進路ニーズに応じていくこととし、社会学部の社会学科として設置し定員を増やすことで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。</p>	<p>I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況 (略) (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>① 社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部の社会学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数は210人、平均入学者数は83人、平均入学定員充足率は118.3%となっており【表1】、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響はなく、平成30(2018)年度から4年間、むしろ定員を超過した状況であり進路ニーズに応じていくこととし、社会学部の社会学科として設置し定員を増やすことで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。</p>

【表1】最近5年間の人間総合学部社会科学の入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	70	70
志願者(人)	第一志望のみ	134	171	200	241	267	209
	第二志望含む	-	-	-	-	310	235
受験者(人)	第一志望のみ	133	171	197	239	256	207
	第二志望含む	-	-	-	-	298	232
合格者(人)	第一志望のみ	132	165	190	219	195	185
	第二志望含む	-	-	-	-	225	220
手続者(人)	63	94	89	123	96	73	90
辞退者(人)	10	9	9	8	14	8	10
入学者(人)	53	85	80	115	82	65	80
歩留率(%)	40.2	51.5	42.1	52.5	42.1	35.1	44.2
入定充足率(%)	75.7	121.4	114.3	164.3	117.1	92.9	114.3

② 教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近5年間の入学志願状況等

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数(第一志望のみ)は152人、(第二志望含む)は175人、平均受験者数(第一志望のみ)は151人、(第二志望含む)は169人、平均入学者数は63人、平均入学定員充足率は90.5%、平均歩留まり率は44.9%であり

【表2】、昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響を受けることなく、安定的な入学志願状況等を維持していることから、教育学部の幼児教育科及び初等中等教育学科として設置することで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表2】最近5年間の人間総合学部子ども教育学科 入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	70	70
志願者(人)	第一志望のみ	181	154	171	153	139	111
	第二志望含む	-	-	-	-	206	143
受験者(人)	第一志望のみ	180	152	170	152	138	111
	第二志望含む	-	-	-	-	197	141
合格者(人)	第一志望のみ	164	143	162	143	128	107
	第二志望含む	-	-	-	-	163	137
手続者(人)	91	77	83	69	63	41	71
辞退者(人)	12	3	7	12	8	2	7
入学者(人)	79	74	76	57	55	39	63
歩留率(%)	48.2	51.7	46.9	39.9	43.0	36.4	44.9
入定充足率(%)	112.9	105.7	108.6	81.4	78.6	55.7	90.5

【表1】最近5年間の人間総合学部社会科学の入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	70
志願者(人)	139	171	200	241	298	210
合格者(人)	132	165	190	219	225	186
入学者(人)	53	84	80	115	82	83
入定充足率(%)	75.7	120.0	114.3	164.3	117.1	118.3

② 教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近5年間の入学志願状況等

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員70人に対して、平均志願者数は171人、平均入学者数は68人、平均入学者充足率は97.4%であり

【表2】、「昨今の18歳人口の減少期においても大きな影響を受けることなく、安定的な入学志願状況等を維持していることから、教育学部の幼児教育科及び初等中等教育学科として設置することで、より一層の学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表2】最近5年間の人間総合学部子ども教育学科 入学志願状況等

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	70	70	70	70	70	70
志願者(人)	181	154	171	153	197	171
合格者(人)	164	143	162	143	163	155
入学者(人)	79	74	76	57	55	68
入定充足率(%)	112.9	105.7	108.6	81.4	78.6	97.4

(略)

⑦ 専門の調査機関による進学意向調査結果

(略)

また、追加調査として、2022（令和4）年6月～7月に、下記のイ・ウの調査を行った。

⑧ 高校生アンケート調査結果の対象者、実施時期、回答者数について

新学部設置に関する高校生アンケートについて、下記の3種類の集計結果を順に示す。

ア.【資料1】による、高校生アンケート調査

対象者：北陸地域（石川県、富山県、福井県）、新潟県に所在する高等学校及び、キリスト教学校教育同盟加盟校の高等学校2年生

実施時期：令和3（2021）年8月～9月

回答者数（有効回答数）：8,522人

イ. 北陸学院高等学校への再アンケート調査

対象者：北陸学院高等学校3年生

実施時期：令和4（2022）年6月

回答者数（有効回答数）：324人

ウ. WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査

対象者：本学メールアドレス登録者（3年生）及び、石川県立金沢泉丘高等学校（通信制）、第一学院高等学校[金沢キャンパス]3年生

実施時期：令和4（2022）年6月26日（日）～7月3日（日）

回答者数（有効回答数）：35人 ※ 回答者は、ア及びイの重複者でない者

(略)

⑥ 専門の調査機関による進学意向調査結果

(略)

〔社会学部〕

アンケートの結果、北陸学院大学の社会学部の社会学科に「入学したい」と回答した者は117人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した者は652人であり、社会学科の入学定員95人を超える入学希望者がいると考える。

【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書 13頁

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として社会学科とは異なる専門分野を回答している者も含まれている。また、社会学科の受験について「受験しない」と回答している者もいる。

そこで、高校卒業後の進路として「大学進学」、進学分野「社会科学関係」、入学したい学部学科を「社会学部社会学科」と回答した回答者に限定し、本学人間総合学部社会学科の入学者に関するデータを踏まえ、入学希望者数を試算する。

入学希望者数を試算するうえで、高校生向けアンケートの結果を以下の表1の4つに区分した。【表12】

【表12】高校生アンケート 区分表

前提条件	区分	回答数
問2 「大学進学」を選択 問3 「社会科学」を選択 問5(2) 「社会学部社会学科に入学希望」を選択	区分1	48人
問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	区分2	33人
問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	区分3	120人
問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	区分4	344人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学分野、問5(2)：入学希望の学部
問4：社会学部社会学科の受験意向、問5(1)：合格の場合の入学意向

この区分に基づき、3パターンの試算を

〔社会学部〕

⑨ 【資料1】による高校生アンケート
調査結果アについて

令和3（2021）年8月～9月に実施し、
回収校数は78校で、回答者数（有効回答
数）は、8,522人であった。このうち、高校
卒業後に大学進学を希望する者（以下、「大
学進学希望者」という。）は、5,631人
（66.1%）である。【表12】

【表12】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門学校含む)	2 短大進学 (専門学校含む)	3 専門学校 進学	4 就 業	5 その他	不 明	合 計
回答者 全体	5,631 (66.1%)	410	1,050	1,173	116	63	8,522 (100.0%)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

>

進学を希望する分野について、大学進学
希望者5,631人のうち第1希望として「社
会科学関係」と回答したのは、1,301人
（23.1%）、第2希望として「社会科学関係」
と回答したのは987人（17.5%）であり、
合計すると2,288人（40.6%）の大学進学
希望者が「社会科学関係」への進学を希望
している。【表13】

【表13】 大学進学希望者の進学希望分野（第1
希望、第2希望）

	1 経済学類 経済学・商 学	2 社会科学 学	3 工学・理 学	4 人文学 類	5 工学・工 学	6 保健衛生 学	7 医学・歯 学	8 芸術学 類	9 その他	不 明	合 計
大学進学 希望者	第1希望	277 (4.6%)	1,301 (23.1%)	959 (16.9%)	806 (14.3%)	1,176 (20.9%)	753 (13.4%)	398 (7.1%)	202 (3.6%)	138 (2.4%)	5,631 (100.0%)
	第2希望	462 (8.2%)	367 (6.5%)	397 (7.0%)	369 (6.5%)	912 (16.2%)	931 (16.5%)	519 (9.2%)	404 (7.2%)	147 (2.6%)	302 (5.4%)
	計	739 (13.1%)	2,038 (36.1%)	1,356 (24.1%)	1,175 (20.9%)	1,688 (29.9%)	1,565 (27.8%)	1,172 (20.8%)	802 (14.2%)	349 (6.2%)	147 (2.6%)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<社会学部社会科学に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進
学を希望している2,288人について、社会
学科を「受験したい」と回答したのは191
人（8.3%）、「受験を検討する」と回答した
のは476人（20.8%）であり、合計すると

行うが、入学希望者数を試算するうえで、
この4つの各区分を3パターンで推計す
る根拠及び理由を以下に示す。

「区分1」は社会学科を第1希望と考
えている可能性が高く、入学希望者と考
えられる。

「推計1」「推計2」「推計3」

100%が受験し、そのうち100%が入
学を希望。

「区分2」は社会学科の受験を検討中
であり、受験し合格した場合に社会学科
へ入学を希望する者で、アンケート回
答時点では受験について意思を決定し
ていないが、受験し合格したら入学す
る可能性が高く、「区分1」に次いで
社会学科に入学する可能性が高いと考
える。

「推計1」

80%が受験し、そのうち100%が
入学を希望。

「推計2」「推計3」

50%が受験し、そのうち100%が
入学を希望。

「区分3」は社会学科の受験を希望し、
合格した場合、併願先の結果によっては
入学を希望する者で、社会学科を第1
希望以外に考えている可能性があり、
併願先の結果次第では社会学科に入
学する可能性が高いと考える。

「推計1」「推計2」

100%が受験し、そのうち50%が
入学を希望。

「推計3」

100%が受験し、そのうち30%が
入学を希望。

667 人 (29.1%) が社会学科の受験に関心を示している。【表 14】

【表 14】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
大学進学 社会科学関係 進学希望者	191 (8.2)	476 (20.8)	1,595 (69.7)	26 (1.1)	2,288 (100.0)

上段：回答者数 (人) 下段：回答割合 (%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した 191 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 58 人 (30.4%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 132 人 (69.1%) である。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した 476 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 42 人 (8.8%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 426 人 (89.5%) である。【表 15】

【表 15】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学したい	2 併願先の結果によっては入学したい	不明	合計
大学進学 社会科学関係 進学希望者	社会科学 受験したい	58 (29.4)	132 (69.1)	1 (0.5)	191 (100.0)
	社会科学 受験を検討する	42 (8.8)	426 (89.5)	8 (1.7)	476 (100.0)

上段：回答者数 (人) 下段：回答割合 (%)

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望す

「区分 4」は社会学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する者で、社会学科を第 1 希望以外に考えている可能性が高く、アンケート回答時点では受験について意思を決定していないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考え。

「推計 1」

80%が受験し、そのうち 50%が入学を希望。

「推計 2」

50%が受験し、そのうち 50%が入学を希望。

「推計 3」

50%が受験し、そのうち 30%が入学を希望。

なお、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部社会学科の入学者の過去 3 年間における結果が【表 13】である。

【表 13】 人間総合学部社会学科入学者の「第 1 志望」「第 1 志望以外」の進路決定時期

令和元 (2019) ~ 令和 3 (2021) 「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度		第 1 志望			第 1 志望以外			合計
		1年前半~ 2年中頃	2年後半~ 3年後半	その他	1年前半~ 2年中頃	2年後半~ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人	2	34	3	0	36	5	80
	%	2.5	42.5	3.8	0.0	45.0	6.3	100.0
令和2 (2020)	人	6	51	3	0	54	1	115
	%	5.2	44.3	2.6	0.0	47.0	0.9	100.0
令和3 (2021)	人	9	51	3	0	15	2	80
	%	11.3	63.8	3.8	0.0	18.8	2.5	100.0
総計	人	17	136	9	0	105	8	275
	%	6.2	49.5	3.3	0.0	38.2	2.9	100.0
		58.9			41.1			

人間総合学部社会学科の入学者のうち、本学を第 1 志望としていたのは過去 3 年

る回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは48人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは120人である。この「入学したい」と回答した48人については、社会学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した120人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは33人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは344人である。この「入学したい」と回答した33人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した344人については、社会学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表16】

【表16】 大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

間平均で58.9%、第1志望以外としていたのは41.1%であり、約6割は第1志望、約4割は第1志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では6.2%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

こうした状況を踏まえ、また、近隣の競合大学の数（石川県1校、富山県1校）及び国公立大学や首都圏等他地域の大学を受験する可能性も考慮し、入学希望者の試算では、「受験を検討する」と回答した回答者については、比較的多くの者が受験するケースとして80%、もしくはその半分程度しか受験しないケースとして50%が受験すると想定した。「併願先の結果によっては入学を希望する」と回答した回答者については、その半分が第1志望の大学に入学し半分が本学に入学するケースとして50%、もしくは比較的多くの者が第1志望の大学に入学するケースとして70%が第1志望の大学に入学し30%が本学への入学を希望すると想定した。

【表14】 各区分における入学希望者数

アンケート結果	統計①	入学希望者数②
区分1	48人 100%が受験し、そのうち100%が入学希望者	48人×1.0×1.0 = 48人
区分2	33人 80%が受験し、そのうち100%が入学希望者	33人×0.8×1.0 = 26人
区分3	120人 100%が受験し、そのうち50%が入学希望者	120人×1.0×0.5 = 60人
区分4	344人 80%が受験し、そのうち50%が入学希望者	344人×0.8×0.5 = 137人
合 計		271人
アンケート結果	統計③	入学希望者数
区分1	48人 100%が受験し、そのうち100%が入学希望者	48人×1.0×1.0 = 48人
区分2	33人 50%が受験し、そのうち100%が入学希望者	33人×0.5×1.0 = 16人
区分3	120人 100%が受験し、そのうち50%が入学希望者	120人×1.0×0.5 = 60人
区分4	344人 80%が受験し、そのうち50%が入学希望者	344人×0.8×0.5 = 137人
合 計		261人
アンケート結果	統計④	入学希望者数
区分1	48人 100%が受験し、そのうち100%が入学希望者	48人×1.0×1.0 = 48人
区分2	33人 50%が受験し、そのうち50%が入学希望者	33人×0.5×0.5 = 8人
区分3	120人 100%が受験し、そのうち50%が入学希望者	120人×1.0×0.5 = 60人
区分4	344人 80%が受験し、そのうち50%が入学希望者	344人×0.8×0.5 = 137人
合 計		253人

①は1層割りで、

上記、「【表14】各区分における入学希望者数」の結果、本学の社会学部社会学科へ

	1	2	3	4	合計
	教育学部 学芸学部	社会学部 社会学科	教育学部 造形教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
大学進学 （北陸学院大）	8	48	1	1	58
社会科学関係 入学したい	(13.8)	(97.8)	(1.7)	(1.7)	(100.0)
進学希望者かつ 社会学部 受験しない	7	190	3	2	192
	(8.2)	(90.0)	(2.2)	(1.6)	(100.0)
大学進学 （北陸学院大）	6	33	1	2	42
社会科学関係 入学したい	(14.3)	(78.6)	(2.4)	(4.8)	(100.0)
進学希望者かつ 社会学部 受験し検討する	38	344	18	28	428
	(8.5)	(80.8)	(4.2)	(6.5)	(100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

以上が、アの令和3（2021）年8月～9月に実施した新学部設置に関する高校生アンケートの結果である。

⑩ 北陸学院高等学校への再アンケート調査結果イについて

本学の併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、令和4（2022）年6月に、再度新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3（2021）年9月実施の高校生アンケートの回答者（当時2年生）と同じ対象者である。前回の結果（当時2年生）と再調査の結果（現在3年生）を比較して示し、再調査結果を基に説明を行う。

再調査の回答者数（有効回答数）は324人であった。このうち、大学進学希望者は260人（80.2%）である。【表17】

【表17】高校卒業後の希望進路

	1	2	3	4	5	不明	合計
	大学進学 （専門職大含む）	短期大学進学 （専門職短期大含む）	専門学校 進学	就職	その他		
2021(令和3)年 9月(2期)	258 (80.6%)	11 (3.4%)	40 (12.5%)	5 (1.6%)	5 (1.6%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
2022(令和4)年 6月(2期)	260 (80.2%)	5 (1.5%)	48 (14.8%)	6 (1.9%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	324 (100.0%)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<進学希望分野（第1希望、第2希望）

> 進学を希望する分野について、大学進学希望者260人のうち第1希望として「社会科学関係」と回答したのは69人（26.5%）、第2希望として「社会科学関

の入学希望者数は入学定員95人を上回る151～271人となり、石川県をはじめとする周辺地域に所在する一部の高等学校及びキリスト教学校の2年生に限定した調査結果においても、社会学部の社会学科に対する高い進学意向が確認できたことから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

〔教育学部〕

アンケートの結果、北陸学院大学の教育学部の幼児教育学科に「入学したい」と回答した者は60人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した者は252人であった。教育学部の初等中等教育学科に「入学したい」と回答した者は31人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した者は226人であり、幼児教育学科の入学定員45人、初等中等教育学科の入学定員25人を超える入学希望者がいると考える。

【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として幼児教育学科及び初等中等教育学科とは異なる専門分野を回答している者も含まれている。また、幼児教育学科及び初等中等教育学科の受験について「受験しない」と回答している者もいる。

そこで、高校卒業後の進路として「大学進学」、進学分野「教育学関係」、入学したい学部学科を「教育学部幼児教育学科」又は「教育学部初等中等教育学科」と回答した回答者に限定し、既設の人間総合学部子

係」と回答したのは 64 人 (24.6%) であり、合計すると 133 人 (51.1%) の大学進学希望者が「社会科学関係」への進学を希望している。【表 18】

【表 18】大学進学希望者の進学希望分野（第 1 希望、第 2 希望）

年度	希望分野	進学希望分野										合計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明		
2021(令和3)年度 月 (2学期)	大学進学希望	第1希望	17 (6.6)	67 (26.0)	59 (11.2)	50 (13.4)	21 (5.3)	41 (10.5)	10 (2.6)	11 (2.8)	12 (3.1)	0 (0.0)	258 (100.0)
		第2希望	21 (8.1)	53 (20.5)	34 (13.2)	48 (12.6)	23 (5.9)	17 (4.3)	22 (5.6)	22 (5.6)	6 (1.5)	11 (2.8)	258 (100.0)
	計	38 (14.7)	120 (46.5)	93 (34.4)	98 (26.0)	44 (17.0)	58 (22.5)	32 (12.4)	33 (12.8)	18 (7.0)	11 (4.3)	258 (100.0)	
	不明	30 (11.6)	69 (26.7)	27 (10.5)	51 (13.5)	28 (10.8)	29 (11.2)	7 (2.7)	7 (2.7)	8 (3.1)	2 (0.8)	258 (100.0)	
2022(令和4)年度 月 (2学期)	大学進学希望	第1希望	19 (7.2)	54 (21.6)	31 (12.3)	45 (17.3)	12 (4.6)	20 (7.7)	16 (6.2)	17 (6.6)	3 (1.1)	37 (14.3)	260 (100.0)
		第2希望	39 (15.0)	132 (51.1)	48 (18.5)	97 (37.3)	41 (15.8)	59 (22.7)	23 (8.8)	24 (9.2)	17 (6.5)	39 (15.0)	260 (100.0)
	計	58 (22.2)	186 (72.7)	79 (30.8)	142 (55.4)	53 (20.3)	79 (30.5)	39 (15.0)	41 (15.8)	20 (7.7)	76 (29.3)	260 (100.0)	
	不明	39 (15.0)	132 (51.1)	48 (18.5)	97 (37.3)	41 (15.8)	59 (22.7)	23 (8.8)	24 (9.2)	17 (6.5)	39 (15.0)	260 (100.0)	

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望している 133 人について、社会学科を「受験したい」と回答したのは 17 人 (12.8%)、「受験を検討する」と回答したのは 30 人 (22.6%) であり、合計すると 47 人 (35.4%) が社会学科の受験に関心を示している。【表 19】

【表 19】大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

年度	希望分野	受験意向			合計
		受験したい	受験を検討する	不明	
2021(令和3)年度 5月(2学期)	大学進学希望者 社会科学関係 進学希望者	20 (15.0)	24 (18.0)	64 (49.0)	108 (100.0)
2022(令和4)年度 5月(2学期)	大学進学希望者 社会科学関係 進学希望者	17 (12.8)	30 (22.6)	83 (62.6)	130 (100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した 17 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 11 人 (64.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6 人 (35.3%) である。また、大学進学

でも教育学科の入学者に関するデータを踏まえ、入学希望者数を試算する。

入学希望者数を試算するうえで、高校生向けアンケートの結果を以下の表 1 の 4 つに区分した。

【表 15】高校生アンケート 区分表
幼児教育学科

前提条件	区分	回答数
問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学」を選択 問5(2) 「教育学部幼児教育学科に入学希望」を選択	区分1	25人
	区分2	11人
	区分3	47人
問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	区分4	85人

注) 問2: 高校卒業後の進路、問3: 進学希望分野、問5(2): 入学希望の学科
問4: 教育学部幼児教育学科の受験意向
問5(1): 合格の場合の入学意向

初等中等教育学科

前提条件	区分	回答数
問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学」を選択 問5(2) 「教育学部初等中等教育学科に入学希望」を選択	区分1	15人
	区分2	9人
	区分3	42人
問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	区分4	134人

注) 問2: 高校卒業後の進路、問3: 進学希望分野、問5(2): 入学希望の学科
問4: 教育学部初等中等教育学科の受験意向
問5(1): 合格の場合の入学意向

この区分に基づき、3 パターンの試算を行うが、入学希望者数を試算するうえで、この 4 つの各区分を 3 パターンで推計する根拠及び理由を以下に示す。

「区分 1」は幼児教育学科又は初等中等教育学科を第 1 希望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。

「推計 1」「推計 2」「推計 3」
100%が受験し、そのうち 100%が

希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した 30 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 5 人 (16.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 25 人 (83.3%) である。【表 20】

【表 20】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によっては入学したい	不明	合計
2021(令和3)年 5月(2学期)	大学進学 社会科学関係	(社会科学) 受験したい	12 (60.0)	7 (35.0)	1 (5.0)	20 (100.0)
	社会学部 社会学部	(社会科学) 受験を検討する	8 (23.5)	16 (76.5)	0 (0.0)	24 (100.0)
2020(令和2)年 5月(2学期)	大学進学 社会科学関係	(社会科学) 受験したい	11 (64.7)	6 (35.3)	0 (0.0)	17 (100.0)
	社会学部 社会学部	(社会科学) 受験を検討する	5 (16.7)	25 (83.3)	0 (0.0)	30 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは 11 人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6 人である。この「入学したい」と回答した 11 人については、社会学科への入学を第 1 希望に考えている可能性が高いと考えられる。

「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 6 人については、社会学科への入学を第 1 希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは 2 人、「併願先の結果によっては入学したい」と

入学を希望。

「区分 2」は幼児教育学科又は初等中等教育学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合に幼児教育学科又は初等中等教育学科へ入学を希望する者で、アンケート回答時点では受験について意思を決定していないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、「区分 1」に次いで幼児教育学科又は初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考える。

「推計 1」

80%が受験し、そのうち 100%が入学を希望。

「推計 2」「推計 3」

50%が受験し、そのうち 100%が入学を希望。

「区分 3」は幼児教育学科又は初等中等教育学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する者で、幼児教育学科又は初等中等教育学科を第 1 希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では幼児教育学科又は初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考える。

「推計 1」「推計 2」

100%が受験し、そのうち 50%が入学を希望。

「推計 3」

100%が受験し、そのうち 30%が入学を希望。

「区分 4」は幼児教育学科又は初等中等教育学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を

回答したのは 23 人である。この「入学したい」と回答した 2 人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 23 人については、社会学科への入学を第 1 希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表 21】

【表 21】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

						合計
		1	2	3	4	
		健康科学部 栄養学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
2021(令和3)年度 (2学期)	大学進学 社会学科関係 入学したい	2 (16.7)	9 (75.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	進学希望者かつ 社会学部 受験したい	1 (14.3)	5 (71.4)	1 (14.3)	0 (0.0)	7 (100.0)
	大学進学 社会学科関係 入学したい	3 (21.5)	5 (34.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	4 (15.4)	19 (73.1)	3 (11.5)	0 (0.0)	26 (100.0)
	大学進学 社会学科関係 入学したい	0 (0.0)	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
	進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	0 (0.0)	6 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
2022(令和4)年度 (2学期)	大学進学 社会学科関係 入学したい	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	2 (9.0)	23 (92.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
	大学進学 社会学科関係 入学したい	0 (0.0)	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
	進学希望者かつ 社会学部 受験を検討する	0 (0.0)	6 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)

上記:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、Iの本学併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、再度高校生アンケートを実施した結果である。

⑪ WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査について

令和4(2022)年6月26日(日)～7月3日(日)に本学にメールアドレス登録がある、高等学校3年生に対して、WEBアンケートを実施した。また、石川県立

希望する者で、幼児教育学科又は初等中等教育学科を第1希望以外に考えている可能性が高く、アンケート回答時点では受験について意思を決定していないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科又は初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。

「推計1」

80%が受験し、そのうち50%が入学を希望。

「推計2」

50%が受験し、そのうち50%が入学を希望。

「推計3」

50%が受験し、そのうち30%が入学を希望。

なお、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学者の過去3年間における結果が【表16】である。

【表16】人間総合学部子ども教育学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期
令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度		第1志望			第1志望以外		合計
		1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	
令和元 (2019)	人	6	33	4	0	32	76
	%	7.9	43.4	5.3	0.0	42.1	100.0
令和2 (2020)	人	5	23	0	0	27	55
	%	9.1	41.8	0.0	0.0	49.1	100.0
令和3 (2021)	人	9	21	1	0	13	44
	%	20.5	47.7	2.3	0.0	29.5	100.0
総計	人	20	77	5	0	72	175
	%	11.4	44.0	2.9	0.0	41.1	100.0
		88.2			41.2		

人間総合学部子ども教育学科の入学者

沢泉丘高等学校（通信制）と、第一学院高等学校に対し、追加のアンケートを実施した。なお、対象者はア及びイの回答者として重複がないことと、現在3年生であることを確認し、集計を行った。回答者数（有効回答数）は35人であった。このうち大学進学希望者は24人（68.6%）である。

【表 22】

【表 22】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (明野館大学含む)	2 短期大学進学 (明野館短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
2024(令和6)年6月	24	3	4	4	0	0	35
WEID追加アンケート	(68.6%)	(9.6%)	(11.4%)	(11.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者24人のうち第1希望として「社会科学関係」と回答したのは11人(45.8%)、第2希望として「社会科学関係」と回答したのは5人(20.8%)であり、合計すると16人(50.8%)の大学進学希望者が「社会科学関係」への進学を希望している。【表 23】

【表 23】 大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

		進学希望分野									合計
		1 家政学 関係	2 社会科学 関係	3 教育学・保 育学関係	4 人文科学 学・農学関 係	5 理学・工 学・農学関 係	6 保健福祉 学・薬学関 係	7 医学・歯 学・獣医学 関係	8 芸術学関 係	9 その他	
2024(令和6)年6月	第1希望	2	11	4	6	0	1	0	0	0	24
	第2希望	4	5	3	6	2	1	0	1	0	24
WEID追加アンケート	計	(8.3%)	(45.8%)	(16.7%)	(25.0%)	(0.0%)	(4.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
	計	6	16	7	12	2	2	0	1	0	24
		(25.0%)	(66.7%)	(29.2%)	(50.0%)	(9.3%)	(9.4%)	(0.0%)	(4.2%)	(0.0%)	(100.0%)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る受験意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望している16人について、社会学科を「受験したい」と回答したのは5人(31.3%)、「受験を検討する」と回答したのは8人(50.0%)であり、合計すると13人(81.3%)が社会学科の受験に関心を示

のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.3%、第1志望以外としていたのは41.7%であり、約6割は第1志望、約4割は第1位志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では11.4%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

こうした状況を踏まえ、また、近隣の競合大学の数(石川県に3校、富山県に1校、福井県に1校)及び国公立大学や首都圏等其他地域の大学を受験する可能性も考慮し、入学希望者の試算では、「受験を検討する」と回答した回答者については、比較的多くの者が受験するケースとして80%、もしくはその半分程度しか受験しないケースとして50%が受験すると想定した。また、「併願先の結果によっては入学を希望する」と回答した回答者については、その半分が第1志望の大学に入学し半分が本学に入学するケースとして50%、もしくは比較的多くの者が第1志望の大学に入学するケースとして70%が第1希望の大学に入学し30%が本学への入学を希望すると想定した。

【表 17】 各区分における入学希望者数

している。【表 24】

【表 24】大学進学及び社会科学関係への進学を希望する回答者の社会学部社会学科受験意向

		1 受験しない	2 受験を 検討する	3 受験しない	不 明	合 計
2020(令和4)年度 WEB追加アンケート	大学進学 社会科学関係 進学希望者	5 (17.5)	9 (30.0)	3 (10.0)	0 (0.0)	16 (100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科を「受験したい」と回答した 5 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 4 人 (80.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 1 人 (20.0%) である。

また、大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科について「受験を検討する」と回答した 8 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 2 人 (25.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6 人 (75.0%) である。【表 25】

【表 25】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学しない	2 併願先の結果によっては入学しない	不 明	合 計
2020(令和4)年度 WEB追加アンケート	大学進学 社会科学関係 進学希望者	4 (50.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	5 (100.0)
	社会科学関係 進学希望者 受験を検討する	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)	8 (100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<社会学部社会学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して

教育学部幼児教育学科

アンケート結果	種別1	入学希望者数 ^(注1)
区分1	25人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	25人×1.0×1.0⇒25人
区分2	11人 80%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	11人×0.8×1.0⇒9人
区分3	47人 100%が受験し、そのうち80%が入学を希望。	47人×1.0×0.8⇒38人
区分4	85人 80%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	85人×0.8×0.5⇒34人
合 計		99人
アンケート結果	種別2	入学希望者数
区分1	25人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	25人×1.0×1.0⇒25人
区分2	11人 50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	11人×0.5×1.0⇒6人
区分3	47人 100%が受験し、そのうち80%が入学を希望。	47人×1.0×0.8⇒38人
区分4	85人 50%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	85人×0.5×0.5⇒21人
合 計		74人
アンケート結果	種別3	入学希望者数
区分1	25人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	25人×1.0×1.0⇒25人
区分2	11人 50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	11人×0.5×1.0⇒6人
区分3	47人 100%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	47人×1.0×0.3⇒14人
区分4	85人 50%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	85人×0.5×0.3⇒13人
合 計		56人

(注1) 複数回答可。

教育学部初等中等教育学科

アンケート結果	種別1	入学希望者数 ^(注1)
区分1	15人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×1.0×1.0⇒15人
区分2	9人 50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	9人×0.5×1.0⇒5人
区分3	40人 100%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	40人×1.0×0.5⇒20人
区分4	134人 80%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	134人×0.8×0.5⇒54人
合 計		94人
アンケート結果	種別2	入学希望者数
区分1	15人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×1.0×1.0⇒15人
区分2	9人 50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	9人×0.5×1.0⇒5人
区分3	40人 100%が受験し、そのうち80%が入学を希望。	40人×1.0×0.8⇒32人
区分4	134人 50%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	134人×0.5×0.5⇒34人
合 計		79人
アンケート結果	種別3	入学希望者数
区分1	15人 100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×1.0×1.0⇒15人
区分2	9人 50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	9人×0.5×1.0⇒5人
区分3	40人 100%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	40人×1.0×0.3⇒12人
区分4	134人 50%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	134人×0.5×0.3⇒20人
合 計		52人

(注1) 複数回答可。

上記、「【表12】各区分における入学希望者数」の結果、本学の教育学部幼児教育学科への入学希望者数は入学定員45人を上回る 56~90人、教育学部初等中等教育学科への入学希望者数は入学定員25人を上回る 51~96人となり、石川県をはじめとする周辺地域に所在する一部の高等学校及びキリスト教学校の2年生に限定した調査結果においても、教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科に対する高い進学意向が確認できたことから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは 4 人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 1 人である。この「入学したい」と回答した 4 人については、社会学科への入学を第 1 希望に考えている可能性が高いと考えられる。

「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 1 人については、社会学科への入学を第 1 希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で社会学科学関係への進学を希望し、かつ社会学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、社会学科に「入学したい」と回答したのは 1 人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6 人である。この「入学したい」と回答した 1 人については、アンケート回答時点において社会学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 6 人については、社会学科への入学を第 1 希望以外に考えている可能性が高く、社会学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では社会学科に入学する可能性があると考えられる。【表 26】

【表 26】大学進学及び社会科学関係への進学を希望し、かつ社会学部社会学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			2 社会学部 社会学科	4 教育学部 初等中等教育学科	合計
2020(令和2)年5月 WEBアンケート	大学進学	(北陸学院大学)	4	0	4
	社会科学関係	入学したい	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	進学希望が少く	(北陸学院大学)	1	0	1
	社会学部	併願先の結果によっては入	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	奨励したい	学したい			
	大学進学	(北陸学院大学)	1	1	2
社会科学関係	入学したい	(50.0)	(50.0)	(100.0)	
進学希望が少く	(北陸学院大学)	6	0	6	
社会学部	併願先の結果によっては入	(100.0)	(0.0)	(100.0)	
奨励が行える	学したい				

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

以上が、ウのWEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査を実施した結果である。

⑫ 過去3年間における人間総合学部社会学科の入学者の進路決定時期

以上のアンケート調査ア、イ、ウの結果を踏まえ、本学部の入学希望者について検討する。はじめに、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部社会学科の入学者の過去3年間における結果が【表27】である。

【表27】人間総合学部社会学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期
令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度		第1志望			第1志望以外			合計
		1年前半～2年中頃	2年後半～3年後半	その他	1年前半～2年中頃	2年後半～3年後半	その他	
令和元	人	2	34	3	0	36	5	80
(2019)	%	2.5	42.5	3.8	0.0	45.0	6.3	100.0
令和2	人	6	51	3	0	54	1	115
(2020)	%	5.2	44.3	2.6	0.0	47.0	0.9	100.0
令和3	人	9	51	3	0	15	2	80
(2021)	%	11.3	63.8	3.8	0.0	18.8	2.5	100.0
総計	人	17	136	9	0	105	8	275
	%	6.2	49.5	3.3	0.0	38.2	2.9	100.0
			58.9			41.1		

人間総合学部社会学科の入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.9%、第1志望以外としていたのは41.1%であり、約6割は第1志望、約4割は第1志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査アは高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では6.2%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

⑬ 高校生アンケート調査結果ア・イ・ウからの社会学部社会学科入学希望者検討

アンケート集計の区分を、区分1～区分4とした。イの北陸学院高等学校の区分1～区分4について、2021（令和3）年の調査結果と2022（令和4）年の再調査結果を比較した表が【表28】である。回答対象者が重複するため、入学希望者検討には、ア（北陸学院高校集計数）とイの調査結果との増減回答数を使用する。

【表28】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数

区分	問② 「社会学部社会学科」を選択 問③ 「社会学部社会学科に入学希望」を選択	ア2021年9月 （2年時） 回答数	イ2022年6月 （3年時） 回答数	増減 （イ-ア） 回答数
区分1	問④ 「受験したい」を選択	9人	11人	+2人
	問⑤（1） 「入学したい」を選択			
区分2	問④ 「受験したい」を選択	5人	6人	+1人
	問⑤（1） 「前期選の結果によって入学したい」を選択			
区分3	問④ 「受験を検討する」を選択	5人	2人	-3人
	問⑤（1） 「入学したい」を選択			
区分4	問④ 「受験を検討する」を選択	19人	29人	+4人
	問⑤（1） 「前期選の結果によって入学したい」を選択			

注）問②：高校卒業後の進路、問③：進学希望分野、問④（⑤）：入学希望の学科
問④：社会学部社会学科の受験意向、問⑤（1）：前期選の総合の入学意向

【表27】で示したとおり、本学への入学者層は、高校2年後半から3年後半に進路決定する割合が多く、【表28】の北陸学院高等学校の結果では、区分1及び区分2の「受験したい」の回答数が、14名から17名に増えた。また、区分1の社会学部社会学科への受験を希望し、かつ入学希望である回答数が9名から11名に増え、より明確に

進路決定したことが窺える。最終的な回答数を算出するにあたり、アの調査結果より、イの北陸学院高等学校の重複を避けるため、【表 28】の増減回答数と、ウのWEB アンケート及び高等学校追加アンケート調査の回答数を含め、入学希望者数を試算する根拠とする、最終アンケート回答数を【表 29】に示す。

【表 29】高校生アンケート（最終） 区分表

区分	質問	ア 2021年9月 ～9月 回答数	イ 北陸学院高等 学校アプ ト（専願）回 答数	ウ 2022年6月W E B及びWEB アンケート回 答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	48人	+2人	4人	54人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	120人	+1人	1人	122人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	33人	-3人	1人	31人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	344人	+4人	6人	354人

注1) 問2：国際実業法の専攻、問3：進学希望分野、問5（2）：入学希望の専科
問4：社会学部社会学科の受験意向、問5（1）：併願の専科の入学意向

⑭ 社会学部社会学科入学希望者数の推計

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分をまず、2つのパターンに分けて考える。パターン1は、区分1及び区分2の「受験したい」と回答した、受験意向が強い層とし、パターン2は区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層とする。それぞれのパターンには、「入学したい」と回答した入学意向が強い層と、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した入学意向が弱い層がある。この、入学意向の違いを踏まえ入学希望者を試算するにあたり、パターン1では、本学の過去5年間の入学選抜試験での歩留率を根拠とし、試算を行う。なお、推計では区分1は、専願選抜の歩留率を、区分2は、併願選抜の歩留率を用いる。【表 30】

【表 30】過去 5 年間の人間総合学部社会学科入学
選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

社会学科		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)
2017 (H29)	専願選抜 合計	18	18	18	18	100.0
	併願選抜 合計	116	115	114	35	30.7
						40.2
2018 (H30)	専願選抜 合計	42	42	42	42	100.0
	併願選抜 合計	129	129	123	43	35.0
						51.5
2019 (H31)	専願選抜 合計	26	26	26	26	100.0
	併願選抜 合計	174	171	164	54	32.9
						42.1
2020 (R2)	専願選抜 合計	41	41	41	41	100.0
	併願選抜 合計	200	198	178	74	41.6
						52.5
2021 (R3)	専願選抜 合計	53	53	52	52	100.0
	併願選抜 合計	214	203	143	30	21.0
						42.1
総計	専願選抜 合計	180	180	179	179	100.0
	併願選抜 合計	832	818	722	236	32.7
						46.1

※ 専願選抜は、総合型選抜専願制、学校推薦型
選抜指定校制・公募制の計。

※ 併願選抜は、総合型選抜併願制、一般選抜、
大学入学共通テスト利用制、社会人選抜の計。

パターン 1 の推計の根拠を以下に示す。
人間総合学部社会学科の歩留率の 5 年平
均（専願選抜合計 100%、併願選抜合計
32.7%）【表 30】を用いる。

「区分 1」は社会学科の受験及び、入学を
強く志望しており、専願選抜受験層と仮定
した。

・ 「推計」100%が受験し、そのうち
100%が入学を希望。

「区分 2」は社会学科の受験を希望し、入
学は検討中であり、併願選抜受験層と仮定
した。

・ 「推計 1」100%が受験し、そのうち
32.7%が入学を希望。

【表 31】区分 1 及び区分 2 における社会学部社会
学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ⁽¹⁾
区分 1 54人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	54人×1.0×1.0⇒54人
区分 2 122人	100%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。	122人×0.327×1.0⇒39人
-	合 計	93人

(注 1) 繰上り繰下。

上記、「【表 31】区分 1 及び区分 2 におけ
る社会学部社会学科入学希望者数」の結

果、本学の社会学部社会学科へ強い受験意向層の入学希望者数は、入学定員 95 人とほぼ同数となる 93 人となった。

次に、パターン 2 として、【表 29】の区分 3 及び区分 4 の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層の推計を検討する。この、受験意向が弱い層からの受験者数を試算するにあたり、本学の過去 5 年間のオープンキャンパス参加者からの受験者割合を根拠とし、試算を行う。【表 32】

【表 32】過去 5 年間のオープンキャンパス参加者(実数)(高校 1～3 年のいずれかで参加)の受験・入学率

高校卒業年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値
オープンキャンパス参加者(人)	578	631	543	439	356	509.4
うち受験者(人)	200	225	217	159	147	189.6
専願選抜(人)	149	132	128	139	119	133.4
併願選抜(人)	51	93	89	20	28	56.2
オープンキャンパス参加者の受験率	34.6%	35.7%	40.0%	36.2%	41.3%	37.2%
専願選抜	25.8%	20.9%	23.6%	31.7%	33.4%	26.2%
併願選抜	8.8%	14.7%	16.4%	4.6%	7.9%	11.0%
入学者(人)	180	191	182	155	133	168.2
オープンキャンパス参加者の入学率	31.1%	30.3%	33.5%	35.3%	37.4%	33.0%

パターン 2 の推計の根拠を以下に示す。「受験を検討する」と回答した層を、本学のオープンキャンパス参加者に仮定し、【表 32】過去 5 年間のオープンキャンパス参加者(高校 1～3 年のいずれかで参加)からの併願選抜平均受験率である、11.0%を用いる。なお、オープンキャンパス参加者は希望学部学科が変化する場合や、未定とする者も多いため、本学の人間総合及び短期大学部合算での入学率を使用する。「受験を検討する」と回答した回答者のうち、11.0%が本学を受験するとする。

「区分 3」は社会学部の受験は検討中であり、合格した場合は入学を希望している。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち

100%が入学を希望。

「区分4」は社会学科の受験は検討中であり、入学も検討中である。入学志望度はパターン1同様に、併願選抜受験層と仮定した。

・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。

【表33】区分3及び区分4における社会学部社会学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^{注1)}
区分3 31人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	31人×0.11×1.0⇒3人
区分4 354人	11.0%が受験し、そのうち32.7%が入学を希望。	354人×0.11×0.327⇒12人
-	合計	15人

注1) 繰掛切り除く。

上記、「【表33】区分3及び区分4における社会学部社会学科入学希望者数」の結果、本学の社会学部社会学科へ弱い受験意向層の入学希望者数は、入学定員95人の15%である15人となった。

⑮ 社会学部社会学科入学希望者検討のまとめ

「受験したい」と回答した受験意向が強い層の推計であるパターン1で入学希望者数を試算した結果、定員95人とほぼ同数の93人の入学希望者が見込まれる結果となった。

パターン2の「受験を検討する」と回答した受験意向が弱い層については、本学を実際に受験するかどうか定かではないことから、入学希望者として考えるには不確実な層である。しかし、本学人間総合学部_の在_学生_にお_いて_は、高_校2_年生_の中_頃に_本学_を受_験す_るこ_とを_決め_てい_たの_はご_くわ_ずか_であ_るこ_とか_ら【表27】、アンケート回答時点（高校2年生の8月～9月）では「受験を検討する」と回答した層の中にも、本学を受験する者が含まれる可能性は

十分にあると考えられる。本学の過去のオープンキャンパス参加者を「受験を検討する」と回答した層と考え、その中から本学に併願選抜で入学した者の割合（11.0%）をもとに試算した結果では、15人の入学希望者がいるという結果であった。この推計の人数が実際に入学すると想定することはできないが、この中から実際に入学する者が出てくる可能性はあると考えられる。

受験意向が弱い層は385人おり【表29】、この中にも入学希望者がいる可能性はある。更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努めていきたい。

〔教育学部〕

⑩ 【資料1】による高校生アンケート調査結果アについて

令和3（2021）年8月～9月に実施し、回収校数は78校で、回答者数（有効回答数）は、8,522人であった。このうち、高校卒業後に大学進学を希望する者（以下、「大学進学希望者」という。）は5,631人（66.1%）である。【再掲：表12】

【再掲：表12】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
回答者 全体	5,631 (66.1%)	410 (4.8%)	1,060 (12.3%)	1,173 (13.8%)	185 (2.2%)	63 (0.7%)	8,522 (100.0%)

注）上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<進学希望分野（第1希望、第2希望）

>

進学を希望する分野について、大学進学希望者5,631人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは569人（10.1%）、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは787人（14.0%）であり、合計すると1,356人（24.1%）の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表13】

【再掲：表 13】 大学進学希望者の進学希望分野（第 1 希望、第 2 希望）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	不明	合計
		経済学類	社会科学類	教育学・保育学	人文科学類	理学・工学	保健衛生学	農学類	工学・歯学	芸術学類			
大学進学希望者	第 1 希望	277	1,501	569	806	1,176	753	286	272	198	43	5,631	
		(6.0)	(23.1)	(10.1)	(14.2)	(20.9)	(13.4)	(5.1)	(4.3)	(3.0)	(0.8)	(100.0)	
	第 2 希望	462	887	792	969	512	512	529	434	147	302	5,631	
	(8.2)	(13.5)	(14.0)	(17.2)	(9.1)	(9.1)	(9.4)	(7.7)	(2.6)	(5.4)	(100.0)		
	計	739	2,388	1,366	1,775	1,688	1,285	815	656	345	345	5,631	
		(13.3)	(42.6)	(24.1)	(31.5)	(30.0)	(22.6)	(14.5)	(11.6)	(6.1)	(6.1)	(100.0)	

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科に係る受験意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している 1,356 人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは 100 人（7.4%）、「受験を検討する」と回答したのは 236 人（17.4%）であり、合計すると 336 人（24.8%）が幼児教育学科の受験に関心を示している。初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは 73 人（5.4%）、「受験を検討する」と回答したのは 289 人（21.3%）であり、合計すると 362 人（26.7%）が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表 34】

【表 34】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科受験意向

	1	2	3	不明	合計
	受験したい	受験を検討する	受験しない		
大学進学	100	236	937	23	1,356
教育学・保育学関係 幼児教育学科 進学希望者	(7.4)	(17.4)	(73.5)	(1.7)	(100.0)
大学進学	73	289	866	28	1,356
教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	(5.4)	(21.3)	(71.3)	(2.1)	(100.0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した 100 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 32 人（32.0%）、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 67 人（67.0%）である。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科について「受験を検討する」と回答した236人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは33人(14.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは198人(83.9%)である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した73人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは19人(26.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは52人(71.2%)である。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科について「受験を検討する」と回答した289人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは36人(12.5%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは249人(86.2%)である。【表35】

【表35】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科及び初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学したい	2 併願先の結果によっては 入学したい	不明	合計
大学進学 教育学・保育学関係 進学希望者	(幼児教育学科)	32	67	1	100
	受験したい	02.0	07.0	0.0	000.0
	(幼児教育学科) 受験を検討する	32	100	5	236
		04.0	09.3	0.1	000.0
大学進学 教育学・保育学関係 進学希望者	(初等中等教育学科)	19	52	2	73
	受験したい	06.0	07.2	0.7	000.0
	(初等中等教育学科) 受験を検討する	36	249	4	289
		02.8	08.2	0.4	000.0

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を

受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは25人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは47人である。この「入学したい」と回答した25人については、幼児教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した47人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは11人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは85人である。この「入学したい」と回答した11人については、アンケート回答時点において幼児教育学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した85人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、幼児教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表36】

【表36】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部

学科

		1	2	3	4	合計
		健康科学部 栄養学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
大学進学	(北陸学院大学)	0	0	25	7	32
教育学・保育学関係 進学希望者かつ	入学したい	(0/0)	(0/0)	(7/8/1)	(0/1/0)	(100/0)
教育学部幼児教育学科	併願先の結果によっては入学したい	3	4	47	13	67
		(4/5)	(0/0)	(70/1)	(1/0/0)	(100/0)
大学進学	(北陸学院大学)	6	6	11	10	33
教育学・保育学関係 進学希望者かつ	入学したい	(1/2)	(1/2)	(0/2/0)	(0/0/0)	(100/0)
教育学部幼児教育学科	併願先の結果によっては入学したい	21	28	85	64	198
		(10/6)	(1/4/1)	(63/10)	(0/2/0)	(100/0)

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは15人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは42人である。この「入学したい」と回答した15人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した42人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは9人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは134人である。この「入学したい」と回答した9人については、アンケート回答時点において初等中等教育学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した134人については、初等

中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表37】

【表37】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1	2	3	4	合計
		教育学部 初等教育学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
大学進学*	(北陸学院大学)	0	0	4	15	19
教育学・保育学関係	入学したい	(0/0)	(0/0)	(0/0)	(9/0)	(100/0)
進学希望者かつ	(北陸学院大学)	1	2	7	42	52
教育学部初等中等教育学科	(併願先の結果によって)	(1/1)	(2/2)	(13/13)	(80/8)	(100/0)
受験し、合格し	入学したい	3	7	17	9	36
大学進学*	(北陸学院大学)	(0/3)	(19/4)	(47/1)	(25/0)	(100/0)
教育学・保育学関係	入学したい	21	40	54	134	249
進学希望者かつ	(北陸学院大学)	(0/4)	(16/1)	(11/1)	(83/8)	(100/0)
教育学部初等中等教育学科	(併願先の結果によって)					
受験を検討する	入学したい					

上段：回答者数（人） 下段：回答割合（%）

以上が、アの令和3（2021）年8月～9月に実施した新学部設置に関する高校生アンケートの結果である。

⑰ 北陸学院高等学校への再アンケート調査結果イについて

本学の併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、令和4（2022）年6月に、再度新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3（2021）年9月実施の高校生アンケートの回答者（当時2年生）と同じ対象者である。前回の結果（当時2年生）と再調査の結果（現在3年生）を比較して示し、再調査結果を基に説明を行う。

再調査の回答者数（有効回答数）は324人であった。このうち、大学進学希望者は260人（80.2%）である。【再掲：表17】

【再掲：表 17】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
2021(令和3)年 当月(前期)	27 (10.4%)	11 (4.4%)	40 (15.7%)	5 (1.9%)	5 (1.9%)	1 (0.4%)	330 (100.0%)
2021(令和3)年 当月(後期)	26 (10.2%)	5 (1.9%)	46 (17.6%)	8 (3.1%)	2 (0.8%)	3 (1.2%)	234 (100.0%)

上記: 回答者数(人) 下記: 回答割合(%)

<進学希望分野(第1希望、第2希望)>

進学を希望する分野について、大学進学希望者 260 人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは 27 人(10.4%)、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは 21 人(8.1%)であり、合計すると 48 人(18.5%)の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表 18】

【再掲載：表 18】 大学進学希望者の進学希望分野
(第1希望、第2希望)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
		文芸学関係 学	社会科学 学	教育学・ 保育学関係	人文科学 学	理工学 学	保健福祉 学	医学・歯 学	芸術学 学	その他		
2021(令和3)年 月 (前期)	大学進学希望者	17 (6.5%)	67 (25.0%)	19 (7.3%)	50 (19.2%)	21 (8.1%)	41 (15.8%)	10 (3.8%)	11 (4.2%)	12 (4.6%)	0 (0.0%)	238 (100.0%)
	第1希望	11 (4.1%)	53 (19.5%)	24 (9.0%)	49 (18.2%)	22 (8.3%)	17 (6.4%)	12 (4.5%)	22 (8.2%)	5 (1.9%)	11 (4.2%)	238 (100.0%)
	第2希望	6 (2.3%)	14 (5.1%)	19 (7.1%)	44 (16.4%)	22 (8.3%)	24 (9.0%)	11 (4.1%)	12 (4.5%)	14 (5.1%)	11 (4.1%)	238 (100.0%)
	計	23 (8.7%)	81 (29.6%)	43 (16.0%)	93 (34.6%)	44 (16.3%)	65 (24.0%)	21 (7.8%)	23 (8.5%)	26 (9.7%)	6 (2.2%)	260 (100.0%)
2021(令和3)年 月 (後期)	大学進学希望者	10 (4.3%)	69 (29.5%)	17 (7.3%)	52 (22.3%)	29 (12.5%)	29 (12.5%)	7 (3.0%)	7 (3.0%)	9 (3.8%)	2 (0.9%)	230 (100.0%)
	第1希望	5 (2.1%)	64 (27.8%)	21 (9.1%)	45 (19.6%)	12 (5.2%)	20 (8.7%)	16 (7.0%)	17 (7.4%)	9 (3.9%)	27 (11.7%)	230 (100.0%)
	第2希望	5 (2.1%)	5 (2.1%)	11 (4.7%)	7 (3.0%)	17 (7.4%)	9 (3.9%)	11 (4.8%)	11 (4.8%)	14 (6.1%)	14 (6.1%)	230 (100.0%)
	計	15 (6.5%)	138 (59.0%)	28 (12.2%)	109 (47.0%)	41 (17.8%)	56 (24.2%)	14 (6.1%)	14 (6.1%)	19 (8.3%)	15 (6.5%)	230 (100.0%)

上記: 回答者数(人) 下記: 回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科に係る受験意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している 48 人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは 10 人(20.8%)、「受験を検討する」と回答したのは 6 人(12.5%)であり、合計すると 16 人(33.3%)が幼児教育学科の受験に関心を示している。

初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは 3 人(6.3%)、「受験を検討する」と回答したのは 12 人(25.0%)であり、合計すると 15 人(31.3%)が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表

【表 38】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科受験意向

		1 受験したい	2 受験を 検討する	3 受験しない	不明	合計
2021(令和3)年 5月(卒業期)	大学進学・教育学・保育学関係	10	19	33	1	63
	幼児教育学科 進学希望者	(15.9)	(20.2)	(52.4)	(1.6)	(100.0)
	初等中等教育学科 進学希望者	3	15	40	5	63
		(4.8)	(23.8)	(63.5)	(7.9)	(100.0)
2022(令和4)年 5月(卒業期)	大学進学・教育学・保育学関係	10	6	29	3	48
	幼児教育学科 進学希望者	(20.8)	(12.5)	(60.4)	(6.3)	(100.0)
	初等中等教育学科 進学希望者	3	12	29	4	48
		(6.3)	(25.0)	(60.4)	(8.3)	(100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した 10 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 7 人 (70.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 3 人 (30.0%) である。

また、「受験を検討する」と回答した 6 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 1 人 (16.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 5 人 (83.3%) である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した 3 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 2 人 (66.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 1 人 (33.3%) である。また「受験を検討する」と回答した 12 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 4 人 (33.3%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 8 人 (66.7%) である。【表 39】

【表 39】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果によっては入学したい	不 明	合 計
001(令和3)年度 (2期制)	大学進学	(幼児教育学科)	8	2	0	10
	教育学・保育学関係	受験したい	(90.0)	(90.0)	(0.0)	(100.0)
	幼児教育学科	(幼児教育学科)	7	11	1	19
	進学希望者	受験を検討する	(36.4)	(57.9)	(5.7)	(100.0)
	大学進学	(初等中等教育学科)	2	1	0	3
	教育学・保育学関係	受験したい	(66.7)	(33.3)	(0.0)	(100.0)
002(令和4)年度 (3期制)	大学進学	(幼児教育学科)	7	3	0	10
	教育学・保育学関係	受験したい	(70.0)	(30.0)	(0.0)	(100.0)
	幼児教育学科	(幼児教育学科)	1	5	0	6
	進学希望者	受験を検討する	(16.7)	(83.3)	(0.0)	(100.0)
	大学進学	(初等中等教育学科)	2	1	0	3
	教育学・保育学関係	受験したい	(66.7)	(33.3)	(0.0)	(100.0)
003(令和4)年度 (3期制)	大学進学	(初等中等教育学科)	4	8	0	12
	教育学・保育学関係	受験したい	(33.3)	(66.7)	(0.0)	(100.0)
	進学希望者	受験を検討する	(33.3)	(66.7)	(0.0)	(100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは7人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは3人である。この「入学したい」と回答した7人については、幼児教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した3人については、幼児教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは0人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは2人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した2人については、幼児教

育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、幼児教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では幼児教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表40】

【表40】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1	2	3	4	合計
		教育学部 学芸学科	社会学部 社会学科	教育学部 幼児教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
5001(令和3)期3 月(2陣時)	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望かつ 教育学部 幼児教育学科 受験 したい	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	8 (100.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
		併願先の結果によって は入学したい	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望かつ 教育学部 幼児教育学科 受験 を検討する	(北陸学院大学) 入学したい (14/3)	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	4 (97.1)	2 (20.0)	7 (100.0)
		併願先の結果によって は入学したい	1 (8.1)	2 (18.2)	6 (94.5)	2 (18.2)
5002(令和4)期3 月(2陣時)	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望かつ 教育学部 幼児教育学科 受験 したい	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	7 (100.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
		併願先の結果によって は入学したい	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	3 (100.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望かつ 教育学部 幼児教育学科 受験 を検討する	(北陸学院大学) 入学したい (0/0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
		併願先の結果によって は入学したい	0 (0.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは2人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人である。この「入学したい」と回答した2人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では初等中等教育学

科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは 0 人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 6 人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した 6 人については、初等中等教育学科への入学を第 1 希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表 41】

【表 41】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

			1	2	3	4	合計
			看護学部 栄養学科	社会学部 社会学科	教育学部 初等中等教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
001(令和3年 5月(2学期))	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (1.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (1.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (4.0)	5 (1.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	0 (0.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	3 (3.0)	4 (1.0)
002(令和4年 6月(3学期))	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	2 (1.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (1.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科 受験を検討する	(北陸学院大学) 入学したい	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	0 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	6 (0.0)	8 (1.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

以上が、イの本学併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、再度高校生アンケートを実施した結果である。

⑱ WEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査について

令和4（2022）年6月26日（日）～7月3日（日）に本学にメールアドレス登録がある、高等学校3年生に対して、WEBアンケートを実施した。また、石川県立金沢泉丘高等学校（通信制）と、第一学院高等学校に対し、追加のアンケートを実施した。なお、対象者はア及びイの回答者として重複がないことと、現在3年生であることを確認し、集計を行った。回答者数（有効回答数）は35人であった。このうち大学進学希望者は24人（68.6%）である。【再掲：表22】

【再掲：表22】高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門学校含む)	2 短期大学進学 (専門短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
2021(令和4)年度6月 WEB追加アンケート	24 (68.6%)	3 (9.6%)	4 (11.4%)	4 (11.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

進学を希望する分野について、大学進学希望者24人のうち第1希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは4人（16.7%）、第2希望として「教育学・保育学関係」と回答したのは3人（12.5%）であり、合計すると7人（29.2%）の大学進学希望者が「教育学・保育学関係」への進学を希望している。【再掲：表23】

【再掲：表23】大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
			保健学関係	社会科学関係	教育学・保育学関係	人文科学関係	理学・工学・農学関係	保健衛生学関係	医学・歯学・薬学関係	芸術学関係	その他		
2021 (令和4)年度6月 WEB追加 アンケート	大学進学希望者	第1希望	2 (8.3%)	11 (45.8%)	4 (16.7%)	5 (19.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)
		第2希望	4 (16.7%)	5 (19.0%)	3 (12.5%)	6 (25.0%)	2 (8.3%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	2 (8.3%)	24 (100.0%)
		計	6 (25.0%)	16 (64.8%)	7 (29.2%)	11 (44.0%)	2 (8.3%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	2 (8.3%)	(—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科に係る受験意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望している 7 人について、幼児教育学科を「受験したい」と回答したのは 3 人 (42.9%)、「受験を検討する」と回答したのは 0 人 (0.0%) であり、合計すると 3 人 (42.9%) が幼児教育学科の受験に関心を示している。

初等中等教育学科を「受験したい」と回答したのは 1 人 (14.3%)、「受験を検討する」と回答したのは 1 人 (14.3%) であり、合計すると 2 人 (28.6%) が初等中等教育学科の受験に関心を示している。【表 42】

【表 42】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望する回答者の教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科受験意向

		1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
2025(令和7)年度 WEB-追加アンケート	大学進学・教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	3 (42.9)	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	7 (100.0)
	大学進学・教育学・保育学関係 初等中等教育学科 進学希望者	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0 (0.0)	7 (100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科を「受験したい」と回答した 3 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 3 人 (100.0%) である。

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科を「受験したい」と回答した 1 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 1 人 (100.0%) である。また「受験を検討する」と回答した 1 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 0 人 (0.0%)、「併願先の結果によって

は入学したい」と回答したのは 1 人
(0.0%) である。【表 43】

【表 43】大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科、初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

		1 入学したい	2 併願先の結果によっては入学したい	不 明	合 計
2021(令和3)年 6月	大学進学	3 (100%)	0	0	3 (100%)
	教育学・保育学関係 幼児教育学科	0	0	0	0
	教育学・保育学関係 初等中等教育学科	0	0	0	0
	進学希望者	0	0	0	0
NED 追加プラン →	大学進学	1 (100%)	0	0	1 (100%)
	教育学・保育学関係 幼児教育学科	0	0	0	0
	教育学・保育学関係 初等中等教育学科	0	1 (100%)	0	1 (100%)
	進学希望者	0	1 (100%)	0	1 (100%)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<教育学部幼児教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、幼児教育学科に「入学したい」と回答したのは 2 人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 0 人である。この「入学したい」と回答した 2 人については、幼児教育学科への入学を第 1 希望に考えている可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ幼児教育学科の受験について検討すると回答した回答者は居なかった。【表 44】

【表 44】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部幼児教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		3	4	合計
		教育学部 初等中等教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
2025(令和7)年5月 WEB-追加アンケート	大学進学*	2	1	3
	教育学・保育学関係 入学したい	0(6.7)	0(3.3)	0(100.0)
	進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科	0	0	0
	併願先の結果によっては入 学したい	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	大学進学*	0	0	0
	教育学・保育学関係 入学したい	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
進学希望者かつ 教育学部 初等中等教育学科	0	0	0	
併願先の結果によっては入 学したい	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)

<教育学部初等中等教育学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「入学したい」と回答したのは1人である。この「入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。また、大学進学希望者で教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ初等中等教育学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、初等中等教育学科に「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは1人である。この「併願先の結果によっては入学したい」と回答した1人については、初等中等教育学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、初等中等教育学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では初等中等教育学科に入学する可能性があると考えられる。【表45】

【表45】 大学進学及び教育学・保育学関係への進学を希望し、かつ教育学部初等中等教育学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		3	4	合計
		教育学部 20) 教育学科	教育学部 初等中等教育学科	
2020(令和2)年5月 WEB追加アンケート	大学進学	(北陸学院大学)	1	1
	教育学・保育学関係	入学した。	(100.0)	(100.0)
	進学希望かつ	(北陸学院大学)	0	0
	教育学部 初等中等教育学科	併設院の結果によっては入	(0.0)	(0.0)
	学した。			
	学した。			
大学進学	(北陸学院大学)	0	0	0
教育学・保育学関係	入学した。	(0.0)	(0.0)	(0.0)
進学希望かつ	(北陸学院大学)	0	1	1
教育学部 初等中等教育学科	併設院の結果によっては入	(0.0)	(100.0)	(100.0)
学した。				

上段: 調査対象人数(人) 下段: 調査割合(%)

以上が、ウのWEBアンケート調査及び、高等学校追加アンケート調査を実施した結果である。

⑱ 過去3年間における人間総合学部子ども教育学科の入学者の進路決定時期

以上のアンケート調査ア、イ、ウの結果を踏まえ、本学部の入学希望者について検討する。はじめに、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部子ども教育学科の入学者の過去3年間における結果が【表46】である。

【表46】人間総合学部子ども教育学科入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期
令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋

アンケート実施年度	第1志望			第1志望以外			合計
	1年前半～ 2年中期	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中期	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人 6	33	4	0	32	1	76
	% 7.9	43.4	5.3	0.0	42.1	1.3	100.0
令和2 (2020)	人 5	23	0	0	27	0	55
	% 9.1	41.8	0.0	0.0	49.1	0.0	100.0
令和3 (2021)	人 9	21	1	0	13	0	44
	% 20.5	47.7	2.3	0.0	29.5	0.0	100.0
総計	人 20	77	5	0	72	1	175
	% 11.4	44.0	2.9	0.0	41.1	0.6	100.0
		58.3			41.7		

人間総合学部子ども教育学科の入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.3%、第1志望以外としていたのは41.7%であり、約6割は第1志望、約4割は第1志望以外となっている。

る。

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して主に令和3年9月から10月に実施したが、高校2年生の9月から10月の時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では11.4%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

⑳ 高校生アンケート調査結果ア・イ・ウからの教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者検討

アンケート集計の区分を、区分1～区分4とした。イの北陸学院高等学校の区分1～区分4について、2021（令和3）年の調査結果と2022（令和4）年の再調査結果を比較した表が【表47】【表48】である。回答対象者が重複するため、入学希望者検討には、ア（北陸学院高校集計数）とイの調査結果との増減回答数を使用する。

【表47】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数

幼児教育学科

区分	ア 2021年9月 （20年集） 回答数	イ 2022年6月 （21年集） 回答数	増減 （イ-ア） 回答数	
区分1	ア4 「受験したい」を選択 ア5（1） 「入学したい」を選択	8人	7人	-1人
区分2	ア4 「受験したい」を選択 ア5（1） 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	2人	3人	+1人
区分3	ア4 「受験を検討する」を選択 ア5（1） 「入学したい」を選択	4人	0人	-4人
区分4	ア4 「受験を検討する」を選択 ア5（1） 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	6人	2人	-4人

注1）ア2：高校卒業後の進路、ア3：進学希望分野、ア5（2）：入学希望の学科
ア4：教育学部幼児教育学科の受験意向、ア5（1）：合格の確率の入学意向

【表48】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数

初等中等教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5(2) 「教育学部初等中等教育学科」に入学希望 を選択	ア 2021年3月 (2年制) 回答数	イ 2022年4月 (3年制) 回答数	ウ 2022年5月W E B及び追加 アンケート回 答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	1人	2人		+1人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	1人	1人		0人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	2人	0人		-2人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	9人	6人		-9人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：教育学部初等中等教育学科の受験者数、問5(1)：合格の確率の入学意向

最終的な回答数を算出するにあたり、アの調査結果より、イの北陸学院高等学校の重複を避けるため、【表47】【表48】の増減回答数と、ウのWEBアンケート及び高等学校追加アンケート調査の回答数を含め、入学希望者数を試算する根拠とする、最終アンケート回答数を【表49】【表50】に示す。

【表49】高校生アンケート（最終）区分表

幼児教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5(2) 「教育学部幼児教育学科」に入学希望 を選択	ア 2021年3月 ~9月 回答数	イ 北陸学院高等 学校アンケー ト(増減)回 答数	ウ 2022年5月W E B及び追加 アンケート回 答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	25人	-1人	2人	26人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	47人	+1人	0人	48人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	11人	-4人	0人	7人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	85人	-4人	0人	81人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：教育学部幼児教育学科の受験者数、問5(1)：合格の確率の入学意向

【表50】高校生アンケート（最終）区分表

初等中等教育学科

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「教育学・保育学」を選択 問5(2) 「教育学部初等中等教育学科」に入学希望 を選択	ア 2021年3月 ~9月 回答数	イ 北陸学院高等 学校アンケー ト(増減)回 答数	ウ 2022年5月W E B及び追加 アンケート回 答数	最終 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	15人	+1人	1人	17人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	42人	0人	0人	42人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	9人	-2人	0人	7人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「受験先の結果によっては入学したい」を選択	136人	-9人	1人	132人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：教育学部初等中等教育学科の受験者数、問5(1)：合格の確率の入学意向

②1 教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者数の推計

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分をまず、2つのパターンに分けて考える。パターン1は、区分1及び区分

2の「受験したい」と回答した、受験意向が強い層とし、パターン2は区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層とする。それぞれのパターンには、「入学したい」と回答した入学意向が強い層と、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した入学意向が弱い層がある。この、入学意向の違いを踏まえ入学希望者を試算するにあたり、パターン1では、本学の過去5年間の入学選抜試験での歩留率を根拠とし、試算を行う。なお、推計では区分1は、専願選抜の歩留率を、区分2は、併願選抜の歩留率を用いる。【表51】

【表51】過去5年間の人間総合学部子ども教育学科入学選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

子ども教育学科		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)
2017 (H29)	専願選抜 合計	31	31	31	31	100.0
	併願選抜 合計	150	149	133	48	36.1
2018 (H30)	専願選抜 合計	42	42	42	42	100.0
	併願選抜 合計	112	110	101	32	31.7
2019 (H31)	専願選抜 合計	29	29	29	29	100.0
	併願選抜 合計	142	141	133	47	35.3
2020 (R2)	専願選抜 合計	24	24	24	24	100.0
	併願選抜 合計	129	128	119	33	27.7
2021 (R3)	専願選抜 合計	34	34	34	34	100.0
	併願選抜 合計	105	104	94	21	22.3
総計	専願選抜 合計	160	160	160	160	100.0
	併願選抜 合計	638	632	580	181	31.2

※ 専願選抜は、総合型選抜専願制、学校推薦型選抜指定校制・公募制の計。

※ 併願選抜は、総合型選抜併願制、一般選抜、大学入学共通テスト利用制、社会人選抜の計。

パターン1の推計の根拠を以下に示す。
人間総合学部子ども教育学科の歩留率の5年平均（専願選抜合計100%、併願選抜合計31.2%）【表51】を用いる。

「区分1」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験及び、入学を強く志望しており、専願選抜受験層と仮定した。

・ 「推計」100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分2」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験を希望し、入学は検討中であり、併願選抜受験層と仮定した。

・ 「推計」100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。

【表52】 区分1及び区分2における幼児教育学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^{注1)}
区分1 28人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	28人×1.0×1.0⇒28人
区分2 48人	100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	48人×1.0×0.312⇒15人
-	合 計	43人

(注1) 繰越切り捨て。

【表53】 区分1及び区分2における初等中等教育学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^{注1)}
区分1 17人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	17人×1.0×1.0⇒17人
区分2 42人	100%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	42人×1.0×0.312⇒13人
-	合 計	30人

(注1) 繰越切り捨て。

上記、「【表52】 区分1及び区分2における幼児教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部幼児教育学科への入学希望者数は入学定員45人の約9割の40人となった。

「【表53】 区分1及び区分2における初等中等教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部初等中等教育学科への入学希望者数は入学定員25人を上回る30人となった。

次に、パターン2として、【表49】【表50】の区分3及び区分4の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層の推計を検討する。社会学部同様に、【表32】を根拠とし、試算を行う。パターン2の推計の根拠を以下に示す。「受験を検討する」と回答した層を、本学のオープンキャンパス参加者に仮定し、【表32】過去5年間のオープンキャンパス参加者（高校1～3年のいずれか

で参加)からの併願選抜平均受験率である、11.0%を用いる。なお、オープンキャンパス参加者は希望学部学科が変化する場合や、未定とする者も多いため、本学の間人総合及び短期大学部合算での入学率を使用する。「受験を検討する」と回答した回答者のうち、11.0%が本学を受験するとする。

「区分3」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験は検討中であり、合格した場合は入学を希望している。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分4」は幼児教育学科または初等中等教育学科の受験は検討中であり、入学も検討中である。入学志望度はパターン1同様に、併願選抜受験層と仮定した。

- ・ 「推計」11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。

【表54】区分3及び区分4における幼児教育学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^(注1)
区分3	7人 11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	7人×0.11×1.0⇒0人
区分4	81人 11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	81人×0.11×0.312⇒2人
合 計		2人

(注1) 端数切り捨て。

【表55】区分3及び区分4における初等中等教育学科入学希望者数

アンケート結果	推計	入学希望者数 ^(注1)
区分3	7人 11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	7人×0.11×1.0⇒0人
区分4	132人 11.0%が受験し、そのうち31.2%が入学を希望。	132人×0.11×0.312⇒4人
合 計		4人

(注1) 端数切り捨て。

上記、「【表54】区分3及び区分4における幼児教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部幼児教育学科への入学希望者数は入学定員45人の約4%の2人となった。

「【表 55】区分 3 及び区分 4 における初等中等教育学科入学希望者数」の結果、本学の教育学部初等中等教育学科への入学希望者数は入学定員 25 人の 16%の 4 人となった。

② 教育学部幼児教育学科および初等中等教育学科入学希望者検討のまとめ

「受験したい」と回答した受験意向が強い層の推計であるパターン 1 で試算した結果、幼児教育学科の入学希望者は、定員 45 人中 40 人、初等中等教育学科の入学希望者数は、定員 25 人中 30 人の入学希望者が見込まれる結果となった。

パターン 2 の「受験を検討する」と回答した受験意向が弱い層については、本学を実際に受験するかどうか定かではないことから、入学希望者として考えるには不確実な層である。しかし、本学人間総合学部
の在学生においては、高校 2 年生の中頃に本学を受験することを決めていたのはごくわずかであることから【表 46】、アンケート回答時点（高校 2 年生の 8 月～9 月）では「受験を検討する」と回答した層の中にも、本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。本学の過去のオープンキャンパス参加者を「受験を検討する」と回答した層と考え、その中から本学に併願選抜で入学した者の割合（11.0%）をもとに試算した結果では、幼児教育学科では 2 人、初等中等教育学科では 4 人の入学希望者がいるという結果であった。この推計の人数が実際に入学すると想定することはできないが、この中から実際に入学する者が出てくる可能性はあると考えられる。

受験意向が弱い層は幼児教育学科では

<p>88 人、初等中等教育学科では 139 人おり【表 49】【表 50】、この中にも入学希望者がいる可能性はある。更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努めていきたい。</p> <p>また、本学の入学者は、過去 5 年間平均で、人間総合学部子ども教育学科は 85.5% が所在地である石川県内からの入学者である。【表 4】高校生アンケートにおける石川県内の回答者数は、5,087 人であったが、【表 5】の石川県の高等学校 2 年生は 9,592 人であることから、高校生アンケートは、石川県内高校 2 年生の約半数に実施したことになる。このため、高校生アンケートに回答していない者の中からも、本学部に入学者を希望する者がいる可能性はあることから、広報活動の強化を通じて入学希望者の掘り起こしを図り、定員の充足につなげていきたい。</p> <p>(3) 学生納付金の設定の考え方</p> <p>学生納付金については、大学及び学校運営に係る財政的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合が想定される類似の学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育活動収支差額や経常収支差額を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費や教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。【表 56】</p> <p>【表 56】 学科別学生納付金一覧</p>	<p>(3) 学生納付金の設定の考え方</p> <p>学生納付金については、大学及び学校運営に係る財政的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合が想定される類似の学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育活動収支差額や経常収支差額を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費や教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。【表 18】</p> <p>【表 18】 学科別学生納付金一覧</p>
--	---

〔社会学部〕

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	社会学部社会学科	200,000	1,020,000	1,220,000	4,280,000
北陸大学	国際コミュニケーション学部心理社会学科	200,000	1,100,000	1,300,000	4,600,000
富山国際大学	現代社会学部現代社会学科	200,000	980,000	1,180,000	4,120,000

〔教育学部〕

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	教育学部幼児教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000
	教育学部初等中等教育学科				
金城大学	社会福祉学部 子ども福祉学科	270,000	940,000	1,210,000	4,150,000
仁愛大学	人間生活学部 子ども教育学科	250,000	880,000	1,130,000	4,520,000
金沢星槎大学	人間科学部こども学科	120,000	1,110,000	1,230,000	4,560,000
富山国際大学	子ども育成学部子ども育成学科	200,000	1,030,000	1,230,000	4,320,000
金沢学院大学	教育学部教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000

(略)

〔社会学部〕

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	社会学部社会学科	200,000	1,020,000	1,220,000	4,280,000
北陸大学	国際コミュニケーション学部心理社会学科	200,000	1,100,000	1,300,000	4,600,000
富山国際大学	現代社会学部現代社会学科	200,000	980,000	1,180,000	4,120,000

〔教育学部〕

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	教育学部幼児教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000
	教育学部初等中等教育学科				
金城大学	社会福祉学部 子ども福祉学科	270,000	940,000	1,210,000	4,150,000
仁愛大学	人間生活学部 子ども教育学科	250,000	880,000	1,130,000	4,520,000
金沢星槎大学	人間科学部こども学科	120,000	1,110,000	1,230,000	4,560,000
富山国際大学	子ども育成学部子ども育成学科	200,000	1,030,000	1,230,000	4,320,000
金沢学院大学	教育学部教育学科	200,000	1,120,000	1,320,000	4,680,000

(略)

2 人材需要の社会的動向の根拠として、既設の人間総合学部社会学科の最近 3 年間の求人件数や就職者数の状況を根拠として説明しているが、就職者数の状況についても、過去 3 年の内定者は 26 人から 35 人程度で推移しており、十分な社会的需要が見込まれるかは必ずしも明らかではない。これらのことから、人材需要の社会的動向について疑義があるため、本学部の卒業生の中長期的な採用意向等について企業等にアンケートを実施する等、より詳細な分析を加えた上で具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(社会学部 社会学科)

(対応)

審査意見 2 を踏まえ、社会学部社会学科の養成する人材に十分な社会的需要が見込まれることを、更に詳細なデータ、分析を加えて明らかにする。

ご指摘のとおり、人材需要の社会的動向の根拠として、既設の人間総合学部社会学科の最近 3 年間(平成 30(2018)年度～令和 2(2020)年度)の求人状況や就職者数を示して説明していたが、この期間において、就職内定者数は 26 人から 35 人程度で推移しており、十分な社会的需要が見込まれるかは必ずしも明らかではなかった。そこで、直近の令和 3(2021)年度の求人状況および就職実績を追加した(【表 57】、【表 59】)。令和 3

(2021)年度においては、卒業生数の増加に伴い就職希望者数も増加しているが、前年度までと同様に就職希望者数を大幅に上回る求人があること、かつ、就職内定率は 96.7%と高く、内定者数は 59 人であるという実績があることを示した。

さらに、社会学部の卒業生に対する中長期的な採用意向について、企業等へのアンケート調査をもとに新たにクロス集計を行った。その結果、「社会学部社会学科の卒業生を採用したい」と回答した事業所のうち、「6～10 年後の採用人数を増やしたい」と回答した事業所は 69 事業所あり、毎年の採用想定人数は 246 人となり、社会学科の毎年の卒業生(95 人)に対して十分な数の採用人数が見込まれる。

以上のことから、社会学部社会学科卒業生に対する中長期的な採用意向は十分見込まれ、社会的需要があるものとする。

なお、「学生確保の見通し等を記載した書類」について、数値に誤りがあったため、下記のとおり訂正する。

訂正箇所

「学生確保の見通し等を記載した書類」

II 人材需要の動向等社会の要請

3 専門の調査機関による採用意向調査結果及び関連資料に基づく需要見通し
〔社会学部〕

(1) 専門の調査機関による採用意向調査結果

①社会学部社会学科で学んだ卒業生の採用

(略)

また、毎年の採用想定人数については、「採用したい」と回答した 120 事業所では、「1人」が30件、「2～3人」が23件、「4～5人」が20件、「6～7人」が6件、「10人以上」が8件、「わからない」が22件である。「2～3人」を2人、「4～5人」を4人、「6～7人」を6人、「8～9人」を8人、「10人以上」を10人として、毎年の採用想定人数を合計すると、「採用したい」と回答した 120 事業所において毎年の採用想定人数は 860 人となる。

訂正箇所：下線部分 (訂正前) 860 人 → (訂正後) 360 人

訂正理由：採用想定人数の算定に誤りがあったため

以上の対応に基づき、下記のとおり「学生確保の見通し等を記載した書類」を修正する。

(新旧対照表)

・学生確保の見通し等を記載した書類 (41～49 ページ)

新	旧
<p>II 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>(略)</p> <p>2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>〔社会学部〕</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部社会学科の最近<u>4</u>年間の求人件数や就職希望者数に対する就職者数の実績は、以下に示す通り、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、高い数値で推移しており、このことは、既設の人間総合学部社会学科における人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものである。</p> <p>(略)</p> <p>(1) 最近<u>4</u>年間の求人件数の状況</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部社会学科の最近<u>4</u>年間</p>	<p>II 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>(略)</p> <p>2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>〔社会学部〕</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部社会学科の最近3年間の求人件数や就職希望者数に対する就職者数の実績は、以下に示す通り、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、高い数値で推移しており、このことは、既設の人間総合学部社会学科における人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものである。</p> <p>(略)</p> <p>(1) 最近3年間の求人件数の状況</p> <p>社会学部の社会学科の基礎となる既設の人間総合学部社会学科の最近3年間</p>

の求人件数の実績は、平成 30 (2018) 年度の就職希望者 27 人に対して求人件数 692 件で求人倍率は 25.6 倍、令和元 (2019) 年度は就職希望者 35 人に対して求人件数 835 件で求人倍率は 23.9 倍、令和 2 (2020) 年度は就職希望者 37 人に対して求人件数 786 件で求人倍率は 21.2 倍、令和 3 (2021) 年度は就職希望者 61 人に対して求人件数 668 件で求人倍率は 11.0 倍と高い求人倍率となっている。【表 57】

【表 57】社会学科 最近 4 年間の求人状況等

求人年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	平均	
就職希望者数	27	35	37	61	40	
福祉職	企業数(社)	71	48	63	54	59
	募集人数(人)	158	104	148	122	133
福祉職以外の求人*	企業数(社)	237	299	225	221	246
	募集人数(人)	534	731	638	546	612
合計	企業数(社)	308	347	288	275	305
	募集人数(人)	692	835	786	668	745
求人倍率(倍)	25.6	23.9	21.2	11.0	18.6	

なお、令和 4 (2022) 年度 6 月末時点での求人状況について、令和 3 (2021) 年度の同時期における求人状況との比較を行ったところ、前年度と同程度の求人が寄せられており、引き続き高い人材需要があることがわかる。【表 58】

【表 58】社会学科 令和 3 (2021) 年度 6 月時点と令和 4 (2022) 年度 6 月時点における求人状況の比較

求人年度	令和3 (2021)	令和4 (2022)	
就職希望者数	61	78	
福祉職	企業数(社)	30	31
	募集人数(人)	70	66
福祉職以外の求人*	企業数(社)	169	168
	募集人数(人)	439	392
合計	企業数(社)	199	199
	募集人数(人)	509	458

(2) 最近 4 年間の就職者数の状況
社会学部の社会学科の基礎となる既設

の求人件数の実績は、平成 30 (2018) 年度の就職希望者 27 人に対して求人件数 692 件で求人倍率は 25.6 倍、令和元 (2019) 年度は就職希望者 35 人に対して求人件数 835 件で求人倍率は 23.9 倍、令和 2 (2020) 年度は就職希望者 37 人に対して求人件数 786 件で求人倍率は 21.2 倍と高い求人倍率となっている。【表 19】

【表 19】社会学科 最近 3 年間の求人状況等

求人年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均	
就職希望者数	27	35	37	33	
福祉職	企業数(社)	71	48	63	61
	募集人数(人)	158	104	148	137
福祉職以外の求人*	企業数(社)	237	299	225	254
	募集人数(人)	534	731	638	634
合計	企業数(社)	308	347	288	314
	募集人数(人)	692	835	786	771
求人倍率(倍)	25.6	23.9	21.2	23.4	

(2) 最近 3 年間の就職者数の状況
社会学部の社会学科の基礎となる既設

の人間総合学部の社会科学の最近4年間の就職内定率は、平成30(2018)年度は96.3%(就職者内定数26人/就職希望者数27人)、令和元(2019)年度は94.3%(就職者内定数33人/就職希望者数35人)、令和2(2020)年度は94.6%(就職内定者数35人/就職希望者数37人)、令和3(2021)年度は96.7%(就職内定者数59人/就職希望者数61人)と高い就職内定率を示している。【表59】

【表59】社会科学 最近4年間の就職実績

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	平均
卒業生数 (人)	32	36	46	70	46
進学者 (人)	0	0	1	1	1
就職希望者数 (人)	27	35	37	61	40
就職内定者数 (人)	26	33	35	59	38
就職内定率 (%)	96.3	94.3	94.6	96.7	95.5
卒業生に対する就職内定率※ (%)	81.3	91.7	77.8	85.5	84.1

* 進学者除く

【表59】で示した就職実績において、平成30(2018)～令和2(2020)年度の卒業生数は32人から46人で推移しており、内定率は平均約95%と高いものの、就職内定者数としては26人から35人程度となっている。しかし、【表1】のとおり、既設の人間総合学部社会科学は、平成30(2018)年度を境に安定した入学定員充足率を維持しており、令和3(2021)年度においては、卒業生数の増加に伴い、就職希望者数が前年の約1.6倍の61人に増加したが、就職内定率は96.7%と高い就職実績を維持している。令和4(2022)年度以降、卒業生数が80人から100人程度となるが、【表57】

【表58】のとおり就職希望者数を大幅に上回る求人が安定的にあることから、地域からの高い人材需要に、より一層応えていくことができるものと考えている。

(3) 想定される競合大学の就職者数の

の人間総合学部の社会科学の最近3年間の就職内定率は、平成30(2018)年度は96.3%(就職者内定数26人/就職希望者数27人)、令和元(2019)年度は94.3%(就職者内定数33人/就職希望者数35人)、令和2(2020)年度は94.6%(就職内定者数35人/就職希望者数37人)と高い就職内定率を示している。【表20】

【表20】社会科学 最近3年間の就職実績

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業生数 (人)	32	36	46	38
進学者 (人)	0	0	1	0
就職希望者数 (人)	27	35	37	33
就職内定者数 (人)	26	33	35	31
就職内定率 (%)	96.3	94.3	94.6	95.1
卒業生に対する就職内定率※ (%)	81.3	91.7	77.8	83.6

* 進学者除く

(3) 想定される競合大学の就職者数の

状況

社会科学と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2（2020）年度の卒業生では、富山国際大学現代社会学部現代社会学科（富山市内）で100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。【表60】

【表60】 想定される競合大学の就職状況

北陸大学 国際コミュニケーション学部 心理社会学科
◆令和3（2021）年度開設のためデータなし

富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科
◆内定率等

	卒業生数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30（2018）年度 卒業生	-	-	-	100.0
令和元（2019）年度 卒業生	99	85	85	100.0
令和2（2020）年度 卒業生	102	89	89	100.0

〔教育学部〕

（略）

（1）最近3年間の求人件数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近3年間の求人件数の実績は、平成30（2018）年度の就職希望者82人に対して求人件数931件（内教育及び保育職397件）で求人倍率は11.4倍、令和元（2019）年度は就職希望者56人に対して求人件数1,084件（内教育及び保育職353件）で求人倍率は19.4倍、令和2（2020）年度は就職希望者57人に対して求人件数972件（内教育及び保育職334件）で求人倍率は17.1倍と高い求人倍率となっている。【表61】

【表61】 人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の求人状況等

状況

社会科学と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2（2020）年度の卒業生では、富山国際大学現代社会学部現代社会学科（富山市内）で100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。【表21】

【表21】 想定される競合大学の就職状況

北陸大学 国際コミュニケーション学部 心理社会学科
◆令和3（2021）年度開設のためデータなし

富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科
◆内定率等

	卒業生数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30（2018）年度 卒業生	-	-	-	100.0
令和元（2019）年度 卒業生	99	85	85	100.0
令和2（2020）年度 卒業生	102	89	89	100.0

〔教育学部〕

（略）

（1）最近3年間の求人件数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部の子ども教育学科の最近3年間の求人件数の実績は、平成30（2018）年度の就職希望者82人に対して求人件数931件（内教育及び保育職397件）で求人倍率は11.4倍、令和元（2019）年度は就職希望者56人に対して求人件数1,084件（内教育及び保育職353件）で求人倍率は19.4倍、令和2（2020）年度は就職希望者57人に対して求人件数972件（内教育及び保育職334件）で求人倍率は17.1倍と高い求人倍率となっている。【表22】

【表22】 人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の求人状況等

求人年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
就職希望者数	82	56	57	65
教育及び 保育職	186	172	158	172
企業数(社)	186	172	158	172
募集人数(人)	397	353	334	361
教育及び 保育職以外の 求人*	237	299	225	254
企業数(社)	237	299	225	254
募集人数(人)	534	731	638	634
合計	423	471	383	426
企業数(社)	423	471	383	426
募集人数(人)	931	1084	972	996
求人倍率(倍)	11.4	19.4	17.1	15.3

*福祉職を除く

(2) 最近3年間の就職者数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部子ども教育学科の最近3年間の就職率は、平成30(2018)年度は100%(就職者数82人/就職希望者数82人、(内教育及び保育職57人))、令和元(2019)年度は100%(就職者数56人/就職希望者数56人(内教育及び保育職48人))、令和2(2020)年度は100%(就職者数57人/就職希望者数57人(内教育及び保育職39人))と高い就職率を示している。【表22】

【表22】人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の就職実績

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業生数	86	59	64	70
進学者	1	1	2	1
就職希望者数	82	56	57	65
就職内定者数	82	56	57	65
(内訳)	① 幼稚園教諭	5	6	6
	② 保育教諭	25	16	11
	③ 保育士	15	13	6
	④ 小学校教員(講師含む)	12	13	16
	⑤ 福祉職	2	1	5
	⑥ 一般企業	23	7	13
就職内定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教育職(①~④)の人数	57	48	39	48
教育職(①~④)の割合	69.5%	85.7%	68.4%	74.5%

*令和元(2019)年度以前は、幼児児童教育学科

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

(略)

なお、初等中等教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、

求人年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
就職希望者数	82	56	57	65
教育及び 保育職	186	172	158	172
企業数(社)	186	172	158	172
募集人数(人)	397	353	334	361
教育及び 保育職以外の 求人*	237	299	225	254
企業数(社)	237	299	225	254
募集人数(人)	534	731	638	634
合計	423	471	383	426
企業数(社)	423	471	383	426
募集人数(人)	931	1084	972	996
求人倍率(倍)	11.4	19.4	17.1	15.3

*福祉職を除く

(2) 最近3年間の就職者数の状況

教育学部の幼児教育学科及び初等中等教育学科の基礎となる既設の人間総合学部子ども教育学科の最近3年間の就職率は、平成30(2018)年度は100%(就職者数82人/就職希望者数82人、(内教育及び保育職57人))、令和元(2019)年度は100%(就職者数56人/就職希望者数56人(内教育及び保育職48人))、令和2(2020)年度は100%(就職者数57人/就職希望者数57人(内教育及び保育職39人))と高い就職率を示している。【表23】

【表23】人間総合学部子ども教育学科 最近3年間の就職実績

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業生数	86	59	64	70
進学者	1	1	2	1
就職希望者数	82	56	57	65
就職内定者数	82	56	57	65
(内訳)	① 幼稚園教諭	5	6	6
	② 保育教諭	25	16	11
	③ 保育士	15	13	6
	④ 小学校教員(講師含む)	12	13	16
	⑤ 福祉職	2	1	5
	⑥ 一般企業	23	7	13
就職内定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教育職(①~④)の人数	57	48	39	48
教育職(①~④)の割合	69.5%	85.7%	68.4%	74.5%

*令和元(2019)年度以前は、幼児児童教育学科)

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

(略)

なお、初等中等教育学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、か

かつ競合が想定される金沢学院大学教育学部教育学科(金沢市内)は、平成30(2018)年度開設のため就職実績はない。【表63】

【表63】 想定される競合大学の就職状況

金城大学 社会福祉学部 子ども福祉学科				
◆就職率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	就職率%
令和2(2020)年度 卒業生	*	33	33	100.0
* 学科単位の卒業生数は不明				
仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科				
◆就職率等				
	卒業生数	就職希望者	就職者	就職率%
平成30(2018)年度 卒業生	54	54	54	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	67	67	67	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	61	60	59	98.3
金沢星稜大学 人間科学部 こども学科				
◆名目就職率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	名目就職率%
令和元(2019)年度 卒業生	62	60	60	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	71	71	71	100.0
富山国際大学 子ども育成学部 子ども育成学科				
◆内定率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30(2018)年度 卒業生	92	85	85	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	95	92	92	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	114	106	106	100.0
金沢学院大学 文学部 教育学科				
◆平成30(2018)年度 開設のためデータなし				

3 専門の調査機関による採用意向調査結果及び関連資料に基づく需要見通し
〔社会学部〕

(1) 専門の調査機関による採用意向調査結果

① 社会学部社会学科で学んだ卒業生の採用
(略)

また、毎年の採用想定人数については、「採用したい」と回答した120事業所では、「1人」が30件、「2～3人」が23件、「4～5人」が20件、「6～7人」が6件、「10人以上」が8件、「わからない」が22件である。「2～3人」を2人、「4～5人」を4人、「6～7人」を6人、「8～9人」を8人、「10人以上」を10人として、毎年の採用想定人数を合計すると、「採用したい」と回答した120事業所において毎年の採用想定人数は360人となる。「採用を検討したい」と回答した153事業所においても、「1人」が57件、「2～3人」が15件、

つ競合が想定される金沢学院大学教育学部教育学科(金沢市内)は、平成30(2018)年度開設のため就職実績はない。【表24】

【表24】 想定される競合大学の就職状況

金城大学 社会福祉学部 子ども福祉学科				
◆就職率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	就職率%
令和2(2020)年度 卒業生	*	33	33	100.0
* 学科単位の卒業生数は不明				
仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科				
◆就職率等				
	卒業生数	就職希望者	就職者	就職率%
平成30(2018)年度 卒業生	54	54	54	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	67	67	67	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	61	60	59	98.3
金沢星稜大学 人間科学部 こども学科				
◆名目就職率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	名目就職率%
令和元(2019)年度 卒業生	62	60	60	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	71	71	71	100.0
富山国際大学 子ども育成学部 子ども育成学科				
◆内定率等				
	卒業生数	就職希望者	内定者	内定率%
平成30(2018)年度 卒業生	92	85	85	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	95	92	92	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	114	106	106	100.0
金沢学院大学 文学部 教育学科				
◆平成30(2018)年度 開設のためデータなし				

3 専門の調査機関による採用意向調査結果及び関連資料に基づく需要見通し
〔社会学部〕

(1) 専門の調査機関による採用意向調査結果

① 社会学部社会学科で学んだ卒業生の採用
(略)

また、毎年の採用想定人数については、「採用したい」と回答した120事業所では、「1人」が30件、「2～3人」が23件、「4～5人」が20件、「6～7人」が6件、「10人以上」が8件、「わからない」が22件である。「2～3人」を2人、「4～5人」を4人、「6～7人」を6人、「8～9人」を8人、「10人以上」を10人として、毎年の採用想定人数を合計すると、「採用したい」と回答した120事業所において毎年の採用想定人数は860人となる。「採用を検討したい」と回答した153事業所においても、「1人」が57件、「2～3人」が15件、

「4～5人」が6件、「6～7人」が4件、「8～9人」が3件、「10人以上」が2件、「わからない」が10件であることから、採用想定人数はさらに増える可能性も考えられる。このことから、社会学科の毎年の卒業生(95人)に対して十分な数の採用人数が見込まれ、社会学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

また、社会学部社会学科卒業生を「採用したい」と回答した120事業所について、今後の正規社員採用計画の回答結果を見ると、①3～5年後の採用計画では、「採用人数を増やしたい」が60事業所(50.0%)、「採用人数をやや増やしたい」が19事業所(15.8%)であり、合計すると79事業所(65.8%)は、3～5年後の正規社員の採用を増やしたいと考えている。また、②6～10年後の採用計画では、「採用人数を増やしたい」が50事業所(41.7%)、「採用人数をやや増やしたい」が19事業所(15.8%)であり、合計すると69事業所(57.5%)は、6～10年後の正規社員の採用を増やしたいと考えている。【表64】

【表64】社会学部社会学科卒業生を「採用したい」と回答した120事業所の今後の正規社員採用計画

	1 採用人数を増やさない	2 採用人数をやや増やしたい	3 現状と同じ	4 採用人数をやや減らしたい	5 採用人数を減らさない	6 わからない	不明	合計
① 3～5年後 回答数(件) 回答割合(%)	60 (50.0)	19 (15.8)	39 (32.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.7)	0 (0.0)	120 (100.0)
② 6～10年後 回答数(件) 回答割合(%)	50 (41.7)	19 (15.8)	30 (25.0)	0 (0.0)	2 (1.7)	17 (14.2)	2 (1.7)	120 (100.0)

さらに、中長期的な採用見通しとして、6～10年後の正規社員採用計画(【表64】②)において「採用人数を増やしたい」と回答した50事業所の採用想定人数を見ると、毎年の採用想定人数は182人である。また、「採用人数をやや増やしたい」と回答した

「4～5人」が6件、「6～7人」が4件、「8～9人」が3件、「10人以上」が2件、「わからない」が10件であることから、採用想定人数はさらに増える可能性も考えられる。このことから、社会学科の毎年の卒業生(95人)に対して十分な数の採用人数が見込まれ、社会学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

